

平成 2 4 年度
独立行政法人国立女性教育会館
自己点検・評価及び外部評価報告書

平成 25 年 7 月

独立行政法人国立女性教育会館外部評価委員会
独立行政法人国立女性教育会館

目 次

1. はじめに	1
2. 外部評価について	2
(1) 外部評価の目的	2
(2) 外部評価の対象	2
(3) 外部評価の方法	2
(4) 審議過程	2
3. 評価	3
4. 今後のNWE Cの在り方について	6
5. 事業別評価	7
1. 女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修	7
2. 大学等における男女共同参画セミナー	9
3. 女性関連施設に関する調査研究	11
4. 地域課題の解決と女性の経済的自立に関する調査研究及びプログラム開発	13
5. 男性の家庭・地域への参画を促進するための調査研究及びプログラム開発	15
6. 男女共同参画の視点に立った多様なキャリア形成支援研修	17
7. 大学生を対象とした男女共同参画の視点に立った複合的キャリア教育の推進	19
8. 女性関連施設相談員研修	21
9. 家庭教育・次世代育成指導者研修	23
10. 「女子中高生夏の学校 2012 ～科学・技術者のたまごたちへ～」	25
11. 企業を成長に導く女性活躍促進セミナー	27
12. 男女共同参画統計に関する調査研究	29
13. 調査研究成果の普及	31
14. 男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する情報資料の収集・整理・提供	34
15. 女性情報ポータル及びデータベースの整備充実	37
16. 資料・情報の館外への貸し出し	39
17. 女性アーカイブ機能の充実	41
18. 女性情報アーキビスト養成研修（入門）＋（実技コース）	43
19. 国内の関係機関・団体等との協働事業の実施	45
20. 男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム (NWE Cフォーラム)	47
21. 交流学習会議	50
22. 男女共同参画交流特別週間（らんざん交流ウィーク）	52
23. アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー	54
24. 国際協力機構との連携による研修	56
25. NWE C国際シンポジウム	58

26. 外国人女性の困難等への支援に関する調査研究	60
27. 国際的なネットワークの構築	62
28. 利用者への学習支援と利用の拡大	64
29. ガバナンス・内部統制の充実	66
30. 人件費・管理運営の適正化と保有資産の見直し	68
31. 業務運営の改善及び効率化と業務運営の点検・評価	70
32. 契約の点検・見直し	73
33. 外部資金の導入	75
34. 自己収入の拡大	77
35. 情報セキュリティ体制の充実	79
6. 外部評価の観点	81
7. 独立行政法人国立女性教育会館の業務運営に関する計画 (平成24年度)	82
8. 独立行政法人国立女性教育会館外部評価委員会委員一覧	90
9. 独立行政法人国立女性教育会館外部評価委員会規程	91
10. 自己点検評価調書の記載について	92

参考資料編

(括弧)内は、事業シートのNO

1.(1)「女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修」 実施要項	95
2.(1) " 参加者概況	101
3.(1) " アンケート集計結果	102
4.(1) " フォローアップアンケート集計結果	109
5.(2)「大学等における男女共同参画セミナー」実施要項	110
6.(2) " 参加者概況	114
7.(2) " アンケート集計結果	115
8.(6)「男女共同参画の視点に立った多様なキャリア形成支援研修」実施要項	123
9.(6) " 参加者概況	127
10.(6) " アンケート集計結果	128
11.(6) " フォローアップアンケート集計結果	137
12.(8)「女性関連施設相談員研修」実施要項	138
13.(8) " 参加者概況	142
14.(8) " アンケート集計結果	143
15.(9)「家庭教育・次世代育成指導者研修」実施要項	150
16.(9) " 参加者概況	154
17.(9) " アンケート集計結果	155
18.(10)「女子中高生夏の学校2012～科学・技術者のたまごたちへ～」実施要項	160
19.(10) " 参加者概況	166

20.(10)	“	アンケート集計結果	-----	167
21.(10)	“	アンケート集計結果（教員用）	-----	174
22.(10)	“	アンケート集計結果（保護者用）	-----	179
23.(11)	「第1回 企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」	実施要項	-----	184
24.(11)	“	参加者概況	-----	188
25.(11)	“	アンケート集計結果	-----	189
26.(11)	「第2回 企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」	実施要項	-----	195
27.(11)	“	アンケート集計結果	-----	196
28.(14)	女性教育情報センターの運営		-----	199
29.(15)	女性情報ポータルの整備充実		-----	200
30.(16)	図書パッケージ貸出サービス		-----	201
31.(17)	女性アーカイブ機能の充実		-----	202
32.(18)	「女性情報アーキビスト養成研修（入門）＋（実技コース）」	実施要項	-----	203
33.(18)	“	アンケート集計結果	-----	206
34.(19)	「埼玉県私立短期大学協会との連携事業」「キャリア教育プログラム」	開催要項	-----	208
35.(19)	「埼玉大学との連携事業」「社会と出会う・男女共同参画社会を考える」	概要	-----	209
36.(20)	「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム（NWEFフォーラム）」	実施要項	-----	211
37.(20)	“	参加者概況	-----	215
38.(20)	“	アンケート集計結果（参加者）	-----	217
39.(20)	“	アンケート集計結果（ワークショップ運営者）	-----	220
40.(20)	“	フォローアップアンケート集計結果	-----	223
41.(21)	「交流学习会議」	実施要項	-----	225
42.(21)	“	参加者概況	-----	230
43.(21)	“	アンケート集計結果	-----	231
44.(22)	「男女共同参画交流特別週間（らんざん交流ウィーク）」	実施要項	-----	240
45.(22)	「男女共同参画交流特別週間（らんざん交流ウィーク）」	参加者数一覧	-----	244
46.(22)	“	アンケート集計結果	-----	245
47.(23)	「太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」	開催要項	-----	249
48.(23)	“	アンケート集計結果	-----	252
49.(24)	地域別研修「アジア諸国における人身取引対策協力促進セミナー」	実施要項	-----	253
50.(25)	「NWEF国際シンポジウム」	開催要項	-----	256
51.(25)	“	アンケート集計結果	-----	258
52.(28)	研修・交流事業における参加者の地域バランス		-----	261
53.(28)	国立女性教育会館利用状況		-----	263
54.(28)	施設別利用状況		-----	264
55.(28)	目的別利用状況		-----	265
56.(28)	利用回数別利用状況		-----	266
57.(28)	外国人来館状況		-----	267
58.(28)	利用拡大戦略		-----	268
59.(28)	広報実施計画		-----	271
60.(29)	独立行政法人国立女性教育会館運営会議規程		-----	273
61.(29)	独立行政法人国立女性教育会館役員会の開催について		-----	274
62.(29)	独立行政法人国立女性教育会館運営委員会規程		-----	275
63.(29)	独立行政法人国立女性教育会館運営委員会委員名簿（第6期）		-----	277
64.(32)	独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて		-----	278
65.(32)	独立行政法人国立女性教育会館契約監視委員会規則		-----	280
66.(32)	平成24年度監事監査計画		-----	281

1. はじめに

独立行政法人国立女性教育会館（以下「NWEC」という。）は、我が国唯一の男女共同参画推進のナショナルセンターとして、質の高い実践的な研修や調査研究などを行ってきた。

平成24年度に展開された事業の特徴として挙げられるのは、NWECにとって新領域と言える企業分野へのアプローチが開始されたことである。1977年のNWEC設立当初に比べ、大半の女性が就労するようになり（2010年時点で、20～54歳の各年代の女性の労働力率は78%以上「NWEC男女共同参画統計データブック」による）、女性の人生を考える上で、「職業生活を中心とするキャリア形成」は切り離すことができない分野となった。そこで、企業内における男女共同参画推進リーダー（主としてダイバーシティや女性活躍推進部署、人事担当部署の担当者など）を対象として、企業内の「ダイバーシティ」、「ワーク・ライフ・バランス」、「女性の活躍」等をテーマとしたセミナーをスタートさせた。これは、永年民間企業に在籍した内海房子理事長のもつ知見やネットワークに負うところが大きく、これまでのNWECの殻を大きく打ち破る試みであった。

企業セミナーのターゲットは、「企業で働く女性」を視野に入れつつも、「企業で人材活用を行う担当者または男女共同参画推進担当者」となっている。NWECが、それまでの企業社会での働き手に加え、企業において人的マネジメントを担当する者についても対象層として位置付け積極的にアプローチしたことは、画期的なことである。

こうした「企業セミナー」、3年目となる「大学職員セミナー」、長らく継続してきた「女性センター職員や地方行政機関の男女共同参画推進部署の担当者を対象とした研修」を通じ、各分野における男女共同参画推進担当者を学習の側面から支援することにより、総体として男女共同参画を推進するというのがNWECの戦略である。

折しも、政府の経済成長戦略の一つに女性の活躍促進が挙げられ、全上場企業における女性役員・管理職の増加が具体的目標に掲げられている。平成24年12月から経済界（企業）を対象としたセミナーを実施したことは、まさに時代の潮流を捉えた適切な事業展開といえる。

NWECは、①地域の女性センターや女性団体とこれまで培ってきたネットワーク、②国際事業の実施を通じて得られたネットワークや国際的視野に立った知見、③喫緊の課題に対応した調査研究や研修の実施により得られた知見等をまとめ活用することで、それらから生まれた多くの知見を関係者にフィードバックする役割も担うことになった。まさに、男女共同参画に関する取組みを総合化し、社会全体の改革に向けてイニシアティブをとることが求められているのである。

独立行政法人国立女性教育会館外部評価委員会（以下、「外部評価委員会」という。）では、第3期中期計画及び平成23年度計画に記載されている内容を踏まえ、平成24年度の運営実績について外部評価をまとめた。NWECにおいては、本報告書での評価意見や課題について、今後の事業実施の際に反映し、平成25年度からの事業活動の一層の充実に努めていただきたい。

2. 外部評価について

(1) 外部評価の目的

外部評価委員会では、NWECが実施した業務の実績に関し客観性を持った質の高い評価を行うとともに、評価を踏まえた今後の事業活動の充実及び活動内容の在り方に資する提言を行うことを役割としている。

(2) 外部評価の対象

NWECでは、平成23年度から27年度までの第3期中期目標期間において、中期目標・中期計画に「適時適切に外部評価を受け、業務に関する客観的意見も取り入れ、業務の改善を不断に行う」としており、23年度計画においては、「自己点検と連動した外部評価を実施する。」としている。

これを受け、第3期中期目標期間の2年目である平成24年度事業の評価においては、年度計画に記載される34項目の評価を実施した。

(3) 外部評価の方法

評価方法については、外部評価委員会においてNWECから各事業の内容、成果等のヒアリングを実施し、平成19年度に外部評価委員会で作成した外部評価の観点別に評価意見等を取りまとめた。

(4) 審議過程

平成25年度は計3回の委員会を以下のとおり開催した。

第1回では、外部評価の対象と進め方を確認し、第2回では、事業毎の評価について意見交換を行い、第3回では、総論及び全体的な意見交換を行い、外部評価報告書を取りまとめた。

平成25年5月22日(水) 第1回外部評価委員会

- ・外部評価の進め方について
- ・各委員の評価分野について
- ・担当委員に対するNWECからの実績説明

平成25年6月10日(月) 第2回外部評価委員会

- ・事業別評価について討議

平成25年6月27日(木) 第3回外部評価委員会

- ・総論について討議
- ・全体として意見交換
- ・外部評価報告書のとりまとめ

3. 評価

昨年度実施されたNWECの事業について、個別にそれらの達成状況をみると、ほとんどの事業が、当初期待していた成果と同じあるいはそれを上回る成果を達成しているといえる。

また、定量的な指標による評価が可能な業務運営事項に関しても、例えば、利用者数、宿泊室の利用、保有資産の見直し、業務運営の効率化、外部資金の導入、自己収入の拡大、競争入札方式の拡大、透明性の確保などについて、着実に改善が見られる。いうまでもなくNWECをめぐる財政事情・定員事情は、近年極めて厳しい状況にあるが、NWECは、中期計画を踏まえ、個々の事業の特徴を活かしつつ大きな成果を上げてきている。このように、NWECが、いわば限られたリソースを最大限活用して、非常に高いパフォーマンスを維持し続けていることを高く評価する。こうしたパフォーマンスの高さは、理事長のリーダーシップのもと、少数メンバーからなる専門家集団としての特徴を活かしたいわば全員参加型の運営を行っていることや、それぞれの職員が、自らの任務を遂行すべく努力を続けていることの賜といえるが、NWECに対する社会的ニーズと期待の更なる高まりを考えると、業務を遂行する上での適切な体制整備と予算措置が欠かせない。効率化の努力は当然なされるべきであるが、公の目的のためには必要最低限の投資が必要なのは言うまでもないからである。

この点について、文部科学省はじめ関係機関による適切な改善努力が期待されよう。

そうした中で、次に掲げる点は、様々なNWECの事業の中でも、とりわけ優れた成果を示しているものであり、今後のNWECの発展をささえるものとして更なる充実を期待したい。

(1) 企業社会とのネットワーク形成

平成24年度に初めて開催した「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」は、これまでこうした事業経験がなく、これにかかる知見の蓄積やネットワーク形成が進んでいなかったにもかかわらず、大きな成果を収めた。

現在、いくつかの企業では、女性や外国人が能力を発揮しやすい場や機会を積極的につくろうとする取り組みが行われている。こうした取り組みは、有能な人材を企業の成長に活用するための方策である一方で、女性にとっては、自分自身を向上させ、自ら望むキャリアをより自由につくりだす機会が拡充することを意味するものであり、社会全体から見れば、男女共同参画社会の形成に貢献するものと考えられる。もちろん、場合によっては、こうした取り組みが、企業活動の単なる「歯車」をつくり出すことに終始し、女性のキャリア形成機会の拡充につながらない恐れもあるものの、それゆえにこそ、NWECがこれに積極的にに関わり、企業社会と連携協力しつつ、正しい方向でこれを発展・普及するように促すことが重要なのである。

今回のセミナーは、NWECが、企業社会における女性のキャリア形成に関わるという、これまでにない新しい分野の活動に踏み出したという点で極めて意義深く、これを契機にして、関係する団体や機関とのネットワークの形成や知見の交流を行いつつ、望ましいキャリア形成の場を各企業につくり出してもらうように、セミナーをとおして働きかけることが期待される。

(2) グローカルな社会におけるナショナル・センターとしての役割の確立

社会的課題に対する対応のボーダーレスな広がりや、スマートフォンなどメディアをとおしたコミュニケーション・ツールの普及浸透に伴い、市民、NPO、企業、行政機関といった社会を構成する各セクターが、立場は異なりながらも互いに他の立場を尊重しつつ、共通する課題の解決に向けて協働していこうという動きが広まっている。男女共同参画社会の形成という現代的課題も、このような協働への取り組みがなければ前に進まないものといえる。

平成24年度において、NWECCは、例えば「女性関連施設・地方自治体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修」や「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム」など多くの事業において、こうした「協働」としての内実をもつ取り組みを行っており、大きな成果を上げている。引き続き、これまでの成果を踏まえつつ、その拡充に努めることが望まれる。

特に、これまでの各地域で活動する機関や団体との協働に加えて、大学など高等教育機関との協働が重要になっている。大学などの高等教育機関は、女性教育や男女共同参画に関する知見の蓄積があり、それらの共有を図ることは、現在及び将来におけるNWECCの事業を充実させることにつながるものといえる。さらに、教育という作用を通じて、若い人たちに対し男女共同参画に関する意識や行動の変革を促すことができるという点も、高等教育機関との協働の大きなメリットである。これまでに、「大学職員のための男女共同参画セミナー」など、高等教育機関との協働を内容とする事業を実施してきており、これらの事業の成果や課題を適切にふりかえりつつ、既存の協働事業の拡充とともに、例えば、これまであまり接点がなかった公立大学職員に焦点を当てたセミナーなど新しい協働の実現に向けて努力することが望まれる。

こうした高等教育機関や地方自治体あるいはNPOといった国内の諸機関や諸団体をネットワーク化し、それらの協働を促しあるいは自ら協働を行うことで、男女共同参画社会の形成に向けて各機関・団体の活動をさらに有意義なものとし前に進めるという活動は、NWECCのナショナル・センターとしての役割を具現化するものであり、重要な意義をもっている。今後ともそれらの拡充が期待されるが、その際には、関連する事業とともに、情報メディアの活用にも着目する必要があるだろう。これまでNWECCは、男女共同参画にかかる情報の収集・蓄積（データベース化）を積極的に進めてきており、それらの活用を図るべくホームページ等の充実を図ってきた。このような取り組みは、貴重なデータや資料の一元的な保存・蓄積と利用者の利便性の向上に大きく寄与するものであり、他機関の追従を許さないものといえる。引き続き情報通信技術の発展の状況を考慮しつつ、国民による有効な活用を促す努力が望まれる。

その一方で、国際社会に向けて、NWECCは、日本を代表する男女共同参画の推進拠点として、男女共同参画や女性教育を推進する諸活動をとおして、国際的な責任を果たすことが求められている。これまであまり意識されてこなかったこの側面における役割への期待も、国際社会における日本のこの分野での責務の遂行という観点から、今後さらに高まってくることが予想される。そうした視点からとらえ返すと、この分野でのNWECCの主要な事業展開は、国際的な要請にしっかり応えるものとなってきたと評価することができる。

例えば、「アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」やそれと連動させて

実施された「NWEC国際シンポジウム」などは、時宜を得たテーマ設定のもとで、事業の連動実施による効率性の向上がめざされているばかりでなく、地域関係機関との協力によりグローバルな双方向的協力体制を築いて国内への情報発信や人材交流が図られる一方、研修成果の参加国への還元や国際社会への情報発信が適切に行われるなど、その両側面での役割がともに効果的に果たされていると高く評価することができる。有用度や満足度の高さもそのことを的確に示していると思われる。

また「国際協力機構との連携による研修」事業は、前年度に比べ参加国数を大きく拡充させることで、国際貢献の拡大という観点からその役割をより充実して果たすことに成功した取組とあってよい。しかも、今回の研修国のみならず同様の課題を抱える他の国々での取組にも発展的にその成果が活用できる事業も実施されている点からも、今後そうした事業展開を通して、国際貢献主体としてのNWECの特性が一層発揮できる可能性が含まれている点も注目に値したい。

いうまでもなくNWECは、これまで様々な地域の機関・団体とネットワークを形成してきた。地方自治体、女性センター／消費者センター、女性団体／NPO、地域の住民等々。これらの機関・団体とのネットワークは、相互の情報交流を可能にするだけでなく、女性の人権を守り、課題の分析や実践から得られる知見を共有・蓄積したりする上で、大きな役割を果たしてきた。こうした経緯を考えると、NWECが、このネットワーク形成に当たっての中核的な「つなぎ役」「調整役」であり、それを男女共同参画社会の形成に向けて方向づけ推進する「原動力の役割」を担っていることは疑いをいれない。NWECは、このような自ら果たしてきた役割をしっかりと自覚し、将来に向けて、こうしたネットワークをより充実させ、またより拡大していく努力が望まれる。

4. 今後のNWECの対応について

近年のグローバル化の進展に伴い、これからの社会を創る原理として「競争」と「共生」がクローズアップされてくるものと推察される。競争社会化と共生社会化が同時進行する中で、今後の教育、特に社会人に焦点を当てた教育においては、「個人の自由なキャリア形成の支援」と「多様性(異質性)の尊重」が主要な課題になると考えられ、どちらも男女共同参画社会の形成と切り離せないものと考ええる。こうした中で、多くの人たちにとって仕事と生活の現場である「ローカル」(コミュニティ)の視点から人間の生き方を考えるとき、まさに「Think Globally, Act Locally」、すなわち「地球的な視野で考え地域に根づいて行動する」という規範(グローカリズム)が重要になる。これは、個人の思考や行動の規範であることにとどまらず、社会の在りようを方向付ける規範でもあるといえるのである。

NWECは、これまでグローバルな社会におけるナショナル・センターとして、「地域の活動」と「世界の活動」を結びつけてきた。今後は、それをさらに拡充するとともに、基本的人権を普遍化するための取組みを強化し、社会づくりに参加する中で多様な他者を受け容れつつ自己実現を図っていく人材の育成が求められよう。このことは、男女共同参画社会の形成を主導してきたNWECに課せられた使命でもあり、またNWECでなければならないことなのである。

平成 24 年8月に提出された「国立女性教育会館の在り方に関する検討会報告書」によれば、日本の男女共同参画の現状について、男女共同参画基本法等の制度化が遅れていることを指摘しつつも、固定的性別役割分担意識の存在、男性の家事・育児への不参加、社会的意思決定プロセスへの女性の不参加、高齢単身男性の孤独化など、個人の意識や行動にかかる課題が少なからず存在していることを指摘している。こうした課題の解決に当たっては、もちろん、社会システムを改善したり新設したりする努力が求められるものの、併せて、個人の意識や行動の変容を促す取組み、すなわち「教育的視点からの取組み」が欠かせない。

NWECは、男女共同参画社会の形成に向けてのセンター・オブ・センターとして、そうした取組みを積極的に進める任務を負っている。その際、関係する機関・団体の動向を見据えつつ、これまで行ってきた改革をさらに進めるべく、自らの施策・事業を重点化し拡充を図るなどの取組みが望まれる。よりダイナミックで洗練されたNWECこそが、これからの社会づくりの主役になるべきである。

(5)事業別評価

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-1-(1))	1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (1) 基幹的指導者に対する研修等の実施
年度計画の項目 (I-1-(1)①)	1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (1) 基幹的指導者に対する研修等の実施 ① 女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修

事業名	女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修		
事業概要	男女共同参画社会の形成に向けた、女性関連施設・地方公共団体・民間団体の役割を認識し、地域の男女共同参画を積極的に推進するリーダーとしてのエンパワメントと連携・協働関係の構築を支援することを目的とし、必要な知識、マネジメント能力、ネットワーク力を身につけるために、高度で専門的な研修を行う。		
担当課室	事業課		
スタッフ	事業課長	専門職員(1)	係員(1) 計3名

年度実績概要			
1. 研修内容の分析:	東日本大震災から約1年3カ月を経て明らかとなった、震災直後の様子や避難所での生活で発生した問題点等を受け、今年は、災害時に地域の人々から頼りにされる組織・機関としての在り方に重点を置いた専門的なプログラムとした。前千葉県知事の堂本暁子氏講義「東日本大震災を経た今、男女共同参画の視点から日本を見なおす！」や大阪市立男女共同参画センタークレオ大阪の「阪神・淡路大震災を体験した私たちにできることは？」、コース別ワークショップでは福島大学特任准教授の天野和彦氏のビッグバレット福島避難所からの報告、エンパワメントいわてや仙台市市民局市民協働推進部男女共同参画課からも震災復興対応について報告等を行った。また、地域で男女共同参画を実現するために、持続可能な組織のあり方についてパブリックリソースセンター理事・事務局長の岸本幸子氏の講義により自組織の実践へのヒントを得た。各地域で男女共同参画を推進するためには、女性関連施設、団体、行政の3者の連携が不可欠であることから、平成22年度から地方公共団体コースを加え、3者の連携・協働のあり方の討議を取り入れるなど、3者が課題等を共有し、連携・協働できる内容としている。		
2. 研修対象者の厳選:	地方公共団体職員コースについて、地域でのリーダー育成の観点から、参加対象を男女共同参画課長等の行政担当責任者に限定して募集した。また、全コースにおいて参加者の決定にあたっては実際の業務・活動内容の確認を行う等、基幹的な指導者を厳選した。		
3. 課題の厳選:	防災・減災の観点から、第3次男女共同参画基本計画第14分野「地域、防災・環境その他の分野における男女共同参画の推進」より課題を抽出することを中心とし、あわせて組織・地域が抱えている課題の解決をめざした事例を選んだ。		
4. 内容評価:	災害時に地域の人々から頼りにされる組織・機関としての在り方と他機関との連携・協働に重点を置いたプログラムの構成により、有用度98.9%（非常に有用46.8%、有用52.1%）、満足度96.0%（非常に満足30.3%、満足65.7%）と満足度は昨年度より5.4%上昇した。これは堂本暁子氏の講義が非常に高い評価であったことや各コース別ワークショップで参加者の参考となる好事例の厳選、グループ編成を同一の立場や役割で編成するなどの工夫により、話し合いの深化が図られたことによるものである。		
5. 影響評価:	研修6ヶ月後に実施したフォローアップ調査では、「研修の成果を仕事や活動に役立てている」との回答が98.2%と高くなっている。特に地域（他機関、団体・グループ等との連携）において研修資料や内容の普及・活用を行ったとの回答が昨年よりも約10%高くなっている。研修参加者は、災害時に地域の人々から頼りにされる組織・機関として、日頃から各地域での備えを促進させる働きをした。		
6. フォローアップ調査回収率向上のための取組:	回答者が記入し易いようアンケートの様式を1枚に納めるなどの工夫を行ったほか、郵送に加えてFAX、E-mailなど複数の手法で回収する工夫をした。また、回収締切り日近くに未着の参加者へ個別に電話連絡を行った。この結果、フォローアップ調査の回収率は90.6%と平成23年度より11.2%増加した。		
7. 参加者の地域バランス:	参加者の地域バランスは、昨年度よりも関東ブロックで13.0%増加し、51.5%となった。また、関東ブロック以外の各地域からはそれぞれ減少傾向がみられ、特に北陸・東海ブロックで3.2%減の9.9%、九州・沖縄ブロックで4.1%減の9.8%となった。参加者の研修内容への評価を示す満足度が5.4%上昇していることや会館近隣の参加者割合の増加を考えると、各参加者の負担する交通費がネックになり遠隔地からの参加者の減少になっていると思われる。		
実績を裏付けるデータ	詳細は添付のアンケート集計結果参照【】は平成23年度実績		
1. 応募倍率:	110.8%（定員120名 応募者133名 参加者132名）【117.5%（定員120名 応募者141名 参加者130名）】		
2. 地域バランス（参加地域）:	北海道・東北12名 9.1% 関東68名51.5% 甲信越 9名 6.8% 北陸・東海13名 9.9% 近畿 8名 6.1% 中国・四国 9名 6.8% 九州・沖縄13名 9.8% 【北海道・東北15名11.5% 関東50名38.5% 甲信越11名 8.5% 北陸・東海17名13.1% 近畿 9名 6.9% 中国・四国10名 7.7% 九州・沖縄18名13.9%】		
3. 参加対象者:	館長・理事長等 29名(22.0%) 副館長・理事等24名(18.2%) 部長・室長等 32名(24.2%) 自治体担当官等 29名(22.0%) その他 18名(13.6%)【館長・理事長等 42名(32.3%) 副館長・理事等 14名(10.8%) 部長・室長等 26名(20.0%) 自治体担当官 30名(23.1%) その他 18名(13.8%)】		
4. 全体の満足度について:	満足度96.0%（非常に満足30.3% 満足65.7%）【90.6%（非常に満足 30.2% 満足 60.4%）】		
5. プログラムの有用度について:	有用度98.9%（非常に有用46.8%有用52.1%）【97.0%（非常に有用45.5% 有用51.5%）】		
6. フォローアップ調査について:	アンケート集計結果（対象者数128 回答116 回収率90.6%）【対象者数126 回答100 回収率79.4%】 98.2%（大いに役立っている39.4% 役立っている58.8%）【98.9%（大いに役立っている40.5% 役立っている58.4%）】		
7. 目標達成度:	・男女共同参画についての視点、考え方を身につけることができた。98.7% ・男女共同参画施策に関わる国の施策・動向を理解することができた。95.4% ・実態把握・分析の方法について知識・情報を得ることができた。94.6%		

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点 判 定	適時性	独創性	発展性	効率性	
	A	A	A	A	
適時性：東日本大震災より約1年3ヶ月を経て、災害時に地域の人々から頼りにされる組織・機関としての在り方に重点を置いたテーマを設定したことは、時宜に合った取組として評価できる。 独創性：これまでに実施した研修や調査研究により把握した各組織・機関の課題を基に設定したプログラムの実施、NWECが行った調査研究成果の情報提供などNWECの独創性を活かした取組となっている。 発展性：研修では、先進的であり、各組織・機関にとって有用と思われる事例を選び提供した。全国からの参加者との情報交換や交流を支援した。より実践的な研修を地域で男女共同参画を推進する基幹的指導者を実施したこと併せて、災害時の各地域での取組を事例発表に取り入れたことは、今後各地域での防災への取り組み等において、研修成果の全国的な普及へと発展するものとして評価できる。 効率性：女性関連施設管理職コースを特定非営利活動法人全国女性会館協議会との共催により行うことで、NWECと全国女性会館協議会双方の人的ネットワークを活用し、女性会館のニーズや先進事例を収集し、企画に役立てたことは効率性向上の取組として評価できる。					

2. 定量的評価

観 点 判 定	応募倍率	プログラムの有用度			
	A	A			
○応募倍率：110.8%【117.5%】 ○プログラムの有用度：98.9%（非常に有用46.8% 有用52.1%）【97.0%】 ○影響調査：98.2%（非常に役立った39.4% 役立った58.8%）【98.9%】					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A 達成	女性関連施設、地方公共団体、民間団体・女性グループを、地域で男女共同参画を推進する主体と位置づけ、その基幹的指導者に対し、専門的な研修、情報交換の機会を提供した。また、今年は各地域で防災や減災への備えに対するニーズが高かったことから、それらを内容にも反映させた。プログラムの有用度も昨年の97.0%から1.9%上昇し98.9%になるなど、参加者が研修で学び得た内容を具体的な事業で役立てていることが伺える。このことから、適切なプログラムであり、ねらいを十分達成していると考えられる。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
今年度は、災害時に地域の人々から頼りにされる組織・機関としての在り方に重点を置いた研修となった。その反面、第3次男女共同参画基本計画で新設された、「男性、子どもにとっての男女共同参画」や「雇用等における男女の均等な機会」、「貧困など生活上の困難に直面する男女への支援」などを扱うことが十分でなかった。次年度はこのような分野での事例の提供を求めたい。また、引きつづき、遠隔地からの参加を促進させるため、参加の少ない地域からの発表者の人選を行うことや、早い時期のNWECホームページの掲載・周知メールと、募集期間中の二次・三次の広報を行うことで参加者の地域バランスを改善させていきたい。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	判定の理由
A 達成	・研修内容は第3次男女共同参画基本計画第14分野「地域、防災・環境その他の分野における男女共同参画の推進」より課題を抽出し、防災・減災の災害時に地域の人々から頼りにされる組織・機関としての在り方に重点を置いた専門的なプログラムを実施し、女性関連施設・団体・行政の3者が課題等を共有し、連携・協働できる内容としている。東日本大震災から1年3か月を経て、防災・減災への取り組みを全国で進める喫緊の課題であることから、男女共同参画の視点の重要性と国の施策や動向を理解する時宜に合ったものであることが評価できる。 ・全体の満足度は96%（昨年比5.4%増）と高く、講義内容やワークショップでの好事例の厳選、グループ編成の工夫などで話し合いの深化が図られたためと思われる。 ・フォローアップ調査の回収率向上のために、複数の手法での回収につとめた結果、昨年度比11.2%増の90.6%へと成果をあげている。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-1-(1))	1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (1)基幹的指導者に対する研修等の実施
年度計画の項目 (I-1-(1)②)	1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (1)基幹的指導者に対する研修等の実施 ②大学職員のための男女共同参画推進研修

事業名	大学等における男女共同参画推進セミナー		
事業概要	男女共同参画社会の実現は、国、地方公共団体、国民すべてに共通に課せられた責務であり、高等教育機関としての大学・短期大学・高等専門学校においても、その一翼を担わなければならない。文部科学省の「女性研究者研究活動支援事業」などをきっかけに大学等における男女共同参画推進への取組は進みつつある。しかし、学内全体への男女共同参画意識の浸透や男女共同参画の推進体制は未だ十分とは言えず、女性研究者の割合も諸外国に比べ依然として低い状況にある。このような状況を踏まえ、大学・短期大学・高等専門学校における男女共同参画の推進に向けて、意思決定組織に所属する教職員、男女共同参画推進担当責任者等を対象として、専門的、実践的な研修を行う。		
担当課室	事業課		
スタッフ	事業課長(1) 専門職員(1) 係員(1)	計3名	

年度実績概要	
1. 研修内容の分析	平成24年度は、国立大学、私立大学、高等専門学校等における男女共同参画の先駆的な取組や現状について、学内への男女共同参画意識浸透のための組織づくり、女性研究者支援の在り方に関する事例を紹介したほか、男女共同参画社会実現に向けた女子学生へのキャリア形成支援という新たな課題に対する分科会を設定するなど、専門性の高い研修とした。分科会では、参加型のグループワーク形式を取り入れることにより、参加者が自校の課題の把握や分析を行うとともに、情報交換会でも得られた他大学における取組の状況把握を通じて、解決へのヒントを得るなど、実践的な内容を提供した。 国立大学では、男女共同参画の組織が整備されつつあるが、私立大学、高等専門学校では男女共同参画の推進体制が、まだ十分でないことから、分科会において、私立大学、高等専門学校の先進的な事例を取り入れるなど、プログラムの充実を図った。
2. 研修対象者の厳選	平成23年度は、「大学・公的研究機関等の意思決定組織に所属する教職員等」を対象に募集を行った。今年度は、大学と同様に、高等教育機関である短期大学・高等専門学校も対象とした。各校における男女共同参画の推進に向け、意思決定組織に所属する教職員及び男女共同参画推進担当責任者を対象に募集を行った。
3. 課題の厳選	「男女共同参画意識の学内への浸透」という大きな土台となる課題に加え、「大学における女性研究者への支援」の在り方、男女共同参画社会実現に向けた「女子学生へのキャリア形成支援」という3つの課題を取り上げた。
4. 内容評価	3つの課題に関する講義をはじめ、国公立大学、私立大学、高等専門学校の事例、厚生労働省表彰企業の事例など、男女共同参画推進の意識が高い様々な先進的取組を取り上げた。参加者の満足度は、92.0% (非常に満足44.0%、満足48.0%)、プログラムの有用度は100.0%(非常に有用58.9%、有用41.1%)と高い評価を得た。
5. 参加者の地域バランス	北海道・東北、北陸・東海、近畿、九州・沖縄からの参加者が11～12名であることや、関東・甲信越以外の参加者が全体の58.9%を占めるなど、全国各地からバランスよく参加しているものと思われる。 全参加者のうち、大学からの参加者は65名(72.2%)であった。そのうち、国公立別の割合は、国立35名(53.8%)、公立4名(6.2%)、私立26名(40.0%)であった。今年度より高等専門学校の職員も募集の対象としたが、全参加者のうち高等専門学校からの参加者は20名(22.2%)であった。
実績を裏付けるデータ	(データ詳細は添付アンケート集計結果参照)【】内は23年度実績
1. 参加者定員	80名【80名】
2. 応募者数	94名【93名】
3. 応募倍率	117.5%【116.3%】
4. 参加者内訳	教員系35名、職員系55名【教員系25名、職員系59名、その他4名】
5. 参加者の地域バランス	北海道・東北12名(13.3%)【14名(15.9%)】 関東35名(38.9%)【31名(35.2%)】 甲信越2名(2.2%)【5名(5.7%)】 北陸・東海12名(13.3%)【8名(9.1%)】 近畿11名(12.2%)【9名(10.2%)】 中国・四国6名(6.7%)【14名(15.9%)】 九州・沖縄12名(13.3%)【6名(6.8%)】 海外0名(0.0%)【1名(1.1%)】
6. 全体の満足度	92.0%(非常に満足44.0% 満足48.0%)【94.2%(非常に満足34.8% 満足59.4%)】
7. プログラムの有用度	100.0%(非常に有用58.9% 有用41.1%) 【100.0%(非常に有用49.3% 有用50.3%)】

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	

適時性: 文部科学省の「女性研究者研究活動支援事業」などにより各大学には男女共同参画室などの推進体制ができつつあるが、学校間によって取組にまだ差が見られる。こうした中、男女共同参画意識を学内に浸透させるための組織づくり、女性研究者支援の在り方、男女共同参画社会実現に向けた女子学生へのキャリア形成支援を課題の大きな柱として研修を展開したことは、時宜に合わせた取組である。

独創性: 3つの大きな課題解決を目指した分科会の設定や、宿泊を伴う研修を生かし、宿泊棟を会場とする情報交換会の設定は、参加者同士のネットワークを広げるとともに、他校の取組から自校の課題を把握し、解決のヒントを得る機会を提供している。

発展性: 各課題に即した講義、企業の取組事例、分科会での各大学等の事例報告や講師も交えたグループワークなどを通じて、参加者が自校の課題の把握や分析、課題解決のヒントをつかむことは、研修終了後も各校の業務における発展性が見られるものと期待できる。

効率性: 講師については、大学、企業、省庁関係者等から幅広く講師、事例報告者を選出し、プログラムの特徴を踏まえた事業実施となった。講師の依頼については、NWECの事業だからと自身の日程を調整してくださる方もおり、スムーズに進めることができています。

2. 定量的評価

観 点	応募倍率	プログラムの有用度			
判 定	A	A			

○応募倍率: 117.5%

○プログラムの有用度: 100.0%

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	大学等における男女共同参画推進への取組は進みつつあるが、十分であるとは言えない。また、文部科学省の支援事業終了後の女性研究者支援をいかに継続していくか、男女共同参画社会実現のための女子学生へのキャリア形成支援の方法など、課題は多い、その中で各課題に対する基本的な考え方、企業の取組や先進校の事例、分科会での討議など、全体の動向や他校の推進状況について多くの情報を得ることができる本研修の意義は大きい。また、全参加者に占める大学からの参加率、大学参加者のうち私立大学からの参加率は、ともに昨年度に比べ上昇している。アンケート結果を見ても、満足度では「非常に満足」の割合が増えるなど、有用度とともに高い評価を得ており、本研修のねらいは十分達成できたと思われる。
達成	

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
本年度の成果をもとに研修内容をさらに充実、発展させ、1200校を越える大学・短期大学・高等専門学校から一校でも多くの参加を目指す。参加対象者も意思決定組織に所属する教職員はもとより、実際に推進業務を担当する担当者の参加に力を入れる。募集等の広報もこれまで学長宛に送付していたが、男女共同参画推進担当宛への送付とし、ダイレクトに広報が届く方法にする。さらに今年度のようにすべての国公立大学、規模の大きい私立大学等への電話での参加依頼など、地道な広報に努める。高等専門学校からの参加については、国立高等専門学校機構との連携により進めていく。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	判定の理由
A	①全体として、高等教育機関における男女共同参画推進への取り組みは進んでいる。しかし、設置者別における進捗度の格差は大きい。その点に注目し、進捗度の低い私立大学、短大、高等専門学校に重点をおきつつ、研修対象者を意思決定組織に所属する教職員及び男女共同参画推進担当責任者にしぼり、分科会において、私立大学、高等専門学校の先進的な事例を取り入れるなどそこでの先駆的な事例を踏まえたプログラムの実施は、時宜を得た取り組みとして評価できる。
達成	②「男女共同参画推進」という抽象度の高い課題を具体化し、「男女共同参画意識の学内への浸透」を基本課題に、「女性研究者の参画支援」「女子学生のキャリア形成支援」を加えた3つの分科会を設置した点、参加者が自校の状況を分析しながら課題の把握や課題解決のヒントをつかむ参加型手法をフルに活用した点は、研修終了後の発展性を予想するものである。
	③「今後の課題」に記載されているように、参加者募集の広報を学長宛に送付する場合、大学によっては男女共同参画推進担当責任者に広報が届かないことがあるので確実に広報が届くよう注意する必要がある。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-1-(2))	1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (2) 基幹的指導者に対する研修に資する調査研究の実施、学習プログラム・研修資料の作成
年度計画の項目 (I-1-(2)①)	1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (2) 基幹的指導者に対する研修に資する調査研究の実施、学習プログラム・研修資料の作成 ①女性関連施設に関する調査研究

事業名	女性関連施設に関する調査研究
事業概要	女性関連施設の機能の充実・強化を図るため、指定管理、人材育成等新たな課題の実態把握と分析をテーマに5年計画で行う調査研究の2年次として、女性関連施設の災害に関する事業等の実態調査を実施し、報告書を作成する。
担当課室	研究国際室
スタッフ	研究国際室長(1) 情報課専門職員(1) 事業課専門職員(1) 計3名

年度実績概要	
1. 調査研究経過	
(1) 質問紙調査	＜第1次調査＞「女性関連施設データベース」更新調査に「女性／男女共同参画センターの取組に関するアンケート」を同封して、質問紙調査を行った。 対象施設：全国の女性関連施設のうち、公設公営、公設民営の女性／男女共同参画センター（データベースに登録していないところも含む）378施設に配布、有効回答数297票（回答率78.6%） ＜第2次調査＞対象施設：第1次調査で東日本大震災で被害・影響を受けた、あるいは災害関連事業を実施している（予定を含む）と回答した施設245施設に配布、回答数210（回答率85.7%）
(2) ヒアリング調査	質問紙調査で得られた回答から、自治体規模、事業の類型等より9施設を選定してヒアリング調査を行った。
2. 得られた知見	(1) 第1次質問紙調査では、東日本大震災による被害・影響を受けた施設は75（25%）、災害関連事業を実施している施設は182（61%）であった。 (2) 第2次質問紙調査では、東日本大震災による被災状況や影響、平成23・24年度に実施した災害関連事業・作成した資料等、施設が自治体の防災体制に位置付けられているか、施設の地域での防災に関する取組みについて尋ねた。 東日本大震災による被災状況や影響は、被災・影響はなかった施設が128（61%）と最も多く、停電等の影響による休館、開館時間短縮等と利用者の減少が約2割であった。 平成23年度に実施した災害関連事業・作成した資料等では、災害・防災等に関する講座等の開催が約6割、次いで募金が約4割、関連資料等の作成・情報発信が約3割であった。平成24年度は災害・防災等に関する講座等の開催が約4割強、次いで行っていないが4割弱であった。 (3) ヒアリング調査では、実施した災害に関する取組み等について、内容・方法、企画・実施における工夫・困難、他機関・団体との連携、成果・効果、課題と今後に向けた展望について詳しく聞いた。
3. 調査研究の活用	
(1) 参考資料の作成	調査研究の結果を踏まえて、『女性関連施設の災害関連事業に関する調査報告・事例集』を作成し、全国の女性関連施設等に配布するとともにNVECのホームページに掲載し、成果の普及に努めた。 今年度の調査回答の中で、女性の災害・防災に関わる人材育成についての事例については、平成24年度文部科学省「男女共同参画社会の実現の加速に向けた学習機会充実事業」で作成した『地域づくりに参画する女性人材の育成のための学習機会の充実 事例集』へ情報提供を行った。 平成23年度に作成した『女性関連施設の指定管理者導入施設に関する調査報告・事例集』は、雑誌『月刊指定管理』2012年12月号に特集として引用・掲載された。
(2) 研修事業への反映	調査研究の成果及び参考資料は、平成25年度にNVECの主催事業や外部事業への講師派遣等において活用し、さらに積極的に成果普及を行う。
実績を裏付けるデータ	
	平成24年度「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム」NVEC提供ワークショップ「災害・防災と女性関連施設の取組み」の参加者からの評価は、参考になった100%（とても参考になった75%、参考になった25%）であった。

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判定	A	A	A	A	
適時性：「第3次男女共同参画基本計画」に新たな重要分野として加わった「地域、防災・環境その他の分野における男女共同参画の推進」、そして平成23年3月11日に起きた東日本大震災から2年を経て、この2年間の災害に関する女性関連施設の取組に焦点をあてて、調査研究を実施したことは政策的にも時宜にかなっている。 独創性：東日本大震災における全国的女性関連施設の被害・影響状況を把握し、2年間の災害関連事業の実施状況を調査し、高い回答率を得たことはナショナルセンターであるNVECだからこそできたことと評価できる。 発展性：全国の施設がどのような災害関連事業を実施しているかをまとめて発信したことは、今後、女性関連施設が、地域の防災や災害時にどのような役割が果たせるかの参考となるものである。 効率性：第1次調査は情報課が毎年行っている「女性関連施設データベース」の更新依頼に同封し、効率的に行った。					

2. 定量的評価

観点	プログラムの有用度	学習プログラム・参考資料の作成数			
判定	A	A			
○平成24年度「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム」NVEC提供ワークショップ「災害・防災と女性関連施設の取組み」の参加者からの評価は、参考になった100%（とても参考になった75%、参考になった25%）と高い評価を得た。 ○「女性関連施設の災害関連事業に関する調査報告・事例集」を作成。					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	調査研究は計画通り実施されている。本年度の調査をもとに作成した報告書は、女性関連施設が地域の防災や災害時にどのような役割が果たせるかの参考となるものである。
達成	

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
ナショナルセンターとして、今後も引き続き、地域の男女共同参画拠点である女性関連施設についての調査研究を実施する。次年度は、変化する情報環境に対し、女性関連施設の男女共同参画関連情報の収集・発信に関する取組について調査研究を行う予定である。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	判定の理由
A	・男女共同参画関連事業費が年々削減される中で、全国を対象とする調査研究を実施できるのはNVECを除いては他にありません。東日本大震災から2年たち、この間の女性関連施設の災害関連事業の実施状況に焦点をあてた調査は時宜にかなったものである。 ・調査から得られた知見及び調査研究の活用では、NVECからの情報発信はもとより、主催事業以外にも外部機関等で活用されている。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-2-(1))	2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (1) 喫緊の課題に関する先駆的調査研究の実施
年度計画の項目 (I-2-(1)①)	2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (1) 喫緊の課題に関する先駆的調査研究の実施 ① 地域課題の解決と女性の経済的自立に関する調査研究及びプログラム開発

事業名	地域課題の解決と女性の経済的自立に関する調査研究及びプログラム開発	
事業概要	地域活動による経済的自立の促進をテーマに2年計画で行う調査研究の2年次として、起業やコミュニティ・ビジネス支援のための講座を行っている女性関連施設等を対象にプログラムを開発・実施し、報告書を作成した。	
担当課室	研究国際室	
スタッフ	研究国際室長(1) 研究員(1)	計2名

年度実績概要	
1. 調査研究経過	(1) プログラムの作成 次の点に留意してプログラムを作成した。 ① 平成22年度に実施した「経済的自立につながる女性の課題解決型地域活動に関するアンケート調査」の分析結果を基礎にした。 ② プログラムの内容は、単にNPO・起業のノウハウつまり申請や組織運営の方法など実務的なものだけでなく女性がNPO・起業で働く意味をジェンダー的視点及び女性の生涯発達の視点から考えることができるようにした。構成については、NVECで開発したプログラム・デザインを活用した。 ③ 実験プログラムである本講座を修了した後も、NPO・起業に向けて受講者同士のネットワークが構築できるように、受講者の関係づくりにも考慮した。 (2) 実験プログラムの実施 実施施設は、NPO・起業支援を実施している女性関連施設で次の2カ所とした。 ① 越谷市男女共同参画支援センター「ほっと越谷」 テーマ:「地域活動を『仕事』にしよう」3回講座(11/10・17・12/1)、フィールド・ワーク(11/20)、フォローアップ講座(H25.2/9) 目的: 地域活動が地域の課題解決や地域の活性化になっていることを学ぶ 地域活動が経済的自立につながる可能性があることを学ぶ ② 福島県男女共生センター「女と男の未来館」 テーマ:「語ろう・つながろうーこれまで・現在(いま)・これからに向けて」2回講座(12/4・11)、フォローアップ講座(H25.1/30) 目的: 震災により活動の困難を抱えている女性たちが課題を確認・共有すると同時に関係づくりを行う 震災後の困難を抱えた女性団体を支援するにあたって「女と男の未来館」の役割を考える (3) 報告書の作成 本プログラムが他機関でも活用できるように、「ほっと越谷」と「女と男の未来館」プログラム開発のプロセスと内容、活用したワークシート等をまとめた報告書を作成した。 2. 得られた知見(得られた成果) (1) 女性団体の活動支援のための女性関連施設の役割として、団体の人材育成と情報交換の場の設定の必要性が確認できた。「人」と「場」の支援が求められていることがわかった。 (2) 講座の企画・実施を通して、女性関連施設職員の人材育成になった。 (3) 女性の活動支援の講座が、具体的な企画事業案の検討を通して、「地域づくり」講座へと発展した。 3. 調査研究の活用 (1) 研修事業への反映 実験プログラムの内容については、平成24年度の「男女共同参画交流特別週間(らんぞ交流ウィーク)」にて報告を行い、成果の普及に努めた。 (2) 論文掲載 『現代の社会教育・生涯学習』(松田武雄編著、九州大学出版会、2013年3月)に「第七章 NPO・市民活動と社会教育」として掲載した。
実績を裏付けるデータ	平成24年11月6日～9日実施の「男女共同参画交流特別週間(らんぞん交流ウィーク)」で実験プログラムについて報告をした際のアンケート結果は、全体の満足度97.2%で「非常に満足」47.2%、「満足」50.0%であった。

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	

適時性: 地域活動を通じた女性の経済的自立については、第3次男女共同参画基本計画の第4分野において「女性の活躍による経済社会の活性化」として、女性起業家に対する支援などがあげられている。本プログラム開発はそのための支援講座であると同時に、震災後の女性団体活動支援講座でもあり、まさに時宜にかなっている。

独創性: 本プログラム実施に際して、「わたしのこれから」「わたしのアクション・プラン(行動計画)」など行動にむけたオリジナルのワークシートを作成した。また、講座の形式にフィールド・ワーク(見学会)を取り入れ、具体的に学習すると同時にアクションプランにつながるようにした。

発展性: フォローアップ講座を実施し、講座修了後の具体的な活動継続支援とそのための関係づくり支援を行った。また、センターの役割についての座談会を開催し、センター職員の人材育成にもなった。

効率性: プログラム開発にあたっては、検討委員会を組織し、外部人材を活用して効率的かつ専門的に進めた。また実施センターとの打ち合わせと事例報告者との打ち合わせを同日に実施して、経済的・時間的効率の向上を図ることができた。

2. 定量的評価

観 点	プログラムの有用度	学習プログラム・参考資料の作成数			
判 定	A	A			

平成24年11月6日～9日実施の「男女共同参画交流特別週間(らんさん交流ウィーク)」で実験プログラムについて報告をした際のアンケート結果は、全体の満足度97.2%で「非常に満足」47.2%、「満足」50.0%であった。また、受講生の感想に「講座初回より2回、3回と続いていくうちに自分自身の意識が変わって来た。わかりやすいワークシートが良かったのだと思います。」とあり、本講座が有用であったことがわかる。

また、学習プログラム作成の参考資料ともなる報告書を900部作成して、全国の女性関連施設に配布した。

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A 達成	予定通り2カ所の施設で実験プログラムを実施しており、報告書も作成した。かつ、当初の予定に加えてフォローアップのための講座も実施し、プログラムの一層の充実につながった。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
今回のプログラム開発は、市のセンターである「ほっと越谷」と県のセンターである「女と男の未来館」で実施したのだが、「女と男の未来館」での座談会で、それぞれ地域課題を効果的に解決するためには、県の施設と市町村の施設の役割についても検討する必要があることが今後の課題として明らかになった。また講座修了後、具体的に活動を展開する団体の支援を継続的に実施するためのシステムが求められるところである。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	判定の理由
A 達成	①女性たちの課題解決型地域活動をいかに経済的自立につなげ、「女性の活躍による経済社会の活性化」を図っていくかは、今なお、緊急課題である。二年目にあたる本事業が、前年の調査研究の結果やプログラムデザインの開発成果を踏まえ、女性関連施設を対象に実験プログラムの開発／実施、報告書の作成という一連の取り組みを果たしたことは、この緊急課題を一步進める点でも評価したい。とくに実施施設として、東日本大震災により活動の困難をかかえる福島県の女性関連施設を選択した点は、時宜を得た取り組みである。 ②ただ、プログラムの内容が、団体の人材養成や情報交換の場に関わる支援の充実に比べて、組織の経済的基盤づくりというマネージメント面が手薄であり、より一層の充実に期待したい。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-2-1))	2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (1)喫緊の課題に関する先駆的調査研究の実施
年度計画の項目 (I-2-1)②)	2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (1)喫緊の課題に関する先駆的調査研究の実施 ②男性の家庭・地域への参画を促進するための調査研究及びプログラム開発

事業名	男性の家庭・地域への参画を促進するための調査研究及びプログラム開発		
事業概要	男性の家庭・地域への参画促進をテーマに2年計画で行う調査研究の2年次として、男性の家庭・地域への参画を促進するためのプログラムを開発・実施し、参考資料を作成する。		
担当課室	研究国際室		
スタッフ	研究国際室長(1)、客員研究員(1)、研究員(1) 計3名		

年度実績概要	
1. 調査研究経過	(1)1年次の調査研究の分析及び情報収集 教材の構成や内容を検討するにあたり、1年次に実施した女性関連施設及び男性を対象としたアンケート調査等、調査結果の分析と、男性の地域活動や男性を対象とした事業に関する新たな情報収集を行った。 (2)女性関連施設を対象としたアンケート調査の実施及び分析 情報課が実施する女性関連施設データベース調査にアンケートを同封し、男性を対象とした事業の実施状況について調査した(配布数 395、本テーマへの回答数 297、回答率 75.2%)。 (3)インタビュー調査の実施 1年次に実施した男性を対象としたアンケート調査の回答者を中心に、男女共同参画の視点に立った男性の地域活動として参考になる事例を抽出し、インタビュー調査を実施した(インタビュー件数4)。 (4)プログラムの試験的实施 1年次に実施した調査研究成果を踏まえ、学習プログラムを企画・実施した(茨城県女性プラザ(5件)、埼玉県男女共同参画推進センター、寄居町人権推進課との連携) (5)「連携協力施設」との教材作成に向けた意見交換会の実施 教材の作成にあたり、1年次に連携して調査を実施した71の「連携協力施設」の中から、男女共同参画の視点から参考となる事例を抽出し、担当者を対象とした事例の執筆に向けた意見交換会を実施した。 (6)女性関連施設職員等を対象とした教材の作成 男女共同参画の視点に立った男性を対象とした学習プログラムを企画・実施する際に役に立つ教材を作成した(『男女共同参画と男性——男性の家庭・地域参画を進める学習プログラムハンドブック』)。 (7)学習プログラムのためのWebサイトの開設 今後の効果的な事業展開に向けて、全国的女性関連施設とのネットワーク維持・情報共有の促進のため、教材の内容をもとに、学習プログラム企画・実施に役立つWebサイト「男女共同参画と男性」を開設した。
2. 得られた知見	上記調査研究を通して、女性関連施設において男性を対象とした事業を実施するにあたっては、講座の企画内容の工夫や参加者の確保、男女共同参画の視点の浸透等、多くの課題があることが浮き彫りになった。また、事業を実施する意義・必要性、目的等、基盤となる事項についても、必ずしも共通理解がなされていないことも明らかになった。これらの課題について、解決につながるよう具体的な内容を教材に盛り込んだ。
3. 調査研究の活用	NWEC主催事業「女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修」「家庭教育・次世代育成指導者研修」「交流学习会議」において報告を行った。また、日本社会教育学会2012年度若手萌芽研究グループ「男性の学習と生活世界の自立的創造」公開研究会において報告を行った。平成25年度においても、NWEC主催事業や講師派遣、Webサイトを活用した情報発信等を通して成果の普及に努める。
実績を裏付けるデータ	
1. 埼玉県男女共同参画推進センター「平成24年度第3回市町村男女共同参画担当職員研修会」	有用度95.2%(参加者24名、アンケート回収率87.5%)
2. 平成24年度 女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修「男女共同参画社会形成に向けた課題を知る～国立女性教育会館研究・調査事業の報告～」	有用度96.6%(非常に有用33.0%、有用63.6%)

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	

適時性: 男性にとっての男女共同参画の推進は、第3次男女共同参画基本計画において新たに盛り込まれた視点の1つである。本調査研究では、男性の家庭・地域参画を男女共同参画の視点から推進していくための方策等について検討したことから、時宜を得た取組として評価できる。

独創性: 本調査研究において、「連携協力施設」と連携したアンケート調査の実施や、女性関連施設で実施する学習プログラム事例の教材への掲載等、地域における男女共同参画推進の核となる女性関連施設とNWECとの協働で今後の事業展開の基盤づくりをめざしている点は非常に特徴的である。また教材は、男女共同参画の視点に立った学習プログラムや男性の地域活動を通したキャリア形成について着目し、それらの意義・必要性や具体的な視座、支援者としての活用法等を説明するものであり、NWECの調査研究の蓄積をもとに行う独創的なものとして評価できる。

発展性: 男性を対象とした事業は、多くの女性関連施設において実施されてきているが、男女共同参画の視点に立った地域づくりに向けて、事業実施の方向性等に多くの課題がある。教材やWebサイトを活用した調査研究成果の普及は、今後の各女性関連施設の事業の展開に役立つ点で評価できる。

効率性: 本調査研究の実施にあたっては、検討委員会を組織し、外部人材を活用して効率的に進めた。また、71の女性関連施設を「連携協力施設」とし、意見交換や事例執筆等、連携して教材を作成したことが効率的と評価できる。

2. 定量的評価

観 点	プログラムの有用度	学習プログラム・参考資料作成数			
判 定	A	A			

○試験的な学習プログラムを茨城県女性プラザ、埼玉県男女共同参画推進センター及び寄居町人権課(埼玉県)と連携して実施した。

○教材(ハンドブック)を作成した。

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	調査研究は計画通り実施されており、教材も作成した。教材には、調査研究で明らかになった女性関連施設の課題解決につながるよう、男女共同参画に男性の参画を進める意義・必要性の説明や対象者の整理、統計データ、学習プログラム事例等、具体的な内容を掲載した。また、女性関連施設の事業担当者からの要望を踏まえ、全国の女性関連施設への調査研究成果の波及および情報共有をめざし、本テーマに絞った学習プログラム企画・実施のためのWebサイトも開設した。
達成	

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
本調査研究の成果(調査結果や教材)については、次年度の主催事業(「女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画研修」等)や自治体等が主催する事業において報告や講義を行い、普及に努める。また、開設したWebサイトについても、学習プログラムに関する情報を随時更新し、女性関連施設が活用しやすい情報の提供及び女性関連施設との情報共有に努める。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	判定の理由
A	昨年実施された結果分析をもとに、さらなる情報の収集とインタビュー調査が加えられ、量的・質的研究として十分な成果をあげている。研究結果は学習プログラムの開発に使用され、その試験的实施、連携協力施設との意見交換、女性関連施設職員を対象とした教材の作成(『男女共同参画と男性』)が行われている。新たな試みとして、Webサイトが開設され、調査・研究結果の公表と同時に家庭・地域への男性の参画を促すための国内情報の更新が行われている。喫緊の課題である男女共同参画への男性の関わり方について、調査・研究のみならず、日々の国内動向の情報を集約し、発信できるのはNWECならではのあり、今後の本事業の発展が期待できる。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-2-(2))	2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2)喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施
年度計画の項目 (I-2-(2)①)	2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2)喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施 ①男女共同参画の視点に立った多様なキャリア形成支援研修

事業名	男女共同参画の視点に立った多様なキャリア形成支援研修		
事業概要	男女共同参画社会の形成に向けて女性の活躍を推進するためには、職業活動、社会活動を包括し、個人のキャリアと社会とのつながりから多様な選択を可能にするキャリア形成支援が求められる。女性関連施設、NPO、大学等のキャリア形成支援者等を対象に、国立女性教育会館の調査研究や成果等にもとづく新たなキャリア概念のとらえ直しや国の最新施策の把握、課題解決に向けた事業計画案づくりなど、支援者としての力量形成に資する専門的・実践的な研修を行う。		
担当課室	事業課		
スタッフ	事業課長(1)専門職員(1)	事業係員(1)	計3名

年度実績概要	
1. 課題の厳選:今年度は「女性の活躍促進による経済活性化」行動計画(平成24年6月)を踏まえ、「女性の活躍推進によるキャリア形成支援」を中心課題とした。またキャリア支援としての目的・内容がより明確に分かるよう、昨年度までの「ワーク・ライフ・バランス」コースを、今年度は「職業キャリア支援」コースとした。 2. 平成23年度フォローアップ調査回収率向上のための取組と調査結果の研修プログラムへの反映: 平成23年度研修のフォローアップ調査は、平成24年5月に実施した。対象者を事業(学習)計画案の提出者等とし、回答者が記入しやすい様式に工夫するほか、郵送、FAX、E-mailなど複数の手法で回収した。集計の結果、研修が「仕事や活動に役立っている」との回答は100%であった一方、「事業・予算への反映」の実績は15.6%だったため、今回の実践事例報告には23年度参加者が研修中に作成した計画案を実際に事業化したプロセスを取り上げた。 3. 研修対象者の厳選:研修の目的・ねらいを考慮し、地域で多様なキャリア形成支援を推進する拠点となる女性関連施設等の職員、活動そのものが社会活動キャリアである団体・グループ・NPO等のメンバー、高等教育における推進を目指し大学等のキャリア教育担当教職員等とした。また事業(学習)計画案作成の精緻化を目指し講師がより柔軟に対応できるよう、定員を60名とした。 4. 研修内容の分析:講義、関係省庁の説明、調査報告などで最新情報を提供した。実践事例報告では女性社員の活躍推進やNPOで活躍する事例などを取り上げた。分科会では「社会活動キャリア支援」「職業キャリア支援」「若年層に対する支援」の3コースに分かれ、討議やワークショップ形式で事業(学習)計画案を作成した。それぞれのニーズや課題に合わせて作成したことで、研修成果の実践に向けての意識付けができた。また共同作業や情報交換により、参加者同士の関係づくりやネットワーク形成の一助となった。 特にプログラムでは、参加者の実践力を養うことを目的としており、事業計画案づくりのポイントを学び、地域に帰って実践できる事業計画案を作る内容とし、事業計画案づくりの時間を拡大するなど、事業計画案づくりに力点を置いた。 5. 内容評価:職業キャリアだけではなく、社会活動とそれによって位置づけられる社会的位置・地位である「社会活動キャリア」も「キャリア」として捉える「複合キャリア」の概念、プログラムデザインの解説など、これまでのNWECの調査研究やプログラム開発の手法を活用し、特色を出すことができた。参加者アンケートからはキャリア形成支援の現状と課題の把握、計画づくりのための視点と手法のヒントなどを学ぶことなどができたとの回答が得られた。	
実績を裏付けるデータ	データ詳細は添付アンケート集計結果参照【】は平成23年度実績
1. 応募倍率:101.7% (定員60名 応募者61名 参加者56名)【101.3%(定員80名 応募者81名 参加者75名)】 2. 参加者構成:女性関連施設職員・社会教育施設等の職員 30名(53.6%) 団体・グループ・NPO等のメンバー15名(26.8%) 大学等のキャリア教育担当教職員等 11名(19.6%)【女性関連施設職員・社会教育施設等の職員 33名(44.0%) 団体・グループ・NPO等のメンバー30名(40.0%) 大学等のキャリア教育担当教職員等 12名(16.0%)】 3. 全体の満足度 95.5% (非常に満足 59.1%、満足 36.4%)【93.9%(非常に満足 36.7%、満足 57.2%)】 4. 全体の有用度 100.0%(非常に有用 65.1%、有用 34.9%)【100.0%(非常に有用 50.0%、有用 50.0%)】 5. 23年度フォローアップ調査:対象者45件 回答者32件 回収率71.1% プラス評価者 32件(100% 大いに役立っている21.9% 役立っている78.1%)	

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性: 第3次男女共同参画基本計画の第11分野と第14分野、「女性の活躍促進による経済活性化」行動計画(平成24年6月)を踏まえ、今年度は「女性の活躍推進に向けたキャリア形成支援」を中心課題とした。国の最新動向や課題解決型学習を取り上げたことは、時宜を得た取組として評価できる。 独創性: 「複合キャリア」の概念やプログラムデザインの解説など、これまでにに行った調査研究の成果やプログラム開発の手法を活用し、NWECの特色を出すことができた。 発展性: 今後地域・組織でキャリア形成支援プログラムを展開するための「人材育成プログラム」と位置づけたことにより、基本的知識を学ぶ他に、企画・運営に向けた力量形成を図ることができた。23年度参加者による実践事例報告など、研修成果を活かした学習の循環と発展を提示することができた。 効率性: 講師の選定にあたっては調査研究・事業における人的資源を十分に活用した。					

2. 定量的評価

観 点	応募倍率	プログラムの有用度			
判 定	A	A			
○応募倍率101.7%【101.3%】 ○プログラムの有用度100.0%【100.0%】					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	これまでのNWECの調査研究、プログラム開発の成果を活かしており、先駆的内容の研修となった。研修方法も講義だけでなく討議やワークショップなどの参加型学習を多く取り入れたことにより、参加者が自らの課題に主体的に取り組むことができた。有用度は昨年度と同じく100%であるが、「非常に有用であった」と回答した割合が50.0%から65.1%に増えており、より参加者の課題とニーズに沿った研修内容になったと考えられる。これにより、プログラムは適切なものであり、ねらいは十分達成できたと考える。
達成	

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
24年度の企画では実践力に重点を置いた内容としたが、更に参加者自身が成果の普及を図るための方策を検討する必要がある。25年度は地域の女性関連施設等との共同による実施に向け、23年度、24年度の事業(学習)計画案とフォローアップ調査の内容を精査し、地域課題に対応するプログラム開発を進めることが求められる。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	判定の理由
A	①有用度において「非常に有用」とする回答者が昨年よりかなり増えている(50.0%→65.1%)。その背景には、研修の目的やねらいを考慮して定員数をしぼり、対象者を厳選したこと、これまでのNWECの調査研究／プログラム開発の成果をフルに活用した先駆的な研修内容や参加型学習方法が相乗効果をもたらしたものであり、NWECならではの取り組みとしてその独創性を評価する。
達成	②キャリアにおける男女の多様な選択を可能にするため、キャリア概念の捉え直しや今後の必要な施策・計画づくりなどの支援研修に、男性の参加者(56名中10名)が少ないのは残念である。生涯を見通す複合キャリアに関わる研修は男性にとっても重要であり、参加者を男性にしぼる、講師陣に占める男性比率をアップするなど、その可能性を検討してほしい。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-2-(2))	2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2)喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施
年度計画の項目 (I-2-(2)②)	2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2)喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施 ②大学生を対象とした男女共同参画の視点に立った複合的キャリア教育の推進

事業名	大学生を対象とした男女共同参画の視点に立った複合的キャリア教育の推進
事業概要	・大学等におけるキャリア教育に資するように、大学等と会館が連携して、会館が所蔵する「社会活動キャリア形成事例」や女性アーカイブセンター資料等を活用した学生を対象とするキャリア教育をモデル的に2校以上で実施する。 ・キャリア教育実施にあたり、学生の85%からプラス評価を得る。
担当課室	総務課(全課室によるプロジェクトチームによる)
スタッフ	理事長、情報課長、研究国際室長、総務課専門官、事業課専門職員、情報課専門職員、研究国際室研究員 計7名

年度実績概要	
1. 埼玉大学との連携授業(3年目)	(1)平成24年4月11日～7月4日(前期 水曜3限 全15回)、埼玉大学で実施。 (2)テーマは「男女共同参画を考える」。ジェンダーに関する学びを通じ、多様な考え方、職業選択に対する柔軟な考え方を身につけ、今後の人生プランの幅を広げることを目的とする。 (3)全15回授業のうち、3回をNWECが担当。理事長による講義「男女共同参画とは何か」、「NWEC男女共同参画統計データブック2012」を用いた統計にみる男女の現状についての講義、NWECで行った人身売買に関する調査研究成果などを盛り込んだ講義「国際動向とジェンダー」を実施。 (4)授業のテーマにあわせて、NWEC女性教育情報センターに所蔵する専門図書のパッケージ貸出を埼玉大学教養学部資料センターに行い、履修学生の学習支援の他、多くの学生に利用された。 (5)対象は、埼玉大学の学生40名。前期2単位。
2. 青森中央学院大学(公開講座、2年目)	(1)平成24年6月6日(水)・15日(金)の2日、青森中央学院大学内学術交流会館で実施。 (2)テーマは「自分らしく生きる～仕事も家庭も地域生活も～」。 (3)6月6日(水)の基調ミニ講義において、内海理事長が「男女共同参画社会の形成を目指して～男性も女性も自分らしく～」を講演。宮田安彦大妻女子大学家政学部ライフデザイン学科教授による基調講義「ワークライフバランスとライフデザイン～真に豊かな生活の実現のために～」へとつなげた。 (4)テーマにあわせて、ワークライフバランスに関する専門図書のパッケージ貸出を行った。 (5)対象は、青森中央学院大学生を含む一般市民80名。
3. 埼玉県私立短期大学協会(3年目)	(1)平成24年9月5日(水)～7日(金)(2泊3日)、NWECで実施。 (2)テーマは「これからのキャリアを考えてみよう」。男女共同参画や女性が継続就労することの意識などについて学び、生徒一人一人がより前向きに卒業後の人生設計を組み、実現していくことを狙った。 (3)協会に加盟する3大学の学長と課室横断的メンバーで構成されたNWECプロジェクトチームが、事前に3回の打ち合わせを行い、子ども学科を中心とするゼミ程度の短期大学生を対象としたキャリア形成支援プログラムを開発した。 (4)対象は、埼玉県私立短期大学協会加盟の短期大学学生20名程度。前期2単位。 (5)NWECの研究成果である「社会活動キャリア形成事例」をもとにグループワークを行うことで、キャリア形成に関する学習を深めた。 (6)ゲストスピーカーとして先輩の話を聞く夜間ワークショップについて参加学生評価が極めて高かった。 (7)参加学生に対し、研修の最初と最後にキャリア形成に関する意識調査(アンケート)を行った。結果として、「自分にもできるという自信を得た」「道は一つではないと気付いた」「何も考えていなかったが人生設計をたてることの大切さに気付いた」「回り道をしてもいいのだと思えるようになった」「チャレンジしていきたい」などの意識の変容がみられた。
4. 研修内容の特徴など	(1)大学との共催事業であり、若年層を対象としていることから、「男女共同参画の学びを通して、今後のライフプランを考える」というテーマに焦点を当てた。 (2)参加者一人一人が自らの人生を考えることがテーマであること、NWECで実施した事業においては、「事例研究」や「ワークショップ」などの参加型プログラムが豊富に盛り込むことで、参加型・実践型の内容とした。 (3)平行してテーマにあわせた専門書とのパッケージ貸出しを行い、研修生の学習を支援した。
実績を裏付けるデータ	【】内は23年度実績
○連携先と定員	
①埼玉大学	40名(男子24名、女子16名)【30名】
②青森中央学院大学	80名【150名】
③埼玉県私立短期大学協会	20名(参加者数は10名。保育実習と重なったため協会側で調整)【参加者24名】
・埼玉純真短期大学(子ども学科)6名	・埼玉女子短期大学(商学科)1名
・山村学園短期大学(コミュニケーション学科)2名	・秋草学園短期大学(文化表現学科)1名

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性: 男女共同参画社会を推進する上で、今後の社会を支える人材となる若年層への働きかけは効果的である。また、女性の活躍促進が求められる中、女子学生を対象としたキャリア教育の実施は時宜に適っている。 独創性: 埼玉大学、埼玉県私立短期大学協会との連携事業において、当該授業が学生の単位取得に結びついている点は画期的である。また、これまでNWECに蓄積された男女共同参画に関する研究成果や知見を大学という新たなフィールドに展開している。NWECが所蔵する図書をテーマにあわせてパッケージ化し大学に貸し出すなどのサービスを平行して行い、学習を深める支援を行うことができたのは、情報事業を実施するNWECならではの取組といえる。 発展性: 大学側の企画とNWECの人的資源やノウハウの蓄積を組み合わせたことで、NWECだけでは実施が難しかった学生を対象とする大学における単位取得授業が実現できた。また、24年度は、NWECとしては初めて、研修資料代(1500円)を参加者から徴収し、研修事業における参加費徴収の可能性を探ることに挑戦した。 効率性: 埼玉大学、青森中央学院大学との連携事業は、大学の企画の一部にNWECの提供するプログラムが盛り込まれる形で実現しており、会場の手配や参加者集めなどは大学側が負担したため、比較的事業負担が軽い形で男女共同参画に関する学習の場を提供することができた。また、埼玉県私立短期大学協会との連携事業においては、課室横断的なチーム編成により、各部署のもつ知見やノウハウが有機的に結びつき、時間的投資の観点から極めて効率的に事業が遂行された。					

2. 定量的評価

観 点	連携機関数	埼玉県私立短期大学協会連携事業における学生の満足度			
判 定	A	A			
○年度計画で定めた連携目標数「年間2機関以上」をクリアしている。 埼玉大学、青森中央学院大学、埼玉県私立短期大学協会 ○埼玉県私立短期大学協会連携事業における学生の満足度 100%					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判 定	判 定 の 理 由
A	第3期中期目標期間においてNWECは、大学や企業との連携を深めていくという目標を掲げている。その中であって、昨年度に引き続き目標(2機関)を上回る3機関(連携大学数6大学)との連携が実現している。
達成	連携の形も、埼玉大学にみる「講師の派遣による専門情報の提供」、青森中央学院大学にみられる「理事長の講義」、埼玉県私立短期大学協会にみる「プログラムの共同開発」など多様であり、今後、NWECが大学との連携を拡大していく可能性がみられる。 また、大学と連携した事業を実施する場合、参加申し込みや会場設営などの業務が大学側の負担であることから、比較的事業負担が軽い。限られた職員数でネットワークを拡大するためには、このような形での事業実施を更に増やしていくことが有効である。 平成24年度に連携したうち2機関から、平成25年度にも連携事業を実施したいとの申し入れがあったことは、連携先から高い評価が得られたことの証でもある。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
連携の効率効果を高めるため、業務にかかる経費や準備負担を更に大学側に求めていくこと、連携数を拡大することの2つが課題である。 現在、参加者募集や会場設営、資料印刷等の業務を大学に負担いただいていることはNWECにとって極めて効率的な事業運営方法である。これに加え、24年度には埼玉県私立短期大学協会との連携事業において、NWECとしては初めて研修参加費(資料代金)を徴収した。今後も、連携大学数の拡大とのバランスをとりながら特に大学の単位認定科目における連携については、可能な限り自己収入の拡大に関する検討を進める。 また、「女子学生のキャリア教育」、「男女共同参画」などの連携事業を学生生活に根付かせ、一過性のものとしないうちに、引き続き、連携先の大学・短期大学図書館や教務部、学生部など学生生活に関係する部署への連携を推進していく。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	判 定 の 理 由
A	①これからの日本社会を担う若い世代に、「複合的キャリア」を明確に打ち出す視点からの教育は重要である。その意味で、連携先の大学数が目標の2機関から3機関(6大学)へと増え、連携の形も講師の派遣やプログラムの共同開発など、一歩踏み込んだ密度の高いものになっている点を評価したい。
達成	それ以上に画期的な取り組みは、当該授業が学生の単位認定科目となり、また、NWECとしてはじめて研修参加費(資料代)を徴収していることである。学生の単位取得につながる連携事業について、可能なかぎり自己収入の拡大に結びつく取り組みは、今後一層必要とされる。 ②参加者の募集や会場の設営などの点で、大学との連携事業は、NWECにとって効率的な事業運営方法である。一過性の事業に終わらず、男女共同参画に関わる多様なテーマでの連携に広げていく努力をしてほしい。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-2-(2))	2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2)喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施
年度計画の項目 (I-2-(2)③)	2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2)喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施 ③女性関連施設相談員研修

事業名	女性関連施設相談員研修	
事業概要	女性のエンパワーメント支援を目指し、複雑・多様化する女性の悩みに適切に対応できる相談体制を構築するため、女性関連施設や民間事業者が主催する相談所において相談業務に携わる者を対象に、女性の貧困や経済的自立など喫緊の課題解決に必要な知識や相談技能の習得を内容とした専門的・実践的研修を行う。	
担当課室	事業課	
スタッフ	事業課長(1)専門職員(1)係員(1)	計3名

年度実績概要	1. 喫緊の課題としての位置付け 「配偶者からの暴力被害、日本で働き生活する外国人女性が抱える困難や貧困等は女性に対する重大な人権侵害であり、解決が急がれる喫緊の課題」ととらえ、それらの問題を解決へつなぐ女性相談を目指した。 2. 研修内容の分析 相談員として必要な知識の習得や相談技能の向上を図るため、講義とワークを交えるなど、参加者が主体的に学習できるようなプログラムの工夫を行った。 初めに、女性関連施設における相談業務の意義について考え、喫緊の課題である、配偶者からの暴力の現状についての理解を深めた。適切に対応できる相談技能の取得については、スーパービジョンの技法を取り入れ、当事者理解と相談のすすめ方についての理解を図った。 多様な相談ニーズについては分科会「問題を抱えた当事者への支援を考える」として、「外国人女性の困難に対する支援と留意点」「配偶者暴力被害者への支援と留意点」「人間関係に関する悩みを抱える相談者への支援と留意点」の3つのコースでそれぞれの支援と留意点をケース検討した。加えて、相談員の二次的外傷を防ぐため、メンタルヘルスに関する講義・ワークを取り入れ、椅子に座りながらできるエクササイズ「体の内面から強くしなやかに」によるセルフケアのオプションプログラムを希望者に提供するなど、相談員自身のエンパワーメントもねらった。 女性関連施設では、3年未満の相談員が多いことに鑑み、このプログラムでは、参加者からの事例等を用いた事例検討や意見交換を取り入れ、初任の相談員でもすぐに実践で役立つ内容とした。この事業は、他ではあまり実施していない、初任の相談員でも受講できる研修となっている。 3. 研修対象者の厳選 女性関連施設において女性の悩みに関する相談業務に携わっている相談員に限り研修対象者とした。参加時に相談員でない方の参加は断っている。 4. 内容評価 参加者の研修後のアンケート調査では、この研修については100.0%が有用と答えており、95.6%が満足であったと回答している。意見・感想では「インプットだけの研修ではなく、グループワーク等もあり非常に良かった。法律・医療分野の話も有益だった」「3日間の研修で、改めて自分の相談員としての姿勢の振り返りができたと同時に各専門機関との連携の必要さを感じた」等の声が寄せられた。	
実績を裏付けるデータ	データ詳細は添付アンケート集計結果参照【】内は平成23年度実績	
1. 応募倍率:	130.0%(定員80名 応募者104名)【180.8%(定員120名応募者217名)】	
2. 相談員としての経験年数:	1年未満25名(26.6%) 1年以上～2年未満 14名(14.9%) 2年以上～3年未満 14名(14.9%) 3年以上～10年未満 27名(28.7%) 10年以上 8名(8.5%) 無回答 6名(6.4%) 【1年未満 17名(11.6%) 1年以上～2年未満 17名(11.6%) 2年以上～3年未満 21名(14.4%) 3年以上～10年未満 57名(39.1%) 10年以上 12名(8.2%) 無回答 22名(15.1%)】	
3. 全体の満足度について:	95.6%(非常に満足 45.1% 満足 50.5%)【92.1%(非常に満足 43.5% 満足 48.6%)】	
4. プログラムの有用度について:	100.0%(非常に有用 69.6% 有用 30.4%)【98.5%(非常に有用 59.1% 有用 39.4%)】	
5. 目標達成度:	・相談員としての自分の役割を、振り返り、確認することができた。100.0% ・配偶者からの暴力に関する実態・今日的課題について、知ることができた。100.0% ・女性関連施設における相談事業の役割と意義を理解することができた。98.6% ・様々な相談への的確な対応や、配慮事項など、実践に役立つ力をつけることができた。96.5% ・研修や交流を通して、相談員としてのエンパワーメントにつながった。95.0%	

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判定	A	A	A	A	

適時性: 配偶者からの暴力被害、日本で働き生活する外国人が抱える困難や貧困等が社会問題になっている。また、第3次男女共同参画基本計画でも「女性に対するあらゆる暴力の根絶」が挙げられており、配偶者からの暴力や女性が抱える困難を講義や分科会のテーマに取り上げた。近年は相談員のバーンアウトが課題になっていることから、メンタルケアに係わる講義や体験も行い、相談員のエンパワメントを総合的に支える研修プログラムは時宜を得た取組として評価できる。

独創性: NWECCの調査研究の成果を活かした情報提供、女性関連施設ならではの視点を入れることで、男女共同参画社会実現に向けた相談業務の意義を考えられるようにするなど、独創性のある取組として評価できる。

発展性: 相談者支援に役立つ法知識や、関係機関との連携の方策と重要性、スーパービジョンの技法による相談の相互検討、技法相談員自身ができるメンタルケアについての学習をプログラムに盛り込んだことから、相談員の技能の向上と相談事業への反映が期待できる点など、発展性のある取組として評価できる。

効率性: 平成15年度から継続して実施している実績を活用し、参加者の意見を次年度に反映するかたちで内容を高めてきている。また、講師の選定や分科会の運営では昨年度まで同時開催であった内閣府委託事業で繋がりのある企画委員の方々のアドバイスや協力を得ることができた。

2. 定量的評価

観点	応募倍率	プログラムの有用度			
判定	A	A			

○応募倍率: 130.0%
○プログラムの有用度: 100.0%

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	女性関連施設等の相談員向け、女性の様々な悩みに関する専門的・実践的な研修を提供できた。特に配偶者からの暴力は緊急性が高くまた被害が複雑多様化しており、最新の情報と課題について理解が深まるよう努めている。女性関連施設等における相談業務の意義と役割の習得、さらに全国からの相談員との交流を支援したことにより、相談員自身の技能、意欲の向上につながったことが感想からも伺える。これらのことから、本プログラムの企画は適切なものであり、ねらいを十分に達成できたと考える。
達成	

※ 上段は総合評価、下段は中期計画の実施状況を記入

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
昨年度は内閣府委託の配偶者暴力被害者支援事業と同時開催であったため、暴力被害者支援センターからの多数の参加希望者により、女性センターからの参加者を絞らざるを得なかった。しかし、今年度は、本事業を単独で開催することで、女性センターからの参加者を多く受けられた。しかし、募集定員の80名に対して参加希望者が受付開始2週間で104名に達し、その後多数の方に参加をお断りをした。各地域の女性関連施設相談員の研修需要を鑑み、定員の見直しや各地域会場での実施を検討する。さらに、プログラムの各地域への提供等、開発した学習プログラムによる研修をモデル的に実施し、その成果を普及することにより、地方公共団体等が同課題に関する研修等を独自に企画・実施するよう支援する必要がある。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	判定の理由
A	・地方の女性関連施設相談員が自前の研修を受けにくい環境下において、NWECCの調査研究の成果を活かした情報提供や、女性関連施設の視点を入れたNWECCの事業は全国相談員のエンパワメントを支援することになり、大いに評価できる。
達成	・複雑・多様化する相談事業に対応できる人材の養成は喫緊の課題であり、配偶者からの暴力被害、日本で働き生活する外国人女性が抱える困難や貧困等の問題を解決へとつなぐ相談業務の意義と、相談技能の取得(スーパービジョン技法)の理解はすぐに実践に役立つ内容である。 ・希望者全員が受講できない現状では、研修プログラムの提供や地方への出前研修等の改善策も検討いただき、女性関連施設相談業務の充実を期待する。 ・なお、結果として受講者は全員が女性となっているが、男性相談など相談業務のさらなる展開がみられることから、男性相談員に対しても、受講しやすい環境整備を図る必要がある。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-2-(2))	2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2)喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施
年度計画の項目 (I-2-(2)④)	2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2)喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施 ④家庭教育・次世代育成指導者研修

事業名	家庭教育・次世代育成指導者研修		
事業概要	全国の家庭教育・次世代育成支援の行政担当者、子育て支援に携わる団体のリーダー、企業の次世代育成支援担当者等を対象に、これまでの調査研究で得られた成果を活用し、社会全体での家庭教育・次世代育成支援に向け様々な機関、企業が連携して取り組んでいる事例や男性の子育て参画に関する事例を研修内容に取上げ、男女共同参画の視点から、参加者が日常抱えている課題の解決に向けた専門的・実践的研修プログラムを開発し、実施する。 開催期日：平成24年5月18日(金)～19日(土)1泊2日 会場：国立女性教育会館		
担当課室	事業課		
スタッフ	事業課長(1) 専門職員(1) 係員(1) 計3名		

年度実績概要	1. 喫緊の課題としての位置付け 24年度は、「社会全体で支える子育て・子育て」を主題に、特に、第3次男女共同参画基本計画を踏まえ、社会全体での子育て支援を推進していく上で課題となっているワーク・ライフ・バランスの推進と両立支援や地域での子育て支援に関わる女性のエンパワーメント、男性の子育て支援活動への参画に重点をおき、課題を厳選した。 2. プログラムの特徴 24年度は「社会全体で支える子育て・子育て」を主題に、男女共同参画の視点から、家庭を支える社会全体でいかに子育て支援のあり方について、講義、施策・動向説明、パネルディスカッション、分科会などを通して検討した。課題共有のためのディスカッションや全体会での発表機会を設けるなど、参加型のプログラムも実施した。分科会では、事例報告と協議を通して、課題解決につながる実践力を養うことを目指した。特に、分科会事例報告者の選定については、昨年度の参加者が、事例報告者となることによって、循環型の人材育成を行った。調査研究事業との連携については、「男性の家庭・地域への参画を促進するための調査研究及びプログラム開発」(平成23～24年度)の報告を行い、調査研究の成果を研修に反映させた。時宜を得たプログラムとして、災害時における子育て支援の現状と課題を把握するために、東日本大震災の被災地域の子育て支援施設担当者による報告と質疑「災害と子育て支援」を実施した。 3. 参加者の特徴 社会全体、地域ぐるみでの子育て支援の推進においては、多様な機関・専門職の連携が不可欠である。このため本研修では、参加者の情報交換・ネットワークづくりの支援の場を提供する点からも、幅広く参加者を受け入れている。24年度は、特に、女性関連施設職員・男女共同参画行政担当者の参加が、23年度の9名(8.0%)から増えて16名(19.5%)となった。 4. 内容評価 参加者のアンケートからは、有用度92.3%(非常に有用36.5%、有用55.8%)、満足度84.5%(非常に満足29.3%、満足55.2%)の評価を得られた。		
実績を裏付けるデータ	(詳細は添付アンケート集計結果等参照)【】内は平成23年度実績		
1. 応募倍率	74.2%(定員120名 応募者89名、参加者82名)【102.5%(定員120名 応募者123名)】		
2. 参加者内訳	家庭教育関係行政担当者11名(13.4%) 子育て支援関係行政担当者18名(22.0%) 子育てネットワーク、子育てサポーター等のリーダー23名(28.0%)、企業の次世代育成支援・社会貢献活動担当者0名(0.0%)、女性関連施設職員・男女共同参画関係行政担当者16名(19.5%)、社会教育施設職員6名(7.3%) その他8名(9.8%)、無回答0名(0.0%)【家庭教育関係行政担当者11名(9.8%) 子育て支援関係行政担当者22名(19.6%) 子育てネットワーク、子育てサポーター等のリーダー31名(27.7%) 企業の次世代育成支援・社会貢献活動担当者3名(2.7%) 女性関連施設職員・男女共同参画関係行政担当者9名(8.0%) 社会教育施設職員5名(4.5%) その他27名(24.1%) 無回答4名(3.6%)】		
3. 有用度	92.3%(非常に有用36.5%+有用55.8%)【98.8%(非常に有用43.8%+有用55.0%)】		
4. 満足度	84.5%(非常に満足29.3%+満足55.2%)【94.1%(非常に満足35.3%+満足58.8%)】		
5. 目的達成度	・実践事例の報告を通して、社会全体での子育て支援の取組を実践していくための方向性をつかむことができた97.4%(十分達成45.7%+おおむね達成51.4%) ・社会全体で子育てを支えていく上で必要な子育て支援のあり方をワーク・ライフ・バランスの視点から理解することができた96.1%(39.2%+56.9%) ・災害時における子育て支援の現状と課題を把握することができた92.1%(50.0%+42.1%)		

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性: 東日本大震災に関連し、災害時における子育て支援の現状と課題を把握するために、東日本大震災の被災地域の子育て支援施設担当者による報告と質疑「災害と子育て支援」を実施したことは、時宜を得た取組として評価できる。 独創性: 分科会では、ワークショップの手法を取り入れ、参加者自身が課題解決につながる実践力・関係力を養った。家庭教育支援と次世代育成支援の両方を1回の研修で学ぶ機会を提供していることは、NWECの独創性を活かした取組として評価できる。調査研究の成果を活かしたプログラムの実施も職員の専門性やNWECの独創性を活かした取組として評価できる。 発展性: 23年度の当研修参加者が、分科会事例報告者となることによって、循環型の人材育成を行い、研修成果のさらなる波及効果をねらった。 効率性: 当日の参加者受付、会場係などは、NWECボランティアの協力を得ることができ、効率的に当日の進行・運営を行うことができた。					

2. 定量的評価

観 点	応募倍率	プログラムの有用度			
判 定	B	A			
○応募倍率: 応募倍率: 74.2% (定員120名 応募者89名、参加者82名) ○プログラムの有用度 : 92.3% (非常に有用36.5% + 有用55.8%)					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判 定	判定の理由
A	家庭教育・次世代育成支援の行政担当者や子育て支援ネットワーク等のリーダー、女性関連施設職員・男女共同参画関係行政担当者など地域ぐるみの子育て支援を推進していく上での指導者に対し、最新の情報や参加型プログラムの提供、宿泊研修の利点を活かした参加者同士のネットワークづくり支援などを行うことができた。アンケートによると有用度92.3%と高い評価を参加者から得ることができた。これらのことから、第3次男女共同参画基本計画をふまえ、社会全体での子育て支援を推進していく上で課題となっているワーク・ライフ・バランスの推進と両立支援や地域での子育て支援に関わる女性のエンパワーメント、男性の子育て支援活動への参画に重点をおいた24年度のプログラム企画は適切で、ねらいは十分達成できた。
達成	

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
これまでの調査研究の成果を踏まえ、参加型のプログラムを盛り込みながら、課題解決のための実践力を養うことを目指してきた本事業は、一定の成果を達成したとして、24年度で終了とする。25年度から、男女共同参画推進フォーラムに内容を盛り込むことを検討していく。本研修の参加者は多様であり、様々な立場から、地域で子育て支援に携わる担当者の関心を集めてきた。アンケートでは、有用度、満足度ともに高い評価を得ており、研修成果を活かした子育て支援講座や講演会等の開催など、各地域での事業企画・実践につながる取組が期待される。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	判定の理由
A	本事業は、講義、パネルディスカッション、調査研究報告、情報交換会、分科会といった多様な学びの場を提供し、参加者が本事業で得た知識を家庭や地域に持ち帰り、実践に結びつけることが可能なようにプログラムされている。これまでの教育・研修の提供経験が、参加者の関心を的確に捉えた優れたプログラムに結実している。参加者の評価は、有用度92.3%、満足度84.5%、目標達成度97.4%と高かった。一点だけ残念なのは、応募倍率が100%に達しなかったことである。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-2-(2))	2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2)喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施
年度計画の項目 (I-2-(2)⑤)	2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2)喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施 ⑤行政や関係機関と連携した喫緊の課題に対応した研修

事業名	平成24年度独立行政法人科学技術振興機構委託事業「女子中高生夏の学校2012～科学・技術者のたまごたちへ～」
事業概要	女子中高生の科学技術分野に対する興味・関心を喚起すると共に、具体的なロールモデルを示して科学技術分野の職業への理解の進化及び進学意欲・進路意識の向上に資することを目的として行うものである。女子中高生が普段接することができない科学技術分野の女性研究者・技術者や科学技術分野を専攻する女子大学生、大学院生と親しく向き合い、講演、実験・実習、進路相談等の活動を通じて科学技術分野への進路を考える機会を提供する。また、保護者・教員等のプログラムも別に設定し身近な支援者として理系進路選択の知識を提供する。
担当課室	事業課
スタッフ	事業課長(1) 専門職員(1) 係員(1) 計3名

年度実績概要	
1. 喫緊の課題としての位置付け(課題の厳選)	女性研究者の割合の低さなどを踏まえ、科学技術・学術分野における男女共同参画に向けた女子学生・生徒の理工系分野への進学促進は喫緊の課題である。そこで、女子中高生の理系進路選択を支援するため、科学技術の世界の楽しさを「体験する」、科学技術の世界で生き生きと活躍する女性たちと「交流する」、科学技術に関心のある仲間や先輩と「知り合う」機会として本事業を実施した。内容は、女性科学・技術者、女子大学生・大学院生が女子中高生と交流し、理系の進路選択の魅力を伝えとともに、進路を理系にするか文系にするか迷っている女子中高生にも対応できるものとした。また、女子中高生の理系進路選択を後押しできるよう、身近な存在である保護者や教員に対するプログラムも設定した。
2. 研修内容の分析	女子中高生向けプログラムでは、理系の職場(日本IBM、JAXA)で活躍する女性によるキャリア講演、インターネットを活用し、女性科学・技術者が理系の生の現場を紹介する職場訪問(JAXA)を行った。また、11の実験・実習の中から参加者の興味関心に応じて選択するプログラムを行った。さらに33の学会、企業等のブース展示を回り、最先端の科学技術に触れるなど、理系への進路について相談する場を設定した。そして、クイズに答えながら理系の道を疑似体験する「才媛双六」をはじめとする学生企画によるプログラムも取り入れた。特に、今回は各グループごとにオリジナルの「才媛双六」を作成した。閉校式では参加者全員をサイエンスアンバサダーに任命し、学んだことを学校や地域に戻って広める活動を促すようにした。 この事業は、単に講演を聴いたり、実験・実習をするだけでなく、女子中高生と学生TA(ティーチングアシスタント)、研究者・技術者のキャリア相談や、天体観望会など、夜遅くまで交流を図ることができ、宿泊施設を活用した2泊3日ならではのプログラムとなっている。また、2泊3日のプログラムで終わるのではなく、メンターによる参加者への相談活動によるフォローアップや、参加者が学校、地域に帰って夏学の体験を伝えるアンバサダー活動を実施することにより、参加者以外にも理系進路選択の意義を共有すること図ることができ、宿泊形式、理系の社会人女性による講演や座談会、実験プログラムなど、NWECのプログラムは多くの機関の先進的事例となっており、今後も、内容を進化させて、引き続き実施する。
3. 研修対象者の厳選	女子中高生の定員100名に対して200名の応募があった。全員研修の場所である大会議室の座席数と研修当日までのキャンセルを見越し、参加決定者を127名とした。参加決定については、抽選を原則とするが、学年、地域バランスを考慮した。また、同じ学校からの参加は3名までとし、できるだけ全国から広範囲の参加となるように「参加者のすそ野」を広げる配慮をした。
4. 内容評価	キャリア講演、インターネットを活用した職場訪問、実験・実習やポスター展示、キャリア相談への参加、学生企画など、2泊3日の合宿プログラムを実施した。期間中は学生TAが各グループを支援した。参加者の満足度は、女子中高生98.2%(非常に満足79.1%、満足19.1%)、保護者100.0%(非常に満足80.0%、満足20.0%)、教員91.7%(非常に満足33.4%、満足58.3%)である。プログラムの有用度は、女子中高生91.5%(非常に有用55.2%、有用36.3%)、保護者93.3%(非常に有用46.9%、有用46.4%)、教員85.5%(非常に有用27.6%、有用57.9%)という評価であった。
実績を裏付けるデータ	(データ詳細は添付アンケート集計結果参照)【内は23年度実績】
1. 参加者定員	女子中高生100名【100名】 保護者・教員50名【50名】
2. 応募者数	女子中高生200名【173名】 保護者・教員30名【51名】
3. 応募倍率	女子中高生200.0%【173.0%】 保護者・教員60.0%【102.0%】
4. 参加者内訳	中学3年生39名、高校1年生43名、高校2年生31名、高校3年生5名、保護者16名、教員14名 【中学3年生44名、高校1年生31名、高校2年生39名、高校3年生9名、保護者23名、教員28名】
5. 全体の満足度	中高生 98.2%(非常に満足79.1% 満足19.1%)【96.7%(非常に満足58.2% 満足38.5%)】 保護者 100.0%(非常に満足80.0% 満足20.0%)【88.9%(非常に満足77.8% 満足11.1%)】 教員 91.7%(非常に満足33.4% 満足58.3%)【100.0%(非常に満足56.3% 満足43.7%)】
6. プログラムの有用度	中高生 91.5%(非常に有用55.2% 有用36.3%)【91.8%(非常に有用42.6% 有用49.2%)】 保護者 93.3%(非常に有用46.9% 有用46.4%)【85.1%(非常に有用49.6% 有用35.5%)】 教員 85.5%(非常に有用27.6% 有用57.9%)【83.6%(非常に有用40.4% 有用53.2%)】

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判定	A	A	A	A	
適時性: 第3次男女共同参画基本計画第12分野の科学技術・学術分野における男女共同参画の推進に資するため、女子中高生の理系進路選択への支援となるよう、キャリア講演、インターネットを活用した職場訪問、実験・実習やポスター展示、キャリア相談への参加、学生企画など充実したプログラムを実施、提供している。 独創性: 各プログラムを通じて、全国からの参加者がロールモデルとなる女性科学・技術者や女子大学生・大学院生と交流することにより、理系の女性によるネットワーク形成の機会を提供した。また、今回の「夏の学校」関係者による本研修独自のロールモデル集を作成し、配付している。 発展性: 企画委員やTAとして企画、運営に関わった30名の女子大学生・大学院生のうち、9名が「夏の学校」の卒業生である。参加者からの「大学生になりTAとして戻ってきたい」という感想もある。参加者である女子中高生が理系の大学に進み学生TAとなり、その経験を基に学生企画委員として関わり、さらに女性科学・技術者や教員等になって企画委員として企画、運営に参画していく、といった活動キャリアを上げていくつながりが生まれており、今後もそれが期待できる。また、宿泊形式、理系の社会人女性による講演や座談会、実験・実習などのプログラムは、他大学等の理系進路選択支援事業にも見られ、NWECのプログラムの広がりが見られる。 効率性: 独立行政法人科学技術振興機構の委託事業として実施した。また、日本学術会議「科学と社会委員会 科学力増進分科会」「科学者委員会 男女共同参画分科会」の共催、男女共同参画学協会連絡会の協力、30の学会・団体の協賛等により実施した。企画委員や当日スタッフを含めた実行委員は、165人で、ボランティアとして運営面での協力を得ることにより効率的な運営をしている。					

2. 定量的評価

観点	応募倍率	プログラムの有用度			
判定	A	A			
○応募倍率: 女子中高生200% 保護者・教員60% ○プログラムの有用度: 女子中高生91.5% 保護者93.3% 教員85.5%					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	平成17年度以来、8回目の開催となるが、企画委員をはじめとする人的な部分も含め、過去の研修成果とともに、これまでの継続によるノウハウの積み上げを生かした充実した内容となった。すでに理系を目指すことを決めている女子中高生だけでなく、進路を理系にするか文系にするか迷っている女子中高生にも、実験・実習や学生企画などを通じて理系の進路選択の魅力を伝えられる内容とした結果、そうした参加者からも有用度において高い評価を得ている。また、前回に引き続き関係者によるロールモデル集を作成したが、前回は上回る執筆によるものとなり、参加者である女子中高生が理系の大学に進み学生TAとなり、その経験を基に学生企画委員として関わり、さらに女性科学・技術者や教員等になって企画委員として企画、運営に参画していく、といった活動キャリアを上げていくつながりを充実させるものとなっている。
達成	

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
○2泊3日の合宿プログラム全体のプログラムデザインを明確にする。 ○キャリア講演講師、職場訪問先は女子中高生にとって知名度の高い企業等に依頼する。 ○これまでは女子中高生のみのプログラムであった実験・実習について、保護者・教員も参加、見学できるような形にする。 ○合宿プログラム終了後のアンバサダー活動、メンター活動を充実させる。 ○参加者である女子中高生が学生TAや学生企画委員となり、さらに企画委員となるような活動キャリアを上げていくための交流をさらに充実させる。 ○各理工系分野から、将来どのようなキャリアに就くことができるのかを系統的にまとめたキャリア系統図を作成し、広く情報提供を行う。 ○男女共同参画学協会連絡会をはじめ、各学会との連携をさらに強化する。 ○参加者募集に関して、より多くの人に広報が行き届くよう、その方法を工夫する。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	判定の理由
S	本事業は女子中高生の科学技術分野への興味・関心を喚起し、当該分野の進学意欲を向上させることを目的としている。対象となったのは、女子中高生、保護者、教員であり、対象に合わせたプログラムが企画された。身近な支援者である保護者、教員向けのプログラムでは、理系進路選択に関する知識を提供している。女子中高生向けには、大学生、院生による学生企画も盛り込み、関心に沿ったテーマを扱っている。研修の効果があがるように、講義(理系の職場で活躍する女性のキャリア講演)、ディスカッション、クイズ、天体観望会、韓国的女子高校生とのインターネット交流、キャリア相談といった多彩な企画を準備していることは高く評価される。さらに、本事業終了後には、メンターによる相談活動や参加者によるアンバサダー活動も実施されており、きめ細かなフォローアップがなされた。応募倍率は200%で、日本全国からの参加があり、参加者の満足度は中高生98.2%、保護者100%、教員91.7%と高かった。自由記述アンケートによれば、多くの中高生が理系への進路を選択したいと記しており、本事業が参加者に与えた影響は大きい。平成17年度から始められた本事業は8回目を数え、過去の参加者による学生企画も誕生している。事業ノウハウの蓄積と斬新な企画力により、今後の本事業の発展と効果が期待される。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-2-(2))	2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施
年度計画の項目 (I-2-(2)⑤)	2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラム等の開発・普及 (2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施 ⑤ 行政や関係機関と連携した喫緊の課題に対応した研修

事業名	企業を成長に導く女性活躍促進セミナー
事業概要	企業における女性の活躍推進を図り、男女共同参画社会の形成に資するため、企業の経営者、役員、管理職、現場で活躍する女性リーダーなど、女性人材活用の推進者を対象に実施します。講演等によりダイバーシティの本質について理解を深め、パネルディスカッション等で女性の活躍推進のため何をすべきか考えます。
担当課室	事業課
スタッフ	事業課長(1)、専門官(1)、専門職員(2)、研究員(1)、客員研究員(3) 計8名

年度実績概要	
1. 喫緊の課題としての位置付け	政策・意思決定への女性参画は国際的に大きな遅れ(GGI「ジェンダー・ギャップ指数」で135カ国中101位)をとっており政府目標の2020年に30%に比べ低い水準(国会議員11.3%、企業の課長7.0%)にとどまっている。この順位を押し下げている要因の一つに管理的職業従事者の女性登用率の低さのような経済分野での男女格差がある。 本事業「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」は、NWECに求められる役割の変化や課題解決の緊急性から本年度に計画にはなかったが実施を前倒し、試行的に実施することでスピード感を持って参加者のニーズや各企業の実態把握を掴み、各機関の統括団体や各種研修機関等との協力関係を構築するものである。
2. 研修内容	(1) 第1回セミナー(平成24年12月14日(金)～15日(土)NWECにおいて実施) 基調講演「経済活性化とワーク・ライフ・バランスをともに実現する鍵ーダイバーシティの本質を学ぶ」では、山ロー男シカゴ大学教授を講師に、豊富な国内外のデータや事例分析により「ダイバーシティ、特に女性の活躍推進は企業に多面的な経営効果をもたらす」ことをお話しいただいた。また、パネルディスカッション「企業の成長は女性が握る」では、企業における女性の活躍の取り組み事例などをもとに女性の活躍を促進するための課題や、女性の活躍を創出していく上で何が求められるかについて、古道義成NECソフト株式会社代表取締役執行役員社長、高松和子財団法人21世紀職業財団理事に山口教授を加え、内海理事長のコーディネートで議論を深めた。その後のワークショップでは、「アクションラーニング」手法を活用し、参加者一人一人が各企業の課題に向き合い課題解決の方策を探った。 (2) 第2回セミナー(平成25年3月8日(金)、大宮ソニックシティホールにて実施) 埼玉県経営者協会との共催。県が推進するウーマノミクス推進委員会の平成24年度第7回をNWECが企画した。内海理事長による基調講演、3名の講師とNWEC研究国際室長の計4名によるパネルディスカッションの2部構成。これまでNWECに蓄積された情報や研究成果に基づく豊富なデータ分析をもとに、「企業は何故、社会の女性活躍推進に取り組むべきか」というテーマに迫るプログラムとし、民間等で実施する他の女性活躍支援セミナーとは一線を画す内容になるよう工夫した。 県内の中小企業関係者が多く参加することから、内海理事長の基調講演においてはNWECのPRを積極的に行い、知名度向上と利用拡大にも努めた。
3. プログラムの工夫	企業における女性の活躍推進を図るためには、トップに代表される企業内のリーダーの意識改革が欠かせない。あわせて、女性の働きやすい制度の導入や、仕事を効率的に進めるための工夫、そして社員一人ひとりの力量形成のための取組等が必要である。本研修では研究者や経営者から、女性の活躍を促進することが企業の活力を高め、成長に導くことへの理解を調査結果や事例から説明いただくなど、客観的視点からの講義を重視した。また、企業で活躍する女性のロールモデルとなる女性からの講演を取り入れるなど、女性人材活用の推進者をエンパワーメントすることも狙った。同時に、参加者が自企業で抱えている問題点についてグループで話し合う技法の一つ「アクションラーニング」手法を活用した。参加者の多様な視点からの問いかけによって、考えを広げたり深めたりしながら検討成果をまとめ上げるとともに、受容と共感、相互の変化、シナジー効果などワークショップならではの高揚感あるプロセスを体感できるよう工夫した。
4. 参加者の評価	参加者からは、「日本の古くからの企業体制を変化させなくては行けないと納得した」「非常に大量のデータと根拠が示され説得力があった」「実践的なセミナーで参考になった」「各社の課題を共有しながら共に考えることができた」「様々なバックグラウンドの方と知り合えてよかった」「続編を期待する」などの意見を得た。
5. 研修対象者の厳選	企業の経営者、役員、管理職、現場で活躍する女性リーダーなど、女性人材活用の推進者を対象として限定した。
実績を裏付けるデータ	
【第1回】定員 80名 応募者数 68名	
【第2回】定員 100名 応募者数 55名	

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点 判 定	適時性	独創性	発展性	効率性	
	A	A	A	A	
適時性: 世界経済フォーラムによると2012年のGGI(ジェンダー・ギャップ指数)で日本は135カ国中101位となっており、政府目標の2020年に30%に比べ低い水準(企業の課長7.0%)にとどまっている。本事業は、こうした課題解決の必要性から時宜を得た取組である。 独創性: スエックの調査研究の活用や、内海理事長の企業に対する人脈の利用、グループワークでの実践の豊かな経験を取り入れ、宿泊研修では緑豊かな環境で研修者が課題に集中して取り組むことができ交流も深められるなど、NWECCならではの研修であると言える。 発展性: 第1回セミナーでは財団法人21世紀職業財団の後援をいただき、第2回セミナーでは社団法人埼玉県経営者協会ウーマノミクス推進委員会と共催で開催するなど関係機関との協力関係を構築した。 効率性: 第1回セミナーでは3,000円の受講料を設定し、事業運営の効率性を高めた。また、第2回セミナーでは社団法人埼玉県経営者協会ウーマノミクス推進委員会と共催で開催することにより、講師謝金や会場確保費用、資料作成等をNWECCが負担することなく事業を実施できた。					

2. 定量的評価

観 点 判 定	応募倍率	プログラムの有用度	プログラムの満足度		
	B	A	A		
○応募倍率: 第1回 85.0% 第2回 55.0% ○プログラムの有用度: 第1回 97.6%(非常に有用 57.1% 有用 40.5%) 第2回 100.0%(非常に有用 56.2% 有用 43.8%) ○プログラムの満足度: 第1回 97.6%(非常に満足 46.3% 満足 51.2%) 第2回 95.8%(非常に満足 52.1% 満足 43.7%)					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	本事業「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」は、年度計画立案時点では予定にない事業であったが、NWECCに求められる役割の変化や課題解決の緊急性から本年度実施を前倒し、試行的に実施した。
達成	このセミナーでは、情報交流会や、ワークショップにおいて、参加者が情報交換、ディスカッションできる時間を多くするなど、企業間のネットワークづくりを図る内容を取り入れた。 参加者アンケートからも、「他社の取組事例が参考になった」、「当社の女性活躍促進が進んでいないことを認識させられた」など、引き続き、企業間の情報交換、ネットワークづくりを図る必要があり、また、女性活躍促進が進んでない企業も多くあることから、このセミナーを継続していく必要があると判断することができ、試行的実施の成果は十分に得られた。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
応募倍率が第1回 85.0%、第2回 55.0%と低調であることから、効果的な事業の周知・広報を工夫することや研修内容へのニーズを研究しプログラムに反映させる必要がある。また、参加者の有用度や満足度が非常に高いことから、企業の統括団体や各種研修機関等との協力関係を構築することで、本事業の発展が期待できる。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	判定の理由
A	これまで女性の社会的地位の向上や活躍の重要性が唱えられていながら、なかなか実質化してこなかった現状を踏まえ、平成24年度から始まった新規事業であり、極めて重要な意義を有する。企業社会におけるダイバーシティの拡大というコンセプトからセミナーが構成されており、タイムリーかつ斬新、またNWECCの活動の幅を広げるものである。また、セミナーの具体的なプログラムも、講義とアクションラーニングを上手に組み合わせつつ、適切な講師陣により担当されており、「講座プログラム」としてもよくできている。参加者の満足度も極めて高く、今後の拡充が期待されるものである。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(1))	3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (1)地域の機関で活用しうる男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する基礎的な研究の成果の提供
年度計画の項目 (I-3-(1))①	3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (1)地域の機関で活用しうる男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する基礎的な研究の成果の提供 ①男女共同参画統計に関する調査研究

事業名	男女共同参画統計に関する調査研究	
事業概要	地域の機関で活用しうる男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する基礎的な研究の成果の提供のために5年計画で男女共同参画統計に関する調査研究を実施している。 本年度は昨年度刊行した「男女共同参画統計データブック2012」を活用し成果の提供に努めるとともに、ミニ統計集「日本の女性と男性」(2013年)を作成する。また「男女共同参画ニュースレター」を年3回配信する。	
担当課室	研究国際室	
スタッフ	研究国際室長(1)、情報課専門職員(1)	計2名

年度実績概要	1. 「統計リーフレット」の作成 「男女共同参画統計データブック2012」で収集した最新データをもとにミニ統計集「日本の女性と男性」のデータを更新して統計リーフレット(A4版三つ折り 日本語版 英語版)を作成した。 英語版は3月にニューヨークで開催されたCSW(国際婦人の地位委員会)で各国の男女共同参画関係者に配布した。 2. 「男性の家庭・地域への参画を促進するための調査研究及びプログラム開発」においてデータブックを活用して「統計にみる男女共同参画と男性の現状」を作成した。 3. 「男女共同参画統計ニュースレター」の作成 男女共同参画に関する国内外の動き、自治体の取組、データ解説などを紹介する「男女共同参画統計ニュースレター」を年3回作成し配信した。 4. 調査研究の活用 NWECの主催事業で男女共同参画統計データを活用講義やワークショップを実施すると共に男女共同参画センターや国際機関等で企画されている研修事業等で講義やワークショップを実施した。	
実績を裏付けるデータ	1. 男女共同参画統計ニュースレター配信数 女性関連施設、大学研究所・学会、研究者等 第9号、第10号、第11号(1,601件) 2. 男女共同参画統計データを活用した講義、ワークショップ等 (1)主催事業: 男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム、埼玉大学との連携事業、埼玉県私立短期大学協会との連携事業、企業を成長に導く女性活躍推進セミナー (2)その他: 国立教育政策研究所(社会教育主事講習)、山形県男女共同参画センター(チェリア塾)、岡山市男女共同参画センター(講演会)、大田区立男女平等推進センター(女性のための課題解決能力向上セミナー)、取手市役所(女と男ともに輝く市民の集い)、JICA(カンボジア国ジェンダー主流化本邦研修)、SIAP(中国国家统计局職員研修)、学会報告(経済統計学会) 『地方財務』(ぎょうせい)への寄稿: 「データを読もう」2012年4～2013年3月号まで連載 三重県男女共同参画センター「男女共同参画ゼミ」への寄稿: 「男女共同参画統計について」	

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性：男女共同参画政策を推進する上で男女共同参画の現状をデータで示すことは重要であり、第3次男女共同参画基本計画の第2分野の男女別統計（ジェンダー統計）の充実に対応するものである。また男女共同参画統計ニュースレターは国連のジェンダー統計をはじめ、国内外の男女共同参画に関わる最新の情報を発信しており、時宜にかなったものであるといえる。 独創性：男女共同参画統計に関する調査研究はデータを収集して男女共同参画統計データブックやリーフレットを作成するだけではなく、男女共同参画統計ニュースレターの刊行やNWECの主催事業や各地で実施されている研修事業の講義やワークショップにデータを活用するなど総合的に事業を展開しており他に例を見ない。 発展性：男女共同参画統計データブック、男女共同参画統計ニュースレターの活用によって女性関連施設に事業展開や女性団体の活動の充実に寄与すると考えられる。今年度はさらに大学での授業や企業研修に活用し対象を拡大するとともに3月にニューヨークで開催されたCSW(国連婦人の地位委員会)で英語版統計リーフレットを配布することによって広い層に情報を提供することができた。 効率性：統計リーフレットはHPからダウンロード可能な形で提供している。男女共同参画統計ニュースレターは研修事業の参加者に情報提供しメールで配信するなど効率的に情報を提供している。男女共同参画ニュースレターの編集委員会はメーリングリストを活用した会議によって効率的に実施した。					

2. 定量的評価

観 点	プログラムの有用度	男女共同参画統計ニュースレター配信先			
判 定	A	A			
○プログラムの有用度・満足度（男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム） ・プログラムの有用度 92.4%(非常に有用69.3% 有用23.1%) ・プログラムの満足度 92.4%(非常に満足38.5% 満足53.9%) ○男女共同参画統計ニュースレターは、NWEC講師、委員等への新規配信先を増やし、年度目標の1,600件を達成した。					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判 定	判定の理由
A	統計リーフレットの作成、男女共同参画統計ニュースレターの配信など中期計画を着実に実施した。
達成	また、男女共同参画統計データブックを活用した講義やワークショップに積極的に取り組むことによって、男女共同参画統計データの普及に努めた。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
今年度はこれまでよりも広い対象に講義やリーフレットの配布等で普及に努めたが、さらに充実させるとともにHPを活用した情報の発信に力を入れたい。また男女共同参画統計データブック2012の内容を点検し、2015年版(2015年3月に発刊予定)の準備を始める予定である。

5. 外部評価委員会の評価、意見

判 定	判定の理由
A	昨年刊行された『男女共同参画統計データブック2012』は、各地の男女共同参画センター等の研修やワークショップ事業で有効に活用されている(主催事業、その他合わせて10件以上)。特筆すべきは、新たに企業との事業が加えられたこと、カンボジアや中国国家统计局職員への研修を実施していることであり、ジェンダー統計の普及と発展に努めている。ミニ統計集「日本の女性と男性」は、英語版がCSW(国際婦人の地位委員会、ニューヨーク)で配布され、各国に日本のジェンダー統計を示すことにも成功している。男女共同参画統計ニュースレターの年3回配信が行われ、目標配信数に達している。国内情報の収集とジェンダー統計の普及、国際的な情報発信を遂行するナショナルセンターとして、本事業が果たす役割は大きい。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(1))	3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (1)地域の機関で活用しうる男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する基礎的な研究の成果の提供
年度計画の項目 (I-3-(1))②	3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (1)地域の機関で活用しうる男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する基礎的な研究の成果の提供 ②調査研究成果の普及

事業名	調査研究成果の普及		
事業概要	基幹的指導者の資質・能力の向上及び喫緊の課題をテーマとして実施した調査研究の成果について、ホームページや地域共同リポジトリ等を通じて普及する。		
担当課室	研究国際室、情報課		
スタッフ	研究国際室長(1)、研究員(2)、情報課専門職員(2)		計5名

年度実績概要	
1. 報告書、冊子等の作成 (1) 男性の家庭・地域参画を進める学習プログラムハンドブック (1,000部印刷、主として女性/男女共同参画センター、都道府県子育て支援担当等に配布) (平成24年度 男性の家庭・地域への参画を促進するための調査研究及びプログラム開発) (2) 女性関連施設の災害関連事業に関する調査報告・事例集 (1,000部印刷、主として女性/男女共同参画センター等に配布) (平成24年度女性関連施設に関する調査研究) (3) 地域課題の解決と女性の経済的自立に向けて (900部印刷、主として女性/男女共同参画センター等に配布) (平成24年度地域課題の解決と女性の経済的自立に関する調査研究及びプログラム開発) (4) ミニ統計集 日本の女性と男性2013 (日本語版 3,000部、主として情報提供及び主催事業等で配布、英語版 500部印刷、主として国連女性の地位委員会(CSW)等で配布) (平成24年度男女共同参画統計に関する調査研究) (5) 男女共同参画と国際化 地域で暮らす外国人女性 (貸出用パネルデータの作成、リーフレット500部印刷、「平成25年度「男女共同参画推進フォーラム」で配布予定) (平成24年度外国人女性の困難等への支援に関する調査研究) (6) 女性のキャリア形成に関する実証的・実践的研究報告書 (100部印刷、主としてヒアリング調査協力者に配付) (科学研究費補助金・基盤研究B : 女性のキャリア形成に関する実証的・実践的研究—複合キャリア形成過程とキャリア学習) (7) 社会参画と女性のキャリア形成事例集(800部印刷、主として女性/男女共同参画センター等に配布) (科学研究費補助金・基盤研究B : 女性のキャリア形成に関する実証的・実践的研究—複合キャリア形成過程とキャリア学習) (8) 大学における男女共同参画についてのアンケート調査報告書 (1,000部印刷、主として国公私立大学等に配布) (科学研究費助成事業・基盤研究C : 女性研究者支援のためのシステムの構築と政策提言のための研究—日中韓の比較から—) 2. ホームページへの掲載 (1) 男性を対象とした男女共同参画の推進を目的とした学習プログラムの企画・実施のための情報サイト 「男女共同参画と男性」を開設。「平成24年度男性の家庭・地域への参画を促進するための調査研究及びプログラム開発」における成果を普及・発展させるための場を設けた。 (2) 作成した報告書、ミニ統計集については、ダウンロードできる形でNVECホームページに掲載した。 3. 地域共同リポジトリへの掲載 「NVEC実践研究」第3号を論文単位で掲載した。	

4. NWECが実施する事業における普及

(1) 男性の家庭・地域への参画を促進するための調査研究及びプログラム開発: 報告3件

- ① 女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修(満足度96.6%)
- ② 平成24年度第3回市町村男女共同参画担当職員研修会(埼玉県男女共同参画推進センター共催プログラム)(有用度95.2%)
- ③ 男性の学習と生活世界の自立的創造(日本社会教育学会2012年度若手萌芽研究グループ)公開研究会

(2) 女性関連施設に関する調査研究

- ① 男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム(NWECフォーラム)(参考になった100%)

(3) 男女共同参画統計に関する調査研究

- ① 男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム(NWECフォーラム)(有用度92.4%)

(4) 外国人女性の困難等への支援に関する調査研究

- ① 男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム(NWECフォーラム)(満足度90.5%)

(5) 女性研究者支援のためのシステムの構築と政策提言のための研究: 中間報告3件

- ① 大学等における男女共同参画推進セミナー(有用度76.2%)
- ② 第4回中国四国男女共同参画シンポジウム(香川大学)(有用度97.5%)
- ③ 男女共同参画推進に関する講演会(高知大学)

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性：男性にとつての男女共同参画の推進、地域活動を通じた女性の経済的自立、災害に関する女性県連施設の取組等、「第3次男女共同参画基本計画」の各重要分野に焦点をあて調査研究を実施・情報発信をしたことは、政策的にも適宜にかなったものであるといえる。 独創性：調査研究にて実施したアンケート調査のすべてにおいて、高い回答率を得た。また、NWECCの主催事業にて報告(中間報告)を行うとともに、館外においても、シンポジウムや講演会等で報告をし高い評価を得たことは、来年度以降の調査研究においても役立つものであるといえる。 発展性：報告書の作成、NWECCホームページへの報告書の掲載、「男女共同参画と男性」情報サイトの開設及び教材の作成など、調査研究成果の普及は、今後の女性関連施設の事業展開等において役立つものであると評価できる。 効率性：アンケート調査票及び報告書においては、複数の調査研究を合わせて送付し、効率的かつ経費の削減をはかった。さらに、調査研究の実施、プログラム開発にあたっては、外部人材を活用して効率的かつ専門的に進めるとともに、プログラム実施時において、担当者打合せ・報告者打合せを同日に行うなど、経済的・時間的効率の向上を図った。					

2. 定量的評価

観 点	調査結果の普及媒体数				
判 定	A				
○すべての調査研究において、事業計画通りに報告書及び冊子等を作成。科学研究費補助金事業においても3年間の研究成果をまとめた報告書や事例集、国立大学における女性研究者の登用及び参画の実態を把握するために行ったアンケート結果をまとめた報告書を作成し、女性/男女共同参画センター、都道府県の男女共同参画担当課長、国立大学等に送付をするとともに、NWECCホームページにダウンロードできる形で掲載をするなど、広く調査研究成果を普及することに尽力した。					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判 定	判定の理由
A	各調査研究は、報告書・教材の作成、Webサイトの開設など計画通りに実施されている。調査研究によっては、当初の予定に加えてフォローアップ講座を実施するなど、プログラムの一層の充実にもつながっており、男女共同参画の普及に努めた。
達成	

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
平成25年度以降も継続する調査研究においては、ナショナルセンターとして、今後も引き続き女性/男女共同参画センターや自治体等と連携して事業や報告、講義等を行い調査研究成果の普及に努めるとともに、Webサイトを随時更新し、女性関連施設等が活用しやすい情報の収集・共有・発信にも努める。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	判定の理由
A	それぞれの調査研究の成果は、報告書・冊子としてまとめられている。さらに、それらの成果は実践的な研修やフォーラムを通じて、広く公開され、提供されている。一層の効果をあげるためのフォローアップ講座が実施されているものもある。調査研究によっては、ホームページを開設し、情報発信を行っているものもある。また、地域共同リポジトリへ報告書、『NWECC実践研究』を掲載し、成果の公開と普及に努めている。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(2))	3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (2)全国的な資料・情報の収集、利用しやすいポータルとデータベースの構築、資料等の提供
年度計画の項目 (I-3-(2)) ①③	3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (2)全国的な資料・情報の収集、利用しやすいポータルとデータベースの構築、資料等の提供 ①男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する情報資料の収集・整理・提供 ③資料・情報の館外への貸し出し

事業名	男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する情報資料の収集・整理・提供と館外貸出
事業概要	目的:男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する専門図書館として、基本的かつ全国的な資料・情報を計画的に収集・整理し、利用者に提供するとともに、レファレンス・サービス、文献複写サービス、図書資料の展示などによる情報提供を行う。
担当課室	情報課
スタッフ	情報課長(1)専門職員(3)情報係長(1)係員(3)計8名

年度実績概要	
1. 資料・情報の収集	男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する専門図書館として、地域レベルでは収集困難な広域的、専門的な資料・情報の収集を図った。特に、平成24年度は大学の男女共同参画担当部署が発行する資料の収集・展示を重点的に開始し、大学、企業、行政、市民とNWECとの連携の強化を図った。
【収集資料】	・図書資料 受入2,697冊、累計125,392冊(H23年度は4,362冊。内1,557冊は平成23年度に設置した棚町コレクション) ・新聞切り抜き 受入 19,478点、累計 342,589点 ・洋雑誌 継続受入 75誌、新規受入 9誌、受入中止(休廃刊含む) 4誌、累計740誌(62カ国) ・和雑誌 継続受入 636誌、新規受入 19誌、受入中止(休廃刊含む) 3誌、累計3,225誌 ・海外の専門データベース 3点 ・埼玉県地域共同リポジトリSUCRA 登録アイテム 4,126件、累計4,699件 なお、資料収集の重点化のため、図書選定作業に新刊自動配本サービスを利用した選書業務を継続して実施した。
2. 収集資料の利用状況	
【貸出数】	
(1)館外貸出サービス	国立情報学研究所のNACSIS-CAT/ILL、埼玉県内公共図書館間相互貸借サービス、機関へのパッケージ貸出、個人への館外貸出を利用した貸出が394件、6,955冊あり、昨年度(302件、8,858冊)より件数が増加した。
(2)図書パッケージ貸出	平成22年6月よりサービスを開始した図書のパッケージ貸出サービスは、平成23年度に企業への貸出を開始、平成24年度に市立図書館への貸出を開始し、研究者・学生や男女共同参画関係者のみならず、企業関係者や一般市民への男女共同参画のための情報や知識の提供を実現した。
【レファレンス・サービス】	レファレンス・サービス件数は611件で、館内・館外の利用者に対し、図書の探し方や情報センターの利用方法を案内した(昨年度(898件)比32%減)。女性情報ポータルWinetにより情報の可視化を進めた結果、開館時間の問い合わせ等のクイック・レファレンスが減少し、より専門的な内容のレファレンス・サービスを集中的に実施した。
【文献複写サービス】	国立情報学研究所のNACSIS-ILLシステムやメール・FAX・WEBでの直接申込みは計850件で、館外の利用者に対して有料で文献のコピーを郵送するサービスを行った(昨年度(928件)比9%減)。電子ジャーナルの普及により文献複写サービス全体の件数は減少しているが、まだ電子化の進んでいない和雑誌や希少なタイトルの受付件数は増加もしくは一定の申込みがあり、電子化ではカバーしきれない文献需要に応じるサービスを行った。
【情報提供】	
(1)女性教育情報センター見学(49件、614名)	利用者の希望に応じて女性教育情報センターの資料や利用方法について、職員による説明を行った。また、NWEC主催事業のプログラムとして見学を実施した。
(2)情報研修プログラム(5件、80名)	「女性情報ポータルWinetの使い方」をはじめ、女性デジタルアーカイブシステム、NWEC作成データベースの基本的な使い方を習得する1時間コースの実技研修を提供した。

【図書資料の展示】

東日本大震災から1年経過したことから、避難所、仮設住宅に必要とされた女性の参画、原発事故による家族の離散をテーマにした「災害・原発事故・復興と女性」や、1998年以来年間3万人を超えている自殺者や、孤独死に視点を当てた「自殺、孤独死をなくそう」等をテーマに、図書資料の展示を年4回実施した。主催事業や社会のテーマに合わせて、積極的に情報提供を行い、男女共同参画の推進のための学習・教育を支援した。

3. その他、情報発信、学習支援

- (1) 埼玉大学教育機構と連携授業「男女共同参画社会を考える」を実施した。大学1～4年生39名を対象とした授業において、講義「男女共同参画社会の実現に向けて」、実習講義「専門情報を使う」「男女共同参画統計を学ぶ：女性と男性に関する統計データベースを使う」を担当した。実習講義では専門情報収集の手法を講義し、レポート作成のための資料情報の収集選択スキルアップの支援を行った。
- (2) 埼玉県私立短期大学協会との連携プログラムとして夏季集中講義を実施した中で、講義「情報収集の手法を学ぶ」、グループワーク「複合キャリアのパイオニアから学ぶ女性の歴史」「男女共同参画統計から女性のキャリアを考える」を担当した。グループワークでは、専門情報収集の手法の講義に基づきレポート作成のための資料情報の収集選択スキルアップの支援を行った。
- (3) 埼玉県地域共同リポジトリSUCRAに、NVECが発行する調査研究の成果物等を掲載し、世界に広く発信した。中でも、「NVEC実践研究」はSUCRAへ掲載した結果、中央大学の授業で使用され、大学生に対して男女共同参画に関する知識を提供し、学習支援を行った。

実績を裏付けるデータ

- ・収集資料統計(平成25年3月31日)
- ・利用状況統計(平成25年3月31日)
- ・展示実施状況一覧

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	

適時性：学習支援、事業支援として様々なテーマの図書をパッケージ化して機関に貸し出すサービスは、遠隔地であっても多くの利用者が女性教育情報センターの専門テーマの図書を利用することができ、男女共同参画の推進のための課題解決型学習を支援するナショナルセンターとして、高く評価できる。また「災害・原発事故・復興と女性」、第3次男女共同参画基本計画で成果目標である自殺死亡率をテーマとした「自殺、孤独死をなくそう」等の図書等資料のテーマ展示は、時宜に合わせた事業として評価できる。

独創性：NWECC設立当初から35年分にわたり全国・地方紙(50紙)から女性関連記事を収集している「新聞切り抜き」は、男女共同参画の視点を持った専門性に優れたコレクションであることが高く評価できる。

発展性：大学の男女共同参画担当部署が発行する資料の収集・展示は、各自治体の男女共同参画部署が発行する資料の収集・展示と合わせて、大学とNWECC、行政とNWECC、市民とNWECCを、組織を超えて結ぶ連携のケースとして、将来性、モデル性が評価できる。

効率性：図書選定作業に新刊自動配本サービスを利用した選書業務を実施していることは、より利用者の需要に沿った図書を効果的に選定し資料収集の重点化を図る点で、効率性が評価できる。

2. 定量的評価

観 点	資料の収集の拡大				
判 定	A				

大学の男女共同参画担当部署が発行する資料の収集・展示を重点的に開始し、大学における男女共同参画の情報の提供に、着実に取り組んだ。

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	地域レベルでは収集困難な広域的・専門的な国内外の資料・情報の収集、提供に着実に取り組んでいる。
達成	また、大学との連携授業や講習会の開催は、女性教育情報センターの専門性を活かした学習支援として今後の発展が期待できる取組である。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
○試行的に導入した利用者動向調査のためのシステム、新刊自動配本サービスの利用について、引き続き評価・検討を行う。 ○学習支援の充実として、大学との連携事業や学習支援の経験を基に、専門図書館としての豊富な資料や電子データの活用法を積極的に広報する。 ○資料収集について、引き続き見直しと重点化をすすめる。 ○遠隔利用者サービスの工夫を検討する。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	所 見
A	男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する情報資料は、いわば分野横断的で総合的な視点から収集される資料であることから、特定の地域や機関がこれを網羅することは困難であり、これを一括して収集・整理・提供することの意義は極めて大きい。まさにナショナルセンターであるがゆえの事業であるといえる。特に、平成24年度から、大学と連携し、その担当部局が発行する資料の収集・展示を重点的に始めたことは、学術的・社会教育的に大きな意義を有するものである。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅰ-3-(2))	3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (2)全国的な資料・情報の収集、利用しやすいポータルとデータベースの構築、資料等の提供
年度計画の項目 (Ⅰ-3-(2)) ②	3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (2)全国的な資料・情報の収集、利用しやすいポータルとデータベースの構築、資料等の提供 ②女性情報ポータル及びデータベースの整備充実

事業名	女性情報ポータル及びデータベースの整備充実
事業概要	「女性情報ポータル“Winet”(Women's information network, ウィネット)」は、女性の現状と課題を伝え、女性の地位向上と男女共同参画社会の形成を目指した情報の総合窓口である。 次の3要素で構成され、日々、データやコンテンツを継続的に整備充実することにより、政策担当者、研究・学習者、団体・グループ関係者、メディア関係者等ユーザのニーズに、迅速・的確に応えるアクセス手段を提供している。平成23年4月にトップページをリニューアル、平成24年3月に英語版を公開した。 ①女性情報ナビゲーション(リンク集。インターネット上の有用な資源への道案内) ②NWECC作成のデータベース ③女性情報CASS(NWECC作成のデータベース、及び他の関連機関のデータベースの横断検索)
担当課室	情報課
スタッフ	専門職員(3) 情報係長(1) 係員(3) 計7名

年度実績概要	
1. 方針	女性情報ポータル“Winet”の組織的なデータ更新、充実を図るとともに、利便性の高いポータルサイトを目指す。 ○データベース化件数:573,394件(27,723件増) ○アクセス件数:285,985件(12,529件増)
2. ポータルトップ画面、女性関連施設データベースへの機能追加	今年度は、ポータルトップページの新着案内RSS、「女性関連施設データベース」に新着案内、その新着案内をポータルトップページにテロップ表示する機能を追加し、情報更新の一層の見える化、情報発信力の拡充を図った。
3. データの更新・充実	(1)「女性情報ナビゲーション」リンク1,041件(追加12件、修正60件、削除6件) (2)「文献情報データベース」総件数514,485件(23,943増) 新規に受け入れた図書、雑誌、地方行政資料、和雑誌記事、新聞記事等のデータを登録した。 (3)「新着資料お知らせ(アラート)サービス」(平成20年3月サービス開始)登録者121件(13件増) (4)「女性情報レファレンス事例集」累計248事例(16事例増) (5)「女性関連施設データベース」のデータ登録・更新を、Webシステムを活用して、全国の各施設職員が直接行った。 登録数 施設概要635件(内、Web登録の施設は150館)、実施事業(情報・相談以外) 27,752件(内、平成24年度開催の事業は642件)、情報事業372件、相談事業319件。 (6)「女性と男性に関する統計データベース」は更新された統計について、最新の数値を反映した。また『男女共同参画統計ニュースレター』(男女共同参画の推進に向けた統計の活用に関する調査研究により作成)のバックナンバーと英語目次をホームページに掲載した。 (7)「男女共同参画人材情報データベース」のデータ更新を行い、公開件数が778件に増加した(31件増)。
実績を裏付けるデータ	
参考資料参照	

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点 判 定	適時性	独創性	発展性	効率性	
	A	A	A	A	

適時性: 女性情報ポータルトップ画面において、新着案内RSS、「女性関連施設データベース」に新着案内、その新着案内をポータルトップページにテロップ表示する機能を追加し、情報更新の一層の見える化、情報発信力の拡充を図り、情報提供の適時性を高めている。

独創性: 「男女共同参画人材情報データベース」等の提供は、独自性、高度専門性として評価できる。

発展性: 各地の女性関連施設の情報専門職をサポートメンバーに作成している「女性情報レファレンス事例集」は、施設職員の人材育成に資するものとして評価できる。

効率性: 「女性と男性に関する統計データベース」には、「男女共同参画統計に関する調査研究」で作成したミニ統計集や『男女共同参画統計ニュースレター』を掲載し、内部資源の活用を図っている。

2. 定量的評価

観 点 判 定	データベース化件数	アクセス件数			
	A	A			

○データベース化件数: 573,394件 (27,723件増)

○アクセス件数: 285,985件 (12,529件増)

○男女共同参画の視点に立った多様なキャリア形成支援研修「女性情報ポータルWinet紹介および女性教育情報センター見学」: 有用度93.5% (非常に有用22.6%、有用71.0%)

○女性関連施設相談員研修「国立女性教育会館情報機能の女性相談事業への活用」: 有用度91.7% (非常に有用31.3%、有用60.4%)

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	平成24年度はデータベース化件数が573,394件、アクセス件数が285,985件と、順調に推移している。「女性関連施設データベース」に新着案内、その新着案内をポータルトップページにテロップ表示する機能の追加により、今後、全国的女性関連施設の実施する事業の一層の見える化を図ることが期待される。
達成	

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
引き続きコンテンツの整備充実に努めるとともに、今後も利用者ニーズ等から新たに提供すべき情報を把握し、的確に提供する必要がある。また、一部データベース利用に係る課金システムに向けて、国立情報学研究所の学術認証フェデレーションを利用するためのシステム構築を進める。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	判定の理由
A	データベース化件数及びアクセス件数は増加の一途をたどっており、女性情報ポータルとしての機能は充実している。また、そのトップページにも様々な工夫を重ね、利便性の向上を図っている。さらにNWECの調査研究で得られた諸データのネット上での発信にも努めており、女性情報ポータルとして十分に有効活用されている。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(2))	3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (2)全国的な資料・情報の収集、利用しやすいポータルとデータベースの構築、資料等の提供
年度計画の項目 (I-3-(2)) ③	3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (2)全国的な資料・情報の収集、利用しやすいポータルとデータベースの構築、資料等の提供 ③資料・情報の館外への貸し出し

事業名	資料・情報の館外への貸し出し
事業概要	各施設における男女共同参画を推進するため、各施設の活動に沿ったテーマ毎にパッケージ化した図書の館外への貸し出しをモデル的に実施する。
担当課室	情報課
スタッフ	情報課長(1)専門職員心得(1)情報係長(1)係員(3) 計6名

年度実績概要	
1. 図書パッケージ貸出サービス 平成22年6月よりサービスを開始した図書パッケージ貸出サービスとは、大学、女性関連施設、公共図書館等の機関を対象に、NWECC女性教育情報センターの蔵書から「男女共同参画」や「女性のライフプラン」「家族問題」など、男女共同参画社会の形成を目指した女性・家族・家庭に関する様々なテーマに合致する図書を、30冊から100冊程度のパッケージにまとめ、3ヶ月から1年程度、申込機関に貸し出すサービスである。 平成24年度は6機関拡大(大学4、女性／男女共同参画センター1、市立図書館1)し、平成23年度からの継続を合わせて計34機関へ63回、6,506冊と、貸出機関、貸出回数とも昨年度(計28機関、55回、8,438冊)より増加した。特に、平成24年度は市立図書館への貸出を開始し、研究者・学生や男女共同参画関係者のみならず、一般市民への男女共同参画のための情報や知識の提供を実現した。また、平成23年度の東京大学駒場図書館、京都大学附属図書館に続き、九州大学附属図書館と香川大学図書館では、図書が利用者の手に取られた回数や、書棚から離れている時間を計測するシステムの実証実験を行い、学生(若年層)の利用者ニーズの把握に努めた。 2. 学生によるNWECC図書選書ツアー・プログラム 十文字学園女子大学と連携し、NWECCにおいて図書選書ツアーを初めて実施した。このプログラムの目的は、新入生を主な対象として、女性のキャリア・モデルや生き方を社会背景とともに図書を通じて伝え、あわせて大学の授業との連携、大学図書館の利用への結びつけ、男女共同参画センター等へのNWECCの案内等、館種を超えた幅広い連携を強化していくことである。 十文字学園女子大学の学生4名と職員2名が女性教育情報センターに来館し、情報課専門職員による資料検索のレクチャーを行った後、興味のあるテーマの図書を検索した。その後、図書のタイトルを見ながら書棚の間を巡ることで、新入生に手に取ってほしい図書候補33冊を選書し、十文字学園女子大学へ貸出した。 今後、学生が推薦コメントをNWECC作成の図書の帯に記載し、十文字学園女子大学図書館に展示・貸出する予定である。	
実績を裏付けるデータ	
参考資料参照	

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点 判 定	適時性	独創性	発展性	効率性	
	A	A	A	A	
適時性：学習支援、事業支援として様々なテーマの図書をパッケージ化して機関に貸し出すサービスは、遠隔地であっても多くの利用者が女性教育情報センターの図書を利用することができ、男女共同参画の推進のための学習を支援するナショナルセンターとして、高く評価できる。 独創性：専門図書館である女性教育情報センターの蔵書構成を活かして、機関・目的・対象別に男女共同参画社会形成のための知識と情報を提供する「図書パッケージ貸出サービス」は高度に専門的であり、評価できる。 発展性：北海道から沖縄まで全国的に幅広く展開しており、館種を超えた図書館の連携ネットワークへ発展する可能性があり、高く評価できる。また、利用機関の講義や職員研修との連携など多様な目的で利用されており、今後の発展に期待ができる。さらに、図書選書ツアー・プログラムは大学の授業との連携や、大学図書館の利用への結びつけ等今後の幅広い連携につながる可能性があり評価できる。 効率性：図書パッケージ貸出サービスにおいて、利用者動向調査のためのシステムの実証実験を行っていることは、人的投資をかけず、今後の利用者ニーズの把握ができる将来性、効率性が評価できる。					

2. 定量的評価

観 点 判 定	連携機関数				
	S				
平成23年度に引き続き利用機関を確実に拡大した。平成24年度は34機関に対して年間63回、延べ6,506冊の資料を貸出し、年度目標4機関以上を大幅に上回る実績をあげた。					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	図書パッケージ貸出サービスでは、利用機関の大幅な拡大を実現し、男女共同参画の推進のための学習支援に貢献した。また、北海道から沖縄まで幅広く全国的に展開しており、女性教育情報センターが収集した専門的な資料を全国で活用できる図書サービスの拡大、館種を超えた図書館の連携ネットワークへの発展性が高く評価できる。
達成	

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
○図書パッケージ貸出業務の効率化と、今後の利用機関の拡大へ対応するため、利用機関と連携して業務の定型化を一層進める。 ○試行的に導入した利用者動向調査のためのシステムについて、引き続き評価・検討を行う。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	判定の理由
A	男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する蔵書を、いくつかのテーマごとに関係機関に貸し出す図書のパッケージ貸出は、年ごとに範囲を拡大しつつあり充実の一途をたどっている。また、こうした活動をとおして、大学、企業、行政機関、市民団体等との連携が拡充・強化されており、そのことが逆に、NWECの情報収集活動の充実と効率化に貢献している。こうした活動は、社会全体の男女共同参画の推進にもつながるものであり、高く評価したい。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(3))	3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (3)女性アーカイブ機能の充実
年度計画の項目 (I-3-(3)) ①	3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (3)女性アーカイブ機能の充実 ①女性アーカイブ機能の充実

事業名	女性アーカイブ機能の充実
事業概要	女性に関する過去の歴史的事実及び現在の状況を検証し、現代の問題へのアプローチを可能にするため、歴史的価値・研究資料的価値を有する女性関係史・資料を収集・整理・保存し、閲覧・展示・データベース等を通じて提供・公開する。 平成24年度は特にNVECのもつ全国の女性センターとのネットワークを活かし、他機関と連携して、東日本大震災に関する史・資料のアーカイブ化を進める。
担当課室	情報課
スタッフ	情報課長、専門職員(2) 計3名

年度実績概要	
1. 資料の収集・デジタル化(年度目標1千点以上)	新規受入1,256点、累計収集資料7,475点 資料選定委員会の助言に基づいて、資料の新規受入を行い、女性デジタルアーカイブシステム(http://w-archive.nvec.jp/)を通じて、全ての目録データと一部の画像データをインターネット上に公開した。 また、システムをリニューアルし、トップページの検索メニューをシンプルにしたほか、検索結果一覧ページへの画像表示や検索結果ダウンロード機能を追加し、より利用者の利便性を高めた。
2. 展示室利用(平成24年度までの累積目標1万7千件以上)	所蔵展示(4～8月、12～3月、入場者数6,524人)および企画展示「建築と歩む～チャレンジした女性たちからチャレンジする女性たちへ」(8～12月、入場者数4,134人)を実施した。
3. 女性アーカイブ企画展における他機関との連携状況(期間中に5機関以上)	大学、企業等の計7機関との共催にて開催し、資料提供等の協力を得た。 共催機関: UIFA JAPON/パイオニア展企画委員会、(株)後藤真理子デザイン事務所、埼玉大学図書館、女子栄養大学図書館、女性就業支援センター、東京大学生産技術研究所図書室、長谷川逸子・建築計画工房(株) 協力機関: 公益社団法人空気調和・衛生工学会、東京大学工学・情報理工学図書館、早稲田大学大学史資料センター
4. 「NVEC災害復興支援女性アーカイブ」を公開	平成24年度から女性の視点からの災害復興支援活動記録を収集・保存し公開する「NVEC災害復興支援女性アーカイブ」の公開を開始した。本アーカイブは、全国の女性関連施設と連携して構築する、女性の視点からの災害復興支援活動記録である。これにより、各地の女性関連施設が収集した災害復興支援活動の記録の散逸を防ぎ、収集・保存され、全世界へ発信するものである。 現在、データを公開している青森県男女共同参画センターのほか、複数の女性関連施設(もりおか女性センター、静岡市女性会館、日本女性学習財団、フォトボイス・プロジェクト)がデータ登録作業中である。

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性:「NWEC災害復興支援女性アーカイブ」により、全国の女性関連施設と連携して、女性の視点を活かした東日本大震災の記録を集積する仕組みを作ったことは、ナショナルセンターとして時宜を得た取り組みであると高く評価できる。 独創性:女性デジタルアーカイブシステムを独自に構築し、収集した資料の目録情報と一部の画像をインターネットで公開している点に高度専門性がある。また、「NWEC災害復興支援女性アーカイブ」は、女性の視点を災害復興支援記録に活かす独創性が高く評価できる。 発展性:デジタルアーカイブシステムのリニューアルにより、利用者の利便性を高め、他機関のアーカイブシステムとの連携など機能拡張をはかったことは、将来的な連携にむけて、その発展性が高く評価できる。「NWEC災害復興支援女性アーカイブ」は、NWECがデータベースシステムを提供することにより、女性関連施設が自らデータを登録して公開する機能を有するものとして、高く評価できる。 効率性:「NWEC災害復興支援女性アーカイブ」システムは、データ登録を女性関連施設が自ら行うようにする一方、連携する女性関連施設にとってもシステム構築のために経費及び人的負担を増やさずに済み、互いの労力と費用の両面で効率的な推進・支援を可能としたことは高く評価できる。					

2. 定量的評価

観 点	収集数	デジタル化数	他機関との連携数	展示室入場者数	
判 定	A	A	A	A	
○資料の収集・デジタル化:1,256点 ○連携機関数:共催機関7、協力機関3 ○展示室入場者数:平成24年度10,658件(累計21,934件)					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	資料の収集・デジタル化および他機関との連携状況は、今年度の目標値を達成した。展示室利用も、中期計画期間中の目標値に向けて、昨年度とほぼ同等の入場者数を記録した。
達成	展示、インターネットによる公開等、様々な形で女性アーカイブを活用している。 また「NWEC災害復興支援女性アーカイブ」の公開を全国の女性関連施設と連携して開始した。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
「NWEC災害復興支援女性アーカイブ」は運用開始から日が浅いため、全国の女性関連施設との連携が十分に進んでいない。このため、平成25年度は全国の女性関連施設と連携・協力を進め、「NWEC災害復興支援女性アーカイブ」の構築を段階的に進める。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	判定の理由
A	女性に関する歴史資料や研究資料など女性アーカイブを保存したり活用したりする活動は、ナショナルセンターとしての基本的役割であり、NWECは、着実にその任務を果たしている。特に、平成24年度からは、女性の視点から災害復興支援活動記録を収集・公開する「NWEC災害復興支援女性アーカイブ」の事業を展開しており、資料の収集保存とその世界への情報発信という点で、貴重な取り組みである。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(3))	3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (3)女性アーカイブ機能の充実
年度計画の項目 (I-3-(3)) ②	3 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等 (3)女性アーカイブ機能の充実 ②女性情報アーキビスト養成研修(入門)+(実技コース)

事業名	女性情報アーキビスト養成研修(入門)+(実技コース)	
事業概要	女性アーカイブの具体的な保存技術や整理方法を体系的に学ぶ最初の一步として、実務者を対象に基礎情報を提供する女性情報アーキビスト養成研修を実施する。また、実務者同士の情報交換の場を提供することでネットワークづくりを推進する。更に平成24年度は、入門研修の修了者を対象に、要望の多かった、女性アーカイブの保存や整理に必要な基本的な実技を学ぶ実技コースを実施する。 開催期日:平成24年12月5日(水)～7日(金)(入門5-6日、実技コース6-7日、各1泊2日) 会場:NWEC	
担当課室	情報課	
スタッフ	専門職員(2)	計2名

年度実績概要	1. プログラムの内容 平成24年度は12月5日～7日の3日間「女性情報アーキビスト養成研修(入門)+(実技コース)」を開催した。5日～6日の「入門」には32名、6日～7日の「実技コース」は12名の参加があった。 (1)「入門」は、資料の保存と活用の基礎を身につけるため研修であり、「女性アーカイブ概論」「写真の保存の実際」「アーカイブに取り組む～市民参加型アーカイブの構築と運営(アーカイブの活用 I)」「アーカイブと著作権」について講義が行われた。また、女性教育情報センター・女性アーカイブセンターのツアー・プログラムや、女性アーカイブの活用事例報告等も行われた。 (2)「実技コース」は、デジタルアーカイブの構築と紙資料の修復を実習するための研修であり、「アーカイブの実践」「デジタルアーカイブシステムについて」「最新ボックスキャナーによる、かんたん資料電子化実演(資料のデジタル化実習)」「紙資料保存の実践」をテーマに実施された。 2. 成果 女性アーカイブに特化した研修は、他に類をみないものであり参加者の満足度および有用度も大変高い。 また、平成24年度から新規事業として行った「実技コース」は以前から要望の高かったものであり、特に研修に参加した青森県男女共同参画センター等が、平成24年度から公開を開始した「NWEC災害復興支援女性アーカイブ」へのデータ登録を行うなど、事業間の有機的な連携を実現できた。 さらに、研修期間中に情報交換会を開催し、参加者同士の交流を深めることができた。	
実績を裏付けるデータ	1. 女性アーカイブ実務者への学習支援状況(年度目標20名以上) 参加者について(【 】内は平成23年度実績、「実技コース」は新設のため実績なし) (1)参加者数 「入門」募集定員30名、応募者32名(107%)、参加者32名(107%) 【募集定員30名、応募者40名(133%)、参加者39名(130%)】 「実技コース」募集定員10名、応募者12名(120%)、参加者12名(120%) (2)所属 「入門」女性・男女共同参画センター11名、図書館7名、文書館・文学館1名、女性史グループ2名、その他11名 【女性・男女共同参画センター18名、図書館6名、文書館・文学館1名、女性史グループ1名、その他13名】 「実技コース」女性・男女共同参画センター9名、図書館2名、文書館・文学館1名 2. アーカイブ実務者同士のネットワーク構築支援 「女性情報アーキビスト養成研修(入門)」第1日目 情報交換会 19:00-20:30	

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判定	A	A	A	A	

適時性: 全国の女性関連施設と連携して東日本大震災の記録を集積する取り組みである「NWECC災害復興支援女性アーカイブ」を構築する事業と有機的に連携し、「実技コース」を新たに開始したことは適時性が高く評価できる。

独創性: 女性アーカイブ構築のための独自のプログラムを実施しており、その独創性が高く評価できる。

発展性: 参加者同士または講師と築くネットワークにより、デジタルアーカイブの導入や共同構築等、新たな事業の発展が見込まれることが評価できる。

効率性: 研修で学んだことが現場で即日活用することが出来るプログラムは、効率性の点で高く評価できる。

2. 定量的評価

観点	応募倍率	プログラムの有用度			
判定	A	A			

○女性情報アーキビスト養成研修(入門): 1.07倍(募集定員30名、応募者32名)
 ○女性情報アーキビスト養成研修(実技コース): 1.20倍(募集定員10名、応募者12名)
 ○女性情報アーキビスト養成研修(入門): 有用度 97.4%(非常に有用63.2% 概ね有用34.2%)
 ○女性情報アーキビスト養成研修(実技コース): 有用度 100.0%(非常に有用79.2% 概ね有用20.8%)

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	本研修において、参加者にアーカイブ構築に役立つ実践的な情報・技術を提供しており、女性アーカイブ構築の推進・支援への取り組みとして高く評価できる。情報交換会を実施し、実務者同士が交流しネットワークを構築する機会の提供もしていることも評価できる。
達成	また、今年度は、以前より希望の多かった「実技コース」を初めて開設し、有用度・満足度とも非常に高い結果となったことは、評価できる。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
平成24年度から開始した「実技コース」については、有用度・満足度ともに高かったが、参加者からは更なる要望もあり、より参加者のニーズに応える余地が見られた。そのため、平成25年度は、平成24年度の経験を踏まえて、より参加者の実務に密着した実際の業務に役立つ研修に改善していく。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	判定の理由
A	全国的にも珍しい「女性情報アーキビスト養成研修」を開催しており、参加者から、極めて高い評価を得ている。この研修は、単に女性情報アーキビストの資質向上という点にとどまらず、参加者間の交流やNWECC内部の事業との連携強化という点からも、評価できる。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-4-(1))	4 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する国内の関係機関・団体等との連携協力の推進 (1)国内の関係機関・団体等との協働事業の実施
年度計画の項目 (I-4-(1))	4 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する国内の関係機関・団体等との連携協力の推進 (1)国内の関係機関・団体等との協働事業の実施

事業名	国内の関係機関・団体等との協働事業の実施	
事業概要	女性関連施設、女性団体、民間団体、企業、大学等と男女共同参画・家庭教育情報に関する情報交換を行うとともに、7以上の機関等と協働で事業を実施し、連携効果による多様な企画や講師の活用を図る。 また、全国の関係機関・団体からの依頼に基づき、積極的に講師を派遣する。	
担当課室	全課室	
スタッフ	理事長、理事、全職員	計26名

年度実績概要	1. 全国の関係機関との協働実績について【15機関(実数)(共催12、受託2、後援2)】 (1)共催機関数:12 ①NPO法人全国女性会館協議会(女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修) ②埼玉大学、埼玉県私立短期大学協会、青森中央学院大学 (大学生を対象とした男女共同参画の視点に立った複合的キャリア教育の推進) ③UIFA JAPONパイオニア展企画委員会、(株)後藤眞理子デザイン事務所、埼玉大学図書館、女子栄養大学図書館、女性就業支援センター、東京大学生産技術研究所図書館、長谷川逸子建築計画工房(株)(アーカイブ企画展) ④埼玉県経営者協会(企業を成長に導く女性活躍促進セミナー) (2)受託機関数:2 ①独立行政法人科学技術振興機構(JST)(女子中高生徒夏の学校2012～科学・技術者のたまごたちへ) ②独立行政法人国際協力機構(JICA)(地域別研修～アジア諸国における人身取引対策協力促進セミナー) (3)後援機関数:2 ①21世紀職業財団(企業を成長に導く女性活躍促進セミナー) ②独立行政法人国際協力機構(JICA)(NWEC国際シンポジウム) (4)上記の他、「女性関連施設に関する調査」を全国387箇所の女性／男女共同参画センターの協力により実施するとともに、「大学における男女共同参画」に関するアンケート調査を全国86の国立大学の協力で実施。 さらに、「女子中高生夏の学校2012」では、日本学術会議「科学と社会委員会 科学力増進分科会」、「科学者委員会男女共同参画分科会」、男女共同参画学協会連絡会、外23学会、7団体の協力を得た。 2. 連携の内容と効果について (1)NPO法人全国女性会館協議会との連携においては、互いの知見やネットワークの蓄積を持ち寄りプログラム企画会議を重ねることで、より質の高い研修内容を企画することができた。 (2)埼玉県私立短期大学協会との連携においては、短期大学生を対象としたキャリアプランニング研修について協会から寄せられたリクエストにきめ細かく対応することで、実践的なプログラムの開発を進めることができた。 (3)埼玉大学との連携で大学における授業の中にNWECの講義を設けることができ、若年層、特に男子学生に対するアプローチについて知見を深めることができた。 (4)女性アーカイブ企画展においては、建築家団体や建築設計事務所などの協力を得た。 (5)埼玉県経営者協会からのアプローチで、埼玉県が実施するウーマノミクス推進委員会の第7回をNWECが受け持った。会場(大宮ソニックシティ)借上費用、参加者募集、資料印刷等の事務を協会が負担してくれたため、NWECはプログラム企画に専念することができた。今後はこのような費用面での連携効果を拡大していきたい。 (6)平成21年度から実施した国際協力機構(JICA)の受託事業「国別研修タイ」の実績により、平成24年度から26年度までの3年間、「地域別研修」をNWECで実施することとなり、今まで以上の連携効果が見込まれる。 3. 全国の関係機関・団体への講師派遣 全国の地方自治体、大学、女性関連施設、企業、女性団体等の要請により、NWEC役職員を研修講師として派遣した。	
--------	---	--

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性: プログラム内容や講師について助言を得ることで、NWECが単独で実施する事業とは違った広がり企画・参加者を得ることができた。多様性が求められる中、多様な人たちと関わることでプログラムが充実する。 独創性: 「女性教育」「男女共同参画の視点に立ったキャリア教育の推進」「女性活用」などをテーマにした研修や授業を、女性センターのみならず、大学、企業、国際分野へと広げて実施していく中で、学会、大学、経営者協会をはじめとする当該分野の専門機関と連携して進める事業展開はNWECならではのものである。 発展性: 今期新たに実施した企業セミナーにおいて、県の経営者協会や21世紀職業財団と連携しており、こうしたネットワークから新たな参加者を呼び込む可能性が大きい。また、大学との連携事業は開発したプログラムを他大学の利用に展開させる可能性をもつ。これまでの実績が評価され、24年度からの3年間JICA受託事業を継続できたことも、連携関係の確実な構築が進んでいる証と言える。 効率性: 連携機関の経費分担、人的支援等により、経費の節減を図ることができている。企業セミナーにおいては、大宮ソニックスティの会場費、講師謝金を埼玉県経営者協会の負担で実施することができた。					

2. 定量的評価

観 点	提携数	講師等派遣数			
判 定	A	A			
○提携数: 15機関(共催12, 受託2, 後援2)					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	24年度は企業向けセミナーを新たに実施するという事業展開に応じて、21世紀職業財団や埼玉県経営者協会といった企業関係機関との連携を開拓した。連携分野を広げたことは、事業の効果的な運営だけでなく、NWECのPRIにもつながることが期待される。
達成	一方、これまで築いてきた、大学や女性センターとのネットワークも、継続して事業を実施することで引き続き深められている。 年度計画に記載する7機関以上との事業の協働実施も倍以上の機関と実現しており、今年度の目標は達成している。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
連携の実施は、連携先における男女共同参画の取組の促進につながることから、引き続き、あらゆる機会を捉えて拡大していく。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	判定の理由
A	①これまでNWECが、雇用されて働く女性の課題に真正面から取り組むには制約があった。今期、協働実績のある関係機関に加え、新たに企業セミナーの実施という事業展開のもとで、経営者協会など企業関係機関との連携を開拓したことは、新たな参加者(とくに男性)を呼び込む上でも効果的な試みとして評価したい。
達成	②一部連携機関の経費負担や人的支援が、NWECの経費負担や労力軽減につながっている。連携機関の性格にもよるが、こうした方向での連携を当たり前とみる文化や基盤をつくっていくことが今後の課題となる。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-4-(2))	4 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する国内の関係機関・団体等との連携協力の推進 (2) 交流機会の提供による会館を中心としたネットワークの構築
年度計画の項目 (I-4-(2)) ①	4 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する国内の関係機関・団体等との連携協力の推進 (2) 交流機会の提供による会館を中心としたネットワークの構築 ①男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム(NWECフォーラム)

事業名	男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム(NWECフォーラム)		
事業概要	全国の男女共同参画・女性教育・家庭教育等の行政担当者、女性関連施設職員、女性団体等のリーダー、研究者、大学、企業等を対象に、交流の機会を提供するため1千名以上の参加を募るフォーラムを開催する。 この事業は、参加者が幅広く、男女共同参画を推進する行政、企業、大学、団体、男女共同参画センターなどが一同に会して、さまざまな分野におけるネットワークづくりを図ることを目的としている。 開催期日：平成24年8月24日(金)～8月26日(日)2泊3日 会場：国立女性教育会館		
担当課室	事業課		
スタッフ	事業課長(1) 専門職員(2) 係員(2) 計5名		

年度実績概要	1. 全国フォーラムにおける交流機会の充実 「第3次男女共同参画基本計画」に基づいて設定したテーマに沿ってワークショップ(募集ワークショップ53件、NWEC提供ワークショップ7件)やシンポジウムを行い、参加者同士の情報交換・交流の場を提供することができた。また、NWECボランティアの参画を得た「交流推進プログラム」の実施によって、全日程を通じて参加者同士の交流推進の支援を充実させた。 2. 関東以外からの参加者の状況 一般参加者の約25%が、関東・甲信越以外からの参加者である。旅費等の自己負担があるにもかかわらず北海道や九州など遠方からも参加者を得ている。 3. 大学や企業等からの参加促進状況 NWECが蓄積してきたネットワークを活かし、企業等へ募集ワークショップへの参加促進を試み、企業関係者による4件の募集ワークショップを実施することができた。参加者内訳の「会社員」の割合は、「一般参加者」4.2%、「ワークショップ運営者」8.2%と23年度の「一般参加者」1.5%、「ワークショップ運営者」3.6%からそれぞれ増やすことができた。大学関係についても4件の募集ワークショップを実施することができた。 4. NWECボランティアに対する活動支援状況 初めての試みとして、NWECボランティア選出の交流推進委員の企画・運営によるワークショップを実施した。参加者に対し、開館以来続いているNWECボランティアの活動をアピールすると同時に、ワークショップの企画・運営を通して、NWECボランティアの資質がさらに向上する機会となった。 5. 影響評価 ワークショップ運営者のアンケートからは、有用度100%、「非常に役に立った」66.0%、「役に立った」34.0%、満足度91.5%、「非常に満足した」66.0%、「満足した」25.5%と共に高い評価を得ることができた。 6. フォローアップ調査結果の研修プログラムへの反映 23年度ワークショップ運営者へのフォローアップ調査に寄せられた「企業関係者が参加しやすいようなプログラムを組み込んでほしい」という意見は、NWEC提供ワークショップ「企業・行政における男性管理職への意識啓発―介護を切り口として―」や4件の企業関係者による募集ワークショップの実施という形で反映した。		
実績を裏付けるデータ	(詳細は添付アンケート集計結果等参照)【】内は平成23年度実績		
1. 応募倍率	103.5%(定員1,000名 応募者1,035名 (女性881名(85.1%)男性153名(14.8%)無回答1名(0.1%))【90.5%(1,000名 応募者905名 (女性762名(84.2%)、男性143名(15.8%))】		
2. 参加者内訳	団体・グループ497名(48.0%)行政担当者116名(11.2%)研究者・教員55名(5.3%)施設関係者71名(6.9%)学生22名(2.1%)その他274名(26.5%)【団体・グループ403名(44.5%)行政担当者130名(14.5%)研究者・教員77名(8.5%)施設関係者64名(7.0%)学生19名(2.1%)その他212名(23.4%)】		
3. 参加者の地域バランス	北海道・東北110名(10.6%)関東・甲信越777名(75.2%)北陸・東海49名(4.7%)近畿46名(4.4%)中国・四国17名(1.6%)九州・沖縄22名(2.1%)その他(不明・無回答)14名(1.4%)【北海道・東北133名(14.7%)関東・甲信越634名(70.1%)北陸・東海29名(3.2%)近畿42名(4.6%)中国・四国8名(0.9%)九州・沖縄38名(4.2%)その他21名(2.3%)】		
4. 参加者の年代別	20代以下53名(5.1%)30代75名(7.2%)40代114名(11.0%)50代217名(21.1%)60代以上380名(36.7%)無回答196名(18.9%)【20代以下31名(3.5%)30代61名(6.7%)40代96名(10.6%)50代164名(18.1%)60代241名(26.6%)70代以上101名(11.2%)無回答211名(23.3%)】		
5. 有用度	○参加者98.2%(はい98.2%)【99.7%】 ○ワークショップ運営者100%(非常に役に立った66.0%+役に立った)34.0%【100%(非常に役に立った54.8%+役に立った45.2%)】		
6. 満足度	○参加者88.8%(非常に満足29.0%+満足59.8%)【89.1%(非常に満足30.9%+満足58.2%)】 ○ワークショップ運営者91.5%(非常に満足66.0%+満足25.5%)【92.9%(非常に満足42.9%+満足50.0%)】		

7. 目的達成度

○参加者 テーマについて情報・知識を得ることができた97.0%(十分できた33.8%+おおむねできた63.2%)

研究・実践活動に必要な知識や情報を得ることができた92.4%(十分できた28.5%+おおむねできた63.9%)

○ワークショップ運営者 研究・実践活動を多くの人に知ってもらえたことができた97.5%(十分達成できた62.5%+おおむね達成できた35.0%)

日ごろの思いを共感してもらえる関係づくり、交流をすることができた96.2%(十分達成できた65.4%+おおむね達成できた30.8%)

8. ワorkshop運営者に対するフォローアップアンケート:

有用度100.0%(非常に役立った56.8%+役立った43.2%)【100.0%(非常に役立った46.7%+役立った53.3%)】

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判定	A	A	A	A	
適時性:「第3次男女共同参画基本計画」における「第14分野地域、防災・環境その他の分野における男女共同参画の推進」の「地域における男女共同参画推進の基盤づくり」に基づき、男女共同参画の視点から地域の課題解決を目指す活動や災害・防災に関連したワークショップを行うなどしている点は時宜を得た取組として評価できる。 独創性:『男女共同参画統計データブック—日本の女性と男性2012』(平成24年3月刊行)をふまえたワークショップや会館ボランティアによるワークショップなどNWECの調査研究の成果や交流推進委員と職員の専門性を活かしたワークショップの実施は、調査研究・交流事業を手がけてきたNWECの独創性・専門性を活かした取組として評価できる。 発展性:全国から応募のあった募集ワークショップは、実践や研究の成果を参加者と共有する場になっており、ワークショップ実施後の影響や汎用を期待することができる。特に、24年度は、企業関係者の参加(平成24年度4.2%【平成23年度1.5%】)が増え、企業における男女共同参画の推進の波及効果が期待できるなど、発展性のある取組として評価できる。 効率性:NWECフォーラムの開催期間中に社会教育実習生を受け入れ、体験実習を兼ねることで効率的な事業運営を行った。					

2. 定量的評価

観点	応募倍率	プログラムの有用度			
判定	A	A			
○応募倍率:103.5%(定員1,000名、応募者1,035名)【90.5%(定員1,000名、応募者905名)】【23年度実績】 ○プログラムの有用度:参加者98.2%(はい98.2%)【99.7%】 ワークショップ運営者100%(非常に役に立った66.0%+役に立った)34.0%【100%(非常に役に立った54.8%+役に立った45.2%)】 ○フォローアップアンケート:有用度100.0%(非常に役立った56.8%+役立った43.2%)【100.0%(非常に役立った46.7%+役立った53.3%)】					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	募集定員を上回る参加者を得ることができた。募集ワークショップでは、日頃の研究成果や実践活動報告などが行われた。運営団体、参加者共に、視野を広めるとともに情報交換・交流の場となり、当事業の目的であるネットワークづくりをすることができた。地域、企業、大学などそれぞれの分野で男女共同参画を推進していく上での波及効果の高まりや実践力の向上につながった。参加者から高い満足度を得られた点からもプログラムの企画は適切であり、ねらいを十分達成することができたと言える。
達成	

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
当事業はこれまでの蓄積を踏まえ、男女共同参画のための意識変革、女性の活躍促進、女性のキャリア形成支援等の課題解決に資するための研修を実施するために、25年度より発展的に交流事業から研修事業へとなる。これにともない開催曜日の見直しを行う。今後も、地方公共団体、女性／男女共同参画センター、女性団体、大学、企業等において、男女共同参画およびダイバーシティ、女性の活躍などを推進する部局の担当者等が一堂に会し、それぞれの分野の課題の解決方法を見出す機会とするとともに、分野横断的に、連携・協働をはかるためのネットワーク形成の場づくりというナショナルセンターとしての役割を適切に果たしていきたい。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	判定の理由
A	・全国の関係機関・団体等を対象に1千名以上の参加を得て開催する、NWECフォーラムは参加者同士の情報交換・交流の場の提供のみならず、研修と連携協力体制を構築し、事業の幅を広げる成果をあげている。 ・事業内容においては、大学に加えて企業への参加促進を試み、企業関係者による4件の募集ワークショップを実施した。これは、企業関係者が参加しやすいようなプログラムを組み込んで欲しいというフォローアップ調査の結果を反映したものである。NWECボランティアに対する活動支援では、ワークショップの企画・運営に関わる機会の提供をしており、NWECボランティアのスキルアップにも資する内容となっている。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-4-(2))	4 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する国内の関係機関・団体等との連携協力の推進 (2)交流機会の提供による会館を中心としたネットワークの構築
年度計画の項目 (I-4-(2)) ②	4 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する国内の関係機関・団体等との連携協力の推進 (2)交流機会の提供による会館を中心としたネットワークの構築 ②交流学习会議

事業名	交流学习会議
事業概要	男女共同参画の視点に立って地域づくりを推進する人材の育成を目的として、これまでNWECの研修・交流事業に参加した者が地域に戻って実践したことを報告し合い学習する機会を設定し、循環型の人材育成システムを構築するとともに、各地の先進事例や地域における課題等を共有して、課題解決へのステップを進める。また、女性関連施設等の関連機関や女性団体・グループ等の意見交換を行い、会館と地域とのネットワーク形成と連携・協働の促進をはかる。 開催期日：平成25年2月8日(金)～10日(日)2泊3日 会場：NWEC
担当課室	事業課
スタッフ	事業課長(1) 専門職員(2) 事業係(2) 計5名

年度実績概要	1. 会館と地域の連携を強化するための取組 参加者の日頃の地域での実践(Do)を持ち寄り、意見交換や情報交換による学習を通して振り返り(Check)、次の実践に活かすというPDCAサイクルをより意識し、テーマを「地域で男女共同参画を推進するために―実践交流を通して社会参画力を高める―」とした。昨年度に引き続き、NWECの主催事業等に参加した後、地域における男女共同参画推進や地域の活性化などの社会的成果を上げている団体・グループ・NPO法人・女性関連施設等のリーダー等28名による「交流学习会議協働連絡会」との協働で企画・運営を行った。参加対象者は循環型の人材育成となるよう、これまでNWECの主催事業に参加したことがある者のうち地域で男女共同参画推進の実践活動をしている団体・グループのメンバー、行政担当者、女性関連施設関係者とし、定員を100名とした。今年度は日程を2泊3日にし、実践事例報告を受けた討議を行う分科会も1分科会あたり1事例とするなど、事例報告者・参加者がともに十分な討議を行えるようにした。また事例報告者、コーディネーター、学習支援者の三者が事前より打ち合わせをし、趣旨や進め方について情報共有ができるよう努めた。実践事例報告では、昨年度の交流学习会議の後のさらなる取組や地域での特徴的な取組の報告を行った。交流会では、参加者同士が互いに情報交換し合い、全国規模の交流ができた。このほか、柿沼トミ子氏による特別講演「地域における男女共同参画の推進に向けて」を行った。NWECからは、これからの国立女性教育会館の役割、アーカイブ関連事業、男性の地域参画に関する調査研究報告(希望者のみ参加)など、最新情報を提供した。また全体討議「社会参画の具体化と交流学习会議」では、プログラム全体を通しての感想や日頃の地域での実践・疑問など、活発な意見交換が行われた。 2. 参加者の多様性を増やすための工夫 参加者の多様性を増すため、協働連絡会メンバーからの紹介による事例報告に、外国人女性の活躍や大学生による取組などを取り上げた。また講師の選定についても地域バランスに配慮をした。男性の参加は昨年度の128名中13名(10.2%)から98名中16名(16.3%)と、人数・割合ともに増加した。
実績を裏付けるデータ	(データ詳細は参考資料を参照のこと)【内は23年度実績
1. 応募倍率: 103.0%(定員100名 応募者103名 参加者98名(うち女性82名 男性16名))	【100.7%(定員150名 応募者151名 参加者128名(うち女性115名 男性13名))】
2. 参加対象者: 女性団体・グループ・NPO 74名(75.5%)、行政担当者9名(9.2%)、施設関係者7名(7.1%)その他8名(8.2%)	【女性団体・グループ・NPO 96名(75.0%)、行政担当者16名(12.5%)、施設関係者12名(9.4%) その他4名(3.1%)】
3. 全体の満足度 89.2%(非常に満足27.0% 満足62.2%)	【91.0%(非常に満足30.8% 満足60.2%)】
4. プログラムの有用度 100.0%(非常に有用47.1%、有用52.9%)	【100.0%(非常に有用39.7%、有用60.3%)】

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性：全国の実践事例を持ち寄り意見交換や情報交換をすることは、地域課題の解決の方向性を探り、地域活動を活発化するために有効であり、第3次男女共同参画基本計画で地域における身近な男女共同参画の推進が強調されていることから、時宜を得た取組として評価できる。 独創性：NWECの事業参加者へのフォローアップの場として全国から参加者が集まる点は、男女共同参画推進のナショナルセンターとしての特色を活かしている。参加者にとっては、これまでの研修や実践の成果を振り返り発表しあう場となり、研修と交流の両事業を長年行ってきたNWECの独創性をいかした取組として評価できる。 発展性：参加者が交流学習会議で得た地域課題解決のための様々な実践活動の工夫やネットワークを地域に持ち帰り、今後の地域での実践活動に活かすことにより、地域における男女共同参画が、より一層推進されるなど発展性のある取組として評価できる。 効率性：NWECボランティアや有識者、NWEC事業参加者等からなる「交流学習会議協働連絡会」メンバーに、分科会コーディネーターや学習支援者として無償で交流学習会議の運営にも協力いただいたことにより、人的ネットワークを活かした有効な人材活用を行うなど効率性からも評価できる。					

2. 定量的評価

観 点	応募倍率	プログラムの有用度			
判 定	A	A			
○応募倍率：103.0% ○プログラムの有用度：100%					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判 定	判定の理由
A	本事業は参加者に対して日頃の実践に対する課題解決型の学習の場を提供した。これによりNWECでの研修成果を活かし、今後さらに地域での男女共同参画を推進するための核となる人材育成に資することができた。また協働連絡会メンバーとの協働により、各地の先駆的な実践事例の紹介など実践的なプログラムを提供した。NWECを中心とした全国規模でのネットワークづくりを進め、そのねらいを十分達成できた。
達成	

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
交流学習会議はNWECの研修・交流事業参加者のフォローアップの場であるため、対象者が厳選されている。循環型の人材育成のなかでも参加者の固定化につながらないよう、多様性を確保する工夫が必要であるため、今後は男女共同参画推進フォーラム(仮称)に組み込んで実施する。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	判定の理由
A	・男女共同参画の視点に立って地域づくりを推進する人材の育成の場として実践事例を持ち寄った会議は、地域課題の解決の方向性を探り、地域における男女共同参画への推進する実践活動に生かすことができる取り組みとして評価できる。
達成	・全国から参加者が集まる交流学習会議は、NWECの事業参加者のフォローアップの場としては、人的ネットワークを活かした有効な人材活用など評価できる。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-4-(2))	4 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する国内の関係機関・団体等との連携協力の推進 (2) 交流機会の提供による会館を中心としたネットワークの構築
年度計画の項目 (I-4-(2)) ③	4 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する国内の関係機関・団体等との連携協力の推進 (2) 交流機会の提供による会館を中心としたネットワークの構築 ③男女共同参画交流特別週間(らんざん交流ウイーク)

事業名	男女共同参画交流特別週間(らんざん交流ウイーク)	
事業概要	女性団体等が相互に参加者同士の交流や情報交換を行える機会として男女共同参画交流特別週間を提供するなど、その活動を支援する。	
担当課室	事業課	
スタッフ	事業課長、専門職員(1) 係員(1)	計3名

年度実績概要	
1. ネットワークの拡大	平成24年度は11月6日～9日の4日間で開催し、地方自治体・グループ等が企画する研修・学習利用ばかりでなく、日頃NWECの事業に参加する機会が少ない利用者をも広く対象としたプログラムを提供した。男女共同参画に触れる機会が少なかった利用者向けに、まちづくりを古い文化を大切にしながら新しい考え方や若い人を取り込み実践する小布施町の事例や、ピーターラビットのキャラクターを生み出したビアトリクス・ポターの生涯から複合キャリアについて学ぶなど、身近なところから学ぶ講座を5つ用意した。また、健康な体づくりにつながるアクティビティダンス、日本の伝統文化であるお茶の体験や能についての学習から心豊かに生き生きとした生活を創造する文化プログラム、被災地で人と人の支え合いの素晴らしさに気づく事例や放射線物質の正しい知識に基づいた生活防衛を実践する事例などの時事プログラム等、新たな側面から男女共同参画を学べるよう内容を工夫した。 (参加者は全ての講座を受講できる)総講座数:12講座【10講座】 ・男女共同参画について学ぶための講座:5講座 ・時事プログラム:2講座 ・文化プログラム:3講座 ・NWEC・比企を紹介するプログラム:2講座 また、ヌエック・ボランティアによる懇談会、NWEC・比企を紹介するプログラムや、ヌエック・ノットの会による「ビアトリクス・ポターの社会活動」など、プログラムにボランティア等の企画・運営を取り入れることにより、ネットワークを一層拡大することができた。
2. 大学、企業等との連携促進状況	会館との連携協定を結んでいる女子栄養大学から香川靖雄副学長の講義、日本女子体育大学から坂本秀子准教授の実技、株式会社榊一市村酒造場代表取締役のセーラ・マリ・カミングス氏の講座など、大学や企業から講師を派遣いただいた。
3. NWECと地域の連携を強化するための取組	開催にあたり、事前に地元嵐山町広報誌にてプログラムの周知を図るとともに嵐山町商工会議所に会委員の皆様へのチラシを配付を依頼した。また、会館ボランティアから本事業のチラシにて近隣住民の方に周知を図った。
4. 参加者の内容評価	北九州市女性リーダー国内研修団や熊本県の地域リーダー研修生など熱心な参加者が多く、全体の満足度において「非常に満足」と回答した人の割合が6.4%上昇している。また、株式会社馬車道の職員研修として参加もいただくなど、バラエティに富んだプログラムにより参加者の多様化が促進された。参加者からのアンケートによると「多様なプログラムに参加して、これからの自分が地域でこの経験をどのように活かしていくかという、これからの活動の意欲を得られた」「はつらつとした女性たちと出会えてとても元気をいただけた」等、初めてNWECを訪れた参加者からも好評であった。 また、「都会の喧噪を離れ、静かな環境の中で十分な話し合いを行うことが出来た。職員の方達も親切で大変感じが良かった」「素晴らしい環境と施設で、タイムリーなテーマで研修を受けて満足だ。ありがとうございました」等、宿泊施設を含むNWEC施設の環境の良さが、満足度の向上に貢献した。
実績を裏付けるデータ	詳細は参考資料のアンケート集計結果参照【】は平成23年度実績
1. 延べ参加者数	582名(27団体+個人)【478名(15団体+個人)】
2. 全体の満足度	97.2% (「非常に満足」47.2% 「満足」50.0%) 【96.2% (「非常に満足」40.8% 「満足」55.4%)】

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性：東日本大震災における、被災地での様子や防災、放射線防護食と健康などの内容を取り上げており、地方自治体からの参加者だけでなく一般からも講師への質問が多くあった。参加者の関心の高いテーマで学習機会を提供することができたことから、時宜を得た取組として評価できる。 独創性：文化プログラムにおいては、NWECの施設、設備（日本家屋等）を生かした会場とし、我が国の男女共同参画や女性のとらえ方にも影響している文化的背景についても考察する機会を設けるなど、会館の独自性を生かした取組として評価できる。 発展性：地方自治体等の男女共同参画研修にも対応できるプログラム内容としたことにより、今回の参加で得た情報等が各地域での取り組みに活かされることが予想され、発展性のある取組として評価できる。 効率性：NWECボランティアのほかNWEC男女共同参画プログラムの研修修了生による自主学習グループ「ヌエック・ノットの会」メンバー等の協力を得て会場運営を行った点は効率性を向上する取組として評価できる。					

2. 定量的評価

観 点	応募倍率	プログラムの有用度			
判 定	A	A			
○プログラムの満足度：97.2% 全体の満足度については、「非常に満足」と回答した参加者の割合は6.4%増加しており、高い満足度を得られた。					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判 定	判 定 の 理 由
A	利用者の拡大のためにバラエティに富んだプログラムを企画することにより参加者の多様化が促進された。また、連携協定を結ぶ大学や企業から講師を派遣いただくことで、会館を中心とした男女共同参画のネットワークづくりに貢献した。また、地域の連携を強化するための取組も嵐山町との広報連携やボランティアによる周知等で図れた。関係機関との連携では、各地域の男女共同参画研修団の利用や交流を促進するため、参加団体・参加者による情報交換を行う場を提供した結果、高い満足度を得た。参加団体等が相互に参加者同士の交流や情報交換を行える機会を提供することにより、交流事業の目的である地域における男女共同参画の推進する取組として評価できる。
達成	

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
次年度は、関係機関・団体等の相互交流の促進に加え、男女共同参画推進の諸課題の解決に資するための内容を盛り込み、男女共同参画推進フォーラムで実施していくスタイルに発展させたい。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	判 定 の 理 由
A	・交流機会の提供によるNWECを中心としたネットワークの構築ならびに、関係機関・団体等の連協協力の推進事業として、日ごろNWECの事業に参加する機会が少ない利用者をも対象とした多様なプログラムを提供したところ、延べ参加者数は昨年度比104名増となり、満足度も上昇し、好評を得た。交流と研修は不可分のものであることから、今後も新たな利用者を引きつけるプログラムを提供していきたい。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-5-(1))	5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (1)男女共同参画及び女性教育に関する国際協力・連携に資する研修の実施
年度計画の項目 (I-5-(1)) ①	5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (1)男女共同参画及び女性教育に関する国際協力・連携に資する研修の実施 ①アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー

事業名	アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー		
事業概要	1. 日 程:平成24年10月18日～10月27日(10日間) 2. 研修会場:国立女性教育会館、内閣府、文部科学省、もりおか女性センター、女性ネットSaya Saya他 3. テー マ:女性に対する暴力の根絶に向けて 4. 対 象 者:国内本部機構職員、研究者、NGO・女性団体のリーダー 5. 内 容:カントリーレポートの発表、省庁の視察、女性関連施設やNGOの取り組みに関する講義と意見交換		
担当課室	研究国際室		
スタッフ	専門職員(1)、研究国際係長(1)、係員(1)		計3名

年度実績概要	1. アジア地域における拠点としての取組 研修生には、出身国(5カ国)での女性に対する暴力の根絶に関する取組の好事例をテーマとしたポスターを事前に提出するよう義務づけた。研修生が作成した資料は日本語と英語でパネルに加工し、研修最終日に会館が主催した「平成24年度NWECE国際シンポジウム」で展示した。研修生は上記シンポジウムにパネリストとして出席し、研修の成果を発表した。今年度より原則として1カ国から、行政とNGO/研究機関から2名の研修生がリーダーセミナーに参加しているため、研修成果の報告には5カ国における官民による女性に対する暴力根絶の取組が反映された。 2. 研修の成果還元 研修生が国際シンポジウムで発表した内容は、「平成23年度NWECE国際シンポジウム」の記録として、日英二カ国語の報告書に掲載された。報告書は国内の女性関連施設、男女共同参画主幹課等に配付するとともに会館のホームページでも公表している。英文報告書は、「第57回国連女性の地位委員会」(平成25年3月にニューヨークの国連本部で開催)でも参考資料として配布した。また、研修終了後、事業担当者がJICA地域別研修「アジア諸国における人身取引対策協力促進セミナー」で、本研修の成果に基づきアジア太平洋地域における女性に対する暴力の現状について、講義を行った。 3. 研修成果の活用調査に基づく研修内容の見直し状況 平成23年度リーダーセミナー(テーマ:災害復興とジェンダー)の研修生からは、「実際の被災地を訪問したり、被災女性の声を直接聞きたかった」との要望が寄せられた。こうした意見に配慮して、今年度は研修内容にもりおか女性センターによる避難所での暴力防止の実践事例に関する講義や、岩手県沿岸の仮設住宅を訪問し被災女性と意見交換を行う単元を設けた。
実証を裏付けるデータ	1. 研修員 定員 10名 参加者 9名 2. 国 籍 カンボジア、タイ、フィリピン、ベトナム(以上各2名)、韓国(1名) 3. 「平成24年度NWECE国際シンポジウム」の参加者数 80名 4. 「平成24年度NWECE国際シンポジウム」報告書の発行部数 日本語 800部、英語 600部 5. 研修の有用度 100% (「非常に有用」100%) 研修の満足度 100% (「非常に満足」100%)

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	

適時性: アジア太平洋地域では女性に対する暴力防止に係る法整備が進んでいるが、被害者の保護や支援体制と法制度の乖離が存在する。こうした課題に加え、社会全体で女性に対する暴力の問題に取り組むための効果的な普及啓発事業のありかたを議論する実践的な研修内容とすることをめざした。

独創性: 本研修では、日本国内の関連機関の視察や専門家による講義に加え、研修生同士が女性に対する暴力の根絶に関する好事例を学び合い、その成果を研修最終日に実施した「NWEQ国際シンポジウム」で広く公表することを目指したカリキュラム構成としている。またDV相談員研修や人身取引に関する調査研究報告もカリキュラムに組み込み、NWEQの事業・研究との有機的な連携をはかった。

発展性: もりおか女性センターを視察し、センター職員と研修生との意見交換の時間を設けることにより、海外の事例をセンター職員が学ぶことができるよう双方向的な研修内容となるよう留意した。

効率性: 長期間にわたる英語での研修の企画、講師との調整、実施は専門職員と研究国際係長、係員の三名体制で行い、講義資料の準備、謝金の支払いの手続き等、全て円滑に行うことができた。平成24年度より研修生の募集方法を公募から機関推薦に変更した。その結果、公募に係る事務作業を大幅に縮減することができた。

2. 定量的評価

観 点	プログラムの有用度				
判 定	A 100%				

○有用度 100% (「非常に有用」56%)
100%の研修参加者が有用と回答した。
特に、教材(とても有用89%、有用11%)、研修の運営(非常に効率的89%、効率的11%)に関する評価が高かった。)

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判 定	判定の理由
A	女性に対する暴力の根絶を推進することは、日本を含むアジア太平洋地域の共通の課題である。開発途上国の行政機関の担当者やNGO/研究機関の中核的人材が、本研修を通じて得た知見を自国の政策や取組に反映することは、中期計画の目的に合致している。
達成	

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
講義やワークショップの時間配分について、もっと質疑応答や議論の時間が欲しかったとの意見がみられた。必要に応じて通訳をつけている限られた日程の中で、研修生と講師とのより充実した意見交換が行えるような工夫が必要と考える。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	判定の理由
A	男女共同参画・女性教育のナショナルセンターとしてのNWEQが国際貢献の分野で果たすべき責務が十分に示された事業である。テーマは国際社会に共通する重要課題であるが、法制度と被害者保護・支援体制との乖離が目立つこの地域を対象とした実践的な事業として、とりわけ時宜にかなっている。少ない職員数で大変効率的に事業が展開されており、研修生の募集も海外の協力機関との連携を上手く活かしてスムーズに進められている。また昨年度の研修生からの要望を活かし、東日本大震災の被災地のもりおか女性センターとの連携・協力により、センター職員と研修生との意見交換の機会を設けるなどして、双方向的な研修内容を実現しようとするなど、より質の高いグローバルな研修を目指した努力が示されている。さらにそうした研修成果が「NWEQ国際シンポジウム」で公表されるという形で他事業との連動も図られている点に優れた独創性が認められる。とくに今年初めての取組として、英文報告書を「第57回国連女性の地位委員会」でも参考資料として配布するなど国際社会へ向けた積極的な情報発信の姿勢も注目される。研修の有用度、満足度ともに100%という高い評価に結びついたことも納得できる事業成果と考えられる。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-5-(1))	5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (1)男女共同参画及び女性教育に関する国際協力・連携に資する研修の実施
年度計画の項目 (I-5-(1)) ②	5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (1)男女共同参画及び女性教育に関する国際協力・連携に資する研修の実施 ②国際協力機構との連携による研修

事業名	国際協力機構との連携による研修(地域別研修「アジア諸国における人身取引対策協力促進セミナー」)		
事業概要	地球規模の課題であると同時に、世界の中で女性と女児の被害が最も大きいアジア地域の人身取引をテーマに、開発途上国(タイ、ミャンマー、ベトナム、カンボジア、ラオス、フィリピン)6か国の行政職員等を対象として、男女共同参画、女性教育に関する専門的な観点から、アジア地域における人身取引対策の連携とネットワークの強化を目的にワークショップ型研修として実施した。3年計画の第1年次。前半は6か国を対象に英語で実施する集団研修として、後半3日間はタイ、ミャンマー、ベトナムの3か国を対象に、母国語で行う国別研修として実施した。 開催期日:平成24年10月29日～11月10日 なお、10月29日～11月7日を6か国の集団研修、11月8日～10日を3か国(タイ、ミャンマー、ベトナム)の国別研修として実施 協力機関等:内閣官房、外務省、厚生労働省、警察庁、法務省、東京都、埼玉県、長野県、福岡県、国際移住機関(IOM)、人身売買禁止ネットワーク(JNATIP)、移住労働者と連帯するネットワーク		
担当課室	研究国際室		
スタッフ	研究国際室長(1)、研究員(1)、研究国際係長(1) 計3名		

年度実績概要			
1. 研修の特徴	(1)3年計画の1年次として、これまで行ってきた国別研修の経験と成果を踏まえ、①日本・参加国における人身取引予防・被害者保護・帰還・社会復帰の一連のプロセスおよび関連機関の関係の把握、グッドプラクティスや課題の共有、②アジア地域における人身取引対策のネットワーク強化に向けて各国の状況やアプローチの理解と、改善策やネットワーク強化に資する方策の検討を目的とした。 (2)日本の人身取引対策の全体像および男女共同参画視点の女性に対する暴力に対する取組の理解を図るために、行政や民間の関係機関の視察と意見交換の時間を十分にとった。 (3)幅広い関係者(①関係省庁等、②国際機関、③県警察、④地方自治体の国際課、男女共同参画課、女性相談所等、⑤民間団体等)を講師に迎え、意見交換・講義を行った。		
2. 研修成果	(1)政府関係者や有識者に対して研修生が成果発表と意見交換をする場を設けたことで、研修生及び日本側担当官等からも各国の状況を知り、相互理解が深まったと評価を得た。 (2)研修生が各国の取組や実践的な課題について発表を行ったことで、相互理解と関係が深まった。 (3)最終日に行った研修成果報告会では、今後各国で取り組んでいく上でも有用であると評価を得た。 ○アジア太平洋地域における拠点としての取組及びJICAとの連携によるメリット 研修については委託元及び研修生から高い評価を得ている。研修の実施にあたり、NVECがこれまで実施してきた人身取引に関する調査研究や相談員研修及び現在行っている日本で暮らす外国人女性に焦点を宛てた調査研究の成果や得られた知見を活かしている。また、研修では国内各地の女性関連施設や男女共同参画課の視察・意見交換を組み入れており、アジア地域の研修生と日本各地の担当者が情報・意見交換を行い、理解を深める機会になっている。研修生は、帰国後に自国及びメコン地域で関係者を集めた成果発表会で研修成果を報告しており、NVECの調査研究及び研修・情報事業を含め、日本で実施された研修成果が各国に広がっている。さらに、JICAの国別プロジェクトがタイ、ミャンマー、ベトナムで実施されており、研修成果の持続・普及につながっている。		
実績を裏付けるデータ	○終了後アンケート(裏面参照) ○参加者 24名(女性15名、男性9名)(各国政府が選定・推薦しJICAとNVECで選定) 中央政府、司法関係者、警察官、入国管理官、労働局担当官、シェルター所長、ソーシャルワーカー		

自己点検評価調査書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性: 人身取引問題への取組は、地球規模の課題であると同時にアジア太平洋地域は女性や女児の被害が多く、政策的にも重要な課題である。グローバル化により人の移動が加速化しており、それに伴う移住労働者等に関する関心やニーズも高まっており、取り上げるテーマとして適時性が高い。 独創性: 人身取引の問題解決のために、受入国と送出国の間で多分野連携協働をテーマに行われる6か国を対象としたワークショップ型の研修は、他に同様の例はなく独創的である。 発展性: これまで3年間行ってきたタイを対象とした国別研修の評価が高く、今回の6か国研修の委託に発展した。日本での研修を契機に、日本で講師を務めた関係者がメコンでの研修に招へいされている。NWECCの連携協定先であるカンボジアやフィリピン、これまで調査研究やNWECCの国際研修でつながりがあるタイやベトナムに加え、ラオス、ミャンマーが研修参加対象国に加えられ、今後、更なる連携及び発展が望める。 効率性: NWECCの国際研修実施経験で培ったノウハウや調査研究の知見と女性団体とのネットワーク等を活かしたプログラムは委託元から高い評価を得た。また、NWECCの研修宿泊施設を利用し、専門職員によるNWECCの国内研修事業の成果を報告する講義をもうけている。					

2. 定量的評価

観 点	プログラムの有用度				
判 定	A				
○有用度 100% (とても有用 30%、有用 70%)					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	人身取引の分野における国際研修の実施は、途上国に対する国際貢献と同時に、研修生間の国を越えた相互理解を深めた。国内の行政関係者や相談関係者、民間団体が、国際的な課題について認識を深め、国内外のネットワークを深める役割も果たした。研修生にも帰国後に自国で行う研修に役立てることができることや、日本の男女共同参画施策及び女性に対する暴力に対する活動を学ぶ貴重な機会になったと高く評価された。
達成	人身取引の分野で、途上国の女性の置かれている立場に着目して、被害の防止や女性被害者の保護とエンパワメントの観点で、参加6か国の連携を目的にワークショップという参加型・実践的研修を実施したことや、NWECCの調査研究や国際・国内研修の成果を活用したことで本研修の充実を図ったことは、国際貢献、連携協力を推進するという中期計画の目的に合致している。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
集団研修と国毎の多様な研修ニーズにこたえ、語学力に差がある参加者間の意見交換をより活発に行うことが課題である。視察先の選定や意見交換のテーマのありかたについて、企画・運営方法を一層工夫していく必要がある。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	判定の理由
A	地球規模の課題であり、とくにアジア地域の女性と女児にとって深刻な被害を及ぼしている人身取引をテーマとした研修として、NWECCの国際貢献活動という意味で重要な意義を持つ事業である。とりわけ今回は昨年度よりも対象国を拡大して、メコンエリア全体をカバーする6つの開発途上国との緊密な連携を図ることで、より実態に即した効果的な研修に進化しており、受入国と送出国との多分野連携協働をテーマとしたワークショップ型の研修という他に例のない独創的な方式を実践した点は高く評価できる。また実施に際して、これまでNWECCが培ってきた国際研修のノウハウや日本に暮らす外国人女性に焦点をあてた調査研究の知見が上手く活用されていて効率性の高い展開がなされており、講師陣を多彩な関係領域から幅広く動員している点にも特色がある。同様の課題を抱える世界の他の諸地域での取組にも発展的に活かせる可能性がある点も重要である。NWECCの他の事業との連動も試みられるなど独自性も顕著である。有用度や目的達成度、期待充足度がいずれも100%という修了者アンケート結果が成果の大きさをよく示している。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-5-(1))	5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (1)男女共同参画及び女性教育に関する国際協力・連携に資する研修の実施
年度計画の項目 (I-5-(1)) ③	5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (1)男女共同参画及び女性教育に関する国際協力・連携に資する研修の実施 ③NWEC国際シンポジウム

事業名	NWEC国際シンポジウム	
事業概要	1. 開催期日:平成24年10月27日(土)13:00～17:30 2. 開催場所:国際協力機構(JICA)研究所 3. テーマ:女性に対する暴力のない社会の構築に向けて 4. 対象者:行政職員、在日大使館職員、女性関連施設職員、大学院生、援助関係者等	
担当課室	研究国際室	
スタッフ	専門職員(1)、係員(1)	計2名

年度実績概要	1. アジア太平洋地域における拠点としての取組 (1)女性教育のナショナルセンターとしての人的ネットワークを活用して、国内外から専門家を招へいし、シンポジウムのテーマについて課題を共有し、解決のための方策について議論することを目指した。 (2)アジア太平洋地域における男女平等政策について、参加者と海外の専門家が意見交換を行うことができる場を設定し、参加者間の交流を促進した。 2. シンポジウムの内容評価 (1)本事業では基調講演を、人身取引問題の第一人者であるナンシー・キャラウェイハワイ大学教授に依頼した。パネルディスカッションでは、バングラデシュで暴力被害者への支援を展開している女性団体のリーダーや、日本からの発信として震災復興過程で発生した女性に対する暴力に関する調査報告など、テーマに関連する諸課題についてさまざまな角度から検討する機会となるよう配慮した結果、プログラム全体の満足度は100%であった。 (2)第一部と第二部の間の時間を利用して、シンポジウム参加者と報告者間の交流を促進するためポスター展示を行った。本事業に先立って実施した「アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」の研修生9名が、5カ国における女性に対する暴力に関する諸政策をポスターにまとめ展示した。参加者からは「女性に対する暴力について、国外の最新の情報を得ることができた」との高い評価を得た。 パネルはシンポジウム終了後、一般利用者が通行する会館内ロビーにも引き続き展示している。 (3)基調講演とシンポジウムでの議論と質疑応答の内容は日英二カ国語の報告書を作成し、女性関連施設、男女共同参画主幹課、大使館等に送付した。報告書(日・英)とポスターセッションの資料は会館のホームページ上でもダウンロード可能な形式で公表しているほか、「第57回国連女性の地位委員会」(平成25年3月にニューヨークの国連本部で開催)でも参考資料として配布した。
実績を裏付けるデータ	1. 参加者 80名(定員 100名) 2. 有用度 第Ⅰ部基調講演 99% (「非常に有用」80%、「有用」18%) 3. 有用度 ポスター展示 98% (「非常に有用」55%、「有用」43%) 4. 有用度 第Ⅱ部パネルディスカッション 100% (「非常に有用」93%、「有用」7%) 5. 満足度 100% (「非常に満足」60%、「満足」40%) 6. 「平成24年度 NWEC国際シンポジウム」報告書の発行部数 日本語 800部、英語 600部 7. 「平成23年度 NWEC国際シンポジウム」のポスターセッションで利用した災害復興とジェンダーに関するアジア太平洋諸国の政策についてのパネル12枚を、平成25年3月11日に文部科学省で開催された、『文部科学省 東日本大震災復興支援イベント～教育・研究機関としてできること、そしてこれから～』で展示。参加者 約2,000名

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性: 女性に対する暴力の根絶は、今年度の国連女性の地位委員会の主要議題でもあり、シンポジウムのテーマを上記と連動することにより、女性に対する暴力の根絶に向けた日本における官民による多様な取組を国際社会の場で発信することができた。 独創性: 会館主催の「アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」の研修生が本シンポジウムで報告するとともに、各国の好事例のパネルを展示することにより、一般参加者がアジア太平洋諸国におけるテーマに関する最新の取組を、限られた時間内で共有できることが特色となっている。 発展性: アンケート回答者の92%が、自身の研究・仕事・活動に役立つ情報や知識を得ることができたと回答し、94%が各国の男女平等政策の取組について知ることができたと回答しており、参加者の視野を広げ今後の業務や活動を充実させる一助となったと考えられる。また、平成24年度のNWEC国際シンポジウム(テーマ災害復興とジェンダー)の基調講演資料は、NWECの協定機関のひとつであるフィリピン大学の文化人類学コースの必読文献に指定される等事業の波及効果が認められる。 効率性: パネリストの選定にあたってはNWECがこれまで蓄積してきたネットワークを活用した。NWECが平成21年度に実施した国際研修参加者1名をバングラデシュより招聘し、同国における女性に対する暴力根絶をめぐる課題と最新の取組について報告を行った。また、前年度に引き続き「JICA」からの後援を得て、事業の広報及び会場確保の面で協力を得た。					

2. 定量的評価

観 点	応募倍率	プログラムの有用度(第Ⅰ部基調講演)	プログラムの有用度(ポスターセッション・交流)	プログラムの有用度(第Ⅱ部パネルディスカッション)	プログラムの満足度
判 定	A	A	A	A	A
○応募倍率 定員100名、応募者110名 ○有用度 第Ⅰ部基調講演 98% (「非常に有用」80%、「有用」18%) ○有用度 ポスターセッション・交流 98% (「非常に有用」55%、「有用」43%) ○有用度 第Ⅱ部パネルディスカッション 100% (「非常に有用」93%、「有用」7%) ○満足度 100% (「非常に満足」60%、「満足」40%)					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判 定	判定の理由
A	「第3次男女共同参画基本計画」においても、「第9分野女性に対するあらゆる暴力の根絶」が設けられており、我が国の男女共同参画の推進にあたっては、基本計画に沿って具体的な取組が進められている。本事業を通じて、アジア太平洋諸国における男女平等政策の最新の情報を学び、日本も含めた各国の先進的な取組に関する議論を深める場を設けることは、中期計画の目的に合致している。
達成	

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
当日の参加者数が定員を下回ったため、広報先や広報媒体および実施時期の見直しを行ってきたい。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	判定の理由
A	NWECの国際貢献・国際協力事業としてのメリットが大変有効に活かされていると評価できる。JICAとの継続的な協力関係を上手く活かして広報や開催場所の確保などにも安定的な対応がなされている。女性教育のナショナルセンターとしての人的ネットワークをフルに活用して、過去のNWECの研修受講生にパネルディスカッションに参加してもらうなど国内外からの専門家の招聘にも大きな効果を挙げている点でも見るべきものがある。テーマ設定には高い適時性が示されており、とくに「アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」と連動させたことで、効率性と同時に内容の充実度が一層高まったことが注目される。日英二ヶ国語での報告書作成、ポスターセッションの実施などを通して、海外への情報発信にも積極的に取り組む姿勢が目立っている。応募者は定員を上回っていてこの事業が社会的に高い関心を呼ぶものであったことがうかがえるが、実際の参加者がやや定員を下回ったのは、開催当日がたまたま日本女性会議の開催時期と重なってしまったためと考えられるので、今後はより注意深く日程設定を行うことで、高い期待にさらに応えられる企画となりうると考えられる。プログラム全体の満足度は100%で、参加者からも高い評価を得ている状況がよくわかる。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-5-(2))	5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (2)地球規模の課題についての調査研究の実施
年度計画の項目 (I-5-(2)) ①	5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (2)地球規模の課題についての調査研究の実施 ①外国人女性の困難等への支援に関する調査研究

事業名	外国人女性の困難等への支援に関する調査研究	
事業概要	これまで取り組んできた人身取引の教育・啓発に関する調査研究を踏まえ、外国人女性の抱える困難等の実態と課題解決に向けた教育・啓発をテーマに3年計画で行う調査研究の2年次として、外国人女性の抱える困難等の実態と課題解決に向けた啓発活動に関する基礎的調査を行う。	
担当課室	研究国際室	
スタッフ	研究国際室長(1)、研究員(1)	計2名

年度実績概要	
1. 調査研究経過	(1)外国人女性に関する取組を行っている施設を絞り込んだ上で、「女性/男女共同参画センターの外国人女性に関する取組等調査」を実施した。女性関連施設が地域で暮らす外国人女性に関わる事業・サービスに関して、施設の取組、地域の連携機関、支援の一端を担う市民団体・グループについて課題と実態を把握した。 (2)地域で外国人女性を支援している支援者及び当事者団体に聞き取りを行った。 (3)送出国の政府の施策及び支援団体の取組と課題について聞き取りを行った。 (4)「自治体における外国人女性に関わる取組についてのアンケート調査」を実施した。 (5)「女性/男女共同参画センターの外国人女性に関する取組等調査」結果をパネルにまとめた。
2. 得られた知見	(1)女性関連施設に対するアンケート調査から、女性関連施設が行う「外国人女性に関わる」事業・サービスの実施状況は次の通り:①外国人女性や子どもを対象とした学習支援(6.2%)、②一般市民を対象とした支援者養成(3.4%)、③一般市民を対象とした啓発・理解促進講座(21.0%)、④施設職員を対象とした研修(1.1%)、⑤外国人女性を対象とした相談等直接支援(8.5%)と、取組は限定的である。 (2)国内の調査からは、国際担当部局では男女共同参画の視点が不十分であり、男女共同参画部局や女性関連施設では、外国人女性の把握やつながりが薄いことが明らかになった。 (3)海外の調査からは、送出国では、移住女性が抱える課題について人権侵害の問題だけでなく女性のキャリアや労働という観点からの取り組みも進められはじめていること、受入国である欧米では、外国人女性のエンパワーメントや連帯活動が活発であること、国を超えた政府と支援団体のネットワークが強化されつつあること、一方で、当事者支援団体の視点から見える問題についての情報を得た。
3. 調査研究の活用	(1)「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム」のNWECC提供ワークショップ及び「アジア諸国における人身取引対策協力促進推進セミナー」において、調査研究の報告を行った。 (2)「NWECC実践研究」に、海外の取組に関する調査研究報告を掲載した。 (3)パネルの貸し出しを昨年から継続して行った。
実績を裏付けるデータ	1. 「女性/男女共同参画センターの外国人女性に関する取組等調査」を実施し、210施設の回答を得た(243施設に配布、回収率86%)。 2. 「自治体における外国人女性に関わる取組についてのアンケート調査」を実施(配布1,026、回収率58.5%) 3. 調査研究から得た知見をいかし、国内では「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム」のNWECC提供ワークショップ及び「アジア諸国における人身取引対策協力促進推進セミナー」を企画し成果を発信した。海外では「米国・日本・韓国・フィリピンの女性リーダーの学際的知的交流プログラム」及び世界社会フォーラムにおいて「NWECC提供ワークショップ」を行い、関係機関と情報交換を行うとともに、日本の取組について発信した。

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判定	A	A	A	A	
適時性:グローバル化で国際的な人の移動が増加する中、日本に暮らす途上国出身の女性の数が増加。「少なくとも一方の親が外国人」の子どもも増加している。しかし、彼女たちが直面する生活上の課題や困難の実態の把握は十分にされていない、この問題は国連女性差別撤廃委員会からも指摘されるとともに、第3次男女共同参画基本計画の新規課題となっており、調査研究のテーマとして取り上げたことは、ナショナルセンターとして時宜に合ったものである。 独創性:これまで見過ごされてきた外国人女性の人権について、NWECの人身取引に関する調査研究及び国内外のネットワークをいかしつつ、外国人女性の人権保障に資する地域的女性関連施設や女性団体等の活動について行う調査研究は、独創的である。 発展性:調査研究で得た知見を国際研修や「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム」等のNWECの研修事業の企画にいかした。NWECホームページやNWEC実践研究を活用して調査研究の成果を発信した。海外協力機関の協力を得て国際会議やワークショップを実施しており、今後さらなる国際的発展がのぞめる。 効率性:本調査研究の実施にあたり、女性関連施設調査と一緒にアンケート調査を実施した。海外でのワークショップ開催準備にあたり、スカイプ会議等の活用や海外協力機関の協力を得ることで、経済的・時間的効率をはかった。					

2. 定量的評価

観点	プログラム活用度				
判定	A				
○ 国際研修や国際会議でのNWEC提供ワークショップを企画し、調査研究の成果を発信した。 ○ 海外調査報告書を作成した(「米国・日本・韓国・フィリピンの女性リーダーのための学際的知的交流プログラム報告書」、「フィリピンにおける人の移住に関する世界社会フォーラム及び調査出張報告書」) ○ 昨年度の調査研究の成果を「NWEC実践研究」に報告論文として掲載した(オーストラリア調査、韓国調査、移住女性と人身取引にかかわるハワイ会議) ○ 貸出用展示パネルが、自治体、女性関連施設、国際交流協会や女性団体等が主催する全国10事業で活用された(参加者数8,762人、開催県:青森、埼玉、茨城、三重、愛知、愛媛、広島)。					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	3年計画の2年次として、海外及び国内の調査から、外国人女性の必要とする支援や教育・啓発活動の実態について明らかにした。
達成	これまで実施してきた人身取引に関する調査研究の成果を踏まえた「外国人女性」に焦点をあてた調査を立ち上げ、このテーマの背景にある移住や人身取引の問題は、地球規模の課題である。米国、韓国、フィリピンの海外連携協力3機関と協力して会議を開催するなど、中期計画を順調に進めている。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
外国人女性の必要とする支援や教育・啓発活動に関する女性関連施設や女性団体等の関心は一部にとどまり、一般的関心は未だ低く、先進的事例も少ない。次年度は、自治体調査の分析を進めるとともに、支援団体、当事者団体による活動の先進事例を収集し、参考資料を作成する。

5. 外部評価委員会の評価、意見

判定	判定の理由
A	国の第3次男女共同参画基本計画でも新たな課題として重視されている分野に関し、NWECの特色であるこれまでの人身取引の教育・啓発に関する調査研究の蓄積を生かした意欲的な取組として注目される。3年計画の調査研究の2年目として基礎的調査に取り組んでいるが、とくに外国人女性の抱える困難等の実態と課題解決に向けた啓発活動に関する調査として、対象を実際に外国人女性への取組を実施している施設に絞って実施したことは、見過ごされがちな外国人女性の人権に関する他に先例のない独創的な取組であると同時に、限られた人員での効率的な事業運営のあり方という点で注目される。また得られた知見を国内外のさまざまなフォーラム、ワークショップ、セミナー等の実施に関連して早速活用しており、ナショナルセンターとしてのNWECの役割から見て、迅速に重要な責務を果たしていると高く評価できる。一般の関心が高まらないうちにこの問題への取組を今後多方面で進める上で、この調査研究の成果が大いに活用されることが期待される。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-5-(3))	5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (3)国際的なネットワークの構築
年度計画の項目 (I-5-(3))	5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進 (3)国際的なネットワークの構築

事業名	国際的なネットワークの構築
事業概要	研修修了生等に対し、研修終了後の定期的なメール送信や議論の呼びかけを通じてネットワーク構築を図る。 研修成果について、「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム」におけるパネル展示や英文報告書の会館ホームページへの掲載等の方法により国内外に普及する。これまで実施した調査研究の成果を普及するための会議を、海外の2機関以上と連携して開催する。
担当課室	研究国際室
スタッフ	研究国際室長(1)、研究員(2)、専門職員(1)、研究国際係長(1)、係員(1) 計6名

年度実績概要	
1. 海外の協定締結機関等との関係	(1)韓国両性平等教育振興院(KIGEPE, Korean Institute for Gender Equality Promotion and Education) 平成18年4月26日、交流及び協力に関する協定を締結 (2)韓国女性政策研究院(KWDI, Korean Women's Development Institute) 平成18年9月28日、研究交流及び協力に関する協定を締結 平成24年4月16日～19日、NWECがCenter for Women Policy Studies(米国CWPS)と共同開催で行った国際会議にて、人身取引や移住女性の問題に携わっている女性リーダー等の参加にあたり協力を得た。 平成24年11月13日、研究国際室長以下4名が「女性研究者支援のためのシステムの構築と政策提言のための研究」及び「女性のキャリア形成に関する実証的・実践的研究」(科学研究費補助金)の現地調査に訪問し、研究員と意見交換を行う。 (3)フィリピン大学機構(University of the Philippines System) 平成21年3月11日、学術協力に関する協定を締結 平成24年4月16日～19日、NWECがCenter for Women Policy Studies(米国CWPS)と共同開催で行った国際会議にて、人身取引や移住女性の問題に携わっている女性リーダー等の参加にあたり協力を得た。 平成24年10月、アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナーに同校助教授が参加。 (4)延辺大学女性研究中心(中華人民共和国吉林省) 平成21年5月12日、研究交流及び協力に関する協定を締結 (5)カンボジア王国女性省(Ministry of Women's Affairs of Kingdom of Cambodia) 平成22年4月6日、交流と協力に関する協定を締結 平成24年8月27日、ジェンダー平等局ニアン・ソチェットラ局長以下6名が来館、カンボジア女性の経済的自立に向けた課題等、NWEC職員と意見交換を行うとともにリーダーセミナー研修生の推薦を依頼。 平成24年10月、アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナーに同省職員が参加。
2. 国際的ネットワークの構築	平成24年4月2日、ハワイ東西センター教育専門家バーカー博士が来館し、東西センターで行っているアジア太平洋リーダーシップ研修の報告及び会館職員と意見交換を行う。 平成24年4月16日～19日、会館がCenter for Women Policy Studies(米国CWPS)と共催で行った国際会議に、理事長以下3名が参加し、人身取引や移住女性労働者の実態や課題の報告、ディスカッションセッション等を行う。(ホノルル) 平成24年4月18日、理事長及び研究国際室長がハワイ大学を訪問し、ハワイ大学理事長兼CEO以下3名と組織における女性の登用について意見交換を行う。 平成24年5月25日、ベトナム財務省最高責任者ニュエン・ティノン氏以下、財務省・女性の地位向上委員会代表団16名が来館し、女性リーダーへの能力開発プログラム等についてNWEC職員と意見交換を行う。平成24年11月26日～30日、World Social Forum on Migration(WFSM:第5回 人の移住に関する世界社会フォーラム)に、研究国際室研究員及び専門職員の2名が参加し、「NWEC提供ワークショップ」を行う。(マニラ) 平成25年3月4日～15日、Commission on the Status of Women(CSW:第57回 国連女性の地位委員会)に日本政府代表団の一員として、研究国際室及び情報課の専門職員2名が参加。(ニューヨーク)

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性: 協定締結機関とは、国際研修や調査研究を通じての交流が引き続き行われており、NWECがアジア太平洋地域との連携を強化していくためにも適切なものである。 独創性: 米国で行った国際会議において、協定締結先である韓国、フィリピンの2機関からプログラム参加者の推薦協力を得るなど、ナショナルセンターとしての立場を活用した事業展開となっている。 発展性: 協定締結機関からの来館及びアジア太平洋地域、米国の訪問により、ナショナルセンターとして、海外機関との連携やネットワーク構築をアピールするとともに、「NWEC NEWSLETTER」へ国際研修修了生の活動報告掲載、会館ホームページへの英文報告書掲載等、研修成果を国内外に広く普及した。 効率性: 国際交流基金日米センター、国際協力機構等から外部資金を得ることにより、管理経費の削減に努めるとともに、NWEC国際シンポジウム等の広報にも協力を得て、効率的に事業を実施している。					

2. 定量的評価

観 点	協力関係機関数				
判 定	A				
NWEC広報紙への国際研修修了生の活動報告掲載、女性教育情報センター前での国際研修使用パネルの展示により、NWECの取組を国内外に広く普及させた。また、米国CWPSとの共同開催により行った国際会議、フィリピンにて開催されたフォーラム、海外機関からの来館者に対し、これまで実施した調査研究の成果を報告、講義、情報提供等により普及した。 平成24年11月には協定先である韓国女性政策研究院(KWDI)に調査研究のために訪問、平成25年3月には国連女性の地位委員会(CSW)に参加するなど、来年度以降の調査研究及び事業実施に向け、準備を進めている。					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	協定締結機関とは、活発な人的交流、調査研究、情報・研修事業を通じた相互の情報交換・支援が行われた。年度計画で定められた事項についても、協定先であるKWDIへの訪問、WSFM、CSWIに参加するなど、来年度以降の調査研究及び事業実施に向け、準備を進めている。また、独立行政法人国際協力機構(JICA)のアジア太平洋地域6カ国を対象とした研修事業を1本受託し、途上国の男女共同参画を通じた支援にも大きく貢献している。
達成	

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
来年度以降も、今までに構築してきた海外機関との協力体制を強化し、アジア太平洋地域における男女共同参画及び女性教育の人材育成のための役割を果たすとともに、国際研修修了生等のつながりを一層強めるため、研修修了後のメール配信、情報交換・議論を定期的に行うなど、NWECを中心とした研修参加者とのネットワーク構築を図り、会館ホームページ等で研修成果を国内外に普及させる。 また、今年度、交流の実績がなかった協定先の二機関については、来年度の調査研究及び科研費での連携を検討中である。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	判定の理由
A	国内のみならず、広くアジア太平洋地域での男女共同参画推進・女性教育人材育成拠点としてのNWECの存在意義を十分に示した事業と言える。個々の協定締結機関との関係は、いずれも情報交換、研修、国際会議での協力など有用性の高い形での関係強化の成果につながっており、こうした国際的ネットワークの構築が、実際にいくつかの重要な調査・研究における海外各機関との連携協力の実現に結びついている点も重要な成果である。また外部資金の導入や広報での協力関係の構築など、効率的な事業運営が行われている点も評価できる。とくに協定締結機関からの来館及びアジア太平洋地域、米国への訪問といった双方向的な人的交流による継続的なネットワーク形成の進め方や、それらの成果の積極的な国内外への情報発信などは、この事業の波及効果の一層の拡大を期待させる要素となっており、こうした活発な国際的ネットワークを通じた諸事業の着実な成果の積み重ねが、今後より拡大された形で展開されるNWECの国際貢献活動の基盤となることも大いに期待される。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-6-(1)(2))	6 会館利用者への男女共同参画及び女性教育に関する理解の促進・利用の促進 (1)利用者への学習支援 (2)利用の拡大
年度計画の項目 (I-6-(1)(2))	6 会館利用者への男女共同参画及び女性教育に関する理解の促進・利用の促進 (1)利用者への学習支援 (2)利用の拡大

事業名	利用者への学習支援と利用の拡大
事業概要	施設を利用する団体・グループ、個人が企画・実施する研修等のプログラムについての学習相談を受け、研修プログラム作成を支援する。会館が有する専門性を活かして男女共同参画や女性教育に関する学習機会を提供する。インターネットで提供する学習教材について、平成23年度の検討結果をもとにテーマを確定する。 利用拡大戦略(年度)を作成し、企業・大学向けのサンプルプランの作成・提案を行うなど大学・企業等からの利用を促進する。
担当課室	事業課
スタッフ	理事長、理事、全職員 計26名

年度実績概要	1. 利用者への学習支援 (1)研修プログラム作成支援の実績 会館を利用する団体・グループ等が企画・実施する研修等のプログラムについて、NWEC職員が学習相談・利用相談を受け、NWEC施設を活用した研修プログラム作成・実施を支援した。 (2)利用者アンケートの結果の反映 利用者アンケートで寄せられた意見等を検討し、体育施設の利便性向上のため使用方法を見直した他、宿泊室を含めた全館禁煙の導入確定、特に改善要望が寄せられた設備の集中補修などを実施した。 (3)情報提供の系統化と学習素材の提供 学習素材の提供については、その実施体制などについて検討をはかった。これまで会館が行った調査研究やプログラム開発の成果をもとに、平成25年度からの試験的な提供開始に向け準備を進める。 2. 利用の拡大 (1)利用拡大戦略に基づく取組 日本家屋「響書院」を活用した宿泊研修プラン等を掲載したチラシを作成し、文化関係団体、学校等へ広報を行った。また、職員全員が会館玄関において利用者へのあいさつ活動を行い、利用者の問合せ対応をするなど、ニーズ把握を行った。 (2)大学・企業等の利用促進 大学・企業の利用件数については、企業向けセミナーの実施や利用案内の積極的な配布や、理事長自ら企業関係者等に声掛けを行い利用促進を図ったことにより、平成23年度と比較して利用団体数や宿泊利用人数の増加など改善が見受けられる。また、「会館ご利用のお願い」を理事長名で、全国の女性関連施設、女性団体、NPOなどに発送を行った。 (3)宿泊室利用率の実績 平成24年度宿泊室利用率33.8%であり、平成23年度の31.8%より2.0ポイント改善した。月別では4月44.2%、3月53.4%であり震災前の状況に戻りつつあるが、秋から冬期の宿泊利用者数が震災前の状況に戻っておらず、依然として厳しい状況である。
実績を裏付けるデータ	【】は平成23年度実績
1. 会館職員が講師を担当したプログラム(講義)件数	14件【21件】
2. 利用者アンケートにおける満足度	
(1)学習相談満足度	: 98.7%(非常に満足41.2%+満足57.5%)【98.3%(非常に満足40.2%+満足58.0%)】
(2)利用の感想	: 98.0%(非常に満足42.5%+満足55.5%)【97.2%(非常に満足41.8%+満足55.4%)】
3. 受入状況(①平成24年度国立女性教育会館利用状況、②目的別利用状況、③施設別利用状況、④利用回数別利用状況 参照)	
(1)平成24年度 延べ利用者数	122,074人(うち目的利用者数61,859人)
(2)利用団体数	2,795団体

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性: 学習支援については、地方自治体の依頼を受けて会館での男女共同参画関連講義の提供のほか、埼玉県内で活発に地域活動を展開する女性センターの紹介、ボランティア活動者との懇談会を含めた研修プログラムの作成協力等を行った。 利用拡大については、響書院を活用した利用プランを掲載したチラシを新たに作成し文化団体等へ発送した。また、英文ホームページの利用案内等について、海外からの参加者を多数含む利用団体からの意見等を参考に、宿泊者・利用者視点からの掲載情報の追加・修正に着手するなどしており、いずれも時宜を得た取り組みとして評価できる。 独創性: 主催事業等で培った知識・経験を活かし、NWECを利用する団体・グループ等が企画・実施する研修等のプログラムについても多様な利用者の各ニーズに合わせた内容を提供し、女性センターや地域で活動するボランティアとの調整まで協力している点は、研修プログラムを長年実施し、ネットワークを構築してきた会館ならではの独創性として評価できる。 発展性: 学習支援については、地方自治体等の研修に協力するほか、過去主催事業参加者(NWECプログラム)より自社において実施する研修プログラムのモデルとして相談を受ける等しており発展性がある。 利用拡大については、企業向けセミナーなど新規主催事業においてNWEC施設の利用を積極的に紹介するなどした結果、企業の利用件数の増加などしている。また、利用拡大計画に基づきドラマ・映画等の撮影を積極的に誘致するなどしている。 効率性: 利用拡大については効率性、費用面から当初計画について見直しを行い、埼玉県経営者協会等新たな協力先を通じた利用案内の配布等を実施した。また、従来実施していたアンケートに加え、主として宿泊利用者を対象とした個別アンケートを実施し、特に要望が多かった施設を重点的に補修等するなどしている点が効率性において評価できる。					

2. 定量的評価

観 点	大学・企業の利用数	宿泊率利用率			
判 定	B	C			
○大学・企業利用件数:267件(うち企業:157件 大学:110件) 【】は平成23年度実績 【238件(うち企業:140件 大学:98件)】 ○宿泊率利用率 33.8%【31.8%】					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
B 順調	平成23年度より宿泊室利用率は若干回復し、4月、3月など震災前の状況に戻りつつあるが、年間で見ると東日本大震災以前と比較してまだまだ低い状態にある。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
平成27年度までに宿泊室利用率を55%にする(期間目標)ため全館体制で広報や利用拡大に取り組んでいるが、研修の実施そのものを見直したり、利用人数を縮小する学校、団体等も出てきており、平成23年度と比較して宿泊室利用率等の回復は見受けられるが、依然として厳しい状況が続いている。NWEC職員の数も限られていることから効率的な広報を踏まえながら、利用者増に向けた一層の広報活動、より魅力ある施設環境の提供、新たな層への周知などを検討し、全館体制で取り組む必要がある。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	判定の理由
B 一部未達成	①一方でNWECが主催事業で培った経験や実績を生かし、他方で利用者の多様なニーズを丹念に汲み取り、プログラムなどの相談に的確に対応する形で、学習支援の内容を充実させている。また、利用拡大にむけて戦略的な広報も行われており、評価できる。しかし、そうした取り組みが宿泊室利用率の期間目標達成に結び付いていないのは、それ以外の社会的・経済的な要因があると考えられる。その要因分析(たとえば大学の場合、学生の交通費や宿泊代などを考慮し、できるかぎり近場の学習施設を使うなど)が必要とされるだろう。 ②宿泊室利用率の拡大について、NWECの主催事業を例にとれば、あえて宿泊せざるをえない日程(夜間の交流を目的としたイベントなど)での事業内容や学習プログラム、イベントを組み込むなど、一工夫がほしい。

業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅱ-1-(1))	1 適切な法人運営体制の充実 (1)ガバナンス・内部統制の充実
年度計画の項目 (Ⅱ-1-(1))	1 適切な法人運営体制の充実 (1)ガバナンス・内部統制の充実

事業名	ガバナンス・内部統制の充実
事業概要	○原則として毎週、係長以上が参加する運営会議を開催し、理事長のリーダーシップのもと、会館が担う役割やリスク等の課題について職員全員が情報を共有する。 ○職員の業務遂行に関する資質・能力の向上を目的とした研修を実施する。 ○リスク低減に向けた規程等についての見直しを行い、職員全員に周知徹底する。 ○会館の業務の有効性・効率性、法令の遵守、財務会計の透明性等の観点から職員全員を対象としたモニタリングを実施するとともに、結果については役職員に周知し、必要に応じて組織運営の改善に反映させる。
担当課室	総務課
スタッフ	理事長、理事、全職員 計26名

年度実績概要	1. 理事長のリーダーシップについて (1)理事長のリーダーシップの確保と効率的業務を目的として運営会議を毎週開催している。運営会議には理事長、理事、各課室長及び各課室連絡担当係長(職員の過半数)が出席、理事長が各部署から業務報告や懸案事項の報告を受け、解決のための指示を直接伝達している。対応結果は、再度同会議で報告され、確実なPDCAサイクルが機能している。 (2)理事長を補佐する組織としては、組織が小規模なため総務課が担うが、全課室に対して直接指示が下ることも多い。 (3)監事監査において、業務運営の効率化や各事業に関する取組に関して理事長の方針等を確認するなど、法人としてのミッションについて確実に認識いただくよう努めている。 2. リスク管理体制の整備について 上記運営会議においては、予算の執行状況をはじめ、年度計画の実施状況や新たに発生した事案等について、理事長、理事に対し迅速な報告がなされている。報告案件については、理事長、理事のチェックのもと、リスクの把握、分析、対応検討が速やかに実施され、対応結果の報告が確実に実施されるという体制が整っている。 3. コンプライアンス体制の整備について 平成20年度に整備された以下の倫理行動規程について、職員研修等で周知徹底を図った。 ・独立行政法人国立女性教育会館における研究活動に係る行動規範 ・独立行政法人国立女性教育会館における研究活動上の不正行為に関する基本方針について ・独立行政法人国立女性教育会館研究費不正使用防止委員会設置要項 ・独立行政法人国立女性教育会館職員倫理規程 4. 監事監査 「監事監査規程」に基づき、2名の監事による監査を実施。平成24年度は「監事監査計画」に基づき、四半期毎に計4回の定期監査(業務及び会計を対象)を実施した。監査結果は理事長に報告され、いずれも是正改善を必要とする事項は無かった。 5. 年度計画の着実な実施について 利用拡大戦略や広報実施計画を策定、全課室横断的な取り組みを計画的に実施するとともに、毎週の運営会議における各課室からの事業実施状況の報告により、年度計画の着実な実施に努めた。 6. モニタリングの実施について NWECの今後の事業運営の在り方について、6つのプロジェクトチームを立ち上げ、課室横断的なメンバー編成で検討を進めた。 7. 法人のミッションの周知 役員に対しては役員会等において、職員に対しては館内研修や運営会議等の場所において周知しているが、組織が小規模なため、理事長の方針が迅速且つ直接役職員に伝えられる機会が多い。また、館内で実施する研修の中で、NWECのミッションや取組について理事長や理事が講演することも多く、職員の理解の深化に役立っている。
--------	--

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性、独創性、発展性、効率性： 4月から8月まで実施された「国立女性教育会館の在り方検討会」における議論を受け、組織の今後の在り方について、理事、理事長、各課室長及び総務課企画係による館内検討会を重ね、各部署の意見を吸い上げるとともに、理事長の主導のもと、職員がポジションにこだわらない自由な意見交換や提言を行い、NWECの将来像について考えた。こうした一連の動きを通じ、職員の一人一人がNWECが担う役割や内包している課題等を認識するとともに、時代の要請に応じた組織の在り方について考えを深め、それらの意見を集約することで、今後の事業展開の方向性をまとめることができた。					

2. 定量的評価

観 点	役員会実施回数	監事監査実施回数	運営委員会実施回数	運営会議実施回数	
判 定	A	A	A	A	
○役員会規程に基づき、予定されていた4回の役員会を開催した。 ○監事監査計画に基づき、予定されていた4回の監査を実施した。 ○運営委員会規程に基づき、予定されていた3回の運営委員会を開催した。 ○運営会議規程に基づき、原則として毎週火曜日、理事長、理事、課室長、各課連絡担当係長を構成員とする運営会議を開催した。 ○「国立女性教育会館の在り方検討会」における議論を踏まえ、組織の抜本的な在り方の見直しを行うため、合計6のプロジェクトチームを立ち上げ、検討を実施、今後の方向性をまとめた。					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判 定	判 定 の 理 由
A	今後のNWECの在り方が問われる中、職員が理事長のもとに一丸となって将来構想を考え、業務効率化を進める取組が意欲的に行われた。 毎週開催される運営会議やプロジェクトチームによる検討会を通じて、NWECの今後の在り方について職員が課題と改革に向かう意識を共有しながら、新たな事業展開の方向性を探った。
達成	また、役員会、監事監査を定期的に開催し、NWECの現状と課題について適切に報告し、助言を得るとともに、得られた助言を速やかに業務に反映している。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
小規模組織であることから理事長のリーダーシップが存分に発揮できる利点を活かし、今後も職員が一丸となって、時代の要請に的確に応じた業務展開を推進していく。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	判 定 の 理 由
A	理事長のリーダーシップのもと、小規模組織を生かした丁寧な運営がうかがえる。 特に、「国立女性教育会館の在り方検討会」報告書を受け、館内検討会を重ねるとともに、学習プログラムやネットワーク連携等6つのプロジェクトを設け、実務的に検討を続け、中期的視野に立ちつつ25年度の事業改善に繋げている等評価できる。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅱ-2-(1))	2 人件費・管理運営の適正化 (1)人件費・管理運営の適正化 (2)保有資産の見直し
年度計画の項目 (Ⅱ-2-(1))	2 人件費・管理運営の適正化 (1)人件費・管理運営の適正化 (2)保有資産の見直し

事業名	人件費・管理運営の適正化と保有資産の見直し
事業概要	(1)人件費・官吏運営の適正化 政府の給与改善を踏まえ、引き続き人件費削減を図るとともに、業務運営の見直しと自己収入等の増加に向けた努力を不断に行い、中期目標期間中に、一般管理費については平成22年度比15%以上、その他の事業費(外部資金で実施する事業及び利用の増加による支出増等を除く)については平成22年度比5%以上を削減する。 (2)保有資産の見直し 平成23年度末までに埼玉県から借り受けているNVECの敷地面積を見直し、敷地の一部返却による土地借料削減を図る。(23年度に実施済)
担当課室	総務課
スタッフ	総務課長(1)、総務係長(1)、会計係長(1)、専門職員(1)、係員(1)計6名

年度実績概要	1. 人件費・管理運営の適正化 引き続き、理事が事務局長を兼任し、人件費削減を図った。 また、国家公務員に準拠し、臨時特別措置に対応した。 (1)一般管理費効率化 平成24年度 80,240千円 22年度比88% (2)業務経費効率化 平成24年度 367,852千円 22年度比93%(中期計画期間中の目標値:95%) (3)人件費削減状況 平成24年度 163,220千円 23年度比93%(中期計画期間中の目標値:95%) (※中期計画期間中の目標値は、22年度の基準金額に対する割合) 2. 給与水準の適正化と結果の公表 役職院の報酬・給与等と職員給与については、その実績値と、国家公務員及び他法人の給与水準との年額の比較をHPにおいて情報公開している。 ラスパイレス指数は、事務職が国家公務員比83.9、研究職が国家公務員比66.9となっており、国家公務員と比較して低い水準にある。 3. 保有財産の見直し 抜本的に組織の在り方を見直す中で、施設のPFI化の検討を開始し、企業や専門家に対するヒアリングを行った。 4. 重要な財産の処分 平成23年12月の役員会で廃止を決定した温水プールの処分を進めているが、電気室が隣接する体育館と一体となっていることや、建物の取り壊しに多額の経費がかかることが課題となっている。施設のPFI化検討の中で、現状維持もやむを得ない状況となる可能性があることから、当面は安全面に注意しつつ、建物を維持する。 5. 諸手当、法定外福利厚生費 (1)「国と異なる諸手当」及び「法人独自の諸手当」の支給はない。 (2)法定外福利厚生費については、医療・健康にかかる費用などを支出。 (3)健康保険組合の保険料に関する労使負担割合については、職員については国家公務員共済組合の割合に準じている。また、有期雇用職員については、全国健康保険協会の健康保険料率に従っている。
--------	---

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性: 独立行政法人通則法に定める企業会計原則の適用及び独立行政法人会計基準による会計処理により、適正な運営が実施されている。役職員の報酬・給与等と職員の給与は国の基準に準じて支給されるとともに、その実績値と国家公務員及び他法人の給与水準との年額の比較をHPIにおいて情報公開するなど、公正性、透明性が確保された運営が確保されている。 独創性: 施設の有効活用について、運営を民間業者に委託するPFI化の検討を開始した。 発展性: 「国立女性教育会館の在り方検討会」における審議を踏まえ、職員が一丸となってミッションや事業展開の在り方についての見直しを行う中、効率的な組織運営の在り方についても積極的な検討を実施した。 効率性: 超過勤務の縮減に向けて、各課室長による職員の労働時間管理を更に徹底した。					

2. 定量的評価

観 点	一般管理費効率化	業務経費効率化	人件費削減状況	ラスパイレス指数	
判 定	A	A	A	A	
1. 効率化率(財務諸表及び決算報告書により記載) (1) 一般管理費効率化 平成24年度 88%(中期計画期間中の目標値: 85%) (2) 業務経費効率化 平成24年度 93%(中期計画期間中の目標値: 95%) (3) 人件費削減状況 平成24年度 93%(中期計画期間中の目標値: 95%) 2. ラスパイレス指数: 事務職83.9、研究職66.9【23年度: 事務職84.8、研究職65.4】					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判 定	判 定 の 理 由
A	各経費とも、目標値を達成している。
達成	また、施設の有効利用と、ミッションへのアプローチ方法について検討を行い、重要な案件についてはプロジェクトチームを立ち上げて集中的に検討を進めたこと、また、新たに施設運営を民間業者に委託するPFI化の検討を開始したことは評価できる。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
人件費、一般管理費、業務経費の削減については、限界にきており、これ以上の削減はナショナルセンターとしての本来業務の質の確保に影響することから、自己収入の拡大や外部機関との連携による人的・経費的負担の削減を戦略的に進めていくことが必要である。 また、施設の運営について、NWECのミッション遂行に支障を来さぬような実現の方法についてスピード感をもって検討を進めていく。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	判 定 の 理 由
A	数年度にわたり、一般管理費や業務運営の削減に非常な努力を重ねており、「4 今後の課題」にあるとおり限界にきているともいえる。そのなかで、温水プールの処分や施設のPFI化等現実を踏まえた検討を続けていることは評価できる。引き続きスピード感をもち、かつ、継続的な検討をお願いしたい。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅱ-3-(1)(2)、 4-(1))	3 業務運営の改善及び効率化 (1)業務運営の改善 (2)人材育成、多様な人材の活用 4 業務運営の点検・評価 (1)自己点検・評価等による業務の改善
年度計画の項目 (Ⅱ-3-(1)(2)、 4-(1))	3 業務運営の改善及び効率化 (1)業務運営の改善 (2)人材育成、多様な人材の活用 4 業務運営の点検・評価 (1)自己点検・評価等による業務の改善

事業名	業務運営の改善及び効率化と業務運営の点検・評価
事業概要	3 業務運営の改善及び効率化 (1)業務運営の改善:効果・効率的な業務運営を行う観点から、事務・事業の見直し、検証を定期的に運営会議で行い業務運営に反映させる。積極的に事務事業の外部委託を進め、必要に応じ組織の再編等を行う。 (2)人材育成、多様な人材の活用:職員の資質・業務遂行能力の向上に資するため研修を実施する。外部人材の活用による組織の活性化について、引き続き検討を行う。 4 業務運営の点検・評価 (1)自己点検・評価等による業務の改善:自己点検・評価委員会による評価を実施する。その際、各事業間の有機的連携を重視した自己点検・評価を行う。自己点検と連動した外部評価を実施する。評価結果をHPで公表する。
担当課室	総務課
スタッフ	3. 業務運営の改善・効率化:総務課長、専門官、企画・総務・会計係長、専門職員3 計8名 4. 業務運営の点検・評価 :全館職員 計26名

年度実績概要	1. 業務運営の改善 原則として毎週火曜日に理事長、理事、各課室長、各課室係長の出席のもと開催される運営会議において、不断の業務見直しを図っている。また、NWECCの今後の在り方についてゼロベースで検討するためのプロジェクトチームを課室横断的なメンバーで発足させ、プログラム開発や学習者への支援の在り方など6テーマについて企画立案を行った。 2. 人材育成、多様な人材の活用 (1)職員研修の計画的実施 職員の資質、能力の向上を図るため、人事異動及び職員採用時の新任職員研修を5月に、男女共同参画に係る研修を平成25年1月に、情報セキュリティに関する研修を平成25年3月に、それぞれ実施した。 また、職員の業務能力の向上、男女共同参画に係る情報収集を図るため、外部関連機関などで実施される研修にも積極的に参加した。(29件) (2)人事に関する計画 文部科学省、国立大学、都道府県教育委員会などと人事交流を実施し、組織活性化を図っている。 また、新分野の開拓のため、企業関係に詳しい客員研究員を3名導入した。 (3)職場環境の整備・充実に関する取組 インフルエンザ予防接種の受診など共済組合による厚生経費を適切に活用し、職員の健康管理の支援等、職場環境の保持に努めた。 (4)危機管理体制等の整備・充実に関する取組 平成25年3月4日(月)、利用者のある平日午前11時頃を想定した避難・誘導・初期消火訓練を行った。訓練には、比企広域消防本部の消防職員立会いのもと、会館全職員及び施設委託管理業者が参加し非常時に必要な行動を確認した。起震車による強震度の地震も体験した。 昨年度危機管理マニュアル策定委員会で作成に着手したマニュアルについて完了した。 (5)外部委託の活用 施設管理、保守、消費税申告書類作成、アンケート集計や主催事業時のバス運行など事業実施に伴い派生する業務等について可能な限り外部委託を活用している。また、施設の効率的な運用を図り、職員の業務は事業の企画・実施などの専門的分野に特化する、という意図から、施設運営を民間業者に委託するPFI化について検討を開始した。
--------	---

(6)職員評価の取組状況とそのフィードバック状況

職員評価については、従来より勤務評定を適切に行っている。

3. 自己点検・評価

各事業担当者が事業成果を「業務実績報告書」と「自己点検評価調書」で構成されるA4用紙1シートにまとめた。
計5回実施された自己点検評価委員会では、理事長、理事、課室長に対し、事業担当者がシート記載内容について説明、質疑応答を行い、組織内で成果と課題を共有した。

4. 外部評価委員会

(1)6月中旬に外部評価委員会を終了、7月初旬に評価報告書を文部科学省に提出した。

(2)第3期中期計画に記載された事業のうち、平成23年度に実施された34項目の事業について評価を行った。その実績については、年度計画を十分に達成したものと評価した上で、男女共同参画社会づくりを支える貴重な知見が蓄積されたNWECCの更なる事業展開を進めるためには、「職員の更なるプロフェッショナル化」という視点から、職員の能力開発とそれに対応した処遇の改善に取り組むことが強く望まれるとの指摘があった。

5. 評価結果についてはHPの情報公開ページにおいて、適切に公開している。

実績を裏付けるデータ

1. 常勤職員の数 平成24年度 24名(役員を除く)【平成23年度 25名】
2. 職員採用数 なし
3. 職員研修回数 館内3回、館外29回

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性：組織の在り方が問われる中、NWECCの今後の在り方についてゼロベースで検討するためのプロジェクトチームを課室横断的なメンバーで発足させたことは時宜を得た取組であったと言える。 独創性：運営会議や自己点検評価委員会は、職員の半数以上の出席のもと開催される。小規模組織の利点を活かし、現場(係長)からトップ(理事長)までの情報共有の下、業務改善や事業検証がなされる。 発展性：24年度は職員の資質向上を図るため、積極的に外部組織への研修への参加を推進し、昨年の10件から29件へ大幅に拡大した。得られた知見、情報、ネットワークは、今後の事業企画に活かされることが期待される。 効率性：新事業の実施に際し、当該分野に詳しい客員研究員を3名採用したことは、効率的手法である。					

2. 定量的評価

観 点	職員研修開催数 (館内3回、館外29回)	人事交流数	常勤職員の削減数 (1名削減)		
判 定	A	A	A		
○国の機関、都道府県、大学等との人事交流 【転入】4名(埼玉県(1)、信州大学(1)、一橋大学(1)、電気通信大学(1)) 【転出】5名(文部科学省(2)、埼玉県(1)、東京大学(1)、一橋大学(1))					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判 定	
A	トップダウン、ボトムアップの迅速さ、職員全体の情報共有が可能であることなどの小規模組織の利点をしっかりと活用しながら、自己点検評価、外部評価を経て、着実にPDCAサイクルを回し、業務改善を図っている。
達成	職員の資質向上のため、定期的な人事交流や積極的な研修参加も実施している。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
平成24年度は、人件費の削減の必要から、やむなく常勤職員を1名(4%)減とした。ミッション遂行のために必要なマンパワーの確保と各職員の資質向上は引き続き課題である。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	判定の理由
A	常勤職員減のなか、企業関係に詳しい客員研究員を3名委嘱するとともに、自己点検・評価を組織をあげて実施している。また、プロジェクトチームを課室横断で立ち上げ課題をゼロベースで検討するとともに危機管理体制の整備を行う等、厳しい環境のなか職員の資質向上を通して業務運営の改善を図っていることは評価できる。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅳ-(1))	(1)契約の点検・見直し
年度計画の項目 (Ⅳ-(1))	(1)契約の点検・見直し

事業名	契約の点検・見直し		
事業概要	引き続き、入札可能な契約案件については一般競争入札を実施する。一者応札となった契約については、公告期間、入札参加条件、仕様書の見直し等の改善を行い、一者応札の削減を図るとともに、契約監視委員会等による定期的な契約点検を実施する。		
担当課室	総務課		
スタッフ	総務課長(1)、会計係長(1)、専門職員(2)、会計係(1)		計5名

年度実績概要	
1. 契約の競争性、透明性の確保 (1)契約に係る規程類の整備及び運用状況 ・文部科学省所管独立行政法人の少額随意契約に係る基準額を平成19年度より国と同基準とし、一般競争入札の範囲を拡大している。 ・「独立行政法人における契約の適正化について(依頼)」(平成20年11月14日総務省行政管理局事務連絡)において、総合評価方式や複数年契約について具体的な措置が求められたことから、会計規程・契約事務取扱要領を改正し、必要な事項を定め「公募・企画競争に係る手続等に関する標準マニュアル」を整備した。 (2)契約の執行体制、審査体制 ・各課からの要望や仕様書を総務課会計係でとりまとめ、一般競争入札が必要な案件では入札を執行して契約を締結している。入札金額に満たない物品・役務・工事等の発注に対しては、過去の契約単価を調査し、複数の業者から見積書を徴収するなどして、安価な契約の締結に努めている。 (3)契約監視委員会を平成24年12月に開催し、前月までの随意契約・一者応札等の報告を行い審査を受けた。指摘された事項としては、例えば、報告書等の印刷部数を削減の可否があり、配布先を見直すなどの対応を行った。 2. 契約実施状況 (1)随意契約の見直し状況 ・「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」(平成21年11月17日閣議決定)に基づき、外部有識者2名を含む契約監視委員会を設置(平成22年11月30日)し、入札・契約の適切な実施についてチェック体制の強化を図った。 ・引き続き入札可能なものについては全て入札を実施しており、平成24年度随意契約の実績は、入札不可能な水道料金、土地借料、郵便料金(信書)に加え、電気料(応札者不在による)の4件のみ。 (2)一者応札について ・一者応札の削減に向け、引き続き「十分な公告期間の確保、入札条件の緩和」等の努力を行った結果、当該件数については、平成24年度は2件となった。 (3)再委託、関連法人はともに、無し。	
実績を裏付けるデータ	
1. 入札実績 : 18件(科学研究費を除く) 2. 随意契約状況: 4件(水道料金(埼玉県水道局)、土地借料(埼玉県)、郵便料金(信書)(郵便局)、電気料(東京電力)) 3. 一者応札状況: 2件(派遣業務(ヒューマンリソシア(株))、封書運送業務(日本郵便(株))) 4. 一者応札改善状況(派遣業務には2者の応札があったが、入札書類に不備があり1者は失格となった。封書運送業務は、関連業者に幅広く公告を行ったが、前年度落札単価が低かったため前年度契約相手方以外の応札者が無かった。)	

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性: 少額随意契約に係る基準額の国への準拠や「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」(平成21年11月17日閣議決定)に基づく契約監視委員会の設置等、適切な処置がなされている。 独創性: 1千万円超の高額工事については、従前はほぼ国土交通省関東地方整備局に委託していたが、宿泊A棟内装改修工事については、会館側で監督・検収が可能と判断し独自で契約した。 発展性: 契約監視委員会からの指摘事項について改善の検討を行い、積極的な見直しを実施したことは今後の事業運営の改善につながった。 効率性: 入札件数の増加に伴う事務作業の分担等について会計係内で検討し、他の業務も含め特定の職員に負担が偏らない配慮をしている。					

2. 定量的評価

観 点	随意契約数	一者応札数	契約監視委員会開催数		
判 定	A	A	A		
○随意契約数 24年度4件【23年度4件】 ○一者応札数 24年度2件【23年度1件】 ○契約監視委員会開催数 24年12月に実施。【23年12月】					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	整備された規程に基づく契約が執行されており、透明性も確保されている。契約監視委員会も確実に開催されている。
達成	随意契約は、随意契約とすることが不可能な水道料金、土地料金、郵便料金(信書)に、入札を行ったが応札者不在で随意契約となった電力料金の4件のみに限られていることに加え、低価格物品等の調達等においても、複数業者からの見積り徴収を徹底しており、契約に関する競争性も確保されていると言える。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
○一者応札となった封書運送業務は、事前に関連業者に幅広く公告を行ったが、前年度契約相手方以外の応札者が無かった。前年度の落札単価の低さが要因で他業者が応札に消極的であったと推測できるが、今回多少落札単価が上がり競争の余地が生まれたことから再度積極的に公告する予定である。引き続き、適正な契約の実施に努め、N WECホームページ等を用いた積極的な情報公開により公平性・透明性の拡大を図る。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	判定の理由
A	随意契約の見直しや一者応札の削減、公募・企画競争に係るマニュアルの整備等、前年度に引き続き努力し、公平性・透明性の拡大を図っていることは評価できる。特に高額工事について、従来委託して行っていた監督・検収をNWEC側で独自に行い、経費削減に繋げる等努力がうかがえる。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅳ-(2))	(2)外部資金の導入
年度計画の項目 (Ⅳ-(2))	(2)外部資金の導入

事業名	外部資金の導入
事業概要	科学研究費補助金等の申請や国・民間企業等からの受託事業等の積極的な受け入れを行い、外部資金を確保する。
担当課室	全課室
スタッフ	理事長、理事、全職員 計26名

年度実績概要	
1. 受託事業経費 平成24年度は、独立行政法人2機関から合計4,974千円の事業を受託。前年度比16,208千円減 【平成23年度実績：2件、21,182千円】	
2. 科学研究費補助金 平成24年度は、5件、合計21,400千円を獲得。前年度比11,100千円増 【平成23年度実績：3件、10,300千円】	
3. 寄附金収入 平成24年度は、目的寄附金など、11件、合計813千円の収入。前年度比6,250千円減 【平成23年度実績：14件、7,063千円】	
実績を裏付けるデータ	【】内は23年度
1. 受託事業経費(会計係)	
(1) 女子中高生夏の学校2012(独立行政法人科学技術振興機構JST)	2,098千円【 0千円】
(2) 地域別研修 (独立行政法人国際協力機構 JICA)	2,876千円【1,583千円】
(3) 配偶者からの暴力被害者支援セミナー(内閣府)	0千円【19,599千円】
2. 科学研究費補助金(総務係)	
(1) 女性のキャリア形成に関する実証的・実践的研究	3,500千円【3,500千円】
(2) 地域の男女共同参画の取組を核とした移民女性のエンパワーメント支援に関する研究	5,700千円【6,100千円】
(3) 若年ホームレスの生活支援と就労意欲の醸成のためのシステム構築に関する研究	1,500千円【 700千円】
(4) 日本女性のミニコミ誌データベース	8,000千円【 0千円】
(5) 女性研究支援者のためのシステムの構築と政策提言のための研究	2,700千円【 0千円】
3. 寄附金収入(会計係)	
(1) 女性アーカイブ寄附金	100千円【5,350千円】
(2) 科学・技術分野の女性人材育成支援事業支援寄附金	576千円【 0千円】
(3) 女性教育振興寄附金	137千円【1,633千円】

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性: 独立行政法人の運営費が確実に削減されていく中で、受託や科研費を活用しながらの事業運営を図ることは時宜に適っている。 独創性: 男女共同参画推進や女性のエンパワーメントというテーマで資金獲得を進めているのはNVECならではの成果である。 発展性: 科学研究費補助金の獲得により実施される研究成果が、研修プログラムの開発にも活用されており、NVECの事業運営形態を活かした発展的な取組であると言える。 効率性: 科学研究費補助金の採択率が100%であることは、採択のために必要とされる業務及び時間が極めて効率的に投入されていると言える。 また、23年度まで受託していた内閣府の「配偶者からの暴力被害者支援セミナー」については、収入額と経費のバランス、職員の業務負担とNVECが得られる事業成果を測った結果、24年度から受託しなかった判断も、効率的であると言える。					

2. 定量的評価

観 点	受託事業経費	科研費獲得額	寄附金収入額		
判 定	B	A	B		
1. 受託事業経費 4,974千円【昨年比16,208千円減】 2. 科学研究費補助金獲得額 21,400千円【昨年比11,100千円増】 3. 寄附金収入額 813千円【昨年比 6,170千円減】					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判 定	判定の理由
A	受託事業経費は昨年度を下回っているが、収入額と経費のバランス、職員の業務負担とNVECが得られる事業成果を測った結果であり、合理的判断の結果と言える。科学研究費補助金については、前年度を上回る額を獲得しており、その採択率とともに、評価できる。
達成	

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
引き続き、外部資金導入を促進するが、特に受託事業については、収入額と事業実施にかかる経費のバランスを測りつつ、人件費をはじめとする事実上の持ち出しがないかどうかを見極めながら決定していく。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	判定の理由
A	受託事業経費と寄附金収入額は昨年度実績を下回っているが、業務量全体を踏まえ、費用対効果を勘案しての合理的判断と思われる。一方、科学研究費補助金については、多岐にわたる分野の適切な研究テーマを申請しており、ナショナルセンターの機能強化として評価できる。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅳ-(3))	(3) 自己収入の拡大
年度計画の項目 (Ⅳ-(3))	(3) 自己収入の拡大

事業名	自己収入の拡大
事業概要	積極的な広報活動や新たな利用者層の開拓、寄附金の拡大など自主的な取り組みのほか、受益者の負担を適正なものとする観点から、情報センターのデータベース利用に一部受益者負担を導入すること等により、自己収入を拡大する。
担当課室	全課室
スタッフ	理事長、理事、全職員 計26名

年度実績概要	
1. 積極的な広報活動(広報実施計画の実施状況) NWEC及び内閣府・文部科学省、嵐山町の広報誌、メールマガジン等を通して、主催事業の参加者募集をはじめ、女性アーカイブセンターの企画展示等、NWECの取組について積極的に広報を行った。また、内閣府や文部科学省が実施する全国的な会議や研修・イベント等の際に、利用案内チラシ・パンフレットやNWEC概要チラシ等の配布を積極的に行った。 また、NWECホームページにおいて「ヌエッキーのつぶやき」を通じて利用団体やその利用内容、ボランティア活動、海外等からの来訪者、施設等の紹介を行うことにより、実施している事業だけでなくNWECの様々な取組を幅広く、わかりやすく情報発信した。 2. 自己収入増加に向けた取組状況 (1)「利用拡大戦略」について、効率性と費用面の双方から、当初計画について見直しを行い、大学等への個別訪問ではなく、埼玉県経営者協会等新たな協力先を通じた利用案内の配布等を実施した。大学等へはNWEC利用モデルプラン等を掲載したチラシを過去主催事業に参加した大学等へ直接送付し、ゼミ等への利用を働きかけた。また、響書院を利用したモデルプランを掲載したチラシも作成し、各大学の部活動並びに文化団体等へも利用の働きかけを行った。大学・企業の利用促進など新規利用者の開拓を進め、企業向けセミナーの実施や利用案内の積極的な配布、理事長自らの企業関係者等への声かけを行い利用促進を図ったことにより、前年度と比較して利用団体数や宿泊利用人数が増加した。 (2)閑散期における映画等撮影の積極的な勧奨を行い、NWECの敷地を利用した映画・ドラマの撮影申し込みに対し、利用者の研修の妨げにならない範囲で受け入れ、24年度は4本の撮影利用により219千円の収入を得た。 (3)積極的な外部資金の導入を進め、受託事業2件、科学研究費補助金5件、寄附金11件を獲得した。 (4)主催事業において、これまで無料であった受講料・資料代の一部を参加者負担とした。 ・企業を成長に導く女性活躍促進セミナー(第1回):受講料 3,000円 ・女子学生のためのキャリア形成講座 :資料代 1,500円 3. 情報センターのデータベース利用に対する一部受益者負担の導入 平成24年度は、一部受益者負担に向け、認証システムの導入実験を完了、システム安全性を確認した。	
実績を裏付けるデータ	
自己収入の実績 (1)受託事業収入 4,973千円【前年度21,182千円】 (2)科学研究費補助金収入 21,400千円【前年度10,300千円】 (3)寄附金収入 813千円【前年度6,983千円】 (4)研修施設使用料金収入 93,411千円【前年度78,696千円】 (5)映画等撮影収入 219千円【前年度0千円】 (6)研修等参加費用 234千円【前年度0千円】 (7)その他雑収入(科学研究費補助金間接経費、文献複写料、職員講演料等) 5,172千円【前年度5,599千円】	

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	A	A	
適時性: 研修内容の質を高め、資料代金の徴収を開始したことは、今後のNVECの継続的な事業展開を進める上で、時宜に適った取組と言える。 独創性: 研修施設や敷地の一部を活用し、閑散期に映画・テレビドラマ撮影を積極的に受け入れたことは、NVECの財産を活用した独自の工夫と言える。番組テロップにNVECの名前を流し、併せてPRを行っている点も評価できる。 発展性: 一部の研修において参加費や資料代を有料化したことは今後の収入増に向けた取り組みとして評価できる。 効率性: 宿泊者を増やすため、従来実施していたアンケートに加え、主として宿泊利用者を対象とした個別アンケートを実施し、特に要望が多かった施設を重点的に改修等している点は効率性において評価できる。					

2. 定量的評価

観 点	研修施設使用収入	研修参加料収入	映画等撮影収入		
判 定	A	A	A		
1. 研修施設使用収入 93,411千円【前年度 78,696千円】 2. 映画等撮影収入 219千円【前年度 0千円】 3. 研修参加料収入 234千円【前年度 0千円】					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	利用拡大戦略に基づき、限られた職員数、経費の中で効率的に利用を呼び込むための努力を継続しており、研修施設使用収入の増加につながっている。
達成	閑散期における映画等撮影の積極的な呼び込みや、従来無料で実施してきたセミナー等の一部有料化など、今後の自己収入増に結びつく取組が積極的に開始されており、発展的に進んでいる。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
研修施設利用を着実に増やすとともに、特に企業や大学を対象としたセミナー等の有料化の拡大をはじめ、新たな自己収入増のためのシステムづくりの検討を引き続き進めていく。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	判定の理由
A	わかりやすい情報発信や重点的な利用拡大のための働きかけ等の様々な努力が、使用料金の改定にもかかわらず利用団体数の拡大や宿泊利用人数の増に結びつき、収入増に繋がっている。加えて、データベースの一部受益者負担や受講料・資料代の一部参加者負担などの取組も積極的に行うとともに、アンケートを踏まえた施設の重点的改修等にも取り組んでいることは、中期的視野での利用者の拡大に繋がって評価できる。
達成	

業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅷ-4・5)	Ⅷ その他主務省令で定める業務運営に関する事項 4 施設・設備の計画的整備、快適な環境構築 5 情報セキュリティ体制の充実
年度計画の項目 (Ⅷ-(1))	Ⅷ その他主務省令で定める業務運営に関する事項 (1) 情報セキュリティ体制の充実

事業名	施設・設備の計画的設備、快適な環境構築及び情報セキュリティ体制の充実
事業概要	1. 長期的視野に立った保守・管理を行うとともに、利用者が安全で快適に利用できる環境を提供するため、必要な施設・設備の改修等を計画的に進める。 2. 施設の有効活用のための工夫に努めるべく、個々の施設の有用性についての検証を行い、具体的措置を講ずる。 3. 情報の安全管理を徹底するため、セキュリティポリシーの見直しを定期的に行うとともに、職員研修を実施する。
担当課室	総務課
スタッフ	総務課長、会計係長、専門職員(2)、係員 計5名

年度実績概要	1. 施設・設備の計画的整備、快適な環境構築 (1) 安全で快適な環境を提供するための施設計画 ○ロビー中央にある階段下スペースを改修し、美しくパネル展示ができるコーナーを設置するとともに、これまで丸見えだった机や黒板などの備品をきちんと納められるような収納スペースを確保、来館者の第一印象アップに努めた。 ○国際会議室としても利用される大会議室のプロジェクターについて、これまでは貸出し形式だったものを常設とした。 ○宿泊施設を全室禁煙にすることを7月に決定し、25年8月より実施することとした。 ○B・C棟(和室宿泊施設)の共同トイレについて、ウォシュレットとウォームレット機能を付けた。 (2) 施設の有効活用のための取組 ○地元菅谷小学校のマラソン大会の会場として敷地の利用を承諾(12月)するとともに、同校生徒の美術作品の展示をロビーで実施した。(3月) ○来館者の学習に資するよう、ロビーに男女共同参画に関するパネルを常設展示した。 2. 情報セキュリティ体制の充実 (1) セキュリティポリシーの見直し状況 セキュリティポリシーに基づく実施手順について、現実に即しているか検討を行い、情報を守るためにデータセンター及びクラウドシステムへの移行を行うことが有効との結論を得た。 (今後、移行に向けた具体的調査を実施する予定。) (2) 職員研修の実施 セキュリティポリシーに関する職員研修を実施し、身近なセキュリティ対策について周知を図った。
実績を裏付けるデータ	1. 施設に対する利用者の評価 NWECを利用する団体及び個人に対し、退館時に提出する「利用者カード」により、施設等に対する評価を調査した結果、「非常に快適だった」「快適だった」で示される満足度が合計98.0%であった。 【前年度実績 97.2%】 2. セキュリティポリシー研修 平成25年3月22日

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判定	A	A	A	A	
適時性: 定期的な研修及び機会あるごとに情報セキュリティに関する注意喚起によって職員のセキュリティに関する関心を高めることができている。 独創性: 地元小学校の行事を呼び込むことで、施設を有効活用するとともに、若年層やその保護者の来館を呼び込み、NWECについて広報する機会としている。 発展性: 全室禁煙や会議室の性能向上、共同トイレの改修などにより、利用者にとっての環境が整備されたことは、今後の利用率アップにつながると思われる。 効率性: 環境整備のための庭園管理業務について、1～3月の作業人数を業務量に応じて減じるなど、園庭作業日数について細かく調整し、節約を図った。					

2. 定量的評価

観点	利用者の満足度	セキュリティポリシー研修の実施	セキュリティに関するトラブル件数		
判定	A	A	A		
○「利用者カード」による設備等についての満足度 98.0%【前年度実績 97.2%】 ○ 年度計画に記載されるセキュリティポリシーに関する研修を確実に実施した。(平成25年3月22日) ○ 不正アクセス、ウイルス・不正プログラム感染等により、利用者に被害を与えることがなかった。					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	来館者への印象を高めるためロビー下の階段工事を行い展示スペースとして活用できるようにしたことや、会議室の備品を充実させたり宿泊環境を整えたことは、利用者に快適な研修環境を提供するための工夫として評価できる。
達成	セキュリティポリシーについても、見直しを通して更に充実したシステム構築を検討しているとともに、決められた研修を確実に実施している。このような不断の取組によってセキュリティトラブルが0であったことは評価できる。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
セキュリティに関する人材が不足している。計画的・定期的な職員研修の充実によって人材育成を図っていく。

5. 外部評価委員会の評価、意見

総合評価	判定の理由
A	安全で快適な環境を提供するための日常的な努力を重ねており、その努力は満足度98%という数値に表れている。また、情報セキュリティ体制について職員研修の充実や今後の移行に向けた調査を計画する等、継続的に努力しており評価できる。
達成	

6. 外部評価の観点

- ◆ 評価の基本： ナショナルセンターとしての役割
男女共同参画推進の中核機関
公共性を実現する機関

評価の観点	評価する際に手がかりとなる事項の例
独自性・先駆性を有する事業を企画実施しているか 〔独自性・先駆性〕	・ 先行事例の有無 ・ 事業内容（プログラム・方法・対象者など）の分析
新たな社会的課題の解決に向けて積極的に取り組んでいるか 〔現代的課題性〕	・ 事業内容（プログラム・方法・対象者など）の分析
事業内容がよい事例として全国に広まっているか 〔モデル性〕	・ 他機関の事業内容の分析 ・ 事業内容に対する事業参加者の意見 ・ 事業内容に対する専門家（研究者、実践者）の意見
事業内容が日本を代表するものとして国際社会において一定の役割を果たしているか 〔国際性〕	・ 他国における同種の機関との関係 ・ 国内における代替可能な機関の有無 ・ 海外の専門家の評価
事業の成果が国や地方公共団体における政策の企画実施に役立っているか 〔政策性〕	・ 国や地方公共団体の政策担当者の意見 ・ 事業内容に対する専門家（研究者、実践者）の意見
事業内容が高度な専門性をもつものとして地域の関係機関の活動により影響を与えているか 〔高度専門性〕	・ 事業実施後における地域の関係機関の活動内容 ・ 事業内容に対する専門家（特に地域の研究者や実践者）の意見
事業の成果が参加者以外にも波及しているか 〔波及性・普及性〕	・ 事業参加者が中心となって行う講習会等の有無 ・ 事業に関連する分野における団体の数及びそれらの事業内容
会館のもつ内部資源を有効に活用しているか 〔内部資源の有効活用〕	・ 内部資源の把握とそれらに着目した事業内容の分析
関係する機関や団体のネットワークの形成を促しているか 〔ネットワークの促進〕	・ ネットワーク形成に関する専門家（研究者や実践者）の意見
様々なレベルで関係者の交流を促しているか 〔交流の促進〕	・ 交流事業の内容（プログラム・方法・対象者など）分析 ・ 交流事業参加者の事業後のフォローアップ
事業成果を他の事業に活用しているか 〔事業成果の有効活用〕	・ 事業の成果の把握とそれらに着目した事業内容の分析
最小の投入で最大の効果を上げるという点から事業の企画実施に創意工夫を行っているか 〔効率性〕	・ 事業内容（プログラム・方法・対象者など）の分析
宿泊施設を有意義に活用しているか 〔施設の有効活用〕	・ 宿泊に関わる事業に参加した者や関係者の意見
評価の結果を積極的に改善に結びつけているか 〔評価結果の有効活用〕	・ 評価結果の把握とそれらに着目した事業計画の分析

7. 独立行政法人国立女性教育会館の業務運営に関する計画（平成24年度）

平成24年3月30日

文部科学大臣へ届け出

独立行政法人通則法（平成十一年法律第百三十三号）第三十一条の規程により、独立行政法人国立女性教育会館中期計画（平成23年3月31日文部科学省大臣認可）に基づき、平成24年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。

Ⅰ 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとすべき措置

1 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上

（1）基幹的指導者に対する研修等の実施

①女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修

- ・全国の女性関連施設の管理職、男女共同参画行政責任者、女性団体のリーダー等を対象に、地域の男女共同参画を積極的に推進するリーダーとして必要な専門的知識、マネジメント能力、ネットワークの活用等、高度で専門的、実践的な研修を実施する。
- ・研修実施にあたり、参加者の85%以上からプラス評価を得る。
- ・研修事後に実施するフォローアップ調査の回収率を高めるとともに、研修成果の活用について、回答者の80%以上からプラス評価を得る。
- ・参加者の地域的なバランスを促進するため、計画的な取組を行う。

②大学職員のための男女共同参画推進研修

- ・大学等の男女共同参画部局の責任者を対象に、男女共同参画意識の学内への浸透方法、女性リーダーの養成方策、地域の女性関連施設との連携方策等、高度で専門的、実践的な研修を実施する。
- ・研修実施にあたり、参加者の85%以上からプラス評価を得る。

（2）基幹的指導者に対する研修に資する調査研究の実施、学習プログラム、研修資料の作成

①女性関連施設に関する調査研究

- ・女性関連施設の機能の充実・強化を図るため、指定管理、人材育成等新たな課題の実態把握と分析をテーマに5年計画で行う調査研究の2年次として、女性関連施設の災害に関する実態調査を実施し、報告書を作成する。
- ・作成した資料を用いた研修について、事後に実施するフォローアップ調査の充実を図り、研修の成果を的確に把握することにより、研修内容を見直す。

2 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する喫緊の課題に係る学習プログラムの開発・普及

（1）喫緊の課題に関する先駆的調査研究の実施

①地域課題の解決と女性の経済的自立に関する調査研究及びプログラム開発

地域活動による経済的自立の促進をテーマに2年計画で行う調査研究の2年次として、起業やコミュニティ・ビジネス支援のための講座を行っている女性関連施設等を対象にプログラムを開発・実施し、報告書を作成する。

②男性の家庭・地域への参画を促進するための調査研究及びプログラム開発

男性の家庭・地域への参画促進をテーマに2年計画で行う調査研究の2年次として、男性の家庭・地域への参画を促進するためのプログラムを開発・実施し、参考資料を作成する。

(2) 喫緊の課題を担当する指導者に対する先駆的研修の実施

①男女共同参画の視点に立った多様なキャリア形成支援研修

・多様なキャリアを踏まえつつ個人の活動を社会に結びつける視点を導入するとともに、長期的な視野に立ったキャリア形成支援に資するように、女性関連施設・大学等のキャリア形成支援者等を対象に、これまでの調査研究の成果を活用し、女性のキャリア形成支援を内容とする専門的・実践的研修を行う。

・研修実施にあたり、参加者の85%以上からのプラス評価を得る。

・研修事後に実施するフォローアップ調査の回収率を高めるとともに、研修成果の活用について、回答者の80%以上からプラス評価を得る。

・フォローアップ調査の充実を図り、研修の成果を的確に把握することにより、研修内容を見直す。

・地方公共団体等が同課題に関する研修等を独自に実施・企画する力を育成するため、地域の女性関連施設等と協働して、地域の実情に応じた学習プログラムを開発する。本年度は、3年計画の2年次として、学習プログラムのモデル的实施に向けて協働で準備を進める。

②大学生を対象とした男女共同参画の視点に立った複合的キャリア教育の推進

・大学等におけるキャリア教育の充実に資するように、大学等と会館が協力して、会館が所蔵する「社会活動キャリア形成事例」や女性アーカイブセンター資料等を活用した学生を対象とするキャリア教育をモデル的に2校以上で実施する。

・キャリア教育実施にあたり、学生の85%以上からのプラス評価を得る。

③女性関連施設相談員研修

・女性のエンパワーメント支援を目指し、複雑・多様化する女性の悩みに適切に対応できる相談体制を構築するため、女性関連施設や民間事業者が主催する相談所において相談業務に携わる者を対象に、女性の貧困や経済的自立など喫緊の課題解決に必要な智識や相談技能の習得を内容とした専門的・実践的研修を行う。

・研修実施にあたり、参加者の85%以上からのプラス評価を得る。

④家庭教育・次世代育成指導者研修

・全国の家庭教育・次世代育成支援の行政担当者、子育て支援に携わる団体のリーダー、企業の次世代育成支援担当者等を対象に、これまでの調査研究で得られた成果を活用し、社会全体での家庭教育・次世代育成支援に向け様々な機関、企業が連携して取り組んでいる事例や男性

の子育て参画に関する事例を研修内容に取上げ、男女共同参画の視点から、参加者が日常抱えている課題の解決に向けた専門的・実践的研修プログラムを開発し、実施する。

- ・研修実施にあたり、参加者の８５％以上からのプラス評価を得る。

⑤行政や関係機関と連携した喫緊の課題に対応した研修

社会が抱える様々な喫緊の課題を解決するために、行政や関係機関等が実施する研修について、これまで会館が実施してきた研修の経験や女性教育、男女共同参画等に関する専門的知識を活かし、連携して実施する。

３．男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する調査研究の成果や資料・情報の提供等

（１）地域の機関で活用しうる男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する基礎的な研究の成果の提供

①男女共同参画統計に関する調査研究

- ・本調査の成果として「統計リーフレット」を作成し、ホームページ等を通じ普及する。
- ・統計調査の成果等を提供する「男女共同参画統計ニュースレター」の配信先を１６００件まで拡充する。

②調査研究成果の普及

- ・基幹的指導者の資質・能力の向上及び喫緊の課題をテーマとして実施した調査研究の成果について、ホームページや地域共同リポジトリ等を通じて普及する。

（２）全国的な資料・情報の収集、利用しやすいポータルとデータベースの構築、資料等の提供

①男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する情報資料の収集・整理・提供

- ・引き続き、地域レベルでは収集困難な広域的、専門的な資料・情報の収集に重点化を図る。
本年度は、大学の男女共同参画部署が発行する資料の収集を行い、充実を進める。
- ・これら収集資料等を整理し、文献情報データベースを通じて迅速に目録情報を公開・提供する。
- ・会館の調査研究事業、研修事業の主題に関する資料・情報の収集に努め、会館事業をサポートする。

②女性情報ポータル及びデータベースの整備充実

- ・文献情報データベース及び独自の調査に基づく各種データベースについて、５４万件以上のデータベース化を達成する。
- ・女性情報ポータルへのアクセスについて年間２７万件以上を達成する。

③資料・情報の館外への貸し出し

各施設における男女共同参画を推進するため、各施設の活動に沿ったテーマ毎にパッケージ化した図書の貸し出しを４機関以上に対して実施する。

（３）女性アーカイブ機能の充実

①女性アーカイブ機能の充実

- ・歴史的価値、研究資料的価値を有する女性関連史・資料を１千点以上収集・整理し、女性アーカイブセンター及び女性デジタルアーカイブシステムを通じて利用に資するとともに、インターネットを通じて広く一般に公開する。
- ・会館のもつ全国の女性センターとのネットワークを活かし、他機関と連携して、東日本大震災に関する史・資料のアーカイブ化を進める。
- ・展示室への入室について、累計１万七千人以上を達成する。
- ・女性アーカイブの企画展を他機関と連携して実施する。

②女性情報アーキビスト養成研修（入門）

- ・女性アーカイブの具体的な保存技術や整理方法を体系的に学ぶ最初の一步として、実務者２０名以上を対象に基礎情報を提供する女性情報アーキビスト養成研修を実施する。また、実務者同士の情報交換の場を提供することでネットワークづくりを推進する。
- ・本年度は、入門研修の修了者１０名を対象に、女性アーカイブの保存や整理に必要な基本的な実技を学ぶ実技コースを試験的に実施する。

４ 男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する国内の関係機関・団体等との連携協力の推進

（１）国内の関係機関・団体等との協働事業の実施

- ・女性関連施設、女性団体、民間団体、企業、大学等と男女共同参画・女性教育・家庭教育に関する情報交換を行うとともに、７以上の機関等と協働で事業を実施し、連携効果による多様な企画や講師の活用を図る。
- ・全国の関係機関・団体からの依頼に基づき、積極的に職員を派遣する。

（２）交流機会の提供による会館を中心としたネットワークの構築

①男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム（NWE Cフォーラム）

- ・全国の男女共同参画・女性教育・家庭教育等の行政担当者、女性関連施設職員、女性団体等のリーダー、研究者、大学、企業等を対象に交流の機会を提供するため１千名以上の参加を募るフォーラムを開催する。
- ・交流機会の提供については、大学、企業等からの参加を促進する。

②交流学习会議

地域における男女共同参画を推進するため、これまで会館の研修・交流事業に参加した者が地域に戻って実践したことを報告し合い学習する機会を設定し、各地の先進事例や地域における課題等を共有するとともに、女性関連施設等の関連機関や女性団体・グループ等の連携・協働の促進に向けての意見交換を行いネットワークを形成し、会館と地域との連携を促進する。

③男女共同参画交流特別週間（らんざん交流ウィーク）

女性団体等が相互に参加者同士の交流や情報交換を行える機会として男女共同参画交流特別週間を提供するなど、その活動を支援する。

5 男女共同参画及び女性教育に関する国際貢献、連携協力の推進

(1) 男女共同参画及び女性教育に関する国際協力、連携に資する研修の実施

①アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー

- ・開発途上国等において男女共同参画の政策策定ならびに政策提言を行う立場にある女性行政・教育担当者及びNGOのリーダーを対象に、女性の能力開発に係る喫緊の課題をテーマとした参加型の実践的なセミナーを行う。
- ・研修実施にあたり、参加者の90%以上からプラス評価を得る。
- ・研修修了生等による出身国での成果の活用についての調査を行い、同調査の結果等を踏まえ、研修の効果的な実施の観点から、研修内容等の見直しを行う。

②国際協力機構との連携による研修

国際協力機構が実施する開発途上国の行政職員等を対象とした研修について、男女共同参画、女性教育に関する専門的な観点から連携して実施する。

③NWE C国際シンポジウム

- ・女性の人権やエンパワーメントに係る地球規模の課題をテーマに海外の専門家を招へいするNWE C国際シンポジウムを開催し、アジア太平洋地域の課題分析を行い、海外の研究者や行政関係者・女性団体等指導者との交流を深めるとともに、意見交換を行う。
- ・研修実施にあたり、参加者の85%以上からプラス評価を得る。

(2) 地球規模の課題についての調査研究の実施

○外国人女性の困難等への支援に関する調査研究の実施

外国人女性の抱える困難等の実態と課題解決に向けた教育・啓発をテーマに3年計画で行う調査研究の2年次として、1年次の成果を踏まえ、外国人女性の抱える困難等の実態と課題解決に向けた学習活動等に関する事例について調査を行う。

(3) 国際的なネットワークの構築

- ・研修修了生等に対し、研修終了後の定期的なメール送信や議論の呼びかけを通じネットワーク構築を図る。
- ・研修成果について、「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム」におけるパネル展示や英文報告書の会館ホームページへの掲載等の方法により国内外に普及する。
- ・これまで実施した調査研究の成果を普及するための会議を、海外の2機関以上と連携して開催する。

6 会館利用者への男女共同参画及び女性教育に関する理解の促進・利用の促進

(1) 利用者への学習支援

- ・施設を利用する団体・グループ・個人が企画・実施する研修等のプログラムについての学習相談を受け、研修プログラム作成を支援する。
- ・会館が有する専門性を活かして男女共同参画や女性教育に関する学習機会を提供する。

- ・インターネットで提供する学習教材について、平成２３年度の検討結果をもとにテーマを確定する。

（２）利用の拡大

- ・利用拡大戦略（年度）を作成し、企業・大学向けのサンプルプランの作成・提案を行うなど大学・企業等からの利用を促進する。

Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

１ 適切な法人運営体制の充実

（１）ガバナンス・内部統制の充実

- ・原則として毎週、係長以上が参加する運営会議を開催し、理事長のリーダーシップのもと、会館が担う役割やリスク等の課題について職員全員が情報を共有する。
- ・職員の業務遂行に関する資質・能力の向上を目的とした研修を実施する。
- ・リスク低減に向けた規程等についての見直しを行い、職員全員に周知徹底する。
- ・会館の業務の有効性・効率性、法令の遵守、財務会計の透明性等の観点から職員全員を対象としたモニタリングを実施するとともに、結果については役職員に周知し、必要に応じて組織運営の改善に反映させる。

２ 人件費・管理運営の適正化

（１）人件費・管理運営の適正化

- ・政府における総人件費削減の取組を踏まえた見直しを行う。
- ・関係機関・団体との連携による経費等の削減に努める。
- ・関係機関・団体との人事交流や客員研究員等外部人材の活用など、多様な人材を確保することにより、組織を活性化する。

（２）保有資産の見直し

- ・保有資産について、運営会議等において見直しの検討を行い、外部評価委員会等において検証する。

３ 業務運営の改善

（１）業務運営の改善

- ・効果的・効率的な業務運営を行う観点から、事務・事業の見直し、検証を定期的運営会議で行い、業務運営に反映させる。
- ・積極的に事務事業の外部委託を進めるとともに、必要に応じて組織の再編等を行う。

（２）人材育成、多様な人材の活用

- ・職員の資質・業務遂行能力の向上に資するため研修を実施する。
- ・外部人材の活用による組織の活性化について、引き続き検討を行う。

４ 業務運営の点検・評価

（１）自己点検・評価等による業務の改善

- ・自己点検・評価委員会による評価を実施する。その際、各事業間の有機的連携を重視した自己点検・評価を行う。
- ・自己点検と連動した外部評価を実施する。
- ・評価結果をホームページで公表する。

Ⅲ 予算・収支計画及び資金計画

収入面に関しては、実績を勘案しつつ、外部資金等を積極的に導入することにより、計画的な運営を行う。また、管理業務の効率化を進める観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算により運営する。

- 1 予算（人件費の見積もりを含む。）
別紙１のとおり
- 2 収支計画
別紙２のとおり
- 3 資金計画
別紙３のとおり

Ⅳ 財務内容の改善に関する事項

（１）契約の点検・見直し

- ・引き続き、入札可能な契約案件については一般競争入札を実施する。
- ・一者応札となった契約については、公告期間、入札参加条件、仕様書の見直し等の改善を行い、一者応札の削減を図るとともに、契約監視委員会等による定期的な契約点検を実施する。

（２）外部資金の導入

科学研究費補助金等の申請や国・民間企業等からの受託事業等の積極的な受入れを行い、外部資金を確保する。

（３）自己収入の拡大

- ・宿泊室利用率の向上等により、自己収入の拡大を図る。
- ・会館の活動について、広報実施計画（年度）を策定し、会館の利用促進を図る。

Ⅴ 短期借入金の限度額

短期借入金の限度額は１億４千万円。短期借入金が想定されるのは、運営費交付金の受入れに遅延が生じた場合である。

Ⅵ 剰余金の使途

会館の決算において、剰余金が生じたときは、研修事業、情報事業、調査研究事業及び交流事業の充実に充てる。

Ⅵ 剰余金の使途

会館の決算において、剰余金が生じたときは、研修事業、情報事業、調査研究事業及び交流事業の充実に充てる。

Ⅶ その他主務省令で定める業務運営に関する事項

(1) 情報セキュリティ体制の充実

セキュリティポリシーに関する職員研修を実施する。

(以上)

8. 平成25年度 国立女性教育会館外部評価委員会委員名簿

天 野 正 子（東京家政学院大学学長）

犬 塚 協 太（静岡県立大学国際関係学部国際関係学科教授、
静岡県立大学男女共同参画推進センター長）

菊 川 律 子（国立大学法人九州大学理事）

斎 藤 悦 子（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科准教授）

○笹 井 宏 益（国立教育政策研究所生涯学習政策研究部長）

夏 目 智 子（全国地域婦人団体連絡協議会事務局長）

（○座長、五十音順）

9. 独立行政法人国立女性教育会館外部評価委員会規程

(設置)

第1条 独立行政法人国立女性教育会館（以下「会館」という。）に、独立行政法人国立女性教育会館外部評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(役割)

第2条 委員会は、会館が実施した業務の実績に関し客観性を持った質の高い評価を行うと共に、評価を踏まえた今後の事業活動の充実及び活動内容の在り方に資する提言を行う。

(委員)

第3条 委員会は、会館の業務に関し識見を有するもののうちから、理事長が委嘱する8名以内の委員で構成する。

(委嘱期間)

第4条 前条に規定する委員の委嘱期間は2年とし、再任を妨げない。

2 委員に欠員を生じた場合の補欠委員の委嘱期間は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長及び副委員長は、第3条の委員のうちから、委員の互選により選出する。

3 委員長は、委員会を召集し、その議長となる。

4 委員長に事故があるときは、副委員長が、その職務を代理する。

(関係者の出席)

第6条 委員会は、必要があるときは関係者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 委員会に関する事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は別に定める。

附 則

1 この規則は平成18年2月10日から施行する。

2 この規程の施行後、最初及び委員長が置かれていないときに召集される委員会の会議は、第5条第3項の規定にかかわらず、理事長が召集する。

10. 自己点検評価調書の記載について

1. 定性的評価の観点について

○各業務区分に応じた定性的評価の観点については、基本的な考え方は記のとおり。特段の事情がある場合などで、このほかの観点を使用する事が適当と思われるときは、任意に観点を設ける事も可能です。

適時性：喫緊の課題を踏まえたプログラムの実施や男女共同参画基本法等の政策との関連点等、時宜に合わせてその事業を実施することが、男女共同参画の推進等に資することを示すもの。

独創性：独自の視点による調査研究や先進的なプログラムの作成等、「国立女性教育会館ならではの」高い専門性等を示すもの。

発展性：会館で作成されたプログラム等をモデルとした地方の活動事例、研修やフォーラムをきっかけに拡大した女性関連団体等のネットワーク等、会館が提供した情報等で男女共同参画の展開に資するもの。

効率性：事業をより円滑に実施するための取組等を示すもの。

評価の観点	適時性	独創性	発展性	効率性
観点の考え方	・ 政策性 ・ 必要性 ・ 国際性 ・ 緊急性 ・ ナショナルセンターとしての対応	・ 独自性 ・ 新規性 ・ 先駆性 ・ 高度専門性	・ 影響性 ・ 汎用性 ・ 応用性 ・ 多様性 ・ 将来性 ・ モデル性	・ 時間的投資 ・ 人的投資 ・ 設備的投資 ・ 内部資源の活用 ・ 施設の有効活用 ・ 他機関との連携

○定性的評価の基準

(S：極めて顕著な成果が認められる)

A：十分に成果が認められる

B：概ね成果が認められる

C：一部成果が認められる

D：成果が認められない

2. 定量的評価の観点について

定量的評価の観点については、原則として、中期計画、年度計画に数値的目標が掲げられていると
 かりに文部科学省独立行政法人評価委員会の指標を準用し設定した。なお、それ以外の定量的評価の指標
 については、他の指標との整合性等を考慮し独自に作成した。

事業区分	評価観点	評価基準				
		S	A	B	C	D
研修事業	応募倍率		100%以上	99～90%	89～70%	69%以下
	プログラムの有用度		80%以上	79～70%	69～60%	59%以下
	影響評価		80%以上	79～70%	69～60%	59%以下
調査研究事業	プログラムの有用度		80%以上	79～70%	69～60%	59%以下
	情報提供数（※1）		5回以上	4～3回	2～1回	0回
	プログラム・参考資料 作成数（延べ）		4件	3件	2件	1件
交流事業	プログラムの有用度		80%以上	79～70%	69～60%	59%以下
	影響評価		80%以上	79～70%	69～60%	59%以下
情報事業 （※2）	資料等利用者数		6,000人 以上	5,999～ 5,800人	5,799～ 5,500人	5,499人 以下
	利用者の満足度		80%以上	79～70%	69～60%	59%以下
	データベース化件数		500,000件 以上	500,000件 以上	499,999～ 490,000件	489,999～ 480,000件
	アクセス件数		120,000件 以上	119,999～ 117,000件	116,999～ 114,000件	113,999件 以下
	資料収集数（延べ）		5,000点 以上	3,700点 以上	3,699～ 3,000点	2,999点 以下
	資料等利用者数					
	資料等利用者数					
理解・利用の 促進	学習相談利用者の満足		80%以上	79～70%	69～60%	59%以下
	プログラム作成数		3種類以上	2種類	1種類	無し
	宿泊利用率		50%以上	45%以上	45%未満	42.5%未満
	利用者数		122,100人 以上	122,099～ 119,300人	119,299～ 116,600人	116,599人 以下
	目的利用者数		61,100人 以上	61,099～ 58,700人	58,699～ 58,300人	58,299人 以下
	利用団体数		2,860団体 以上	2,859～ 2,800団体	2,799～ 2,730団体	2,729団体 以下
連携協力	共催・受託件数		6件以上	5件	4件	3件以下
国際関係	プログラムの有用度		80%以上	79～70%	69～60%	59%以下
	活用可能性		80%以上	79～70%	69～60%	59%以下
	連携機関数（延べ）		6機関以上	5機関	4機関	3機関以下
	プログラム・参考資料		2件	1件	0件	
業務の効率化 （平成17年度 の基準金額に 対する割合）	一般管理費効率化		85%以下	—	—	85%以上
	業務経費効率化		95%以下	—	—	85%以上
	人件費削減効率化		95%以下	—	—	85%以上

※1 男女共同参画に関する統計の調査研究に限る

※2 「資料等利用者数」「利用者の満足度」はセンターの運営、「データベース化件数」「アクセス件数」はポータルの充実、「資料収集数」「アクセス件数」「資料等利用者数」はアーカイブの構築に限る

3. 総合評価の判定基準の考え方

各観点評価の結果を基に、総合的判定を行うが、考え方は次のとおりとする。

S＝5点、A＝4点、B＝3点、C＝2点、D＝1点

<例>

4つの観点で評価し、Aが3つ、Bが1つの場合

$((4 \text{ 点} \times 3) + (3 \text{ 点} \times 1)) \div 4 = 3.75 \approx 4 \rightarrow \text{総合評価 A}$

※S評価については、文部科学省等からその根拠について詳細な確認を求められる傾向にあります。

判定結果をSとする場合、「評価の観点」に応じた明確な理由を「理由欄」に記述してください。

4. 中期計画の実施状況に関する判定の考え方

判定に使用する用語は、次のとおりとする。

- | | |
|---------|-----------------------------------|
| A 達成 | : 計画以上の成果が達成されている |
| B 順調 | : 計画通り実施されており、当該年度計画を95～100%達成 |
| C ほぼ順調 | : ほぼ計画通り実施されており、当該年度計画の達成率は80～94% |
| D 一部要注意 | : 一部計画の実施に支障があり、当該年度計画の達成率は50～79% |
| E 要注意 | : 計画の実施に注意が必要であり、当該年度計画の達成率は49%以下 |

参考資料編

平成24年度「女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修」 実施要項

1. 本研修の目的

本研修は、地域で男女共同参画を実現するために、持続可能な組織のあり方や、第3次男女共同参画基本計画を実現するための施策・事業のあり方を学びます。

また、女性関連施設管理職、地方公共団体職員及び女性団体リーダーとしてのエンパワーメントと連携・協働関係の構築を支援することを目的としています。

2. 本研修の特徴

- ①男女共同参画の視点を持ち、実態把握・課題分析を行い、実践に結びつけます。
- ②男女共同参画の中核となる人材のリーダーの関係力・連携力の向上を図ります。
- ③実践事例を重視し、課題解決につなげます。
- ④研修の成果を地域に持ち帰って実践し、振り返り、さらなる事業や活動へ活かす、というサイクルを考えたプログラムとなっています。

3. 主 催

独立行政法人国立女性教育会館

4. 共 催

NPO 法人全国女性会館協議会（女性関連施設管理職コースにおける共催となります）

5. 参 加 者

- (1) 女性関連施設管理職コース：60名
公私立女性会館・女性センター、男女共同参画センター等、男女共同参画社会の形成に向けた拠点としての女性関連施設の管理職等
- (2) 地方公共団体職員コース：30名
男女共同参画行政責任者
- (3) 女性団体リーダーコース：30名
地域で男女共同参画を推進する団体のリーダー（次世代リーダーを含む）

6. 第3次男女共同参画基本計画との関連

この研修は、男女共同参画基本計画（第3次）の、第3分野「男性、子どもにとっての男女共同参画」、第4分野「雇用等の分野における男女の均等な機会と待遇の確保」、第11分野「男女共同参画を推進し多様な選択を可能にする教育・学習の充実」、第14分野「地域、防災・環境その他の分野における男女共同参画の推進」の内容に対応しています。

7. 内容

第1日 6月13日(水)

(希望者のみ参加)

10:30~12:00

プレ・ワークショップ「男女共同参画社会の基礎知識」

主に初任者を対象として、日本における男女共同参画推進の歴史的背景など基礎知識を学びます。

講師：石崎 裕子 国立女性教育会館事業課専門職員

(1) 開会

13:00~13:20

①主催者あいさつ

内海 房子 国立女性教育会館理事長

②共催者あいさつ

桜井 陽子 NPO 法人全国女性会館協議会理事長

(2) プログラムの趣旨説明

13:20~13:25

森下 敏広 国立女性教育会館事業課専門職員

(3) 講義「男女共同参画を推進する視点とは」

13:30~14:00

★男女共同参画を推進する際に必要な視点について、理解を深めます。

講師：内海 房子 国立女性教育会館理事長

(4) 講義「男女共同参画社会形成に向けた今日の政策課題」

14:10~15:40

★男女共同参画社会形成に向けた施策の現状及び今後の方向性について理解を深めます。

★関係府省からの施策説明に加え、参加者の質疑応答から、今知りたい国の動向や、男女共同参画推進のポイントを探ります。

講師：大山 研次 内閣府男女共同参画局総務課課長補佐

講師：笹井 弘之 文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課課長

講師：篠崎 拓也 厚生労働省雇用均等・児童家庭局雇用均等政策課課長補佐

(5) 討議「課題整理のためのディスカッション」

15:50~17:00

★予算縮小、人員削減、庁内連携、地域住民への啓発、効果的な事業の進め方など、各施設、地方公共団体及び女性団体が抱える問題を整理し、課題を抽出・共有します。

＜女性関連施設管理職コース＞

報告者：納米 恵美子 公益財団法人横浜市男女共同参画推進協会事業本部長

＜地方公共団体職員コース＞

報告者：関口 隆 国立女性教育会館総務課長

＜女性団体リーダーコース＞

報告者：西山 恵美子 国立女性教育会館客員研究員

(6) 報告「男女共同参画社会形成に向けた課題を知る

～国立女性教育会館研究・調査事業の報告～ 17:10～17:50

★国立女性教育会館で実施した「男性の家庭・地域への参画を促進するための調査研究」について聞き、男女共同参画社会形成に向けた課題について視野を広げます。

講師：飯島 絵理 国立女性教育会館研究国際室客員研究員
渡辺 美穂 国立女性教育会館研究国際室研究員

(7) 情報交換会（＊希望者のみ参加：有料1,000円）

19:00～20:30

★全国からの参加者と交流し、今後の活動に役立つ関係づくりを図ります。

第2日 6月14日（木）

(8) 講義「東日本大震災を経た今、男女共同参画の視点から日本を見なおす！」

8:50～10:20

★真の男女共同参画社会の実現のために、今、私たちは何をすればよいのかを考えます。

講師：堂本 暁子 前千葉県知事、「男女共同参画と災害・復興ネットワーク」代表

(9) 講義「非営利組織の基盤強化について～いざという時に動ける組織になるために～」

10:30～12:00

★いざというときの活動は、平時における組織のあり方に大きく左右されます。あらゆる場面で、男女共同参画の推進というミッションに沿った活動を実践していくための、組織のあり方、人材育成、他セクターとの連携のあり方等を学び、脆弱といわれる非営利組織の基盤強化につなげます。

講師：岸本 幸子 特定非営利活動法人パブリックリソースセンター理事・事務局長

(10) コース別ワークショップ

「事例に学ぶ～男女共同参画の視点で地域課題を解決する事業とは～」

13:00～15:30

★事例報告に基づきグループワークを行い、実践に役立つ力を付けます。

＜女性関連施設管理職コース＞テーマ「地域における男女共同参画の推進」

◎地域における男女共同参画の推進を、効果的な事業を実践するための組織運営の視点から考えます。

報告者：井出 あゆみ NPO 法人浜松男女共同参画推進協会理事長

報告者：田中 陽子 財団法人大阪市女性協会相談課長代理

ファシリテーター：青木 玲子 全国女性会館協議会常任理事

牟田 静香 全国女性会館協議会常任理事

＜地方公共団体職員コース＞ テーマ「官官・官民の連携と、施策・事業の推進」

◎第3次男女共同参画基本計画を地域で実現していく施策・手法を考えます。

報告者：天野 和彦 福島大学 うつくしまふくしま未来支援センター 特任
准教授

報告者：川田 康弘 富山県生活環境文化部男女参画・ボランティア課主任

ファシリテーター：千装 将志 国立女性教育会館事業課専門職員

＜女性団体リーダーコース＞ テーマ「地域資源を活かした事業展開」

◎地域課題を事業に結びつける組織運営、人材・施設・財源など地域資源の有効なネットワークづくりなど、組織活性化に向けた手法を考えます。

報告者：佐藤 菊子 エンパワーメントいわて

報告者：富田 久恵 NPO 法人アクション・シニア・タンク代表理事
地域の茶の間「てまえみそ」代表兼管理人

ファシリテーター：引間 紀江 国立女性教育会館事業課専門職員心得

（11）事例報告「第3次男女共同参画基本計画を実現する施策・事業とは」

15:45～17:15

★事例報告や、質疑応答・意見交換から、第3次男女共同参画基本計画を地域で具現化する視点や手法を見出します。

報告者：河田 恵子 兵庫県立男女共同参画センター所長

報告者：高橋 洋子 仙台市市民局市民協働推進部男女共同参画課主幹兼
企画推進係長

報告者：星子 邦子 NPO 法人ワークショップ「いふ」理事長

コーディネーター：森下 敏広 国立女性教育会館事業課専門職員

（希望者のみ参加）

見学「女性教育情報センター・女性アーカイブセンターの活用」 **17:20～18:00**

国立女性教育会館の2つのセンターを見学し、情報活用の仕方について学びます。

講師：市村 櫻子 国立女性教育会館情報課長

森 未知 国立女性教育会館情報課専門職員

桂 典子 国立女性教育会館情報課専門職員

（12）自由交流 （希望者のみ参加）

19:00～20:30

★参加者が自由に設定したテーマのもと、有志が集い、情報交換や交流を行います。

また、テーマの一つとしてNVEC職員による「第56回国連女性の地位委員会についての報告」を行います。

第3日 6月15日（金）

(13) コース別ワークショップ

「参加者の事例を検討する～男女共同参画の視点で地域課題を解決する事業とは～」

8:50～11:20

- ★第3次男女共同参画基本計画に則り、地域で推進するための事業のあり方について、コース別に検討します。参加者が実践しているまたは、実践予定の1～2事例に沿った検討を通じて、実務に活かせるヒントを得ます。

＜女性関連施設管理職コース＞

「第3次男女共同参画基本計画に応える事業のあり方」

ファシリテーター：小山内 世喜子 青森県男女共同参画センター副館長

＜地方公共団体職員コース＞

「第3次男女共同参画基本計画を地域で実現する事業のあり方」

ファシリテーター：荒巻 千枝子 千葉県環境生活部県民交流・文化課交流事業室副主幹

＜女性団体リーダーコース＞

「第3次男女共同参画基本計画に応える事業のあり方」

ファシリテーター：相川 康子 特定非営利活動法人 NP0 政策研究所専務理事

(14) 全体会「第3次男女共同参画基本計画実現に向けた連携・協働のあり方」

11:35～12:35

- ★ワークショップで話し合われた内容の各コースファシリテーター報告を元に、連携・協働のあり方について討議を行います。

報告者：小山内 世喜子 青森県男女共同参画センター副館長

報告者：荒巻 千枝子 千葉県環境生活部県民交流・文化課交流事業室副主幹

報告者：相川 康子 特定非営利活動法人 NP0 政策研究所専務理事

コーディネーター：西山 恵美子 国立女性教育会館客員研究員

(15) ふりかえり

★アンケート記入

12:35～12:40

(16) 閉 会

12:40

8. 研修成果の活用プラン

ご提出いただいた「研修成果の活用プラン」は最終日に返却いたします。研修後、約6ヶ月後にプランの進捗状況や研修成果の活用状況についてご報告いただく「フォローアップアンケート」をお送りいたします。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

9. その他

期間中、職員が撮影した写真を、事業記録や広報のために使用することがあります。あらかじめご了承ください。

平成 24 年度「女性関連施設・地方公共団体職員・女性団体リーダーのための男女共同参画推進研修」参加者概況

2012年6月19日 現在

1. 性別

	参加者			
	女性関連施設管理職	地方公共団体職員	女性団体リーダー	総計
	計	計	計	計
女性	39	26	44	109
男性	10	12	1	23
計	49	38	45	132

定員 120 名

申込者数 133 名

キャンセル 1 名

参加者数 132 名

応募倍率 110.8 %

2. 年代別

	女性関連施設管理職		地方公共団体職員		女性団体リーダー		総数		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
20代	—	—	5	1	2	—	7	1	8
30代	2	2	2	1	—	—	4	3	7
40代	4	2	10	4	8	1	22	7	29
50代	15	3	6	3	13	—	34	6	40
60代	8	3	1	—	14	—	23	3	26
70代以上	—	—	—	—	4	—	4	—	4
無回答	10	—	2	3	3	—	15	3	18
計	39	10	26	12	44	1	109	23	132

3. 勤務形態

	女性関連施設管理職		地方公共団体職員		女性団体リーダー		総数		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
常勤（専任）	23	6	18	7	2	—	43	13	56
（兼任）	1	—	5	4	1	—	7	4	11
無回答	1	1	1	1	1	—	3	2	5
非常勤（専任）	4	1	1	—	1	—	6	1	7
（兼任）	—	—	—	—	1	—	1	—	1
無回答	1	—	—	—	3	—	4	—	4
嘱託（専任）	2	1	1	—	1	—	4	1	5
（兼任）	—	—	—	—	—	1	—	1	1
無回答	—	—	—	—	1	—	1	—	1
無回答	7	1	—	—	33	—	40	1	41
計	39	10	26	12	44	1	109	23	132

4. 施設区分(女性関連施設管理職コースのみ)

	女	男	計
(1)公立Ⅰ：管理運営者が教育委員会	1	—	1
(2)公立Ⅰ：管理運営者が男女共同参画担当部課	8	3	11
(3)公立Ⅱ：指定管理者を導入 ①運営者が財団法人、社団法人、任意団体等	16	5	21
②管理運営者が企業	1	—	1
③管理運営者がNPOなど	8	1	9
(4)私立	—	—	—
(5)その他	—	1	1
(6)無回答	5	—	5
計	39	10	49

* その他の内容 *

5. プレワークショップへの参加

	女性関連施設管理職		地方公共団体職員		女性団体リーダー		総数		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
基礎知識	9	2	14	4	15	—	38	6	44

6. 見学「女性教育情報センター・女性アーカイブセンターの活用」

	女性関連施設管理職		地方公共団体職員		女性団体リーダー		総数		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
見学	14	4	8	6	12	—	34	10	44

7. 会館の利用歴(複数回答)

	女性関連施設管理職		地方公共団体職員		女性団体リーダー		総数		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
会館が主催する男女共同参画に携わるリーダー向け研修に参加したことがある	17	1	1	—	17	—	35	1	36
会館が主催する本事業以外の事業に参加したことがある	14	4	2	1	19	—	35	5	40
会館を利用し、事業を実施したことがある	4	—	—	—	11	—	15	—	15
会館で実施された、他の機関・団体で実施した事業に参加したことがある	7	2	3	—	14	—	24	2	26

8. 地域ブロック別参加者内訳

	女 性	男 性	合 計	割合%
北海道・東北	9	3	12	9.1
関東	61	7	68	51.5
甲信越	7	2	9	6.8
北陸・東海	10	3	13	9.9
近畿	8	—	8	6.1
中国・四国	5	4	9	6.8
九州・沖縄	9	4	13	9.8
合計	109	23	132	100.0

9. 地域別

※政令指定都市(カッコ内)は都道府県の内数に含む

	女性関連施設管理職		地方公共団体職員		女性団体リーダー		総数		
	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	計
北海道	1	1	—	—	1	—	2	1	3
(札幌市)	(1)	(1)	—	—	—	—	(1)	(1)	(2)
青森県	1	—	—	—	—	—	1	—	1
岩手県	—	—	—	—	—	—	—	—	—
宮城県	1	—	1	—	—	—	2	—	2
(仙台市)	(1)	—	—	—	—	—	(1)	—	(1)
秋田県	2	—	—	—	—	—	2	—	2
山形県	1	—	—	—	—	—	1	—	1
福島県	—	2	—	—	1	—	1	2	3
茨城県	—	—	3	1	5	—	8	1	9
栃木県	—	1	1	1	—	—	1	2	3
群馬県	1	—	3	—	—	—	4	—	4
埼玉県	2	1	6	—	16	—	24	1	25
(さいたま市)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
千葉県	1	—	—	1	2	—	3	1	4
(千葉市)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
東京都	10	1	3	—	5	—	18	1	19
神奈川県	1	1	—	—	2	—	3	1	4
(横浜市)	—	(1)	—	—	—	—	—	(1)	(1)
(川崎市)	(1)	—	—	—	—	—	(1)	—	(1)
(相模原市)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
山梨県	1	—	1	1	—	—	2	1	3
新潟県	1	—	1	—	1	—	3	—	3
(新潟市)	(1)	—	—	—	—	—	(1)	—	(1)
長野県	1	—	1	1	—	—	2	1	3
富山県	1	—	—	—	—	—	1	—	1
石川県	—	—	—	1	2	—	2	1	3
福井県	—	—	1	—	3	—	4	—	4
岐阜県	—	1	—	—	—	—	—	1	1
静岡県	1	1	—	—	—	—	1	1	2
(静岡市)	(1)	—	—	—	—	—	(1)	—	(1)
(浜松市)	—	(1)	—	—	—	—	—	(1)	(1)
愛知県	—	—	1	—	—	—	1	—	1
(名古屋市)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三重県	1	—	—	—	—	—	1	—	1
滋賀県	1	—	—	—	—	—	1	—	1
京都府	—	—	—	—	—	—	—	—	—
(京都市)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大阪府	3	—	—	1	—	—	4	—	4
(大阪市)	1	—	—	—	(1)	—	(2)	—	(2)
(堺市)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
兵庫県	1	—	1	—	1	—	3	—	3
(神戸市)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
奈良県	—	—	—	—	—	—	—	—	—
和歌山県	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鳥取県	—	—	—	1	—	—	—	1	1
島根県	—	—	1	—	—	—	1	—	1
岡山県	—	—	—	1	1	—	1	1	2
(岡山市)	—	—	—	(1)	—	—	—	(1)	(1)
広島県	—	—	—	1	—	—	—	1	1
(広島市)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
山口県	—	—	—	—	—	—	—	—	—
徳島県	—	1	—	—	1	—	1	1	2
香川県	—	—	—	—	—	—	—	—	—
愛媛県	1	—	—	—	—	—	1	—	1
高知県	1	—	—	—	—	—	1	—	1
福岡県	3	—	—	1	2	—	5	1	6
(北九州市)	(2)	—	—	(1)	—	—	(2)	1	(3)
(福岡市)	—	—	—	—	(2)	—	(2)	—	(2)
佐賀県	1	—	—	1	—	1	1	2	3
長崎県	—	—	—	—	—	—	—	—	—
熊本県	—	—	1	—	—	—	1	—	1
(熊本市)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大分県	—	—	—	1	—	—	—	1	1
宮崎県	1	—	1	—	—	—	2	—	2
鹿児島県	—	—	—	—	—	—	—	—	—
沖縄県	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	39	10	26	12	44	1	109	23	132

10. 役職別

	管理職		地方公共団体		団体リーダー		総数			%
	女	男	女	男	女	男	女	男	計	
館長・理事長等	16	2	—	—	11	—	27	2	29	22.0
副館長・理事等	10	—	—	2	12	—	22	2	24	18.2
部長・室長等	7	6	13	6	—	—	20	12	32	24.2
自治体担当官等	5	1	12	4	6	1	23	6	29	22.0
その他	1	1	1	—	15	—	17	1	18	13.6
計	39	10	26	12	44	1	109	23	132	100.0

**平成24年度「女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための
男女共同参画推進研修」アンケート集計結果**

参加者 132 名
アンケート回答数 108 件
アンケート回答率 81.8 %

1. この研修の内容は、あなたの考えを深めたり、今後の事業を行う際に役立てたりするうえで、有用でしたか。

(1)各プログラム等について

【13日 プレ・ワークショップ】

※は参加しなかった・無回答を除いた値

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	12	14.5	—	—	1	16.7	13	12.0	13	30.2
有用であった	21	25.3	6	31.6	2	33.3	29	26.9	29	67.5
あまり有用でなかった	1	1.2	—	—	—	—	1	0.9	1	2.3
有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	26	31.3	8	42.1	—	—	34	31.5		
無回答	23	27.7	5	26.3	3	50.0	31	28.7		
合計	83	100.0	19	100.0	6	100.0	108	100.0	43	100.0

＜理由＞

- ・歴史的な流れと共に第3次男女共同参画基本計画の理念等、非常によく理解できた。
- ・これまで経験のない分野に配属となり、一応は基礎知識として調べていたが、再度確認でき参加してよかった。
- ・基礎的なことをコンパクトに学ぶことが出来た。

【13日 講義「男女共同参画を推進する視点とは」】

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	26	31.3	3	15.8	3	50.0	32	29.6	32	35.6
有用であった	41	49.5	12	63.1	2	33.3	55	50.9	55	61.1
あまり有用でなかった	1	1.2	1	5.3	1	16.7	3	2.8	3	3.3
有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	8	9.6	2	10.5	—	—	10	9.3		
無回答	7	8.4	1	5.3	—	—	8	7.4		
合計	83	100.0	19	100.0	6	100.0	108	100.0	90	100.0

＜理由＞

- ・分かりやすいお話で短時間でも理解できた。
- ・男性が今のままの働き方では、女性は政策決定の場に行くことが出来ない。ワークライフバランスが必要との話に共感した。
- ・会社での具体例を挙げていただいた点で改善すべきことが明確に分かった。

【13日 講義「男女共同参画社会形成に向けた今日の政策課題」】

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	20	24.1	5	26.3	3	50.0	28	25.9	28	28.6
有用であった	48	57.9	10	52.6	3	50.0	61	56.5	61	62.2
あまり有用でなかった	6	7.2	3	15.8	—	—	9	8.3	9	9.2
有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	2	2.4	1	5.3	—	—	3	2.8		
無回答	7	8.4	—	—	—	—	7	6.5		
合計	83	100.0	19	100.0	6	100.0	108	100.0	98	100.0

＜理由＞

- ・内閣府、厚労省、文科省の考え方、その連携などを知ることが出来た。
- ・男女共同参画の現状、全国の様態・課題が把握できた。
- ・各省担当者の思いの一端が分かった。

【13日 討議「課題整理のためのディスカッション」】

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	23	27.7	6	31.6	5	83.3	34	31.5	34	36.2
有用であった	42	50.6	11	57.9	1	16.7	54	49.9	54	57.4
あまり有用でなかった	4	4.8	2	10.5	—	—	6	5.6	6	6.4
有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	2	2.4	—	—	—	—	2	1.9		
無回答	12	14.5	—	—	—	—	12	11.1		
合計	83	100.0	19	100.0	6	100.0	108	100.0	94	100.0

＜理由＞

- ・3つのコース別の課題がまとめられており、その違いを理解できた。質問の時間があるとよかった。
- ・それぞれの立場から見た男女共同参画の課題が見えてきた。
- ・多くの課題が洗い出された。決定的な解決方法が見つからないように思うが、身近な問題が共感できた。

【13日 報告「男女共同参画社会形成に向けた課題を知る～国立女性教育会館研究・調査事業の報告～」】

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	25	30.1	3	15.8	1	16.7	29	26.9	29	33.0
有用であった	39	47.0	15	78.9	2	33.2	56	51.8	56	63.6
あまり有用でなかった	1	1.2	1	5.3	—	—	2	1.9	2	2.3
有用でなかった	—	—	—	—	1	16.7	1	0.9	1	1.1
参加しなかった	11	13.3	—	—	1	16.7	12	11.1		
無回答	7	8.4	—	—	1	16.7	8	7.4		
合計	83	100.0	19	100.0	6	100.0	108	99.9	88	100.0

＜理由＞

- ・報告書の資料参照により問題点が浮き彫りになり、解決の糸口が見つかったような気がする。
- ・男性の意識改革が鍵となり、地域づくりにつなげられるように継続する重要性が分かった。
- ・グラフやアンケートが見やすく、理解に役立った。

【13日 情報交換会】

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	25	30.1	5	26.3	1	16.7	31	28.7	31	43.7
有用であった	30	36.1	8	42.1	1	16.7	39	36.1	39	54.9
あまり有用でなかった	1	1.2	—	—	—	—	1	0.9	1	1.4
有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	11	13.3	2	10.5	1	16.7	14	13.0		
無回答	16	19.3	4	21.1	3	49.9	23	21.3		
合計	83	100.0	19	100.0	6	100.0	108	100.0	71	100.0

＜理由＞

- ・たくさんの参加者と交流を図ることが出来、課題・悩みを共有できた。
- ・様々な方と知り合うことが出来、横のつながりがもてて有意義だった。
- ・全国の男女共同参画にかかわる方と接点になった。

【14日 講義「東日本大震災を経た今、男女共同参画の視点から日本を見直す！」】

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	60	72.3	13	68.4	3	50.0	76	70.3	76	76.0
有用であった	17	20.5	4	21.1	1	16.7	22	20.4	22	22.0
あまり有用でなかった	—	—	2	10.5	—	—	2	1.9	2	2.0
有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	—	—	—	—	—	—	—	—		
無回答	6	7.2	—	—	2	33.3	8	7.4		
合計	83	100.0	19	100.0	6	100.0	108	100.0	100	100.0

＜理由＞

- ・さすがが堂本さん。日本を変えるには、この実行力が必要。大きな刺激となった。
- ・やはり具体的内容から現在進行中の内容はとてもよく分かる。追加資料がありがたかった。
- ・説得力のある素晴らしい講演に引き込まれてしまった。平常時に準備出来ることにしっかり取り組みたいと思った。

【14日 講義「非営利組織の基盤強化について～いざという時に動ける組織になるために～」】

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	26	31.3	5	26.3	2	33.4	33	30.6	33	33.0
有用であった	40	48.3	11	57.9	2	33.3	53	49.0	53	53.0
あまり有用でなかった	9	10.8	3	15.8	-	-	12	11.1	12	12.0
有用でなかった	2	2.4	-	-	-	-	2	1.9	2	2.0
参加しなかった	-	-	-	-	-	-	-	-		
無回答	6	7.2	-	-	2	33.3	8	7.4		
合計	83	100.0	19	100.0	6	100.0	108	100.0	100	100.0

＜理由＞

- ・施設管理者として、ミッション・目標を明確にして、スタッフと共有していくことの大切さを改めて認識した。
- ・NPOのあり方、特に目的の大事さがよく分かりよかった。
- ・組織のミッション、組織のマネジメント等、力強い組織の基本について学ぶことが出来た。

【14日 コース別ワークショップ「事例に学ぶ～男女共同参画の視点で地域課題を解決する事業とは～」】

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	31	37.3	6	31.6	2	33.4	39	36.1	39	41.9
有用であった	34	41.0	11	57.9	2	33.3	47	43.5	47	50.6
あまり有用でなかった	7	8.4	-	-	-	-	7	6.5	7	7.5
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	-	-	-	-	-	-		
無回答	11	13.3	2	10.5	2	33.3	15	13.9		
合計	83	100.0	19	100.0	6	100.0	108	100.0	93	100.0

＜理由＞

- ・グループ討議により実感できたり、新たな視点を教えてもらうことができた。とても刺激になった。
- ・震災と防災をテーマにしたものであったが、平常時のあり方を考えることが出来た。
- ・ワークの中で、他県のセンターとの情報交換もでき有意義であった。
- ・地域の課題解決において平時に取り組むべきことの整理が出来た。

【14日 事例報告「第3次男女共同参画基本計画を実現する施策・事業とは」】

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	19	22.9	3	15.8	1	16.7	23	21.3	23	27.1
有用であった	39	47.0	14	73.7	3	49.9	56	51.8	56	65.8
あまり有用でなかった	6	7.2	-	-	-	-	6	5.6	6	7.1
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	1	1.2	-	-	1	16.7	2	1.9		
無回答	18	21.7	2	10.5	1	16.7	21	19.4		
合計	83	100.0	19	100.0	6	100.0	108	100.0	85	100.0

＜理由＞

- ・職場の生の声が聞けてよかった。ことに、仙台市の高橋さんの話はとても参考になった。
- ・経験を踏まえた取組、今、現地での状況と思い、思いを実現させる「いふ」の活動。それぞれ人と人をつなぐためのネットワークつくりのためにがんばっていると感じた。
- ・防災の観点で取り組む事例を知ることが出来た。被災県の実際的な取組や声は説得力があり力となった。

【14日 自由交流】

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	5	6.0	1	5.3	2	33.3	8	7.4	8	30.8
有用であった	14	16.9	2	10.5	1	16.7	17	15.7	17	65.4
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
有用でなかった	-	-	-	-	1	16.7	1	0.9	1	3.8
参加しなかった	21	25.3	5	26.3	1	16.7	27	25.0		
無回答	43	51.8	11	57.9	1	16.7	55	51.0		
合計	83	100.0	19	100.0	6	100.0	108	100.0	26	100.0

＜理由＞

- ・とかく難しく、人ごとのように思われがちな「男女共同参画」。どのように広く市民にアピールすればいいのか。経験談など聞かせていただき大変参考になった。
- ・ラウンジで自然とフリートークのような形になり、公共団体コースの方ともいろいろ話が出来た。
- ・CSWIに実際に参加された方のお話はとても臨場感があり、お聞きする機会を提供していただき、ありがたかった。

【15日 コース別ワークショップ「参加者の事例を検討する～男女共同参画の視点で地域課題を解決する事業とは～」】

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	30	36.1	11	57.8	3	49.9	44	40.7	44	57.1
有用であった	27	32.5	4	21.1	-	-	31	28.7	31	40.3
あまり有用でなかった	1	1.2	-	-	-	-	1	0.9	1	1.3
有用でなかった	-	-	-	-	1	16.7	1	0.9	1	1.3
参加しなかった	2	2.4	-	-	1	16.7	3	2.8		
無回答	23	27.8	4	21.1	1	16.7	28	25.9		
合計	83	100.0	19	100.0	6	100.0	108	100.0	77	100.0

＜理由＞

- ・楽しいワークショップだった。県市と分けたことで直接市民と関わる事業例のいい物がたくさん聞けた。
- ・他のセンターの取組や考え方、意見交換が出来た。静岡：事業への取組が明確で分かりやすく、学ぶところが多かった。仙台：センター廃止の危機管理が非常時にも大変有効であること、人材の育成、人とのつながりについて。
- ・ひとつの大きな課題解消のため、どのような方法で何をすればいいの、意見を出し合い、具体的な取組が参考になった。全体会での発表に至り、有意義なディスカッションとなった。

【15日 全体討議「第3次男女共同参画基本計画実現に向けた連携・協働のあり方」】

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	25	30.1	9	47.3	1	16.7	35	32.4	35	50.0
有用であった	25	30.1	6	31.6	1	16.7	32	29.6	32	45.7
あまり有用でなかった	3	3.6	-	-	-	-	3	2.8	3	4.3
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	2	2.4	-	-	1	16.7	3	2.8		
無回答	28	33.8	4	21.1	3	49.9	35	32.4		
合計	83	100.0	19	100.0	6	100.0	108	100.0	70	100.0

＜理由＞

- ・方向性のヒントがたくさんあるプログラムだった。
- ・団体リーダー、地方公共団体の方のまとめがとても学びになった。行動することが大切。
- ・いろいろな角度からの話が聴けてよかった。今後の業務に大いに参考になった。
- ・コースの違いから見えてくる課題や、検討経過が理解できた。
- ・連携・協働には「相互理解」が大事。相手にとってのメリットなど、今後の事業に生かしたい。

【開催資料について】

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	14	16.9	2	10.5	2	33.3	18	16.7	18	29.0
有用であった	31	37.3	11	57.9	1	16.7	43	39.8	43	69.4
あまり有用でなかった	1	1.2	-	-	-	-	1	0.9	1	1.6
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	1	1.2	-	-	1	16.7	2	1.9		
無回答	36	43.4	6	31.6	2	33.3	44	40.7		
合計	83	100.0	19	100.0	6	100.0	108	100.0	62	100.0

＜理由＞

- ・職場に持ち帰り、他のスタッフへの研修の場で是非利用したい。
- ・活用できるものがたくさんあった。
- ・振り返りに必要な情報がありよかった。

【情報交換コーナーについて】

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	7	8.4	1	5.3	2	33.3	10	9.3	10	18.9
有用であった	30	36.1	8	42.1	-	-	38	35.2	38	71.7
あまり有用でなかった	3	3.6	2	10.5	-	-	5	4.6	5	9.4
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	3	3.6	1	5.3	1	16.7	5	4.6		
無回答	40	48.3	7	36.8	3	50.0	50	46.3		
合計	83	100.0	19	100.0	6	100.0	108	100.0	53	100.0

＜理由＞

- ・男女共同参画統計2012は、とても役立つ。(勉強や講演などで)
- ・参考に出来るパンフレット、リーフレットなど、参加しないと分からない資料がたくさんあった。
- ・自館では手に入らないものをいただけた。

(2)研修全体について :有用度

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	34	41.0	8	42.1	2	33.3	44	40.7	44	46.8
有用であった	38	45.7	11	57.9	-	-	49	45.4	49	52.1
あまり有用でなかった	-	-	-	-	1	16.7	1	0.9	1	1.1
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	11	13.3	-	-	3	50.0	14	13.0	-	-
合計	83	100.0	19	100.0	6	100.0	108	100.0	94	100.0

<理由>

- 他県のセンターの取組や問題意識を知ることができ、かつ交流できたことで、今後の業務に大いに生かすことができると感じた。
- 全国の男女共同参画の推進を目指す方たちとともに学び、同じ時を共有できたことは、とてもうれしく、刺激的なものであった。自然に恵まれ、設備の整った環境で研修に集中できるのは、この施設があるからこそできるものだと思う。
- 内容がとても濃かった。研修全体のプログラムにストーリーがあり、吸収しやすかった。

2. あなたがこの研修に参加された目的はなんですか。(複数回答)

	女性	% (83名中)	男性	% (19名中)	不明	% (6名中)	合計	% (108名中)
①男女共同参画についての視点、考え方を身につけるため	26	31.3	13	68.4	1	16.7	40	37.0
②男女共同参画政策に関わる国の施策・動向を理解するため	24	28.9	8	42.1	1	16.7	33	30.6
③地域で男女共同参画を推進するための自組織が抱える問題点を整理し、課題を把握するため	21	25.3	5	26.3	1	16.7	27	25.0
④実態把握・分析の方法について知識・情報を得るため	20	24.1	5	26.3	-	-	25	23.1
⑤組織の基盤強化の推進について、具体的情報を知るため	8	9.6	3	15.8	-	-	11	10.2
⑥第3次男女共同参画基本計画について知り、それに応える事業、推進体制等の課題解決の方向性や手立てを得るため	17	20.5	6	31.6	-	-	23	21.3
⑦地域で男女共同参画を推進するための連携・共同事業についての手がかりを得るため	19	22.9	8	42.1	-	-	27	25.0
⑧全国の地域で男女共同参画を推進するリーダーの人々とのネットワークづくりのきっかけを得るため	26	31.3	5	26.3	-	-	31	28.7
⑨その他	1	1.2	-	-	-	-	1	0.9

2. その目的の達成度をご回答ください。

(1)男女共同参画についての視点、考え方を身につけることができた。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分できた	25	30.1	4	21.1	1	16.7	30	27.8	30	38.0
おおむねできた	34	41.0	13	68.4	1	16.7	48	44.4	48	60.7
あまりできなかった	1	1.2	-	-	-	-	1	0.9	1	1.3
できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	23	27.7	2	10.5	4	66.6	29	26.9	-	-
合計	83	100.0	19	100.0	6	100.0	108	100.0	79	100.0

(2)男女共同参画政策に関わる国の施策・動向を理解することができた。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分できた	21	25.3	3	15.8	1	16.7	25	23.1	25	33.3
おおむねできた	35	42.2	10	52.5	-	-	45	41.7	45	60.1
あまりできなかった	2	2.4	1	5.3	1	16.7	4	3.7	4	5.3
できなかった	-	-	1	5.3	-	-	1	0.9	1	1.3
無回答	25	30.1	4	21.1	4	66.6	33	30.6	-	-
合計	83	100.0	19	100.0	6	100.0	108	100.0	75	100.0

(3)地域で男女共同参画を推進するための自組織が抱える問題点を整理し、課題を把握することができた。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分できた	16	19.3	4	21.1	3	49.9	23	21.3	23	28.8
おおむねできた	40	48.2	11	57.9	1	16.7	52	48.2	52	64.9
あまりできなかった	2	2.4	2	10.5	—	—	4	3.7	4	5.0
できなかった	—	—	—	—	1	16.7	1	0.9	1	1.3
無回答	25	30.1	2	10.5	1	16.7	28	25.9		
合計	83	100.0	19	100.0	6	100.0	108	100.0	80	100.0

(4)実態把握・分析の方法について知識・情報を得ることができた。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分できた	19	22.9	5	26.3	1	16.7	25	23.1	25	33.8
おおむねできた	34	41.0	10	52.6	1	16.7	45	41.7	45	60.8
あまりできなかった	2	2.4	1	5.3	1	16.7	4	3.7	4	5.4
できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	28	33.7	3	15.8	3	50.0	34	31.5		
合計	83	100.0	19	100.0	6	100.0	108	100.0	74	100.0

(5)組織の基盤強化の推進について、具体的情報を知ることができた。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分できた	7	8.4	3	15.8	1	16.7	11	10.2	11	16.4
おおむねできた	33	39.8	10	52.6	1	16.7	44	40.7	44	65.7
あまりできなかった	9	10.8	2	10.5	—	—	11	10.2	11	16.4
できなかった	—	—	—	—	1	16.7	1	1.9	1	1.5
無回答	34	41.0	4	21.1	3	49.9	41	38.0		
合計	83	100.0	19	100.0	6	100.0	108	100.0	67	100.0

(6)第3次男女共同参画基本計画について知り、それに応える事業、推進体制等の課題解決の方向性や手立てを得ることができた。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分できた	8	9.6	3	15.8	1	16.7	12	11.1	12	16.7
おおむねできた	35	42.2	9	47.4	1	16.7	45	41.7	45	62.4
あまりできなかった	11	13.3	2	10.5	—	—	13	12.0	13	18.1
できなかった	1	1.2	—	—	1	16.7	2	1.9	2	2.8
無回答	28	33.7	5	26.3	3	49.9	36	33.3		
合計	83	100.0	19	100.0	6	100.0	108	100.0	72	100

(7)地域で男女共同参画を推進するための連携・共同事業についての手がかりを得ることができた。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分できた	9	10.8	4	21.1	1	16.7	14	13.0	14	18.7
おおむねできた	36	43.5	10	52.6	1	16.7	47	43.5	47	62.7
あまりできなかった	10	12.0	3	15.8	—	—	13	12.0	13	17.3
できなかった	—	—	—	—	1	16.7	1	0.9	1	1.3
無回答	28	33.7	2	10.5	3	49.9	33	30.6		
合計	83	100.0	19	100.0	6	100.0	108	100.0	75	100.0

(8)全国の地域で男女共同参画を推進するリーダーの人々とのネットワークづくりのきっかけを得ることができた。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分できた	16	19.3	4	21.1	3	50.0	23	21.3	23	30.3
おおむねできた	34	41.0	13	68.4	1	16.7	48	44.5	48	63.1
あまりできなかった	5	6.0	—	—	—	—	5	4.6	5	6.6
できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	28	33.7	2	10.5	2	33.3	32	29.6		
合計	83	100.0	19	100.0	6	100.0	108	100.0	76	100.0

(9)その他

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分できた	1	1.2	—	—	—	—	1	0.9	1	33.3
おおむねできた	2	2.4	—	—	—	—	2	1.9	2	66.7
あまりできなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	80	96.4	19	100.0	6	100.0	105	97.2		
合計	83	100.0	19	100.0	6	100.0	108	100.0	3	100.0

3. この研修での満足度は、いかがでしたか。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に満足した	24	29.0	4	21.1	2	33.3	30	27.8	30	30.3
満足した	49	59.0	15	78.9	1	16.7	65	60.2	65	65.7
少し物足りなかった	3	3.6	—	—	1	16.7	4	3.7	4	4.0
物足りなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	7	8.4	—	—	2	33.3	9	8.3		
合計	83	100.0	19	100.0	6	100.0	108	100.0	99	100.0

<理由>

- ・震災を中心に学んだが、「防災」という切り口で一般化し、男女共同参画推進を行っていくヒントをいただいた。
- ・研修内容がとても充実していたと思う。ありがとうございました。
- ・たくさんの方と情報交換や交流の場を持つことが出来た。同じような悩みを抱えながらも推進していくために様々な取組をしていることが、お互いのよい刺激となり、今後活かせるネットワークづくりが形成されたと思う。

**平成24年度「女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修」
フォローアップアンケート集計結果(最終)**

●回答者について

	対象者	回答数	%
管理職コース	45	45	100.0
地方公共団体コース	38	36	94.7
団体リーダーコース	45	35	77.8
合計	128	116	90.6

回収率: 90.6%

1 研修の成果はあなたの仕事や活動に役立ちましたか

(※%は「無回答」を除いた割合)

	件数	%	※%
a. 非常に役立った	45	38.8	39.4
b. 役立った	67	57.8	58.8
c. あまり役立たなかった	2	1.7	1.8
d. 役立たなかった	-	-	-
無回答	2	1.7	
合計	116	100.0	100.0

※無回答を除く

プラス評価者(a+b)	
件数	%
112	98.2

2 研修の成果を普及・活用した方法

(1) 所属する組織内での普及・活用方法

ア. それぞれの内容における「活用プラン」および「実績」への回答数

内容	実績		プラス評価者の実績			
	合計		a		b	
	件数	% (116名中)	件数	% (45名中)	件数	% (67名中)
研修内容の報告・説明	92	79.3	38	84.4	53	79.1
各種広報資料への執筆・公表	10	8.6	5	11.1	5	7.5
研修資料を活用した職員・メンバー向け勉強会・研修会の開催	22	19.0	14	31.1	8	11.9
所属組織・所属団体の組織や体制の改善に向けた指導・助言	24	20.7	9	20.0	15	22.4
来年度事業・予算への反映	31	26.7	16	35.6	14	20.9
具体的な事業の企画・運営への指導・助言	45	38.8	20	44.4	25	37.3
その他	6	5.2	2	4.4	4	6.0
合計	230		104		124	

(表の中のa～bは、設問1におけるプラス回答者の件数とする)

(2) 地域(他機関、団体・グループ等との連携)での普及・活用方法

ア. それぞれの内容における「活用プラン」および「実績」への回答数

(表の中のa～dは、設問1における回答件数とする)

内容	実績		プラス評価者の実績			
	合計		a		b	
	件数	% (116名中)	件数	% (45名中)	件数	% (67名中)
研修資料の提供	30	25.9	12	26.7	15	22.4
研修内容の説明	35	30.2	16	35.6	19	28.4
各種広報資料への執筆	5	4.3	2	4.4	4	6.0
勉強会・研修会での指導・助言・協力	30	25.9	16	35.6	12	17.9
他の組織・団体の組織や体制の改善に向けた指導・助言・協力	15	12.9	7	15.6	7	10.4
具体的な事業の企画・運営への指導・助言	32	27.6	14	31.1	18	26.9
ネットワーク構築に向けた働きかけ	24	20.7	10	22.2	12	17.9
その他	8	6.9	3	6.7	4	6.0
合計	179		80		91	

平成24年度「大学等における男女共同参画推進セミナー」実施要項

1. 趣 旨

男女共同参画社会の実現は、国、地方公共団体、国民すべてに課せられた責務であり、高等教育機関としての大学・短期大学・高等専門学校においても、その一翼を担うべきことが求められています。文部科学省の「女性研究者研究活動支援事業」などをきっかけに男女共同参画推進室が設置されるなど、大学等における男女共同参画推進への取組が進みつつあります。

しかし、学内全体への男女共同参画意識の浸透や男女共同参画の推進体制はいまだ十分とは言えません。また、研究者に占める女性の割合も諸外国に比べ依然として低い状況にあります。

このような状況を踏まえ、本セミナーでは、大学・短期大学・高等専門学校における男女共同参画の推進に向けて、意思決定組織に所属する教職員、男女共同参画推進担当責任者等を対象として、専門的、実践的な研修を行います。

2. 主 催

独立行政法人 国立女性教育会館

3. 会 場

国立女性教育会館

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728

TEL 0493-62-6724・6725

FAX 0493-62-6720

Eメールアドレス progdiv@nwec.jp

ホームページURL <http://www.nwec.jp/>

4. 期 日

平成24年11月29日（木）～11月30日（金） 1泊2日

5. 参 加 者

大学・短期大学・高等専門学校における意思決定組織に所属する教職員
（男女共同参画推進担当責任者も含む）

6. 定 員

80名

7. 日 程（各プログラムの間に5～10分程度の休憩があります）

11/29 (木)	12:00 13:00 13:10 13:40 14:30 16:00 17:10 18:00 19:00									
		受付	開 会	講 義	関係省庁 説明 質疑応答	講 義	講 義	※情報 提供	夕 食	※情報 交換会
11/30 (金)	9:00	10:20	11:50	12:50	15:40 15:50					
	講 義	事 例 研 究	昼 食	ワークショップ 分科会1・分科会2・分科会3		ふ り か え り	閉 会			

※ 情報提供、情報交換会は希望者のみのプログラムです。

※ 当事業は、「第3次男女共同参画基本計画」における「第11分野 男女共同参画を推進し多様な選択を可能にする教育・学習の充実」「第12分野 科学技術・学術分野における男女共同参画」に位置付けられている事業です。

8. 内 容

第1日 11月29日（木）

（1）開会

13:00～13:10

- ①主催者あいさつ 内海 房子 国立女性教育会館理事長
- ②プログラムの趣旨説明 千装 将志 国立女性教育会館事業課専門職員

（2）講義「女性の政策意思決定の場への参画を推進するために」

13:10～13:40

これまでの経験から得たリーダーシップやマネジメントの視点を交えた男女共同参画を推進するための話を聞き、大学における男女共同参画を推進するための基礎となる考え方を学びます。

講師：内海 房子 国立女性教育会館理事長

（3）関係省庁説明と質疑応答「女性研究者支援と研究力強化」

13:40～14:20

関係省庁の説明を聞き、科学技術・学術分野における男女共同参画を推進する上での現状及び国の施策について知り、大学における男女共同参画推進に向けた今日の政策課題についての理解を深めます。

講師：佐藤 弘毅 文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課人材政策企画官

（4）講義「なぜ大学における男女共同参画推進が必要なのか」

14:30～15:50

大学における男女共同参画推進の必要性について理解するとともに、大学における男女共同参画推進の現状、大学における男女共同参画推進のための組織づくり等についての理解を深めます。

講師：村松 泰子 東京学芸大学学長

(5) 講義「大学における女性研究者への支援：実情と課題」

16:00～17:10

大学内での女性研究者に対する支援はどうあるべきか、何が効果的か、また支援事業終了後の支援策の継続・定着をどうするか、など女性研究者支援の実際について理解を深めます。

講師：有賀 早苗 北海道大学大学院農学研究院教授 人材育成本部女性研究者支援室室長

(6) 情報提供「大学における男女共同参画についてのアンケートの中間報告」

17:10～17:25

講師：野依 智子 国立女性教育会館研究国際室研究員

(7) 情報提供（＊希望者のみ）「大学等における男女共同参画関連情報」

17:30～18:00

男女共同参画社会及び女性・家庭・家族に関する専門図書館である国立女性教育会館「女性教育情報センター」が収集・提供する関連資料、女性情報ポータルWinetからデータベース検索を使った情報の活用について情報提供します。

講師：森 未知 国立女性教育会館情報課専門職員

(8) 情報交換会（＊希望者のみ）

19:00～20:30

夕食後、それぞれが抱える課題の解決に向けた方策について情報を交換するとともに、参加者同士のネットワークづくりを行います。

第2日 11月30日（金）

(9) 講義「女子学生へのキャリア形成支援」

9:00～10:10

男女共同参画社会の実現に向けて、女子学生へのキャリア形成の必要性や、学内でどのように支援を進めていけばよいかについて理解を深めます。

講師：福沢 恵子 財団法人女性労働協会専務理事 昭和女子大学特命教授

(10) ベストプラクティス研究「企業における男女共同参画の取組」

10:20～11:50

女性が会社で意欲を持って能力を発揮できるような支援をしている企業の取組を紹介します。

事例① 株式会社高島屋

報告者：中川 荘一郎 株式会社高島屋人事部人事政策担当次長

事例② 株式会社光機械製作所

報告者：千田 千花 株式会社光機械製作所総務課主査

(11) コース別ワークショップ

12:50～15:40

大学における男女共同参画推進の主要な課題について、事例報告をもとにディスカッションを行い、実践力を養います。

＜分科会1＞「男女共同参画意識を学内に浸透させるための組織づくり」

事例① 「男女共同参画推進室と多様性人財活用推進会議の連携ー岐阜大学の場合ー」

報告者：林 正子 岐阜大学副学長 男女共同参画推進室室長

事例② 「男女共同参画推進のための組織づくりをめざして～大学と法人～」

報告者：高橋 和子 関西学院大学「Mastery for Service に基づく女性研究者支援」事業実施責任者 理工学部教授

＜分科会2＞「大学における女性研究者支援」

事例① 「おもやいキャンパスー男女共同参画のさらなる推進に向けてー」

報告者：竹内 円 長崎大学男女共同参画推進センターコーディネーター

事例② 「日本大学のキャリアウェイプロジェクト」

報告者：野呂 知加子 日本大学生産工学部教授

＜分科会3＞「女子学生へのキャリア形成支援」

事例① 「全国高専女子学生の連携による高専女子ブランドの発信事業」

報告者：佐々木 伸子 呉工業高等専門学校建築学科准教授

事例② 「立教大学キャリアセンターの女子学生キャリア支援の取り組みについて」

報告者：佐藤 一宏 立教大学キャリアセンターキャリア支援課課長

(12) ふりかえり

15:40～15:50

研修をふりかえり、参加者それぞれがアンケートに記入します。

(13) 閉会

15:50

9. その他

(1) 11月29日（木）と30日（金）に国立女性教育会館と東武東上線武蔵嵐山駅との間で無料送迎バスを運行いたします。

(2) 期間中、職員が撮影した写真を事業記録や広報のために使用することがあります。あらかじめご了承ください。

平成24年度 大学等における男女共同参画推進セミナー 参加者概況

平成24年12月1日現在

1. 性別

	合 計	定員	80 名
女 性	59	応募者	94 名
男 性	30	参加者	90 名
無回答	1		
合 計	90	応募倍率	117.5 %

2. 参加日別

	女 性	男 性	無回答	合 計
全日程	46	18	1	65
29日のみ	8	5	—	13
30日のみ	5	7	—	12
合 計	59	30	1	90

※参加日不明1名

3. 年代

	女 性	男 性	無回答	合 計
20代	2	1	—	3
30代	11	7	—	18
40代	18	4	1	23
50代	21	15	—	36
60代以上	3	3	—	6
無回答	4	—	—	4
合 計	59	30	1	90

4. 情報提供参加 (29日参加者 78 名)

	合 計
女 性	39
男 性	11
無回答	1
合 計	51

5. 分科会 (30日参加者 77 名)

	女 性	男 性	無回答	合 計
分科会1「男女共同参画意識を学内に浸透させるための組織づくり」	20	11	—	31
分科会2「大学における女性研究者支援」	19	3	—	22
分科会3「女子学生へのキャリア形成支援」	7	10	1	18
合 計	46	24	1	71

6. 会館利用歴(複数回答)

	女 性	男 性	無回答	合 計
会館主催リーダー向け研修に参加	7	2	—	9
会館主催その他の事業に参加	5	2	1	7
会館を利用し、事業を実施	2	3	—	5
他の諸機関・団体実施の事業に参加	5	3	—	8
利用歴なし(全項目無回答)	32	17	—	49

※所属別

	合 計
国公立大学	39
私立大学	26
高専(国公私立)	20
その他	5
合 計	90

※職種別

	合 計
教員系	35
職員系	55
合計	90

※地域ブロック別参加者内訳

	女 性	男 性	無回答	合 計	%
北海道・東北	6	6	—	12	13.3
関東	22	12	1	35	38.9
甲信越	2	—	—	2	2.2
北陸・東海	11	1	—	12	13.3
近畿	4	7	—	11	12.2
中国・四国	3	3	—	6	6.7
九州・沖縄	11	1	—	12	13.3
合 計	59	30	1	90	100.0

8. 都道府県別

※政令指定都市(カッコ内)は都道府県の内数に含む

		女 性	男 性	無回答	合 計
北海道・東北	北海道	2	1	—	3
	（札幌市）	（—）	（—）	（—）	（—）
	青森県	2	1	—	3
	岩手県	—	3	—	3
	宮城県	—	1	—	1
	（仙台市）	（—）	（1）	（—）	（1）
	秋田県	—	—	—	—
	山形県	1	—	—	1
	福島県	1	—	—	1
関東	茨城県	—	2	—	2
	栃木県	3	1	—	4
	群馬県	—	1	—	1
	埼玉県	3	2	—	5
	（さいたま市）	（1）	（1）	（—）	（2）
	千葉県	1	1	—	2
	（千葉市）	（—）	（—）	（—）	（—）
	東京都	13	3	1	17
	神奈川県	2	2	—	4
	（横浜市）	（1）	（1）	（—）	（2）
	（川崎市）	（1）	（1）	（—）	（2）
	（相模原市）	（—）	（—）	（—）	（—）
甲信越	山梨県	1	—	—	1
	新潟県	—	—	—	—
	（新潟市）	（—）	（—）	（—）	（—）
	長野県	1	—	—	1
北陸・東海	富山県	4	—	—	4
	石川県	—	—	—	—
	福井県	—	—	—	—
	岐阜県	1	—	—	1
	静岡県	2	1	—	3
	（静岡市）	（2）	（—）	（—）	（2）
	（浜松市）	（—）	（—）	（—）	（—）
	愛知県	1	—	—	1
	（名古屋市）	（—）	（—）	（—）	（—）
	三重県	3	—	—	3
近畿	滋賀県	—	1	—	1
	京都府	2	1	—	3
	（京都市）	（1）	（1）	（—）	（2）
	大阪府	—	5	—	5
	（大阪市）	（—）	（—）	（—）	（—）
	（堺市）	（—）	（—）	（—）	（—）
	兵庫県	1	—	—	1
	（神戸市）	（—）	（—）	（—）	（—）
	奈良県	1	—	—	1
和歌山県	—	—	—	—	
中国・四国	鳥取県	—	—	—	—
	島根県	—	—	—	—
	岡山県	—	1	—	1
	（岡山市）	（—）	（—）	（—）	（—）
	広島県	2	2	—	4
	（広島市）	（—）	（—）	（—）	（—）
	山口県	—	—	—	—
	徳島県	—	—	—	—
	香川県	—	—	—	—
	愛媛県	1	—	—	1
高知県	—	—	—	—	
九州・沖縄	福岡県	4	—	—	4
	（北九州市）	（1）	（—）	（—）	（1）
	（福岡市）	（—）	（—）	（—）	（—）
	佐賀県	—	—	—	—
	長崎県	1	—	—	1
	熊本県	1	—	—	1
	（熊本市）	—	—	—	—
	大分県	—	—	—	—
	宮崎県	—	1	—	1
	鹿児島県	1	—	—	1
沖縄県	4	—	—	4	
合計		59	30	1	90

平成 24 年度「大学等における男女共同参画推進セミナー」 アンケート集計結果

参加者 90 名
アンケート回答数 78 件
アンケート回答率 86.7 %

I 本研修に関する意見・感想

1. この研修の内容は、あなたの考えを深めたり、今後の事業を行う際に役立てたりするうえで、有用でしたか。

1日目:11月29日(木)

1 講義「女性の政策意思決定の場への参画を推進するために」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	15	30.0	4	20.0	1	12.5	20	25.6	20	30.8
有用であった	24	48.0	12	60.0	5	62.5	41	52.6	41	63.1
あまり有用でなかった	4	8.0	-	-	-	-	4	5.1	4	6.1
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	3	6.0	2	10.0	1	12.5	6	7.7		
無回答	4	8.0	2	10.0	1	12.5	7	9.0		
合計	50	100.0	20	100.0	8	100.0	78	100.0	65	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

<意見・感想等>

- ・危機感と同時に意欲が高まるほどショッキングなデータ数値を共有していただき感謝したい。焦点の定まった講話でした。
- ・日本の大学が世界ランキングで思っていたより低いことや、女性研究者が少ないことなどがはっきりわかった。
- ・内海理事長の思いを伺うことができて有用であった。

2 関係省庁説明と質疑応答「女性研究者支援と研究力強化」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	8	16.0	2	10.0	1	12.5	11	14.1	11	17.5
有用であった	21	42.0	12	60.0	5	62.5	38	48.7	38	60.3
あまり有用でなかった	11	22.0	2	10.0	-	-	13	16.7	13	20.6
全く有用でなかった	1	2.0	-	-	-	-	1	1.3	1	1.6
参加しなかった	3	6.0	2	10.0	1	12.5	6	7.7		
無回答	6	12.0	2	10.0	1	12.5	9	11.5		
合計	50	100.0	20	100.0	8	100.0	78	100.0	63	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

<意見・感想等>

- ・文科省における男女共同参画に向けた政策課題についての考え方を伺うことができて有用であった。
- ・H25年度以降の研究活動支援事業に期待がもてた。
- ・研究活動支援事業の中で新規の拠点型事業について関心がある。予算化されたら応募したい。

3 講義「なぜ大学における男女共同参画推進が必要なのか」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	33	66.0	9	45.0	6	75.0	48	61.5	48	72.7
有用であった	9	18.0	7	35.0	-	-	16	20.5	16	24.3
あまり有用でなかった	1	2.0	1	5.0	-	-	2	2.6	2	3.0
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	3	6.0	1	5.0	1	12.5	5	6.4		
無回答	4	8.0	2	10.0	1	12.5	7	9.0		
合計	50	100.0	20	100.0	8	100.0	78	100.0	66	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

<意見・感想等>

- ・大学における男女共同参画の重要性について、非常にわかりやすく、説得力のある、力強い講演だった。
- ・女性学長という立場からの知見を聞くことができて有用であった。
- ・力強く背中を押してもらえました。常を感じていたことを言葉で説明していただいたと思います。特に「経験するチャンスが必要」ということは身にしみていたことです。

4 講義「大学における女性研究者への支援:実状と課題」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	31	62.0	7	35.0	5	62.5	43	55.1	43	65.2
有用であった	11	22.0	9	45.0	1	12.5	21	26.9	21	31.8
あまり有用でなかった	2	4.0	—	—	—	—	2	2.6	2	3.0
全く有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	2	4.0	1	5.0	1	12.5	4	5.1		
無回答	4	8.0	3	15.0	1	12.5	8	10.3		
合計	50	100.0	20	100.0	8	100.0	78	100.0	66	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

<意見・感想等>

- ・ 今後事業を進める上で、モチベーションが上がった。問題に立ち向かう糸口が見つかった。
- ・ 女性を積極的に支援(採用)していく上で、それが「逆差別的措置」ではないという論理を知ることができ、男女共同参画推進が「正しい」という確信を得ることができ、有意義だった。
- ・ 女性研究者支援のとりくみを通じて何に苦労され、今後の課題は何かについて非常に分かりやすく多角的に説明いただいた。

5 情報提供「大学における男女共同参画についてのアンケートの中間報告」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	3	6.0	1	5.0	1	12.5	5	6.4	5	7.9
有用であった	31	62.0	8	40.0	4	50.0	43	55.1	43	68.3
あまり有用でなかった	6	12.0	6	30.0	1	12.5	13	16.7	13	20.6
全く有用でなかった	2	4.0	—	—	—	—	2	2.6	2	3.2
参加しなかった	2	4.0	1	5.0	1	12.5	4	5.1		
無回答	6	12.0	4	20.0	1	12.5	11	14.1		
合計	50	100.0	20	100.0	8	100.0	78	100.0	63	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

<意見・感想等>

- ・ 女性研究者からの生の声を知ることができた。中間報告なので最終結果を楽しみにしたい。
- ・ このようなアンケートを学内職員に実施してみたいと思いました。
- ・ こういう調査は大変有用であり、報告に期待しています。

6 情報提供「大学等における男女共同参画関連情報」(希望者のみ)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	4	8.0	3	15.0	1	12.5	8	10.3	8	17.4
有用であった	25	50.0	4	20.0	3	37.5	32	41.0	32	69.6
あまり有用でなかった	3	6.0	2	10.0	1	12.5	6	7.7	6	13.0
全く有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	4	8.0	5	25.0	1	12.5	10	12.8		
無回答	14	28.0	6	30.0	2	25.0	22	28.2		
合計	50	100.0	20	100.0	8	100.0	78	100.0	46	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

<意見・感想等>

- ・ このようなページがあることがわかってよかった。今後参考にしていきたい。
- ・ 資料の存在を知りませんでした。今後活用させていただきます。
- ・ 非常に豊富な蔵書や外部からのアクセスについて初めて知りえたことが多くあった。

7 情報交換会(希望者のみ)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	10	20.0	5	25.0	2	25.0	17	21.8	17	45.9
有用であった	15	30.0	1	5.0	1	12.5	17	21.8	17	45.9
あまり有用でなかった	2	4.0	1	5.0	-	-	3	3.8	3	8.2
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	8	16.0	5	25.0	1	12.5	14	18.0		
無回答	15	30.0	8	40.0	4	50.0	27	34.6		
合計	50	100.0	20	100.0	8	100.0	78	100.0	37	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

<意見・感想等>

- ・ 通常限られた場所や時間内でしかお目にかかれぬ方々と個々の努力や共通の苦労を共有することができた。
- ・ 他大学との情報交換ができ、今後のネットワークづくりの一步となった。
- ・ なかなか高専間で話をする事がなかったのがよかった。

2日目 11月30日(金)

8 講義「女子学生へのキャリア形成支援」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	33	66.0	11	55.0	6	75.0	50	64.1	50	71.4
有用であった	11	22.0	6	30.0	1	12.5	18	23.1	18	25.7
あまり有用でなかった	2	4.0	-	-	-	-	2	2.6	2	2.9
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	2	4.0	1	5.0	-	-	3	3.8		
無回答	2	4.0	2	10.0	1	12.5	5	6.4		
合計	50	100.0	20	100.0	8	100.0	78	100.0	70	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

<意見・感想等>

- ・ 「就業力育成支援研修」にこんなやり方があったのかと気づかされました。同窓会や卒業生にこだわらない発想を教えてくださいました。
- ・ 私が学生の時にあったらよかったのにと真剣に思いました。女子学生にとってとてもよい制度で、参考にさせて頂きたいと存じます。
- ・ 昭和女子大のメンター制度は前から興味があり、今回お話が聞けてとてもよかった。

9 ベストプラクティス研究「企業における男女共同参画の取組」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	9	18.0	4	20.0	3	37.5	16	20.5	16	25.4
有用であった	25	50.0	8	40.0	3	37.5	36	46.1	36	57.1
あまり有用でなかった	7	14.0	3	15.0	-	-	10	12.8	10	15.9
全く有用でなかった	1	2.0	-	-	-	-	1	1.3	1	1.6
参加しなかった	2	4.0	-	-	-	-	2	2.6		
無回答	6	12.0	5	25.0	2	25.0	13	16.7		
合計	50	100.0	20	100.0	8	100.0	78	100.0	63	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

<意見・感想等>

- ・ ものづくり企業で、女性が安心して働ける環境整備が行われている点がすごいと思い、考えさせられた。
- ・ 大学でも同様の取り組みができればと、参考になりました。
- ・ 特に光機械製作所のお話、印象的でした。

10 コース別ワークショップ・参加分科会

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
分科会1	19	38.0	7	35.0	2	25.0	28	35.9	28	49.1
分科会2	13	26.0	2	10.0	—	—	15	19.2	15	26.3
分科会3	7	14.0	5	25.0	2	25.0	14	18.0	14	24.6
分科会不明	11	22.0	6	30.0	4	50.0	21	26.9		
合計	50	100.0	20	100.0	8	100.0	78	100.0	57	100.0

(※は「組不明」を除いた場合)

コース別ワークショップ(講義・事例報告について)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	16	32.0	4	20.0	2	25.0	22	28.2	22	47.8
有用であった	15	30.0	6	30.0	2	25.0	23	29.5	23	50.0
あまり有用でなかった	—	—	1	5.0	—	—	1	1.3	1	2.2
全く有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	1	2.0	1	5.0	—	—	2	2.6		
無回答	18	36.0	8	40.0	4	50.0	30	38.4		
合計	50	100.0	20	100.0	8	100.0	78	100.0	46	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

※分科会コース別

	1	%	2	%	3	%	不明	%	合計	%
非常に有用であった	12	42.9	5	33.4	5	35.7	—	—	22	28.2
有用であった	13	46.4	5	33.3	4	28.6	1	4.8	23	29.5
あまり有用でなかった	1	3.6	—	—	—	—	—	—	1	1.3
全く有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	—	—	—	—	—	—	2	9.5	2	2.6
無回答	2	7.1	5	33.3	5	35.7	18	85.7	30	38.4
合計	28	100.0	15	100.0	14	100.0	21	100.0	78	100.0

<意見・感想等>

(分科会1)

- ・他大学の現状と、成功例が参考になりました。困っていることの解決の糸口になりました。
- ・様々な参加者の意見を聞けてよかった。
- ・先進的な取り組み事例について、立ち上げから実行までの一連の流れが理解できてよかったと感じた。

(分科会2)

- ・私立大学の実状等とりくみの情報が所得できた。
- ・地方大学と大手私立大学のことをよく理解できた。

(分科会3)

- ・同じ高専ということもあり、とても参考になった。
- ・学生への支援策に参考になりました。

コース別ワークショップ(話し合いについて)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	15	30.0	4	20.0	1	12.5	20	25.6	20	46.5
有用であった	14	28.0	6	30.0	2	25.0	22	28.2	22	51.2
あまり有用でなかった	1	2.0	-	-	-	-	1	1.3	1	2.3
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	1	2.0	1	5.0	-	-	2	2.6		
無回答	19	38.0	9	45.0	5	62.5	33	42.3		
合計	50	100.0	20	100.0	8	100.0	78	100.0	43	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

※分科会コース別

	1	%	2	%	3	%	無回答	%	合計	%
非常に有用であった	6	21.4	9	60.0	4	28.6	1	4.8	20	25.6
有用であった	10	35.7	6	40.0	5	35.7	1	4.8	22	28.2
あまり有用でなかった	1	3.6	-	-	-	-	-	-	1	1.3
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	-	-	-	-	2	9.5	2	2.6
無回答	11	39.3	-	-	5	35.7	17	80.9	33	42.3
合計	28	100.0	15	100.0	14	100.0	21	100.0	78	100.0

(分科会2)

- ・大学にとって何が必要かわかった。男女共同参画について意識改革が必要…。地道な努力をしていくのが大切である。あたり前であるが持続が大変ですががんばります。
- ・同じコーディネータの方々とは話すことができ、その立場の不安定さも共有できた反面、やはり、頑張っていかなければならないとモチベーションが上がりました。
- ・各大学の実状が理解できた。情報共有できたのがよかった。

(分科会3)

- ・他校の情報が得られて参考になりました。
- ・同じ問題・課題を抱えていることがわかり、又、いろいろな意見が出されてよかった。

コース別ワークショップ(全般・その他)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	10	20.0	3	15.0	2	25.0	15	19.2	15	42.9
有用であった	13	26.0	5	25.0	2	25.0	20	25.6	20	57.1
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	1	2.0	-	-	1	12.5	2	2.6		
無回答	26	52.0	12	60.0	3	37.5	41	52.6		
合計	50	100.0	20	100.0	8	100.0	78	100.0	35	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

※分科会コース別

	1	%	2	%	3	%	無回答	%	合計	%
非常に有用であった	5	17.8	4	26.7	6	42.9	-	-	15	19.2
有用であった	8	28.6	6	40.0	5	35.7	1	4.8	20	25.6
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	-	-	-	-	2	9.5	2	2.6
無回答	15	53.6	5	33.3	3	21.4	18	85.7	41	52.6
合計	28	100.0	15	100.0	14	100.0	21	100.0	78	100.0

＜意見・感想等＞

（分科会1）

- ・ いろいろな機関・形態の方の様々な意見が聞くことができ参考になった。

（分科会3）

- ・ さまざまな視点から見ることでよかったです。
- ・ 同じ問題・課題を抱えていることがわかり、又、いろいろな意見が出されてよかった。

2. 研修全体は有用でしたか。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	31	62.0	7	35.0	5	62.5	43	55.1	43	58.9
有用であった	16	32.0	11	55.0	3	37.5	30	38.5	30	41.1
あまり有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
全く有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	3	6.0	2	10.0	—	—	5	6.4		
合計	50	100.0	20	100.0	8	100.0	78	100.0	73	100.0

（※は「無回答」を除いた場合）

＜意見・感想等＞

- ・ 講師の設定が、NWECの情報収集能力を生かされ非常に適切であったと思います。
- ・ 国の施策、国立大学その他機関における取組、民間における取組について情報を得ることができ、有用なセミナーだったと思います。貴重なお話をいただいた講師の皆様、そしてセミナーを運営しているNWEC担当者の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。
- ・ 大いに刺激を受け、自校の問題や今後の活動について考える機会をいただきました。ありがとうございました。
- ・ 全体にわたって今日の大学と男女共同参画推進の関わりと実施のポイントが明確になるプログラムだった。
- ・ 短い日程の中でプログラムの目標にそった内容で構成されていた。

3. 研修に参加された目的と達成度について

目的(複数回答)

	女性	% (50名中)	男性	% (20名中)	不明	% (8名中)	合計	% (78名中)
① 男女共同参画についての視点を身につける	18	36.0	6	30.0	4	50.0	28	35.9
② 国の最新動向について把握する	11	22.0	5	25.0	2	25.0	18	23.1
③ 大学等における男女共同参画推進の現状と課題を把握・認識するとともに、自組織の位置や課題を明示化する	20	40.0	6	30.0	4	50.0	30	38.5
④ 実態把握・分析のための方法について知識・情報を得る	7	14.0	4	20.0	1	12.5	12	15.4
⑤ 各大学等で男女共同参画を推進していくために、実践に役立つ課題解決の方向性や手立てを得る								
男女共同参画意識を学内に浸透させるための組織づくりの手がかりを得る	19	38.0	8	40.0	2	25.0	29	37.2
学内における女性研究者への支援の手がかりを得る	10	20.0	2	10.0	1	12.5	13	16.7
男女共同参画社会の実現に向けた女子学生へのキャリア形成支援の手がかりを得る	6	12.0	7	35.0	2	25.0	15	19.2
⑥ 各大学等で男女共同参画を推進するリーダー等の人々とのネットワークづくりのきっかけを得る	10	20.0	2	10.0	2	25.0	14	17.9
⑦ その他	—	—	—	—	—	—	—	—

達成度

① 男女共同参画についての視点を身につけることができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	22	44.0	4	20.0	3	37.5	29	37.2	29	53.7
おおむね達成できた	13	26.0	9	45.0	3	37.5	25	32.0	25	46.3
あまり達成できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
達成できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	15	30.0	7	35.0	2	25.0	24	30.8		
合計	50	100.0	20	100.0	8	100.0	78	100.0	54	100.0

(※は「無回答」を除いた場合)

② 国の最新動向について把握することができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	9	18.0	5	25.0	—	—	14	17.9	14	29.2
おおむね達成できた	20	40.0	6	30.0	2	25.0	28	35.9	28	58.3
あまり達成できなかった	4	8.0	1	5.0	—	—	5	6.4	5	10.4
達成できなかった	—	—	1	5.0	—	—	1	1.3	1	2.1
無回答	17	34.0	7	35.0	6	75.0	30	38.5		
合計	50	100.0	20	100.0	8	100.0	78	100.0	48	100.0

(※は「無回答」を除いた場合)

③ 大学等における男女共同参画推進の現状と課題を把握・認識するとともに、自組織の位置や課題を明示化することができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	20	40.0	4	20.0	2	25.0	26	33.3	26	48.1
おおむね達成できた	13	26.0	10	50.0	2	25.0	25	32.1	25	46.3
あまり達成できなかった	2	4.0	—	—	1	12.5	3	3.8	3	5.6
達成できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	15	30.0	6	30.0	3	37.5	24	30.8		
合計	50	100.0	20	100.0	8	100.0	78	100.0	54	100.0

(※は「無回答」を除いた場合)

④ 実態把握・分析のための方法について知識・情報を得ることができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	12	24.0	4	20.0	—	—	16	20.5	16	38.1
おおむね達成できた	13	26.0	5	25.0	3	37.5	21	26.9	21	50.0
あまり達成できなかった	2	4.0	3	15.0	—	—	5	6.4	5	11.9
達成できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	23	46.0	8	40.0	5	62.5	36	46.2		
合計	50	100.0	20	100.0	8	100.0	78	100.0	42	100.0

(※は「無回答」を除いた場合)

⑤ 男女共同参画意識を学内に浸透させるための組織づくりの手がかりを得ることができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	16	32.0	3	15.0	1	12.5	20	25.7	20	48.8
おおむね達成できた	8	16.0	7	35.0	2	25.0	17	21.8	17	41.5
あまり達成できなかった	3	6.0	1	5.0	—	—	4	5.1	4	9.7
達成できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	23	46.0	9	45.0	5	62.5	37	47.4		
合計	50	100.0	20	100.0	8	100.0	78	100.0	41	100.0

(※は「無回答」を除いた場合)

⑥ 各大学等で男女共同参画を推進するリーダー等の人々とのネットワークづくりのきっかけを得ることができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	9	18.0	2	10.0	2	25.0	13	16.7	13	34.2
おおむね達成できた	11	22.0	3	15.0	-	-	14	17.9	14	36.8
あまり達成できなかった	6	12.0	3	15.0	-	-	9	11.5	9	23.7
達成できなかった	-	-	2	10.0	-	-	2	2.6	2	5.3
無回答	24	48.0	10	50.0	6	75.0	40	51.3		
合計	50	100.0	20	100.0	8	100.0	78	100.0	38	100.0

(※は「無回答」を除いた場合)

⑦ その他

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
おおむね達成できた	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
あまり達成できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
達成できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	50	100.0	20	100.0	8	100.0	78	100.0		
合計	50	100.0	20	100.0	8	100.0	78	100.0	-	-

(※は「無回答」を除いた場合)

4. この研修での満足度は、いかがでしたか。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に満足した	22	44.0	7	35.0	4	50.0	33	42.3	33	44.0
満足した	22	44.0	10	50.0	4	50.0	36	46.2	36	48.0
少し物足りなかった	4	8.0	2	10.0	-	-	6	7.7	6	8.0
物足りなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	2	4.0	1	5.0	-	-	3	3.8		
合計	50	100.0	20	100.0	8	100.0	78	100.0	75	100.0

(※は「無回答」を除いた場合)

<意見・感想等>

- ・全体にわたって今日の大学と男女共同参画推進の関わりと実施のポイントが明確になるプログラムだった。
- ・ひとつひとつのプログラムが充実していて、各ご講演から学ばせていただくこと多大でした。貴館職員の皆様のお骨折りに心よりお礼申し上げます。
- ・コンテンツが充実していたため、また、講師の皆さんも素晴らしいお話ばかりで勉強になりました。
- ・課題の解決につながるヒントがたくさん得られた。情報共有のネットワークが得られた。
- ・他校も同じように問題をかかえている事がわかり、いろいろ情報交換ができた。

平成24年度「男女共同参画の視点に立った多様なキャリア形成支援研修」 実施要項

1. 趣 旨 男女共同参画社会の形成に向けて女性の活躍を推進するためには、職業活動、社会活動を包括し、個人のキャリアと社会とのつながりから多様な選択を可能にするキャリア形成支援が求められます。女性関連施設、NPO、大学等のキャリア形成支援者等を対象に、国立女性教育会館の調査研究や成果等にもとづく新たなキャリア概念のとらえ直しや国の最新施策の把握、課題解決に向けた事業計画案づくりなど、支援者としての力量形成に資する専門的・実践的な研修を行います。
2. 主 催 独立行政法人 国立女性教育会館
3. 会 場 国立女性教育会館
〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728
TEL 0493-62-6724・6725
FAX 0493-62-6720
Eメールアドレス progdiv@nwec.jp
ホームページURL <http://www.nwec.jp/>
4. 期 日 平成25年1月10日（木）～1月12日（土） 2泊3日
5. 参加者 女性関連施設・社会教育施設等の職員
団体・グループ・NPO等のメンバー
大学等のキャリア教育担当教職員 等
6. 定 員 60名

7. 日 程

1/10 (木)	13:00 13:30 14:00 15:45 16:15 17:00 18:00 19:00									
				受付	開会	講義	施策説明	討議	※ 見学	夕食
1/11 (金)	9:00 10:15		11:45	13:00	14:15	17:00			19:00	
	調査 報告	実践事例報告	昼 食	講義	事業(学習) 計画案づくり1			夕 食	自由 交流	
1/12 (土)	9:30		11:45	13:00	14:30					
		事業 (学習) 計画案づくり 2	昼 食	全体会	閉 会					

※各プログラムの間に10～15分の休憩があります

※情報センター見学、情報交換会は希望者のみのプログラムです。

※この研修は第3次男女共同参画基本計画の「第1分野 政策・方針決定過程への女性の参画の拡大」「第1.1分野 男女共同参画を推進し多様な選択を可能にする教育・学習の充実」、「第1.4分野 地域、防災・環境その他の分野における男女共同参画の推進」に対応しています。

8. 内容

第1日 1月10日(木)

(1) 開 会

13:30～14:00

主催者あいさつ：内海 房子 国立女性教育会館理事長
オリエンテーション：国立女性教育会館職員

(2) 講義「男女共同参画社会における女性の活躍とキャリア形成支援の必要性」

14:00～15:30

- ・男女共同参画の視点からこれまでの社会的背景と現代的な課題を踏まえ、女性の活躍推進に向けたキャリア形成支援の必要性と今後の方向性を考えます。

講師：亀田 温子 十文字学園女子大学教授

(3) 施策説明「女性の活躍推進に向けたキャリア形成支援に関する文部科学省の取組」

15:45～16:15

- ・文部科学省における女性の活躍推進に向けたキャリア形成支援施策の動向を把握します。

説明者：田才 貴大 文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課
男女共同参推進係長

(4) グループ討議

16:15～16:45

- ・参加者同士の自己紹介と研修に対するニーズ、課題などを共有します。

ファシリテーター：国立女性教育会館職員

(5) 「女性情報ポータルWinet 紹介および女性教育情報センター見学」

(＊希望者のみ参加)

17:00～18:00

説明・案内：国立女性教育会館情報課職員

(6) 情報交換会(＊希望者のみ参加)

19:00～20:30

- ・参加者相互の親交を深め、情報交換を行います。

第2日 1月11日(金)

(7) 調査報告「女性のキャリア形成に関する最新の調査研究から」

9:00～10:00

- ・国立女性教育会館が行った、女性のキャリア形成に関する新たなキャリア概念のとらえ直しを含む最新の調査研究の報告をいたします。

報告者：野依 智子 国立女性教育会館研究国際室研究員

(8) 実践事例報告「キャリア形成支援活動の実際」

10:15～11:45

- ・様々な実践事例から、事業にあたっての工夫や成果と課題を学びます。

コーディネーター：国広 陽子 東京女子大学教授

- ・ NWE C の研修を活用した実践事例

事例報告者：石山 由美子 山形県男女共同参画センター企画調整員

- ・ 女性社員の活躍推進とキャリア形成支援

事例報告者：町田 恭子 社団法人埼玉県経営者協会総務課主事

- ・ 社会活動・地域課題に取り組む女性の活躍

事例報告者：植田 淳子 NPO 法人安心院町グリーンツーリズム研究会事務局長

（９）講義「事業（学習）計画案づくりのポイント」

13:00～14:00

- ・ 事業（学習）計画案づくりに向けて、プログラムデザインと関連するワークショップ手法についてポイントを学びます。

講師：引間 紀江 国立女性教育会館事業課専門職員心得

※(10)、(12)のコース別ワークショップは、3コースに分かれて行います。

<Ⅰ 社会活動キャリア支援コース>

【計画案テーマ】社会活動キャリア、NPO活動、地域づくりなど

アドバイザー：西山 恵美子 国立女性教育会館客員研究員

学習支援者：森下 敏広 国立女性教育会館事業課専門職員

<Ⅱ 職業キャリア支援コース>

【計画案テーマ】再就職・再チャレンジ、キャリア・アップ、就業継続など

アドバイザー：谷口 年江 静岡市女性会館副館長

学習支援者：野依 智子 国立女性教育会館研究国際室研究員

<Ⅲ 若年層に対する支援コース>

【計画案テーマ】大学生・若年社会人のキャリア教育・キャリア形成支援など

アドバイザー：大槻 奈巳 聖心女子大学准教授

学習支援者：渡辺 美穂 国立女性教育会館研究国際室研究員

（10）「事業（学習）計画案づくり」1 ●コース別ワークショップ 14:15～17:00

- ・それぞれの地域・組織で実施する、男女共同参画の視点に立ったキャリア形成に役立つ支援の内容と方策について考え、参加者の立場に沿った事業（学習）計画案を作成します。

（11）自由交流

19:00～20:30

第3日 1月12日（土）

（12）「事業（学習）計画案づくり」2 ●コース別ワークショップ 9:30～11:45

- ・前日に引き続き、キャリア形成支援に役立つ支援の内容と方策について、事業（学習）計画案を作成します。

(13) 全体会「女性の活躍を推進するキャリア形成支援とは」

13:00～14:30

- ・各コースからの報告を踏まえ、フロアとの意見交換と共有を行い、キャリア形成支援の方向性と課題を探ります。

報告者：「事業（学習）計画案づくり」 1 および 2 各アドバイザー

進行：国立女性教育会館職員

(14) 閉 会

14:30～

主催者あいさつ：国立女性教育会館

9. その他

- （1）1月10日（木）と12日（土）に、国立女性教育会館と東武東上線武蔵嵐山駅間で参加者用送迎バスを運行いたします。
- （2）期間中、職員が撮影した写真を、事業記録や広報のために使用することがあります。あらかじめご了承ください。

平成24年度 男女共同参画の視点に立った多様なキャリア形成支援研修 参加者概況

平成25年1月9日現在

1. 性別

	合 計	定員	60 名
女 性	46	申込者	61 名
男 性	10	参加者	56 名
合 計	56	(キャンセル)	(5 名)
		応募倍率	101.7 %

2. 参加日別

	女 性	男 性	合 計
全日程	37	8	45
10日のみ	4	—	4
11日のみ	1	1	2
12日のみ	—	—	—
10,11日のみ	2	1	3
11,12日のみ	2	—	2
合計	46	10	56

3. 年代

	女 性	男 性	合 計
20代	5	—	5
30代	6	2	8
40代	15	6	21
50代	12	2	14
60代以上	7	—	7
無回答	1	—	1
合 計	46	10	56

4. 職業別

	女 性	男 性	合 計
① 女性関連施設・社会教育施設等の職員	23	7	30
② 団体・グループ・NPO等のメンバー	15	—	15
③ 大学等のキャリア教育担当教職員等	8	3	11
合 計	46	10	56

5. 情報センター見学参加

	合 計
女 性	25
男 性	7
合 計	32

6. 情報交換会参加

	合 計
女 性	30
男 性	6
合 計	36

7. 希望コース

	女 性	男 性	合 計
I 社会活動キャリア支援コース	13	3	16
II 職業キャリア支援コース	12	5	17
III 若年層に対する支援コース	17	2	19
合 計	42	10	52

8. 会館利用歴(複数回答)

	女 性	男 性	合 計
会館主催リーダー向け研修に参加	6	1	7
会館主催その他の事業に参加	21	4	25
会館を利用し、事業を実施	8	1	9
他の諸機関・団体実施の事業に参加	8	1	9
利用歴なし(全項目無回答)	23	6	29

※地域ブロック別参加者内訳

	女 性	男 性	合 計	%
北海道・東北	5	2	7	12.5
関東	24	2	26	46.4
甲信越	2	1	3	5.4
北陸・東海	3	—	3	5.4
近畿	5	2	7	12.5
中国・四国	4	2	6	10.7
九州・沖縄	3	1	4	7.1
合計	46	10	56	100.0

7. 都道府県別

※政令指定都市(カッコ内)は都道府県の内数に含む

		女 性	男 性	合 計
北海道・東北	北海道	1	—	1
	（札幌市）	（—）	（—）	（—）
	青森県	—	—	—
	岩手県	1	—	1
	宮城県	—	—	—
	（仙台市）	（—）	（—）	（—）
	秋田県	2	—	2
	山形県	—	—	—
関東	福島県	1	2	3
	茨城県	3	—	3
	栃木県	2	—	2
	群馬県	—	—	—
	埼玉県	6	—	6
	（さいたま市）	（—）	（—）	（—）
	千葉県	3	—	3
	（千葉市）	（—）	（—）	（—）
	東京都	7	1	8
	神奈川県	3	1	4
	（横浜市）	（—）	（—）	（—）
（川崎市）	（2）	（—）	（2）	
（相模原市）	（—）	（—）	（—）	
甲信越	山梨県	—	1	1
	新潟県	1	—	1
	（新潟市）	（—）	（—）	（—）
	長野県	1	—	1
北陸・東海	富山県	—	—	—
	石川県	—	—	—
	福井県	—	—	—
	岐阜県	—	—	—
	静岡県	3	—	3
	（静岡市）	（—）	（—）	（—）
	（浜松市）	（—）	（—）	（—）
	愛知県	—	—	—
	（名古屋市）	（—）	（—）	（—）
三重県	—	—	—	
近畿	滋賀県	—	1	1
	京都府	1	—	1
	（京都市）	（—）	（—）	（—）
	大阪府	2	—	2
	（大阪市）	（1）	（—）	（1）
	（堺市）	（—）	（—）	（—）
	兵庫県	2	1	3
	（神戸市）	（1）	（1）	（2）
	奈良県	—	—	—
和歌山県	—	—	—	
中国・四国	鳥取県	—	1	1
	島根県	—	—	—
	岡山県	1	—	1
	（岡山市）	（—）	（—）	（—）
	広島県	1	—	1
	（広島市）	（—）	（—）	（—）
	山口県	1	—	1
	徳島県	—	—	—
	香川県	—	—	—
	愛媛県	—	1	1
高知県	1	—	1	
九州・沖縄	福岡県	—	—	—
	（北九州市）	（—）	（—）	（—）
	（福岡市）	（—）	（—）	（—）
	佐賀県	—	—	—
	長崎県	1	1	2
	熊本県	—	—	—
	（熊本市）	（—）	（—）	（—）
	大分県	—	—	—
	宮崎県	1	—	1
鹿児島県	1	—	1	
沖縄県	—	—	—	
合計	46	10	56	

**平成24年度「男女共同参画の視点に立った多様なキャリア形成支援研修」
アンケート集計結果**

定員	60 名
応募者	61 名
応募倍率	101.7 %
実参加者	56 名(女性46名、男性10名)
アンケート回答数	47 件
アンケート回答率	83.9 %

I 本研修に関する意見・感想

1. この研修の内容は、あなたの考えを深めたり、今後の事業を行う際に役立てたりするうえで、有用でしたか。

(1)各プログラム等について

〈10日〉

講義「男女共同参画社会における女性の活躍とキャリア形成支援の必要性」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	19	52.8	4	44.5	1	50.0	24	51.1	24	57.1
有用であった	13	36.1	3	33.3	-	-	16	34.0	16	38.1
あまり有用でなかった	1	2.8	1	11.1	-	-	2	4.3	2	4.8
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	3	8.3	1	11.1	1	50.0	5	10.6		
合計	36	100.0	9	100.0	2	100.0	47	100.0	42	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

施策説明「女性の活躍推進に向けたキャリア形成支援に関する文部科学省の取組」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	5	13.9	2	22.2	-	-	7	14.9	7	16.7
有用であった	26	72.2	5	55.6	1	50.0	32	68.1	32	76.2
あまり有用でなかった	2	5.6	1	11.1	-	-	3	6.4	3	7.1
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	3	8.3	1	11.1	1	50.0	5	10.6		
合計	36	100.0	9	100.0	2	100.0	47	100.0	42	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

グループ討議

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	12	33.4	3	33.3	-	-	15	31.9	15	35.7
有用であった	18	50.0	4	44.5	1	50.0	23	48.9	23	54.8
あまり有用でなかった	3	8.3	1	11.1	-	-	4	8.5	4	9.5
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	3	8.3	1	11.1	1	50.0	5	10.7		
合計	36	100.0	9	100.0	2	100.0	47	100.0	42	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

「女性情報ポータルWinet紹介および女性教育情報センター見学」(希望者のみ)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	5	13.9	1	11.1	1	50.0	7	14.9	7	22.6
有用であった	18	50.0	4	44.5	-	-	22	46.8	22	71.0
あまり有用でなかった	1	2.8	1	11.1	-	-	2	4.3	2	6.4
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	4	11.1	1	11.1	-	-	5	10.6		
無回答	8	22.2	2	22.2	1	50.0	11	23.4		
合計	36	100.0	9	100.0	2	100.0	47	100.0	31	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

情報交換会(希望者のみ)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	15	41.7	5	55.6	-	-	20	42.5	20	57.1
有用であった	10	27.8	3	33.3	1	50.0	14	29.8	14	40.0
あまり有用でなかった	1	2.8	-	-	-	-	1	2.1	1	2.9
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	2	5.5	-	-	-	-	2	4.3		
無回答	8	22.2	1	11.1	1	50.0	10	21.3		
合計	36	100.0	9	100.0	2	100.0	47	100.0	35	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

〈11日〉

調査報告「女性のキャリア形成に関する最新の調査研究から」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	18	50.0	2	22.2	2	100.0	22	46.8	22	50.0
有用であった	15	41.7	6	66.7	-	-	21	44.7	21	47.7
あまり有用でなかった	1	2.8	-	-	-	-	1	2.1	1	2.3
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	-	-	-	-	-	-		
無回答	2	5.5	1	11.1	-	-	3	6.4		
合計	36	100.0	9	100.0	2	100.0	47	100.0	44	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

実践事例報告「NWECの研修を活用した実践事例」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	16	44.4	4	44.4	2	100.0	22	46.8	22	47.8
有用であった	19	52.8	5	55.6	-	-	24	51.1	24	52.2
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	-	-	-	-	-	-		
無回答	1	2.8	-	-	-	-	1	2.1		
合計	36	100.0	9	100.0	2	100.0	47	100.0	46	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

実践事例報告「女性社員の活躍推進とキャリア形成支援」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	19	52.8	6	66.7	2	100.0	27	57.5	27	58.7
有用であった	15	41.6	3	33.3	-	-	18	38.3	18	39.1
あまり有用でなかった	1	2.8	-	-	-	-	1	2.1	1	2.2
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	-	-	-	-	-	-		
無回答	1	2.8	-	-	-	-	1	2.1		
合計	36	100.0	9	100.0	2	100.0	47	100.0	46	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

実践事例報告「社会活動・地域活動に取り組む女性の活躍」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	23	63.9	6	66.7	2	100.0	31	66.0	31	67.4
有用であった	12	33.3	3	33.3	-	-	15	31.9	15	32.6
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	-	-	-	-	-	-		
無回答	1	2.8	-	-	-	-	1	2.1		
合計	36	100.0	9	100.0	2	100.0	47	100.0	46	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

講義「事業(学習)計画案づくりのポイント」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	16	44.5	5	55.6	2	100.0	23	48.9	23	52.3
有用であった	17	47.2	4	44.4	-	-	21	44.7	21	47.7
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	3	8.3	-	-	-	-	3	6.4	-	-
合計	36	100.0	9	100.0	2	100.0	47	100.0	44	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

自由交流(希望者のみ)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	11	30.6	3	33.3	1	50.0	15	31.9	15	68.2
有用であった	5	13.9	2	22.2	-	-	7	14.9	7	31.8
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	4	11.1	-	-	-	-	4	8.5	-	-
無回答	16	44.4	4	44.5	1	50.0	21	44.7	-	-
合計	36	100.0	9	100.0	2	100.0	47	100.0	22	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

〈11日・12日〉

コース別ワークショップ・参加コース

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%
I 社会活動キャリア支援コース	10	27.8	4	44.4	2	100.0	16	34.0
II 職業キャリア支援コース	12	33.3	4	44.4	-	-	16	34.0
III 若年層に対する支援コース	14	38.9	1	11.2	-	-	15	32.0
合計	36	100.0	9	100.0	2	100.0	47	100.0

コース別ワークショップ(学習支援について)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	20	55.5	4	44.5	2	100.0	26	55.3	26	72.2
有用であった	6	16.7	3	33.3	-	-	9	19.2	9	25.0
あまり有用でなかった	1	2.8	-	-	-	-	1	2.1	1	2.8
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	9	25.0	2	22.2	-	-	11	23.4	-	-
合計	36	100.0	9	100.0	2	100.0	47	100.0	36	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

※分科会コース別

	1	%	2	%	3	%	合計	%
非常に有用であった	10	62.5	7	43.8	9	60.0	26	55.3
有用であった	4	25.0	4	25.0	1	6.7	9	19.2
あまり有用でなかった	-	-	1	6.2	-	-	1	2.1
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	2	12.5	4	25.0	5	33.3	11	23.4
合計	16	100.0	16	100.0	15	100.0	47	100.0

コース別ワークショップ(協議について)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%
非常に有用であった	18	50.0	4	44.4	2	100.0	24	51.1
有用であった	9	25.0	4	44.4	-	-	13	27.7
あまり有用でなかった	1	2.8	-	-	-	-	1	2.1
全く有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	8	22.2	1	11.2	-	-	9	19.1
合計	36	100.0	9	100.0	2	100.0	47	100.0

※分科会コース別

	1	%	2	%	3	%	無回答	%	合計	%
非常に有用であった	9	56.3	8	50.0	7	46.7	—	—	24	51.1
有用であった	5	31.2	5	31.3	3	20.0	—	—	13	27.7
あまり有用でなかった	—	—	1	6.2	—	—	—	—	1	2.1
全く有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	2	12.5	2	12.5	5	33.3	—	—	9	19.1
合計	16	100.0	16	100.0	15	100.0	—	—	47	100.0

コース別ワークショップ(全般・その他)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	21	58.3	7	77.8	2	100.0	30	63.8	30	75.0
有用であった	9	25.0	—	—	—	—	9	19.2	9	22.5
あまり有用でなかった	1	2.8	—	—	—	—	1	2.1	1	2.5
全く有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	5	13.9	2	22.2	—	—	7	14.9	—	—
合計	36	100.0	9	100.0	2	100.0	47	100.0	40	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

※分科会コース別

	1	%	2	%	3	%	合計	%
非常に有用であった	13	81.3	7	43.8	10	66.7	30	63.8
有用であった	1	6.3	5	31.2	3	20.0	9	19.2
あまり有用でなかった	1	6.2	—	—	—	—	1	2.1
全く有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	1	6.2	4	25.0	2	13.3	7	14.9
合計	16	100.0	16	100.0	15	100.0	47	100.0

〈12日〉

全体会

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	11	30.5	5	55.6	2	100.0	18	38.3	18	58.1
有用であった	10	27.8	2	22.2	—	—	12	25.6	12	38.7
あまり有用でなかった	1	2.8	—	—	—	—	1	2.1	1	3.2
全く有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	1	2.8	—	—	—	—	1	2.1	—	—
無回答	13	36.1	2	22.2	—	—	15	31.9	—	—
合計	36	100.0	9	100.0	2	100.0	47	100.0	31	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

〈その他〉

開催資料

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	13	36.1	2	22.2	1	50.0	16	34.0	16	53.3
有用であった	9	25.0	4	44.5	1	50.0	14	29.8	14	46.7
あまり有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
全く有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	14	38.9	3	33.3	—	—	17	36.2	—	—
合計	36	100.0	9	100.0	2	100.0	47	100.0	30	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

情報交換コーナー

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	7	19.4	2	22.2	—	—	9	19.1	9	39.1
有用であった	8	22.2	2	22.2	1	50.0	11	23.4	11	47.8
あまり有用でなかった	1	2.8	1	11.1	—	—	2	4.3	2	8.7
全く有用でなかった	—	—	1	11.1	—	—	1	2.1	1	4.4
参加しなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	20	55.6	3	33.4	1	50.0	24	51.1	—	—
合計	36	100.0	9	100.0	2	100.0	47	100.0	23	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた場合)

(2)研修全体について

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	21	58.4	5	55.6	2	100.0	28	59.6	28	65.1
有用であった	12	33.3	3	33.3	—	—	15	31.9	15	34.9
あまり有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
全く有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	3	8.3	1	11.1	—	—	4	8.5	—	—
合計	36	100.0	9	100.0	2	100.0	47	100.0	43	100.0

(※は「無回答」を除いた場合)

<意見・感想等>

「非常に有用であった」理由

- 男女共同参画センターの方からは、事業のヒントになるような前向きなコメントや意見をたくさんいただいた。
- センター職員・自治体男女共同参画担当ではない方との交流ができてよかった。

キャリア＝職業というイメージがあったが、複合キャリアという考え方が新鮮だった。

この研修そのものが、ていねいにプログラムデザインされていることもあり、学びたいことに対しての段階や手法など、アプローチの仕方が工夫されており、大変良かった。研修参加者に対して、この研修の受講の目的を持たせること、そのプロセスをきちんと伝えることも大切であることを、併せて学ぶことができた。

すぐに実践で使える内容が多かったので、良かったです。(来年度計画を立てているところなので。)

企画・立案の仕方や、ふだん自分が疑問に思っていたことが解決できた。

客観的に男女共同参画や、複合キャリアについて考えることができた。様々な機関の状況を知ることができた。

余談※男性の参加はやはり少ないようですね。男性限定のこのような男女共同参画セミナーというものもあるのでしょうか。男性と女性の考え方の温度差は小さくなってきているのでしょうか。講師陣がすべて男性というのはどうでしょう？

具体的にプランの作成を通して、課題、テーマ他企画立案できた。プロセスが興味深かった。

最新の動向が理解できた。

参加者同士での交流の中で多くのヒントを頂いた。今後のネットワークにしたい。

事業の企画等の組立て方を研修できる。男女共同参画を再認識できる。

実現可能性のある事業計画案を作ることができたこと。その際に、グループで作業することで新しいアイデアに触れ、まとめることができたこと。アドバイザーの方から丁寧なアドバイスやコメントをいただけたこと。このような機会を作っていただき、本当にありがとうございました。

女子学生の就業支援で、単なる「就活」テクニック以外の動機づけが必要と思い参加し、沢山のロールモデルを見せてあげることが一つの方法であることに気がついた。

多くの視点、方々を知ることができ大変有効でした。又、自分の中で整理しきれない事柄をクリアにする機会でした。皆様方に感謝いたします。

地元で課題となっていたテーマで、全て参考になりました。ていねいな企画で、さすが又エックです。満足して帰ります。

本業は別にあり職業キャリアはある。それとは別に女性センターで登録団体を立ち上げ約15年活動している。それもキャリアであると社会的に認められるのは嬉しい。団体の仲間にも伝えたい。ただし、ワークショップは研修の時間内にできるような時間割としていただきたい。

「有用であった」理由

アイデアや皆様の話をきくことで、発想や今の状況がよくわかった。

キャリア支援についての事例及び生の声が聞けて、これからの活動に向けて有用であった。

資料がコンパクトにまとめてあって良かった。グループワークも少人数で意思疎通が容易であった。

事業計画案づくりの視点と複合キャリアについて学ぶことができた。

自分自身のキャリア形成を考える上でも大変参考になる視点を学びました。

複合キャリア形成支援について再認識でき、実践事例報告はたいへん心打たれました。

来年度の事業がひとつできあがったように思います。

2. 研修に参加された目的と達成度について

目的(複数回答)

	女性 (36名中)	男性 (9名中)	不明 (2名中)	合計 (47名中)
1 男女共同参画の視点を学ぶ	10 27.8	3 33.3	— —	13 27.7
2 国のキャリア形成支援施策の動向を把握する	11 30.6	2 22.2	1 50.0	14 29.8
3 多様なキャリア形成支援の実態と課題を把握する	23 63.9	6 66.7	1 50.0	30 63.8
4 多様なキャリア形成支援の必要性とその役割、今後の支援の方向性について知る	28 77.8	3 33.3	1 50.0	32 68.1
5 事業(学習)計画づくりのための視点と手法のヒントを得る	23 63.9	8 88.9	1 50.0	32 68.1
6 相互の情報交換・交流を深め、ネットワークづくりのきっかけを得る	21 58.3	6 66.7	1 50.0	28 59.6
7 その他	2 5.6	— —	— —	2 4.3

達成度

1 男女共同参画の視点を学ぶことができた。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	12	33.3	1	11.1	—	—	13	27.7	13	54.2
おおむね達成できた	8	22.2	3	33.3	—	—	11	23.4	11	45.8
あまり達成できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
達成できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	16	44.5	5	55.6	2	100.0	23	48.9		
合計	36	100.0	9	100.0	2	100.0	47	100.0	24	100.0

(※は「無回答」を除いた場合)

2 国のキャリア形成支援施策の動向を把握することができた。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	7	19.4	1	11.1	1	50.0	9	19.2	9	37.5
おおむね達成できた	11	30.6	3	33.3	—	—	14	29.8	14	58.3
あまり達成できなかった	1	2.8	—	—	—	—	1	2.1	1	4.2
達成できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	17	47.2	5	55.6	1	50.0	23	48.9		
合計	36	100.0	9	100.0	2	100.0	47	100.0	24	100.0

(※は「無回答」を除いた場合)

3 多様なキャリア形成支援の実態と課題を把握することができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	14	38.9	1	11.1	1	50.0	16	34.0	16	48.5
おおむね達成できた	13	36.1	3	33.3	—	—	16	34.0	16	48.5
あまり達成できなかった	—	—	1	11.1	—	—	1	2.2	1	3.0
達成できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	9	25.0	4	44.5	1	50.0	14	29.8		
合計	36	100.0	9	100.0	2	100.0	47	100.0	33	100.0

(※は「無回答」を除いた場合)

4 多様なキャリア形成支援の必要性和その役割、今後の支援の方向性について知ることができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	14	38.9	1	11.1	1	50.0	16	34.1	16	45.7
おおむね達成できた	16	44.4	3	33.3	-	-	19	40.4	19	54.3
あまり達成できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
達成できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	6	16.7	5	55.6	1	50.0	12	25.5		
合計	36	100.0	9	100.0	2	100.0	47	100.0	35	100.0

(※は「無回答」を除いた場合)

5 事業(学習)計画づくりのための視点と手法のヒントを得ることができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	13	36.1	3	33.3	1	50.0	17	36.2	17	45.9
おおむね達成できた	14	38.9	5	55.6	-	-	19	40.4	19	51.4
あまり達成できなかった	1	2.8	-	-	-	-	1	2.1	1	2.7
達成できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	8	22.2	1	11.1	1	50.0	10	21.3		
合計	36	100.0	9	100.0	2	100.0	47	100.0	37	100.0

(※は「無回答」を除いた場合)

6 相互の情報交換・交流を深め、ネットワークづくりのきっかけを得ることができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	19	52.8	5	55.6	1	50.0	25	53.2	25	71.4
おおむね達成できた	7	19.4	2	22.2	-	-	9	19.2	9	25.7
あまり達成できなかった	1	2.8	-	-	-	-	1	2.1	1	2.9
達成できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	9	25.0	2	22.2	1	50.0	12	25.5		
合計	36	100.0	9	100.0	2	100.0	47	100.0	35	100.0

(※は「無回答」を除いた場合)

7 その他

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
おおむね達成できた	2	5.6	-	-	-	-	2	4.3	2	100.0
あまり達成できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
達成できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	34	94.4	9	100.0	2	100.0	45	95.7		
合計	36	100.0	9	100.0	2	100.0	47	100.0	2	100.0

(※は「無回答」を除いた場合)

3. この研修での満足度は、いかがでしたか。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に満足した	21	58.3	4	44.4	1	50.0	26	55.3	26	59.1
満足した	12	33.3	4	44.4	-	-	16	34.0	16	36.4
少し物足りなかった	1	2.8	1	11.2	-	-	2	4.3	2	4.5
物足りなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	2	5.6	-	-	1	50.0	3	6.4		
合計	36	100.0	9	100.0	2	100.0	47	100.0	44	100.0

(※は「無回答」を除いた場合)

＜意見・感想等＞

「非常に満足した」理由

NPOの参加が少なかったが、異なる立場の方の話がきけて収穫もあり新鮮だった。講義でもモチベーションが上がった。事業計画をブラッシュアップできそうです。

プログラム内容及び資料が充実していた。

今後、キャリア形成支援事業を展開していくにあたり、改めてその必要性和方向性をきちんと確認できたことと、他県・センターの事例や大学・学生の状況を情報交換できたこと。

実践事例、計画案づくりなど、とても具体的である、その一端を実践できそうである。

他の方々と交流でき、またプログラム作成など体験でき、期待以上でした。

「満足した」理由

採用1年目の私でも分かりやすい内容でした。

初めての参加だったので自己啓発になり、モチベーションも上がりました。

「少し物足りなかった」理由

キャリア形成の大切さ、複合キャリアの考え方は理解した。しかしキャリア形成していく上での問題点、非正規雇用の低い賃金、長時間保育される子供たち、社会活動における収入など、多くの問題が存在する。その点に全く触れないのはどうなのか？法律の問題・企業の問題という問題があることも明らかにしながらキャリア形成を考えていくべきだと思う。

事業計画案づくりにもっとウエイトをおき、参加者同士の共有をしていきたいかった。

無回答理由

もう少しじっくり説明を聞きたい。

4. 今後この研修で取り上げて欲しいテーマ・内容・方法について

- ・キャリア形成支援を男女共同参画の視点で推進していくためには、今回参加のあった行政(男女センター)と大学のほかに、企業との関わりも重要と考えているので、企業の方も参加できるようなテーマ、内容であると、特にコース別ワークショップは有意義であったと思う。
- ・企画の時に、きっかけ作りの企画はできても、出口の受け皿作りを困難に感じます。フォローアップしつつ、受け皿作りができる方法についても考察できる機会があればよい。
- ・企業へのはたらきかけの事例
- ・社会活動もキャリアであるという視点は大切だとは思いますが、そのキャリアを収入に結びつけるという視点がほとんどなかったように思う。2日目調査報告の中に(P9)複合キャリアととらえることがM字カーブの解消につながるというのは、社会活動が収入につながらなければならないのではないのか？社会活動と収入という視点を取り入れてほしい。
- ・若年層を対象とした取り組みの事例等(主に学生)
- ・女性のキャリア形成支援について世代別の具体的な支援の内容、事例などをテーマに更に深耕したPART2の研修を計画していただきたい。
- ・研修の目的として「事業(学習)計画案づくり」に取り組むとすれば、事前の準備等にも時間をかけるようなしくみがあると良かったと思います。

5. 研修の開催期間について

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
この期間(1泊2日)でよい	29	80.5	8	88.9	1	50.0	38	80.8	38	92.7
この期間では参加しにくい	2	5.6	1	11.1	-	-	3	6.4	3	7.3
無回答	5	13.9	-	-	1	50.0	6	12.8		
合計	36	100.0	9	100.0	2	100.0	47	100.0	41	100.0

(※は「無回答」を除いた場合)

＜どのような期間が適切か＞

- ・期間ではないが、開催時期は、仕事始めの忙しい時期のため、1月下旬がよい。
- ・開催日数は良いが、時期としては来年度の予算要求に反映できる6～8月が良い。
- ・もっと新緑の美しい季節がいいと思います(たまには)。東松山は意外と寒かった。このようなすばらしい施設の屋外での散歩をしてみたいです。
- ・大学生の長期休暇中だとありがたいです。
- ・1泊2日の日程でもよいかもしれない。

6. <会館に宿泊された方のみ>会館に宿泊することで得られたことは何ですか(複数回答)

	女性	% (36名中)	男性	% (9名中)	不明	% (2名中)	合計	% (47名中)
1 新しい出会いがあり、仲間づくりができた。	25	69.4	9	100.0	—	—	34	72.3
2 日ごろの思いを共感してもらえる交流ができた。	19	52.8	4	44.4	—	—	23	48.9
3 ネットワークづくりのきっかけをつかむことができた。	18	50.0	5	55.6	1	50.0	24	51.1
4 ネットワークを深めることができた。	4	11.1	2	22.2	—	—	6	12.8
5 新しくネットワークができた。	6	16.7	3	33.3	—	—	9	19.1
その他	3	8.3	—	—	—	—	3	6.4

<その他>

- ・ 違う立場での参加者からキャリア支援や男女共同参画に関する実情を知ることができてよかった。
- ・ 今後の課題をゆつくりと考えることができた(家庭と職場から離れたので)
- ・ 全国の男女共同参画センターの実状を少し知った。

7. その他、国立女性教育会館の事業や施設等について

- ・ 4月に男女共同参画担当部署に異動してきて、ヌエックの存在は知っていたが、当県事業への活用を考えたことがなかった(どう活用できるかわからなかった)が、今回の研修を通して、大変もったいなかったと感じた。身近に感じることもできたので、ぜひ今後、いろいろ相談させていただきたい。
- ・ ヌエックは、全国の男女共同参画施設の研修施設、ナショナルセンターとして極めて重要と思いますので、永くつづけて下さい。
- ・ 初めての参加です。一昨年まで企業で働いていました。一般の女性がNWECの存在を知って、参加できる出前講座を各地で開催していただけるといいなと思います。独りでがんばっている女性が多いです。ネットワークできるとパワーが出ると思います。
- ・ 初めて参加したが、参加者の意欲が感じられとても参考になった。企画案のこうした方がよいのではの講評の時間がもう少しあると良いと思った。
- ・ 毎回、新しい視点、出会いを楽しみに参加しています。一方、地方でもこのような内容の研修が開催されれば、うれしいです。今回、大学教員もお誘いしましたが、センター試験前で参加できず、残念でした。

※地域ブロック別参加者内訳

	女 性	男 性	合 計
北海道・東北	5	2	7
関東・甲信越	26	3	29
北陸・東海	3	—	3
近畿	5	2	7
中国・四国	4	2	6
九州・沖縄	3	1	4
合計	46	10	56

参加者内訳職業別

	女 性	男 性	合 計
① 女性関連施設・生涯学習施設等の職員	23	7	30
② 団体・グループ・NPO等のメンバー	15	—	15
③ 大学等のキャリア教育担当教職員等	8	3	11
合 計	46	10	56

参加者自身について

◆性別

		%
女性	36	76.6
男性	9	19.1
不明	2	4.3
合計	47	100.0

**平成23年度「男女共同参画の視点に立った多様なキャリア形成支援研修」
フォローアップアンケート集計結果**

対象者数 45 名
回答数 32 件
回答率 71.1 %

1. 研修の成果はあなたの仕事や活動に役立ちましたか

	件数	%
a. 大いに役立っている	7	21.9
b. ある程度役立っている	25	78.1
c. あまり役立っていない	－	－
d. ほとんど役立っていない	－	－
無回答	－	－
合計	32	100.0

プラス評価者(a+b)	
件数	%
32	100.0

2. 研修の成果を普及・活用した方法

(1) 所属する組織内での普及・活用方法

ア. それぞれの内容における実績への回答数

内容	実績		プラス評価者の実績			
	合計		a		b	
	件数	% (32名中)	件数	% (7名中)	件数	% (25名中)
研修内容の報告・説明	26	81.3	6	85.7	20	80.0
各種広報資料への執筆・公表	1	3.1	－	－	1	4.0
研修資料を活用した職員・メンバー向け勉強会・研修会の開催	1	3.1	－	－	1	4.0
所属組織・所属団体の組織や体制の改善に向けた指導・助言	6	18.8	－	－	6	24.0
来年度事業・予算への反映	5	15.6	1	14.3	4	16.0
具体的な事業の企画・運営への指導・助言	6	18.8	1	14.3	5	20.0
その他	1	3.1	－	－	1	4.0
合計	46		8		38	

(2) 地域(他機関、団体・グループ等との連携)での普及・活用方法

ア. それぞれの内容における実績への回答数(プラス評価者のみ)

内容	実績		プラス評価者の実績			
	合計		a		b	
	件数	% (32名中)	件数	% (7名中)	件数	% (25名中)
研修資料の提供	2	6.3	－	－	2	8.0
研修内容の説明	3	9.4	1	14.3	2	8.0
各種広報資料への執筆	－	－	－	－	－	－
勉強会・研修会での指導・助言・協力	4	12.5	－	－	－	－
他の組織・団体の組織や体制の改善に向けた指導・助言・協力	6	18.8	1	14.3	5	20.0
具体的な事業の企画・運営への指導・助言	5	15.6	1	14.3	4	16.0
ネットワーク構築に向けた働きかけ	6	18.8	－	－	6	24.0
その他	2	6.3	－	－	2	8.0
合計	28		3		21	

平成24年度「女性関連施設相談員研修」実施要項

1. 趣 旨 女性関連施設の相談員を対象に、配偶者からの暴力被害、日本で働き生活する外国人が抱える困難や貧困等喫緊の課題解決に必要な知識・技能を取得し、相談者への理解の深化や関係機関との連携等の促進を図ります。複雑・多様化する女性の悩みに適切に対応できる相談員の育成と業務の質の向上を内容とする専門的・実践的研修です。
2. 主 催 独立行政法人 国立女性教育会館
3. 会 場 国立女性教育会館
〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728
TEL 0493-62-6724・6725
FAX 0493-62-6720
ホームページ URL <http://www.nwec.jp/>
Eメールアドレス progdiv@nwec.jp
4. 期 日 平成24年10月17日（水）～10月19日（金） 2泊3日
5. 参 加 者 公私立の女性会館・女性センター等の女性関連施設において、女性の悩みに関する相談業務に携わっている相談員（初任の方から参加できます）
6. 定 員 80名

7. 日程・内容

第1日 10月17日（水）

☆オリエンテーション（諸連絡）☆

13:00～13:05

（1）開会

13:05～13:20

- ① 主催者あいさつ 山根 徹夫 国立女性教育会館理事
- ② プログラム説明 森下 敏広 国立女性教育会館事業課専門職員

（2）講義「女性関連施設における相談業務の意義と役割」

13:20～14:50

女性関連施設における相談業務の意義と役割を、女性が抱える問題解決と女性のエンパワーメントの視点から学びます。

講 師 小柳 茂子 相模女子大学人間心理学科教授

休憩

14:50～15:00

（3）講義「配偶者等からの暴力の被害者支援の現状と方向性」

15:00～15:30

配偶者等からの暴力の被害者支援体制と支援のあり方について、内閣府から最新の施策及び政策動向を学びます。

講 師 齋藤 由佳 内閣府男女共同参画局推進課暴力対策推進室暴力対策調整係長

休憩

15:30～15:40

(4) 講義「自立支援につなげるための女性相談における関係機関との連携の重要性」 15:40~17:10

相談を入り口とした来談者の支援には、行政はもとより関係機関との連携が重要になります。この連携のポイントを学びます。

講 師 坂井 美津江 金沢市市民局市民参画課女性相談支援室長

【オプションプログラム 希望者のみ】

★ 見学・説明「国立女性教育会館情報機能の女性相談事業への活用」 17:15~17:50

国立女性教育会館の女性教育情報センター・女性アーカイブセンターを見学し、女性情報ポータルデータベース等からの情報の活用について学びます。

説 明 国立女性教育会館情報課 職員

★ 情報交換会 19:00~20:30

それぞれが抱える課題や情報の交換や、ネットワークをつくります。

第2日 10月18日(木)

(5) 講義「女性相談の実態と支援に役立つ法知識」 9:00~10:30

配偶者からの暴力被害の実態や女性の自立等の支援に役立つ法律について学びます。

講 師 番 敦子 日本弁護士連合会犯罪被害者支援委員会副委員長
弁護士

休憩 10:30~10:40

(6) 講義「相談員のメンタルヘルス」 10:40~12:10

配偶者からの暴力相談に当たっての留意点や相談技法を学びつつ、相談員のメンタルヘルスに関する知識を学びます。

講 師 石井 朝子 医療法人社団慶神会武田病院顧問、心理学博士

☆昼食・休憩☆ 12:10~13:15

(7) 講義・事例検討〈分科会1〉「スーパービジョンを体験する」 13:15~15:45

具体事例を用いたスーパービジョンにより、被害者支援の実際を学びます。

・スーパービジョンの意義と行う際の留意点（講義）

・参加者よりご提出いただいた事例、もしくは想定ケースを用いて、スーパービジョンの実施

スーパーバイザー

1組

・川喜田 好恵 日本DV防止・情報センター運営委員

2組

・丹羽 雅代 NPO法人女性の安全と健康のための支援教育センター
運営委員、大学セクシャルハラスメント専門相談員

3組

・平川 和子 性暴力救援センター・東京事務局長、東京フェミニストセラピーセンター所長

休憩

15:45～16:00

(8) 講義「外国人女性の困難等の実態と支援」

16:00～17:30

日本で働き生活する外国人女性は、複合的に困難な状況に置かれている場合が少なくありません。困難等の実態と支援について学びます。

講 師 後藤 美樹 一般社団法人社会的包摂サポートセンター 外国人
ホットラインコーディネーター、中京大学非常勤講師
講 師 渡辺 美穂 国立女性教育会館研究国際室研究員

☆夕 食・休 憩☆

17:30～18:30

【オプションプログラム 希望者のみ】

★ セルフケア・プログラム「体の内面から強くしなやかに」

18:30～20:00

心と体を解放させてリラックス出来るボディーワーク。「ムリをしない」「気持ちがいい」ことを最大の目標とした、椅子に座りながらできるエクササイズを、体験いただければと思います。

講 師 ジョンカス 山岡 有美 日本女子体育大学非常勤講師、公益社団法人日本フィットネス協会参与

★ 自由交流

18:30～21:00

参加者の自由なテーマで集い、情報交換や地域に活かせるネットワークづくりを行います。

(テーマや内容を開催時間までに、ホワイトボードにご記入いただきます)

第3日 10月19日(金)

(9) 講義・意見交換〈分科会2〉「問題を抱えた当事者への支援を考える」

9:00～11:00

3つのテーマから1つを選択し、問題を抱えた当事者の支援について、テーマごとに支援の実際について講義をいただき、参加者間でテーマに関する意見交換を行います。

A:外国人女性の困難に対する支援と留意点

講 師 武藤 かおり 特定非営利活動法人女性の家サーラ事務局長

B:配偶者暴力被害者への支援と留意点

講 師 松本 和子 女性ネット saya-saya 代表理事

C:人間関係に関する悩みを抱える相談者への支援と留意点

講 師 海渡 捷子 フェミニストセラピィ “なかま” カウンセラー

休憩

11:00～11:15

(10) 全体会

「現代的な課題に対応する相談とは～女性のエンパワーメントをめざして～」

11:15～12:15

分科会2で話し合われた内容を元に、現代的な課題を解決に導く相談業務のあり方、女性のエンパワーメントにつながる支援について意見交換、共有を行い、これからの相談業務の意義と役割を考えます。

コーディネーター 戒能 民江 お茶の水女子大学名誉教授

報告者 武藤 かおり 特定非営利活動法人女性の家サーラ事務局長
松本 和子 女性ネット saya-saya 代表理事
海渡 捷子 フェミニストセラピィ “なかま” カウンセラー

(11) 振り返り 12:15～12:20
アンケートへ記入し、研修をふりかえります。

(12) 閉会 12:20～12:25
①主催者あいさつ 山下 勝弘 国立女性教育会館事業課長

8. 所要経費

- (1) 参加費 無 料
- (2) 宿泊費 研修期間中は1泊 1,000円（前・後泊を含みます。）
- (3) 食費 1食 700円～1,000円程度（カフェテリア方式）
- (4) 情報交換会費 1,000円（飲み物、お菓子、消費税を含みます）
- * 研修期間中の宿泊及び食事は、会館をご利用ください。
- * 交通費・宿泊費の主催者からの支給はありませんのでご注意ください。

9. 女性教育情報センター（本館2階）

開室時間 10月17日（水） 9:00 ～ 19:00
10月18日（木） 8:30 ～ 18:30
10月19日（金） 8:30 ～ 17:00

10. 女性アーカイブセンター展示室（本館1階）※

開室時間 10月17日（水） 9:00 ～ 19:00
10月18日（木） 8:30 ～ 19:00
10月19日（金） 8:30 ～ 19:00

※企画展示「建築と歩む～チャレンジした女性たちからチャレンジする女性たちへ～」を開催中です。ぜひご覧ください。

11. 情報交換コーナー（研修棟2階大会議室前 展示コーナー）

セミナー期間中、施設に関するパンフレット等を自由に交換する情報交換コーナーを設置します。所属する施設のパンフレット、チラシ等をお持ちください。

12. その他

- (1) 10月17日（水）・19日（金）の両日とも東武東上線武蔵嵐山（むさしらんざん）駅と「国立女性教育会館」間で無料送迎バスを運行いたします。
- (2) 期間中、職員が撮影した写真を、事業記録や広報に使用することがあります。ご了承ください。

平成24年度「女性関連施設相談員研修」参加者概況

定員：80名

申込者：104名

参加者：100名

応募倍率：130.0%

1. 性別

	合 計
女 性	99
男 性	1
合 計	100

2. 年代

	女 性	男 性	合 計
20代	5	—	5
30代	9	1	10
40代	23	—	23
50代	35	—	35
60代以上	25	—	25
無回答	2	—	2
合 計	99	1	100

3. 勤務形態

勤務形態	(専任・兼任)	女 性	男 性	合 計
常勤	(専任)	16	1	17
常勤	(兼任)	5	—	5
常勤	(無回答)	3	—	3
非常勤	(専任)	32	—	32
非常勤	(兼任)	5	—	5
非常勤	(無回答)	1	—	1
嘱託	(専任)	24	—	24
嘱託	(兼任)	5	—	5
嘱託	(無回答)	4	—	4
無回答		4	—	4
合 計		99	1	100

4. 施設区分

	女 性	男 性	合 計
公立Ⅰ：管理運営者が教育委員会	—	—	—
公立Ⅱ：管理運営者が男女共同参画担当部課	45	1	46
公立Ⅲ：管理運営者が福祉担当部局	28	—	28
公立Ⅳ：管理運営者が財団・社団・任意団体	8	—	8
公立Ⅳ：管理運営者が企業	—	—	—
公立Ⅳ：管理運営者がNPO	5	—	5
私立	1	—	1
その他	6	—	6
無回答	6	—	6
合 計	99	1	100

5. 17日見学・説明

	女 性	男 性	合 計
①見学・説明	63	—	63
不参加	36	1	37
合 計	99	1	100

6. 17日情報交換会

	女 性	男 性	合 計
②情報交換会	72	—	72
不参加	27	1	28
合 計	99	1	100

7. 18日セルフケア・プログラム

	女 性	男 性	合 計
③セルフケア・プログラム	75	—	75
不参加	24	1	25
合 計	99	1	100

9. 地域ブロック別参加者内訳

	女 性	男 性	合 計	割合%
北海道・東北	13	—	13	13.0
関東	36	1	37	37.0
甲信越	4	—	4	4.0
北陸・東海	21	—	21	21.0
近畿	4	—	4	4.0
中国・四国	12	—	12	12.0
九州・沖縄	9	—	9	9.0
合 計	99	1	100	100.0

8. 都道府県別

※政令指定都市(カッコ内)は都道府県の内数に含む

		女 性	男 性	合 計
北海道・東北	北海道	3	—	3
	（札幌市）	（—）	（—）	（—）
	青森県	3	—	3
	岩手県	—	—	—
	宮城県	3	—	3
	（仙台市）	（3）	（—）	（3）
	秋田県	—	—	—
	山形県	—	—	—
福島県	4	—	4	
関東	茨城県	6	—	6
	栃木県	2	—	2
	群馬県	5	1	6
	埼玉県	8	—	8
	（さいたま市）	（1）	（—）	（1）
	千葉県	2	—	2
	（千葉市）	（1）	（—）	（1）
	東京都	10	—	10
	神奈川県	3	—	3
	（横浜市）	（1）	（—）	（1）
	（川崎市）	（—）	（—）	（—）
	（相模原市）	（—）	（—）	（—）
甲信越	山梨県	1	—	1
	新潟県	2	—	2
	（新潟市）	（1）	（—）	（1）
	長野県	1	—	1
北陸・東海	富山県	1	—	1
	石川県	2	—	2
	福井県	2	—	2
	岐阜県	2	—	2
	静岡県	9	—	9
	（静岡市）	（2）	（—）	（2）
	（浜松市）	（2）	（—）	（2）
	愛知県	4	—	4
	（名古屋市）	（1）	（—）	（1）
	三重県	1	—	1
近畿	滋賀県	—	—	—
	京都府	—	—	—
	（京都市）	（—）	（—）	（—）
	大阪府	2	—	2
	（大阪市）	（1）	（—）	（1）
	（堺市）	（—）	（—）	（—）
	兵庫県	2	—	2
	（神戸市）	（1）	（—）	（1）
奈良県	—	—	—	
和歌山県	—	—	—	
中国・四国	鳥取県	1	—	1
	島根県	1	—	1
	岡山県	1	—	1
	（岡山市）	（1）	（—）	（1）
	広島県	1	—	1
	（広島市）	（—）	（—）	（—）
	山口県	5	—	5
	徳島県	1	—	1
	香川県	1	—	1
	愛媛県	1	—	1
高知県	—	—	—	
九州・沖縄	福岡県	1	—	1
	（北九州市）	（1）	（—）	（1）
	（福岡市）	（—）	（—）	（—）
	佐賀県	1	—	1
	長崎県	1	—	1
	熊本県	1	—	1
	（熊本市）	（—）	（—）	（—）
	大分県	2	—	2
	宮崎県	2	—	2
	鹿児島県	—	—	—
沖縄県	1	—	1	

平成24年度「女性関連施設相談員研修」アンケート集計結果

(参加者数:100名 回答数:94件 回答率:94.0%)

女性	男性	不明	合計
93	1	0	94

I 本研修に関するご意見・ご感想をお聞かせください

1 研修の内容は、考えを深めたり、今後の業務を行う際に役立てたりするうえで、どの程度有用でしたか

(1) 講義「女性関連施設における相談業務の意義と役割」

	女	%	男	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	30	32.3	1	100.0	31	33.0	31	34.4
有用であった	50	53.7	—	—	50	53.1	50	55.6
あまり有用ではなかった	9	9.7	—	—	9	9.6	9	10.0
全く有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	4	4.3	—	—	4	4.3		
無回答	—	—	—	—	—	—		
合計	93	100.0	1	100.0	94	100.0	90	100.0

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

〈理由〉

- ・女性相談員の意義と役割を改めて整理することができ、問題意識を新たにすることができた。
- ・とても具体的で分かりやすいものであった。女性相談の重要性がよく分かった。
- ・講義1コマめとして、とても内容的によかった。
- ・実践的な内容だったのですぐに現場で活用できそうだった。また、業務改善へのヒントがいくつかあった。

(2) 講義「配偶者等からの暴力の被害者支援の現状と方向性」

	女	%	男	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	3	3.2	1	100.0	4	4.3	4	4.5
有用であった	56	60.2	—	—	56	59.5	56	62.9
あまり有用ではなかった	25	26.9	—	—	25	26.5	25	28.1
全く有用ではなかった	4	4.3	—	—	4	4.3	4	4.5
参加しなかった	4	4.3	—	—	4	4.3		
無回答	1	1.1	—	—	1	1.1		
合計	93	100.0	1	100.0	94	100.0	89	100.0

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

〈理由〉

- ・改めて内閣府のホームページで通達を確認しようと思う機会になった。
- ・①調査結果の読み方、制度改正のポイントが参考になった。
- ・②漫画を取り入れた予防啓発に可能性を感じた。DV加害者への予防啓発ページもあるといいと思う。
内容的に30分で丁度いい時間だったと思う。

(3) 講義「自立支援につなげるための女性相談における関係機関との連携の重要性」

	女	%	男	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	69	74.1	—	—	69	73.3	69	77.6
有用であった	18	19.4	—	—	18	19.3	18	20.2
あまり有用ではなかった	2	2.2	—	—	2	2.1	2	2.2
全く有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	4	4.3	1	100.0	5	5.3		
無回答	—	—	—	—	—	—		
合計	93	100.0	1	100.0	94	100.0	89	100.0

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

〈理由〉

- ・どのような相談機関でも目指すべき支援態勢が、まさに金沢市のような連携体制であるだろうし、また、いろいろな制約のある中でも被害者側に立つ支援がどういふものか、一相談員としての在り方を改めて見直した。相談に携わる者一人ひとり意識なくしては難しいことだと思う。自分はその必要性を周りに投げかけていけるような相談員であろうと改めて思った。とてもいい講義だった。ありがとうございました。
- ・県単位ではなく市町村単位で相談を受けることの意義を感じた。一般職員が相談を受け、スーパーバイズしていることがとてもうらやましく感じた。
- ・本当の意味での連携は何なのか考えさせられた。とてもいい講義だった。

(4) 見学・説明「国立女性教育会館情報機能の女性相談事業への活用」

	女	%	男	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	15	16.1	—	—	15	15.9	15	31.3
有用であった	29	31.2	—	—	29	30.8	29	60.4
あまり有用ではなかった	4	4.3	—	—	4	4.3	4	8.3
全く有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	36	38.7	1	100.0	37	39.4		
無回答	9	9.7	—	—	9	9.6		
合計	93	100.0	1	100.0	94	100.0	48	100.0

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

〈理由〉

- ・施設の活用方法が理解でき、今後インターネットで活用させていただく。
- ・初めて会館の情報システムを知った。ぜひ利用していきたいと思う。
- ・少人数で説明を受けたが、とても丁寧に参加して本当によかった。小柳先生のお話の資料も見られた。

(5) 情報交換会

	女	%	男	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	39	41.8	—	—	39	41.5	39	56.5
有用であった	30	32.3	—	—	30	31.9	30	43.5
あまり有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
全く有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	18	19.4	1	100.0	19	20.2		
無回答	6	6.5	—	—	6	6.4		
合計	93	100.0	1	100.0	94	100.0	69	100.0

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

〈理由〉

- ・各地域・施設で違いがあり、とても参考になった。
- ・立場を超えて様々な取組に関する情報交換と各相談機関の方と直接会って話ができる機会はとても有意義だったと感じる。
- ・多くの方とざっくばらんにお話することができた。皆さん積極的にとても刺激を受けた。

(6) 講義「配偶者からの暴力の実態と支援に役立つ法知識」

	女	%	男	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	79	84.9	—	—	79	84.0	79	86.8
有用であった	12	12.9	—	—	12	12.8	12	13.2
あまり有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
全く有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	1	1.1	1	100.0	2	2.1		
無回答	1	1.1	—	—	1	1.1		
合計	93	100.0	1	100.0	94	100.0	91	100.0

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

〈理由〉

- ・法の現場で被害女性を支援なさっている先生の生の話が聴けるのはとても勉強になった。法改正が割と多方面であったりするので、これから是非参加させていただきたい講義だった。
- ・最も実践力と現状を知る弁護士という立場から実情が聞けて大変勉強になった。
- ・DV等の支援に弁護士に相談することで、より有効に支援ができることが理解できた。

(7) 講義「相談員のメンタルヘルス」

	女	%	男	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	63	67.6	—	—	63	67.6	63	68.4
有用であった	26	28.0	—	—	26	27.7	26	28.3
あまり有用ではなかった	2	2.2	—	—	2	2.1	2	2.2
全く有用ではなかった	1	1.1	—	—	1	1.1	1	1.1
参加しなかった	—	—	1	100.0	1	1.1		
無回答	1	1.1	—	—	1	1.1		
合計	93	100.0	1	100.0	94	100.0	92	100.0

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

〈理由〉

- ・体を動かすマインドフルネスを体験し、今後も続けようと思えた。とても分かりやすく続けやすいと感じた。
- ・相談員が傷つくことは当然なんだと改めて分かり、スッキリした。マインドフルネス身につけたい。
- ・相談員としての立ち位置や自分を守ることなど楽しく学べた。

(8) <分科会1>「スーパービジョンを体験する」

	1組	%	2組	%	3組	%	組不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	22	71.0	17	56.7	15	62.5	1	11.1	55	58.4	55	61.1
有用であった	8	25.8	11	36.7	5	20.8	5	55.6	29	30.9	29	32.2
あまり有用ではなかった	1	3.2	1	3.3	3	12.5	1	11.1	6	6.4	6	6.7
全く有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	—	—	—	—	—	—	1	11.1	1	1.1		
無回答	—	—	1	3.3	1	4.2	1	11.1	3	3.2		
合計	31	100.0	30	100.0	24	100.0	9	100.0	94	100.0	90	100.0

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

〈理由〉

1組 スーパーバイザー 川喜田 好恵

- 初めて川喜多先生のスーパービジョンを受けさせていただき、大変感謝している。「心」の原点を見つめてこれからも少しずつ進んでいきたい。
- グループの方と検討したり講師の指導を聞くことで自分では全く気づかなかった観点を知ることが出来た。また、相談業務の奥深さを感じた。
- 相談者の立場、視点に立ち、受容することの大切さに加え、客観的にケースを見るための記録、自己理解を深めること、ケース見立ての必要性を実感した。

2組 スーパーバイザー 丹羽 雅代

- 脱線することなく様々な分野、方面から検討することができた。
- 実際にあった事例を基にして皆で考えた。自分の事に置き換えて考えることが出来た。
- 参加者の抱えている問題が分かった。うまく、他の支援につなげていくことを学んだ。

3組 スーパーバイザー 平川 和子

- 事例に対してたくさんのアドバイスをいただいた。これを現場で活かしていきたい。平川先生には深く感謝。
- 職場から受けるSVより、ずっと役に立ちそうだと感じた。明日から役立てたい。
- 本当に胸に落ちるスーパービジョンはこのようなものかと思えた。

(9) 講義 「外国人女性の困難等の実態と支援」

	女	%	男	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	19	20.4	—	—	19	20.2	19	20.9
有用であった	51	54.8	—	—	51	54.3	51	56.0
あまり有用ではなかった	21	22.6	—	—	21	22.3	21	23.1
全く有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	—	—	1	100.0	1	1.1		
無回答	2	2.2	—	—	2	2.1		
合計	93	100.0	1	100.0	94	100.0	91	100.0

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

〈理由〉

- 電話相談の具体的内容が大変参考になった。
- シェルターにも外国人女性が入所される機会があり、良い勉強となった。
- 外国人女性の相談も深刻なケースや困難事例も経験したこともあり、後藤先生の活動は心強く感じた。

(10) セルフケア・プログラム 「体の内面から強くなやかに」

	女	%	男	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	42	45.2	—	—	42	44.7	42	73.7
有用であった	15	16.1	—	—	15	16.0	15	26.3
あまり有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
全く有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	23	24.7	1	100.0	24	25.5		
無回答	13	14.0	—	—	13	13.8		
合計	93	100.0	1	100.0	94	100.0	57	100.0

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

〈理由〉

- この2日間座りっぱなしだったので体を動かしてリラックスしたり関節の動かし方、呼吸法などを習い体が楽になった。職場でも活用したい。
- 体と心の繋がりを感じた。頭では分かっていたが体験できた。
- 大変楽しく運動できた。今後ストレス発散に活用する。

(11) 自由交流

	女	%	男	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	4	4.3	—	—	4	4.3	4	44.5
有用であった	2	2.1	—	—	2	2.1	2	22.2
あまり有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
全く有用ではなかった	3	3.2	—	—	3	3.2	3	33.3
参加しなかった	46	49.5	1	100.0	47	50.0		
無回答	38	40.9	—	—	38	40.4		
合計	93	100.0	1	100.0	94	100.0	9	100.0

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

〈理由〉

- ・ ケースの少し深い話もできた。
- ・ 各地の様子を知ることができた。
- ・ 知り合った人達と自由会話、楽しいひとときを送れた。

(12) <分科会2>「問題を抱えた当事者への支援を考える」

	1組	%	2組	%	3組	%	組不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	16	88.8	29	76.3	20	66.7	—	—	65	69.2	65	77.4
有用であった	1	5.6	8	21.1	7	23.3	1	12.5	17	18.1	17	20.2
あまり有用ではなかった	—	—	1	2.6	1	3.3	—	—	2	2.1	2	2.4
全く有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	—	—	—	—	—	—	3	37.5	3	3.2		
無回答	1	5.6	—	—	2	6.7	4	50.0	7	7.4		
合計	18	100.0	38	100.0	30	100.0	8	100.0	94	100.0	84	100.0

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

〈理由〉

A「外国人女性の困難に対する支援と留意点」 講 師 武藤 かおり

- ・ シェルタースタッフとしても参考になった。
- ・ 外国籍の方の理解の難しさを学び配慮について知った。
- ・ 具体的に今後取り組む上での必要な事を得られた。

B「配偶者暴力被害者への支援と留意点」 講 師 松本 和子

- ・ 配偶者からの暴力被害者への支援の仕方の大切さ、相談員の質の向上に努めること、子ども達への影響があることを理解し必要性を学べた。
- ・ 被害者の立場に立った支援の大切さを改めて認識した。
- ・ まだまだ進んでいない支援の問題点について(母と子の)たくさんの提案を聞くことが出来た。DV法施行されて10年余、幾つかの課題を整理する時期かと思う。

C「人間関係に関する悩みを抱える相談者への支援と留意点」 講 師 海渡 捷子

- ・ 講師のお話、小グループでの話し合い、全体でのシェアリングを通して、女性相談業務の糸口が見えてきた。
- ・ 他の地域や機関の相談員の具体的な悩みを聞くことが出来、自分に引きつけて考えることが出来た。ジェンダーについて「分かっているつもり」に気づいた。
- ・ キャリアカウンセラーの資格を持っていて女性相談員との組合せが難しかったが、このセミナーに参加していて、女性相談員の仕事をこれからも頑張りたい。

(13) 全体会「現代的な課題に対応する相談とは～女性のエンパワメントをめざして～」

	女	%	男	%	合計	%	※	※%
非常に有用だった	42	45.2	—	—	42	44.6	42	63.7
有用であった	23	24.7	—	—	23	24.5	23	34.8
あまり有用ではなかった	1	1.1	—	—	1	1.1	1	1.5
全く有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	4	4.3	1	100.0	5	5.3		
無回答	23	24.7	—	—	23	24.5		
合計	93	100.0	1	100.0	94	100.0	66	100.0

(※%は「参加しなかった」、「無回答」を除いた割合)

〈理由〉

- ・ 研修全体の振り返りができた。他の分科会の話も聞けたので、とてもためになった。
- ・ 組織中の相談員ということを変えて考えた。ジェンダーのことは日々自分を点検していかなければと思った。
- ・ 女性相談の課題や専門性などのことが明確に見えてきて大変良かった。本当に感謝している。

【ワークショップ全体の有用度】

	女性	%	男性	%	合計	%	※%	※%
非常に有用であった	63	67.7	1	100.0	64	68.1	69.6	100.0
有用であった	28	30.1	—	—	28	29.8	30.4	
あまり有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	2	2.2	—	—	2	2.1		
合計	93	100.0	1	100.0	94	100.0	100.0	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

〈理由〉

- ・ 日頃の業務の見直しと、新たな情報を得ることができ、全国の人が集まって来る貴重な研修だと思う。
- ・ 3日間の研修で、改めて自分の相談員としての姿勢の振り返りができたと同時に各専門機関との連携の必要さを感じた。
- ・ 今回の研修に会館の案内やオプションのセルフケア・プログラムなど2泊3日の研修を目一杯活用できるプログラムが仕組んであり、更にそのオプションに正職員がしっかりと参加なさっている。会館の存在に向けた職員の意気込みが見られ大変感動した。今、公務員には粛々と公僕として事務を司るだけではなく、民から預かる血税でいかに効果的効率的にサービスを提供できるか求められている。是非研修部門は存続させ、施設サービスは指定管理者へ移行されたし。

3 研修に参加された目的(複数回答可)

	女性	% (93名中)	男性	% (1名中)	合計	% (94名中)
①相談員としての自分の役割を、振り返り、確認すること。	41	44.1	—	—	41	43.6
②配偶者からの暴力に関する実態・今日的課題について、知ること。	34	36.6	1	100.0	35	37.2
③様々な相談への的確な対応や、配慮事項など、実践に役立つ力をつけること。	46	49.5	1	100.0	47	50.0
④全国の相談員との情報交換や、交流を行うこと。	33	35.5	—	—	33	35.1
⑤研修や交流を通して、相談員としてのエンパワメントにつなげること。	39	41.9	—	—	39	41.5
⑥女性関連施設における相談事業の役割と意義を理解すること。	27	29.0	1	100.0	28	29.8
⑦その他	6	6.5	—	—	5	5.3

【達成度】

①相談員としての自分の役割を振り返り、確認することができた

	女性	%	男性	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	43	46.2	—	—	43	45.7	43	52.4
おおむね達成できた	39	42.0	—	—	39	41.5	39	47.6
あまり達成できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
達成できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	11	11.8	1	100.0	12	12.8		
合計	93	100.0	1	100.0	94	100.0	82	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

②配偶者からの暴力に関する実態・今日的課題について、知ることができた

	女性	%	男性	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	35	37.6	1	100.0	36	38.3	36	43.9
おおむね達成できた	46	49.5	—	—	46	48.9	46	56.1
あまり達成できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
達成できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	12	12.9	—	—	12	12.8		
合計	93	100.0	1	100.0	94	100.0	82	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

③様々な相談への的確な対応や、配慮事項など、実践に役立つ力をつけることができた

	女性	%	男性	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	20	21.5	1	100.0	21	22.3	21	24.7
おおむね達成できた	61	65.6	—	—	61	64.9	61	71.8
あまり達成できなかった	3	3.2	—	—	3	3.2	3	3.5
達成できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	9	9.7	—	—	9	9.6		
合計	93	100.0	1	100.0	94	100.0	85	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

④全国の相談員との情報交換や、交流を行うことができた

	女性	%	男性	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	12	12.9	—	—	12	12.8	12	15.6
おおむね達成できた	48	51.6	—	—	48	51.0	48	62.3
あまり達成できなかった	16	17.2	—	—	16	17.0	16	20.8
達成できなかった	1	1.1	—	—	1	1.1	1	1.3
無回答	16	17.2	1	100.0	17	18.1		
合計	93	100.0	1	100.0	94	100.0	77	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

⑤研修や交流を通して、相談員としてのエンパワメントにつながった

	女性	%	男性	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	25	26.9	—	—	25	26.6	25	31.3
おおむね達成できた	51	54.8	—	—	51	54.2	51	63.7
あまり達成できなかった	4	4.3	—	—	4	4.3	4	5.0
達成できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	13	14.0	1	100.0	14	14.9		
合計	93	100.0	1	100.0	94	100.0	80	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

⑥女性関連施設における相談事業の役割と意義を理解することができた

	女性	%	男性	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	19	20.4	1	100.0	20	21.3	20	27.0
おおむね達成できた	53	57.0	-	-	53	56.3	53	71.6
あまり達成できなかった	1	1.1	-	-	1	1.1	1	1.4
達成できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	20	21.5	-	-	20	21.3		
合計	93	100.0	1	100.0	94	100.0	74	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

⑦その他

	女性	%	男性	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	-	-	-	-	-	-	-	-
おおむね達成できた	6	6.4	-	-	6	6.4	6	85.7
あまり達成できなかった	1	1.1	-	-	1	1.1	1	14.3
達成できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	86	92.5	1	100.0	87	92.5		
合計	93	100.0	1	100.0	94	100.0	7	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

4 本研修への満足度は、いかがでしたか

	女性	%	男性	%	合計	%	※%	※%
非常に満足した	40	43.0	1	100.0	41	43.0	45.1	95.6
満足した	46	49.5	-	-	46	49.5	50.5	
少し物足りなかった	4	4.3	-	-	4	4.3	4.4	4.4
物足りなかった	-	-	-	-	-	-	-	
無回答	3	3.2	-	-	3	3.2		
合計	93	100.0	1	100.0	94	100.0	100.0	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

〈理由〉

- 講師の先生お一人お一人が向き合っておられる姿勢が(気持ち)同じであり、古来からある性差別や価値観の違い、未だに残っている。地域性(田舎では嫁の低さ)等実感し、少し自信を失っていた部分もあったが(相談員2年目でいろいろ見えてきて怖いと...)仕切り直しができる。今後も続けて欲しい。
- 日本の現状、他関係の実情を知り、当市と異なる支援や困難を学び、講演にて当市の問題点や自分の過不足等に気づけた。
- インプットだけの研修ではなく、グループワーク等もあり非常に良かった。法律・医療分野の話も有益だった。

5 研修の開催時期は適切でしたか

	女性	%	男性	%	合計	%	※	※%
この期間(2泊3日)でよい	82	88.1	1	100.0	83	88.3	83	90.2
この時期では参加しにくい	9	9.7	-	-	9	9.6	9	9.8
無回答	2	2.2	-	-	2	2.1		
合計	93	100.0	1	100.0	94	100.0	92	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

6 研修に参加して得たこと、今後仕事に生かしたいことはどのようなことですか

- 相談業務の中でそれぞれの機関との連携の必要性を感じた。行政との話し合いの中で、良き相談員になれるよう心がける。ありがとうございました。
- 情報を持って連携することで支援の幅が広がると思うが、実際やっていることは難しい。一つずつでも横の広がりを増やし、エンパワーメントできるような支援をしたい。
- 小さい訴えでもないがしろにせず、寄り添って話を聞くこと。少し事務的に相談を聞いてきたことに気づかされ、反省と共に初心に戻ろうと思った。
- 相談員自身もメンタルケアに力を入れた方がいいことが分かった。相談者の立場になった支援をしていくことが大切である。意味が分かった。

7 <会館に宿泊された方のみ>会館に宿泊することで得られたことは何ですか(複数回答)

	女性	% (93名中)	男性	% (1名中)	合計	% (94名中)
女性関連施設の相談員との出会いがあり、人間関係づくりができた。	55	59.1	-	-	55	58.5
時間を有効に活用し、参加者同士の議論を深めることができた。	33	35.5	-	-	33	35.1
課題解決や活動・業務に役立つ情報交換ができた。	41	44.1	-	-	41	43.6
日頃の思いを共感してもらえる関係・交流ができた。	42	45.2	-	-	42	44.7
交流を通じて活動・業務への意欲が高まった。	36	38.7	-	-	36	38.3
自然環境に恵まれた施設で研修し、気分的にリフレッシュできた。	51	54.8	-	-	51	54.3
その他	2	2.2	-	-	2	2.1

Ⅱ あなたご自身のことについてお答えください。

【性別】

女性	%	男性	%	合計	%
93	98.9	1	1.1	94	100.0

【年代】

	女性	%	男性	%	合計	%
20歳未満	-	-	-	-	-	-
20代	4	4.3	-	-	4	4.3
30代	9	9.7	1	100.0	10	10.6
40代	19	20.4	-	-	19	20.2
50代	34	36.5	-	-	34	36.2
60代	22	23.7	-	-	22	23.4
70歳以上	-	-	-	-	-	-
無回答	5	5.4	-	-	5	5.3
合計	93	100.0	1	100.0	94	100.0

【相談員としての経験年数】

	女性	%	男性	%	合計	%
1年未満	24	25.8	1	100.0	25	26.6
1年以上～2年未満	14	15.1	-	-	14	14.9
2年以上～3年未満	14	15.1	-	-	14	14.9
3年以上～10年未満	27	28.9	-	-	27	28.7
10年以上	8	8.6	-	-	8	8.5
無回答	6	6.5	-	-	6	6.4
合計	93	100.0	1	100.0	94	100.0

【所属】

	女性	%	男性	%	合計	%
女性関連施設	54	58.1	1	100.0	55	58.5
その他	28	30.1	-	-	28	29.8
無回答	11	11.8	-	-	11	11.7
合計	93	100.0	1	100.0	94	100.0

【今までの「会館」とのつながり(複数回答可)】

	女性	% (93名中)	男性	% (1名中)	合計	% (94名中)
主催事業に参加した	26	28.0	1	100.0	27	28.7
主催事業の講師・報告者等で参加した	1	1.1	-	-	1	1.1
施設を利用した	13	14.0	-	-	13	13.8
会館で情報提供を受けた	2	2.2	-	-	2	2.1
文献複写サービスを受けた	1	1.1	-	-	1	1.1
館外で職員の話を聞いた	2	2.2	-	-	2	2.1
ない、今回が初めての利用	40	43.0	-	-	40	42.6
その他	2	2.2	-	-	2	2.1

《主催事業に参加した回数》

- 1回 …… 8件
- 2回 …… 5件
- 3回 …… 5件
- 4回 …… 1件
- 5回 …… 2件
- 10回 …… 1件

- ・ 《その他「会館」とのつながり》
参加者から情報提供を受けた

平成24年度「家庭教育・次世代育成指導者研修」実施要項

1. 趣旨

社会全体での家庭教育・次世代育成支援に向け、様々な機関、企業が連携して取り組んでいる事例や男性の子育て参画に関する事例を研修内容に取り上げ、男女共同参画の視点から、参加者が日常抱えている課題の解決に向けた専門的・実践的な研修です。

2. 主題 「社会全体で支える子育て・子育て」

家庭教育・次世代育成に関する支援の取り組みとして、社会全体で子育てを支援する必要性が増しています。国立女性教育会館では、これまで男女共同参画の視点に立った地域全体で取り組む次世代育成支援事業についての調査研究を行ってきました。さらに、平成23年度からは男性の家庭・地域への参画促進に関する調査研究に取り組んでいます。本年度は、調査研究の成果も活かし、男女共同参画の視点をふまえた社会全体でになう子育て支援のあり方や様々な課題について検討します。

3. 主催

独立行政法人国立女性教育会館

4. 参加者

- ・家庭教育・次世代育成支援・子育て支援関係行政職員
- ・子育てネットワーク、子育てサポーター等のリーダー等
- ・企業の次世代育成支援担当者
- ・女性関連施設職員・社会教育施設職員

120 名

5. 日程（各プログラムの間に 10 分～15 分の休憩があります）

5/18 (金)	10:00	10:30	12:00	13:00	14:40	17:00	17:20	19:00	20:30
	受付	開会	講義	昼食	関係省庁説明	パネルディスカッション	課題共有のためのディスカッション	夕食	情報交換会
5/19 (土)	9:00	10:10	10:50	11:50	13:00	15:10	15:40	15:45	
	講義と質疑	調査研究報告	報告と質疑	昼食	分科会	全体会	閉会		

*当事業は、「第3次男女共同参画基本計画」における「第2分野 男女共同参画の視点に立った社会制度・慣行の見直し、意識の改革」および「第3分野 男性、子どもにとっての男女共同参画」に位置づけられている事業です。

*情報交換会は、希望者のみのプログラムです。

6. 内容

第1日 5月18日（金）

開会

10:00～10:15

- ①主催者あいさつ 内海 房子 国立女性教育会館理事長
②オリエンテーション 石崎 裕子 国立女性教育会館事業課専門職員

（1）講義「社会全体でになう子育て支援」

10:30～12:00

★男女共同参画の視点から、子育て支援に関わる女性のエンパワーメントや、男性の参画、地域での連携・協働などの重要性をふまえ、家庭を支える社会全体でになう子育て支援のあり方について学びます。

講 師：汐見 和恵 新渡戸文化短期大学生活学科教授

（2）関係省庁説明「国の家庭教育・次世代育成支援の施策の最新動向」

13:00～14:30

★家庭教育・次世代育成支援に関わる国の施策・動向についての情報を得るとともに、家庭教育・次世代育成支援の指導者として取り組むべき事業内容・方策について考えます。

講 師：松川 伸治 内閣府政策統括官（共生社会政策担当）付少子化対策担当参事官補佐

講 師：巢瀬 博臣 厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課少子化対策企画室子育て支援係長

講 師：横田 玲子 文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課家庭教育支援室長

（3）パネルディスカッション「子育て支援のあり方とワーク・ライフ・バランスの推進」

14:40～16:50

★保育園に子どもを預けて働く親のネットワークの代表者、仕事と子育ての両立支援に力を入れている企業、両立支援に取り組む企業を支援する地方公共団体からの問題提起や報告を聞き、パネリスト同士の意見交換、参加者との質疑応答を通して、社会全体で子育てを支えていく上で必要とされる充実した子育て支援のあり方をワーク・ライフ・バランスの視点から検討しあいます。

パネリスト：普光院 亜紀 保育園を考える親の会代表

パネリスト：金咲 もと子 ボッシュ株式会社人事部門人材開発グループ セクションマネージャー

パネリスト：鈴木 和朗 秋田県企画振興部少子化対策局少子化対策推進監

コーディネーター：大沢 真知子 日本女子大学人間社会学部教授

(4) 課題共有のためのディスカッション

17:00~17:20

★周りの人と自己紹介や日頃の地域での仕事や活動について話し合いをし、課題を共有します。

(5) 情報交換会 (※希望者のみ)

19:00~20:30

★全国からの参加者と交流し、それぞれが抱える課題の話し合いや日頃の活動成果の語り合いを通して、今後の活動に役立つ関係づくりを図り、交流を深めます。

第2日 5月19日(土)

(6) 講義と質疑「男女共同参画の視点からみたワーク・ライフ・バランスと生活時間」

9:00~10:00

★国立女性教育会館では、『男女共同参画統計データブックー日本の女性と男性ー2012』（ぎょうせい、平成24年3月）を刊行しました。この成果をふまえ、男女共同参画の視点からワーク・ライフ・バランスと生活時間をめぐる現状と課題を把握します。

講 師：伊藤 純 昭和女子大学人間社会学部准教授

(7) 調査研究報告「国立女性教育会館の男性の家庭・地域への参画促進に関する全国調査より」

10:10~10:40

★国立女性教育会館が実施している調査研究の報告から、男性の家庭・地域への参画促進に関する現状と課題を把握します。

講 師：飯島 絵理 国立女性教育会館研究国際室客員研究員

(8) 報告と質疑「災害と子育て支援」

10:50~11:50

★東日本大震災で被災した地域の子育て支援施設担当者の報告を聞き、災害時における地域ぐるみの子育て支援の課題、震災を通して顕在化した子育て支援の課題などについて理解を深めます。

講 師：伊藤 仟佐子 仙台市子育てふれあいプラザのびすく仙台館長

(9) 分科会「家庭を支える社会全体での子育て支援」

13:00~15:00

★行政・地域・企業との連携・協働、子育て支援に関わる女性のエンパワメント、男性の子育て支援活動への参画という3つのテーマから、社会全体での子育て支援のあり方について学びます。各分科会で、事例報告を聞いた上で、参加者それぞれの抱える課題などについて協議し、今後の取り組みの方向性を見出します。

<分科会1>「行政・地域・企業との連携・協働」

報告者：田口 陽子 NPO法人子育て応援ナビぽっかぽか理事長
コーディネーター：千装 将志 国立女性教育会館事業課専門職員

<分科会2>「子育て支援に関わる女性のエンパワーメント」

報告者：伊庭 節子 NPO法人まいづるネットワークの会理事長
コーディネーター：引間 紀江 国立女性教育会館事業課専門職員心得

<分科会3>「男性の子育て支援活動への参画」

報告者：森 健也 練馬イクメンパパプロジェクト代表
コーディネーター：森下 敏広 国立女性教育会館専門職員

(10) 全体会（分科会報告）

15:10～15:40

★各分科会の報告を通して、社会全体で子育てを支える取り組みを
実践していくための方向性・方策を共有します。

アンケート記入・閉会

15:40～15:45

7. その他

以下の点につきまして、あらかじめご了承ください。

- ①期間中、職員が撮影した写真を、事業記録や広報のために使用することがあります。
- ②電力需要等の影響により、一部のプログラムに変更が生じる場合がございます。

平成 24 年度 家庭教育・次世代育成指導者研修 参加者概況

平成24年5月19日現在

1. 性別

	合 計	定員	120 名
女 性	58	申込者数	89 名
男 性	24	キャンセル	7 名
合 計	82	応募倍率	74.2 %
(申込者数÷定員)			

2. 参加日別

	女 性	男 性	合 計
全日程	35	15	50
18日のみ	17	7	24
19日のみ	6	2	8
合 計	58	24	82

3. 年代

	女 性	男 性	合 計	%
20代	6	1	7	8.6
30代	8	6	14	17.1
40代	15	12	27	32.9
50代	12	4	16	19.5
60代以上	6	-	6	7.3
無回答	11	1	12	14.6
合 計	58	24	82	100.0

5. 分科会 (分科会参加者 63 名)

	女 性	男 性	合 計
分科会1「行政・地域・企業との連携・協働」	17	12	29
分科会2「子育て支援に関わる女性のエンパワーメント」	16	2	18
分科会3「男性の子育て支援活動への参画」	11	5	16
合 計	44	19	63

6. 会館利用歴(複数回答)

	女 性	男 性	合 計
会館主催次世代育成研修に参加	19	2	21
会館主催その他の事業に参加	11	2	13
会館を利用し、事業を実施	1	1	2
他の諸機関・団体実施の事業に参加	5	2	7
利用歴なし(全項目無回答)	28	19	47

4. 区分

	女 性	男 性	合 計	%
①家庭教育関係行政担当者	7	4	11	13.4
②子育て支援関係行政担当者	8	10	18	22.0
③子育てネットワーク、子育てサポーター等のリーダー	18	5	23	28.0
④企業の次世代育成支援・社会貢献活動担当者	-	-	-	-
⑤女性関連施設職員・男女共同参画関係行政担当者	14	2	16	19.5
⑥社会教育施設職員	5	1	6	7.3
⑦その他	6	2	8	9.8
無回答	-	-	-	-
合 計	58	24	82	100.0

8. 都道府県別

※政令指定都市(カッコ内)は都道府県の内数に含む

	女 性	男 性	合 計	
北海道・東北	北海道	—	—	—
	(札幌市)	(—)	(—)	(—)
	青森県	1	—	1
	岩手県	—	—	—
	宮城県	—	—	—
	(仙台市)	(—)	(—)	(—)
	秋田県	1	—	1
	山形県	—	—	—
福島県	—	—	—	
関東	茨城県	4	1	5
	栃木県	1	1	2
	群馬県	1	1	2
	埼玉県	16	7	23
	(さいたま市)	(1)	(1)	(2)
	千葉県	2	1	3
	(千葉市)	(—)	(1)	(1)
	東京都	11	8	19
	神奈川県	3	2	5
	(横浜市)	(—)	(—)	(—)
(川崎市)	(—)	(—)	(—)	
(相模原市)	(—)	(—)	(—)	
甲信越	山梨県	—	—	—
	新潟県	5	—	5
	(新潟市)	(—)	(—)	(—)
	長野県	4	—	4
北陸・東海	富山県	—	—	—
	石川県	—	—	—
	福井県	1	—	1
	岐阜県	1	—	1
	静岡県	2	1	3
	(静岡市)	(1)	(—)	(1)
	(浜松市)	(1)	(—)	(1)
	愛知県	2	1	3
	(名古屋市)	(1)	(—)	(1)
	三重県	—	1	1
近畿	滋賀県	—	—	—
	京都府	—	—	—
	(京都市)	(—)	(—)	(—)
	大阪府	—	—	—
	(大阪市)	(—)	(—)	(—)
	(堺市)	(—)	(—)	(—)
	兵庫県	—	—	—
	(神戸市)	(—)	(—)	(—)
	奈良県	—	—	—
	和歌山県	—	—	—
中国・四国	鳥取県	2	—	2
	島根県	—	—	—
	岡山県	—	—	—
	(岡山市)	(—)	(—)	(—)
	広島県	—	—	—
	(広島市)	(—)	(—)	(—)
	山口県	—	—	—
	徳島県	—	—	—
	香川県	—	—	—
	愛媛県	—	—	—
高知県	—	—	—	
九州・沖縄	福岡県	—	—	—
	(北九州市)	(—)	(—)	(—)
	(福岡市)	(—)	(—)	(—)
	佐賀県	1	—	1
	長崎県	—	—	—
	熊本県	—	—	—
	大分県	—	—	—
	宮崎県	—	—	—
	鹿児島県	—	—	—
	沖縄県	—	—	—
合計	58	24	82	

※地域ブロック別参加者内訳

	女 性	男 性	合 計	%
北海道・東北	2	-	2	2.4
関東	38	21	59	72.0
甲信越	9	-	9	11.0
北陸・東海	6	3	9	11.1
近畿	-	-	-	-
中国・四国	2	-	2	2.4
九州・沖縄	1	-	1	1.2
合 計	58	24	82	100.0

平成 24 年度「家庭教育・次世代育成指導者研修」アンケート集計結果

参加者 82 名
アンケート回答数 61 件
アンケート回答率 74.4 %

I 本研修に関する意見・感想

1. この研修の内容は、あなたの考えを深めたり、今後の事業を行う際に役立てたりする上で、どの程度有用でしたか。

1日目 18日

1.講義「社会全体になう子育て支援」

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	23	56.1	6	35.3	1	33.3	30	49.2	20	43.5
有用であった	13	31.7	9	52.9	1	33.3	23	37.7	23	50.0
あまり有用でなかった	1	2.4	-	-	1	33.3	2	3.3	2	4.3
有用ではなかった	-	-	1	1.0	-	-	1	-	1	4.3
参加しなかった	2	-	-	-	-	-	2	-		
無回答	2	4.9	1	5.9	-	-	3	4.9		
合計	41	100.0	17	100.0	3	100.0	61	100.0	46	100.0

- ・とてもわかりやすく、また日頃疑問に感じていることへの解決のヒントをいただけてとてもすばらしい講義でした。また機会がありましたらお話をおうかがいしたいです。
- ・総合的な課題認識をする上で大変有用な講義であったと思う

2.関係省庁説明「国の家庭教育・次世代育成支援の施策の最新動向」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	5	12.2	2	11.8	-	-	7	11.5	7	12.3
有用であった	25	61.0	9	52.9	2	66.7	36	59.0	36	63.2
あまり有用でなかった	6	14.6	5	29.4	1	33.3	12	19.7	12	21.1
有用ではなかった	1	2.4	1	5.9	-	-	2	3.3	2	3.5
参加しなかった	2	4.9	-	-	-	-	2	3.3		
無回答	2	4.9	-	-	-	-	2	3.3		
合計	41	100.0	17	100.0	3	100.0	61	100.0	57	100.0

- ・大変わかりやすく最新の情報を学ばせて頂き有難かったです

3.パネルディスカッション「子育て支援のあり方とワーク・ライフ・バランスの推進」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	13	31.0	8	50.0	-	-	21	34.4	21	38.9
有用であった	18	42.9	7	43.8	2	66.7	27	44.3	27	50.0
あまり有用でなかった	3	7.1	1	6.3	1	33.3	5	8.2	5	9.3
有用ではなかった	1	2.4	-	-	-	-	1	1.6	1	1.9
参加しなかった	3	7.1	-	-	-	-	3	4.9		
無回答	4	9.5	-	-	-	-	4	6.6		
合計	42	100.0	16	100.0	3	100.0	61	100.0	54	100.0

- ・パネリストがそれぞれ魅力的でした
- ・パネリストの人选が秀逸でした

4.討議「課題共有のためのディスカッション」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	9	22.0	3	17.6	-	-	12	19.7	12	27.9
有用であった	18	43.9	5	29.4	1	33.3	24	39.3	24	55.8
あまり有用でなかった	1	2.4	4	23.5	1	33.3	6	9.8	6	14.0
有用ではなかった	1	2.4	-	-	-	-	1	1.6	1	2.3
参加しなかった	4	9.8	-	-	-	-	4	6.6		
無回答	8	19.5	5	29.4	1	33.3	14	23.0		
合計	41	100.0	17	100.0	3	100.0	61	100.0	43	100.0

- ・他市の状況を聞き他の地域でも似たような悩みを抱えていることを知ることができました。
- ・他市町の意見と考えが聞けてよかった
- ・短時間でしたが、地域の情報交換ができました

5.情報交換会

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	8	19.5	1	5.9	—	—	9	14.8	9	31.0
有用であった	12	29.3	4	23.5	2	66.7	18	29.5	18	62.1
あまり有用でなかった	1	2.4	1	5.9	—	—	2	3.3	2	6.9
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	11	26.8	5	29.4	—	—	16	26.2		
無回答	9	22.0	6	35.3	1	33.3	16	26.2		
合計	41	100.0	17	100.0	3	100.0	61	100.0	29	100.0

- ・全国各地の方と交流ができ、有意義であった
- ・楽しく貴重な情報を得ることができました
- ・他市やNPOの方々を知り合うことができ楽しく有意義に過ごすことができました。

2日目 19日

6. 講義と質疑「男女共同参画の視点からみたワーク・ライフ・バランスと生活時間」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	10	24.4	3	17.6	—	—	13	21.3	13	28.3
有用であった	18	43.9	7	41.2	—	—	25	41.0	25	54.3
あまり有用でなかった	4	9.8	—	—	—	—	4	6.6	4	8.7
有用ではなかった	2	4.9	2	11.8	—	—	4	6.6	4	8.7
参加しなかった	—	—	—	—	2	66.7	2	3.3		
無回答	7	17.1	5	29.4	1	33.3	13	21.3		
合計	41	100.0	17	100.0	3	100.0	61	100.0	46	100.0

- ・調査結果の読み取り方のポイントが分かった
- ・データを取り入れた視点から見ていくことの大切さを感じました
- ・統計データからの分析が見れてよかった男女差に着目はとてもいいと思います

7.調査研究報告「国立女性教育会館の男性の家庭・地域への参画促進に関する全国調査より」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	7	17.1	1	5.9	—	—	8	13.1	20	50.0
有用であった	19	46.3	8	47.1	—	—	27	44.3	9	22.5
あまり有用でなかった	4	9.8	—	—	1	33.3	5	8.2	11	27.5
有用ではなかった	1	2.4	—	—	1	33.3	2	3.3	—	—
参加しなかった	2	4.9	2	11.8	—	—	4	6.6		
無回答	8	19.5	6	35.3	1	33.3	15	24.6		
合計	41	100.0	17	100.0	3	100.0	61	100.0	40	100.0

- ・私の所属する男女共同参画推進センターの今年度の課題のひとつに男性の参加を伸ばす事があるので帰って話し合いの参考にしたい

8.報告と質疑「災害と子育て支援」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	25	61.0	7	41.2	—	—	32	52.5	32	74.4
有用であった	6	14.6	2	11.8	2	66.7	10	16.4	10	23.3
あまり有用でなかった	1	2.4	—	—	—	—	1	1.6	1	2.3
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	2	4.9	2	11.8	—	—	4	6.6		
無回答	7	17.1	6	35.3	1	33.3	14	23.0		
合計	41	100.0	17	100.0	3	100.0	61	100.0	43	100.0

- ・大変バワフルなお話で感動いたしました。
- ・災害時の様子と対応とても大変だったと思いますが参考になりました。
- ・支援拠点としての役割をあらためて感じました。NPOのフットワークの良さを感じました
- ・震災の体験談から改めて子育て支援センターの役割活動の拠点の大切さを知りました

○分科会(参加コース)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
分科会1	12	24.5	7	43.8	1	33.3	20	32.8	20	27.4
分科会2	8	16.3	—	—	1	33.3	9	14.8	9	12.3
分科会3	9	18.4	2	12.5	—	—	11	18.0	11	15.1
無回答	20	40.8	7	43.8	1	33.3	21	34.4		
合計	49	100.0	16	100.0	3	100.0	61	100.0	73	100.0

9.①分科会「家庭を支える社会全体での子育て支援」事例報告について

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	4	9.8	3	17.6	-	-	7	11.5	7	23.3
有用であった	17	41.5	4	23.5	1	33.3	22	36.1	22	73.3
あまり有用でなかった	1	2.4	-	-	-	-	1	1.6	1	3.3
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	2	4.9	4	23.5	-	-	6	9.8		
無回答	17	41.5	6	35.3	2	66.7	25	41.0		
合計	41	100.0	17	100.0	3	100.0	61	100.0	30	100.0

※分科会コース別

	1	%	2	%	3	%	無回答	%	合計	%
非常に有用であった	13	52.0	2	12.5	6	35.3	-	-	21	34.4
有用であった	6	24.0	7	43.8	5	29.4	1	4.5	19	31.1
あまり有用でなかった	5	20.0	7	43.8	6	35.3	1	4.5	-	-
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	-	-	-	-	3	13.6	3	4.9
無回答	1	4.0	-	-	-	-	17	77.3	18	29.5
合計	25	100.0	16	100.0	17	100.0	22	100.0	61	100.0

- ・連携しあうものどうし良いところを提供しあえばよいということがわかった
- ・ファミサポの参考になりました。できれば行政に活かしたいと思います。
- ・実際に活動している方の報告はとてもわかりやすく現状も見えてきました

9.②分科会「家庭を支える社会全体での子育て支援」協議について

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	8	19.5	6	35.3	-	-	14	23.0	14	37.8
有用であった	17	41.5	3	17.6	1	33.3	21	34.4	21	56.8
あまり有用でなかった	2	4.9	-	-	-	-	2	3.3	2	5.4
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	2	4.9	1	5.9	-	-	3	4.9		
無回答	12	29.3	7	41.2	2	66.7	21	34.4		
合計	41	100.0	17	100.0	3	100.0	61	100.0	37	100.0

※分科会コース別

	1	%	2	%	3	%	無回答	%	合計	%
非常に有用であった	6	30.0	1	11.1	7	63.6	-	-	14	23.0
有用であった	9	45.0	8	88.9	4	36.4	-	-	21	34.4
あまり有用でなかった	1	5.0	-	-	-	-	1	4.8	2	3.3
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	-	-	-	-	3	14.3	3	4.9
無回答	4	20.0	-	-	-	-	17	81.0	21	34.4
合計	20	100.0	9	100.0	11	100.0	21	100.0	61	100.0

- ・同じような境遇の方と話せたことがたいへんよかったです。
- ・同じような悩みを他市も抱えていることを知ることができた

10.全体会(分科会報告)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	4	9.8	3	17.6	-	-	7	12.7	7	23.3
有用であった	17	41.5	4	23.5	1	33.3	22	40.0	22	73.3
あまり有用でなかった	1	2.4	-	-	-	-	1	1.8	1	3.3
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	2	4.9	4	23.5	-	-	-	-		
無回答	17	41.5	6	35.3	2	66.7	25	45.5		
合計	41	100.0	17	100.0	3	100.0	55	100.0	30	100.0

- ・それぞれの分科会で様々な協議がなされて、こうした機会を持てたことが大変いい経験になりました。

開催資料について

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	8	19.5	6	35.3	-	-	14	23.0	14	36.8
有用であった	20	48.8	3	17.6	1	33.3	24	39.3	24	63.2
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	1	5.9	-	-	1	1.6		
無回答	13	31.7	7	41.2	2	66.7	22	36.1		
合計	41	100.0	17	100.0	3	100.0	61	100.0	38	100.0

- ・良く整理されていてみやすい中身も良かった

情報交換コーナーについて

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	6	14.6	2	11.8	—	—	8	13.1	8	21.6
有用であった	17	41.5	6	35.3	1	33.3	24	39.3	24	64.9
あまり有用でなかった	5	12.2	—	—	—	—	5	8.2	5	13.5
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	1	2.4	2	11.8	—	—	3	4.9	—	—
無回答	12	29.3	7	41.2	2	66.7	21	34.4	—	—
合計	41	100.0	17	100.0	3	100.0	61	100.0	37	100.0

- ・多くの資料いただきました
- ・いい資料を見つけられました。

2 この研修全体は、あなたにとって、有用でしたか。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	14	34.1	5	29.4	—	—	19	31.1	19	36.5
有用であった	19	46.3	10	58.8	—	—	29	47.5	29	55.8
あまり有用でなかった	2	4.9	—	—	2	66.7	4	6.6	4	7.7
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	6	14.6	2	11.8	1	33.3	9	14.8	—	—
合計	41	100.0	17	100.0	3	100.0	61	100.0	52	100.0

- ・いろいろな立場で子育てに関わっている方の話を聞くことができてよかった
- ・参加するまでは不安もありましたが講義の内容が大変充実していたあつという間に終わってしまったように思います。職場に持ち帰り皆さんのパワーを思い出し、自分もがんばっていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・講義も勉強になりましたが参加者同士の情報交換が非常に有益でした

3 研修に参加された目的と達成度について 目的(複数回答)

	女性	% (41名中)	男性	% (17名中)	不明	% (3名中)	合計	% (61名中)
1 男女共同参画の視点を持った子育て支援を理解する	15	36.6	5	29.4	—	—	20	32.8
2 家庭教育・次世代育成支援に関わる国の施策・動向を理解する	17	41.5	7	41.2	—	—	24	39.3
3 社会全体で子育てを支えていく上で必要な子育て支援のあり方をワーク・ライフ・バランスの視点から理解することができた	24	58.5	9	52.9	1	33.3	34	55.7
4 男性の家庭・地域への参画促進についての現状と課題を把握することができた	10	24.4	5	29.4	—	—	15	24.6
5 災害時における子育て支援の現状と課題を把握することができた	10	24.4	1	5.9	—	—	11	18.0
6 実践事例の報告を通して、社会全体での子育て支援の取り組みを実践していくための方向性をつかむことができた	8	19.5	4	23.5	—	—	12	19.7
7 各地域の家庭教育・次世代育成支援に関わる人々とのネットワークづくりのきっかけを得る	7	17.1	2	11.8	—	—	9	14.8
8 その他	—	—	—	—	—	—	—	—

達成度

1. 男女共同参画の視点を持った子育て支援を理解することができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	10	24.4	4	20.0	—	—	15	24.6	15	32.6
おおむね達成できた	19	46.3	5	25.0	2	50.0	27	44.3	27	58.7
あまり達成できなかった	3	7.3	7	35.0	—	—	4	6.6	4	8.7
達成できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	9	22.0	4	20.0	2	50.0	15	24.6	—	—
合計	41	100.0	20	100.0	4	100.0	61	100.0	46	100.0

2. 家庭教育・次世代育成支援に関わる国の施策・動向を理解することができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	3	7.3	4	23.5	—	—	7	11.5	7	14.9
おおむね達成できた	24	58.5	9	52.9	2	66.7	35	57.4	35	74.5
あまり達成できなかった	3	7.3	2	11.8	—	—	5	8.2	5	10.6
達成できなかった	1	2.4	—	—	—	—	1	1.6	—	—
無回答	10	24.4	2	11.8	1	33.3	13	21.3	—	—
合計	41	100.0	17	100.0	3	100.0	61	100.0	47	100.0

3. 社会全体で子育てを支えていく上で必要な子育て支援のあり方をワーク・ライフ・バランスの視点から理解することができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	12	29.3	7	41.2	1	33.3	20	32.8	20	39.2
おおむね達成できた	20	48.8	8	47.1	1	33.3	29	47.5	29	56.9
あまり達成できなかった	2	4.9	-	-	-	-	2	3.3	2	3.9
達成できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	7	17.1	2	11.8	1	33.3	10	16.4		
合計	41	100.0	17	100.0	3	100.0	61	100.0	51	100.0

4. 男性の家庭・地域への参画推進についての現状と課題を把握することができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	6	15.0	4	23.5	-	-	10	16.7	10	25.6
おおむね達成できた	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
あまり達成できなかった	18	45.0	5	29.4	1	33.3	24	40.0	24	61.5
達成できなかった	1	2.5	4	23.5	-	-	5	8.3	5	12.8
無回答	15	37.5	4	23.5	2	66.7	21	35.0		
合計	40	100.0	17	100.0	3	100.0	60	100.0	39	100.0

5. 災害時における子育て支援の現状と課題を把握することができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	15	36.6	4	23.5	-	-	19	31.1	19	50.0
おおむね達成できた	12	29.3	2	11.8	2	66.7	16	26.2	16	42.1
あまり達成できなかった	-	-	3	17.6	-	-	3	4.9	3	7.9
達成できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	14	34.1	8	47.1	1	33.3	23	37.7		
合計	41	100.0	17	100.0	3	100.0	61	100.0	38	100.0

6. 実践事例の報告を通して、社会全体での子育て支援の取り組みを実践していくための方向性をつかむことができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	10	24.4	6	35.3	-	-	16	26.2	16	45.7
おおむね達成できた	14	34.1	3	17.6	1	33.3	18	29.5	18	51.4
あまり達成できなかった	-	-	1	5.9	-	-	1	1.6	1	2.9
達成できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	17	41.5	7	41.2	2	66.7	26	42.6		
合計	41	100.0	17	100.0	3	100.0	61	100.0	35	100.0

7. 各地域の家庭教育・次世代育成支援に関わる人たちとのネットワークづくりのきっかけを得ることができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	8	19.5	2	12.5	-	-	10	16.9	10	27.0
おおむね達成できた	13	31.7	3	18.8	2	66.7	18	30.5	18	48.6
あまり達成できなかった	4	9.8	4	25.0	-	-	8	13.6	8	21.6
達成できなかった	-	-	1	6.3	-	-	-	-	1	2.7
無回答	16	39.0	6	37.5	1	33.3	23	39.0		
合計	41	100.0	16	100.0	3	100.0	59	100.0	37	100.0

8. その他

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	1	2.4	-	-	-	-	1	1.6	1	50.0
おおむね達成できた	1	2.4	-	-	-	-	1	1.6	1	50.0
あまり達成できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
達成できなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	39	95.1	17	100.0	3	100.0	61	96.8		
合計	41	100.0	17	100.0	3	100.0	63	100.0	2	100.0

4. この研修の満足度は、いかがでしたか。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に満足した	12	29.3	5	29.4	-	-	17	27.9	17	29.3
満足した	21	51.2	10	58.8	1	33.3	32	52.5	32	55.2
少し物足りなかった	3	7.3	2	11.8	1	33.3	6	9.8	6	10.3
物足りなかった	2	4.9	-	-	1	33.3	3	4.9	3	5.2
無回答	3	7.3	-	-	-	-	3	4.9		
合計	41	100.0	17	100.0	3	100.0	61	100.0	58	100.0

- ・全国で地域に根付き活動しておられる具体的な情報を聞くことができた 何より人とのつながりができたことが大きい
- ・初めて研修に参加しました。同じ課題を持っている人達との交流は有意義でした。また参加したいと思いました
- ・最新の情報を得ることができてよかった。頭をフルに活動させ忙しかったです。できればまたこのような研修を受けたいです。

平成24年度 女子中高生夏の学校 2012

～科学・技術者のたまごたちへ～



- 1 趣 旨 女子中高生が科学技術の世界の楽しさを「体験する」、そこで生き生きと活躍する女性たちと「交流する」、科学技術に関心のある仲間や先輩と「知り合う」ための機会として「女子中高生夏の学校 2012 ～科学・技術者のたまごたちへ～」を開催します。

このプログラムは、科学研究者・技術者、大学生・大学院生と女子中高生が少人数を単位として親密に交流し、理系進路選択の魅力を伝えるものです。理系の分野も様々です。すでに理系の道を進んでいる女子中高生も、これから夢を追い求める人も、ちょっと不安な人も、より深くより広く自分たちの視野を広げてみませんか？

また、女子中高生の進路選択に影響力があり、身近な支援者でもある保護者・教員向けのプログラムもそれぞれ設定しております。子どもの将来像が描けるよう、よきアドバイスができるように理系進路支援についての理解を進めます。

- 2 主 催 独立行政法人 国立女性教育会館
日本学術会議 「科学と社会委員会 科学力増進分科会」
「科学者委員会 男女共同参画分科会」

3 共催・協賛

INWES Japan WiN-Japan 応用物理学会 地盤工学会 女性技術士の会
地球電磁気・地球惑星圏学会 日本宇宙生物科学会 日本化学会
日本火災学会 日本機械学会 日本金属学会 日本原子力学会
日本女性科学者の会 日本女性技術者フォーラム 日本森林学会
日本数学会 日本生態学会 日本生物物理学会 日本蛋白質科学会
日本畜産学会 日本鉄鋼協会 日本天文学会 日本バイオイメーjing学会
日本発生生物学会 日本物理学会 日本分子生物学会 土木学会
日本植物学会 日本遺伝学会 国立高等専門学校機構

- 4 協 力 男女共同参画学協会連絡会

- 5 会 場 独立行政法人国立女性教育会館

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728 番地

TEL : 0493-62-6724 FAX : 0493-62-6720

ホームページ : <http://www.nwec.jp/>

E-mail : progdiv@nwec.jp

6 期 日 平成24年8月9日(木)～8月11日(土) 2泊3日

7 参加者 科学・技術の分野に興味・関心のある女子中学3年生・女子高校生
100名
保護者・教員等 50名

8 日 程

【共通】…女子中高生、保護者、教員共通のプログラム

【女子中高生】…女子中高生用プログラム

【保護者】…保護者用プログラム

【教員】…教員用プログラム

<第1日 8月9日(木)>

【共通】開校式 13:00～13:30

開会宣言	野呂 知加子	企画委員長(日本女性科学者の会)
あいさつ	内海 房子	国立女性教育会館理事長
	生源寺 眞一	日本学術会議会員(名古屋大学大学院教授)
オリエンテーション	古澤 亜紀	茨城県水城高等学校教諭

【共通】サイエンスアンバサダーⅠ「自分の将来について考えよう」

13:30～14:30

夏学に参加するに当たり、これからの自分の将来などについて他の参加者と話し合い、自分を見つめるとともに、地域に戻ってサイエンスアンバサダー(学んだことを普及したり、発信したりする人)として報告するための心構えを学びます。

【共通】キャリア講演

14:30～15:30

理系分野で活躍している先輩から、現在の生活や仕事のことなど理系進路の魅力についてお話を伺います。講演後にグループ内ディスカッションを行い、質疑応答の時間も設けます。

講師	柳 優	日本アイビーエム(株) 研究開発・ソフトウェア開発研究所
	永松 愛子	独立行政法人宇宙航空研究開発機構(JAXA) 有人宇宙環境利用ミッション本部 宇宙環境利用センター

【共通】女性研究者・技術者の職場訪問「ハヤブサの故郷は宇宙のゲートウェイ！」

15：45～17：45

JAXA（宇宙航空研究開発機構）の宇宙科学研究所と国立女性教育会館をインターネットで結びます。小惑星探査衛星「はやぶさ」や金星探査機「あかつき」など、宇宙開発の現場について、女性研究者・技術者の方にご紹介頂きます。会場からの質疑応答も予定しています。

コーディネーター 廣瀬 史子 宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 航法・誘導・制御グループ 開発員

埤 千尋 宇宙航空研究開発機構 学際科学研究系 宇宙航空研究員

夕 食

18：00～19：00

【女子中高生】学生企画 サイエンスバトル！？

19：15～20：45

グループで協力し合い、学生スタッフ（女子大学生・大学院生TA（ティーチングアシスタント））の出題する課題・クイズに挑戦しながらグループの親交を深めます。

同時に会館内オリエンテーリングと参加者、スタッフ間の交流も行います。

【保護者】【教員】夏の学校を知る

19：15～20：45

今までの夏学のDVDを視聴し、夏学の学びのポイントを知ります。

講師 小川 順子 東京都市大学工学部原子力安全工学科准教授
（日本原子力学会、WiN-Japan）

【共通】天体観望会＜オプション企画＞

21：00～

天体望遠鏡で武蔵嵐山の空を観測します。

＜第2日 8月10日（金）＞

【共通】学生企画 才媛双六

9：00～10：00

学生スタッフが作成したサイエンスクイズに答え、理系キャリアゲームを疑似体験します。キャリアは夏学卒業後からはじまり、進学、就職や結婚、育児など理系女子特有の悩みや人生に関わるさまざまな出来事を盛り込み、参加者に理系女子の夢やライフプランについて具体的なイメージを抱いてもらいます。

理系進路選択の支援となるヒントを得られるプログラムです。

【女子中高生】サイエンスアドベンチャーⅠ「ミニ科学者になろう」

10:00～12:00

実験・実習にじっくりと取り組み、研究者・技術者と交流しながら自分なりの発見をします。今年度は文理選択を迷っている生徒向けの不思議体験コース（実験A～E）と専門性の高いチャレンジコース（実験F～K）の2種類の実験を用意します。

実験A 金属の不思議

- B 宇宙の星から学ぶエネルギー基礎から学ぶ福島事故ー
- C 水辺の生態系を観察しよう
- D 電子回路を作って遊んでみよう！
- E 重力健康科学入門～自分の身体のシステムを知る
- F 数学ソフトと歩く曲線の世界
- G 結びのゲームを作って遊ぼう
- H 大気圧を測ろう
- I コンピュータで探す健康や環境浄化に係わる遺伝子
- J オリジナルのDNAストラップを作ろうー遺伝暗号のしくみを学ぶー
- K 心臓を染めようー心臓から学ぶ発生と進化ー

【保護者】【教員】サイエンスカフェⅠ ポスター・キャリア相談 <一般公開>

10:00～12:00

女子中高生が目指す理系分野の大学や研究の現状について知り、理解を図ります。ここでは、男女共同参画学協会連絡会や企業、大学等のポスターブースを見学して、最先端の科学技術や理系教育の現状を知ります。

昼 食

12:00～13:00

【女子中高生】サイエンスアドベンチャーⅡ 国際交流 13:00～13:50

韓国の女子高校生とインターネットで交流を行い、学校や日ごろの生活、お互いの夢を語り合います。（希望者のみ参加します。終了後は、集合写真の撮影、ポスター・キャリア相談への参加となります。）

【女子中高生】サイエンスアドベンチャーⅡ ポスター・キャリア相談

13:00～17:45

男女共同参画学協会連絡会、企業や大学、研究所や行政など様々な立場の研究者・技術者との進路相談や大学生・大学院生による学生生活アドバイスコーナー、最先端科学技術を紹介する体験型のブースを回り、科学のおもしろさを発見し、自分の進路を探索します。（国際交流を希望しない中高生は最初からの参加となります。途中、集合写真の撮影があります。）

【保護者】サイエンスカフェⅡ 13：00～17：45

女子中高生の保護者を対象に、理系に進路選択することの魅力や現状について研究者による講演を行います。また、理系に進んだ女子大学生・大学院生や新社会人のショートストーリーを聞き、座談会を行います。

【教員】サイエンスカフェⅡ 13：00～17：45

中学・高校の理科や数学の授業で使える簡単で安全な実験や実習について、現役研究者が紹介します。

集合写真の撮影 14：00～14：15

【共通】交流パーティー 18：00～19：00

夕食をとりながら、講師、実行委員、女子大学生・大学院生との交流を深めます。

【女子中高生】学生企画 キャリア・プランニング 19：15～20：45

各チームでお互いのこれからのキャリア（進学や就職など）について話し合い、最終日に予定されている自分自身の才媛双六を作るための準備をします。研究者・技術者の方へのインタビューなどを通し、具体的な進路について考えます。

【保護者】【教員】サイエンスカフェⅢ 19：15～20：45

日本学術会議、男女共同参画学協会連絡会、大学、企業等の研究者を囲んで理系女子の活躍の現状と期待について語り合います。

講師	渡辺 政隆	日本学術会議連携会員（筑波大学教授）
司会	為近 恵美	N T T（応用物理学会人材育成委員）
	永合 由美子	東京大学工学部広報室、元ライオン(株) （J W E F 運営委員）
	町田 芽久美	日本化薬(株)（J W E F 運営委員）
	森岡 由紀子	N E C（応用物理学会人材育成委員）

【共通】研究者や学生T Aへのキャリア・進学懇談会＜オプション企画＞

21：00～

研究者・技術者や学生T Aから将来のことについて自由な形で話を聞きます。

<第3日 8月11日(土)>

【女子中高生】学生企画 サイエンスアンバサダーⅡ

「自分の将来について考えよう」 9:00～11:00

第2日に行った「才媛双六」のオリジナル版を作成します。これまでのプログラムから学んだこと、考えたことを生かし、これからの自分の将来について双六に表現します。また、作った双六についての感想やこれからの将来への希望などについて「夏学タイムズ」という新聞にまとめます。

【保護者】応援します！サイエンティストへの道（NVECプログラム）

9:00～11:00

女子中高生に対する長期的なライフプランニングや男女共同参画について考えます。

【教員】応援します！サイエンティストへの道（NVECプログラム） 9:00～11:00

これまでのプログラムを振り返り、女子中高生の理系進路選択にどのように取り組むかについて考えます。また、自分自身の授業改革についても考えます。

【共通】学生企画 表彰式

11:15～12:00

この3日間を振り返り、学生企画の成果をグループごとに発表、表彰を行います。

【共通】サイエンスアンバサダー任命式・閉校式

12:00～12:45

女子中高生の参加者全員がサイエンスアンバサダーに任命されます。自分の学校や地域に戻った後、アンバサダーとして夏学の体験を伝えます。

任命

野呂 知加子

企画委員長（日本女性科学者の会）

平成24年度 女子中高生夏の学校2012参加者概況

2012年8月13日現在

1. 学年

中学生	3年	39	39
高校生	1年	43	79
	2年	31	
	3年	5	
合計		118	

2-1. 教員、保護者等

	教員	保護者	合計
女性	7	12	19
男性	7	4	11
合計	14	16	30

5. 都道府県別

※政令指定都市(カッコ内)は都道府県の内数に含む。

※学校の所在地と居住地が違う場合、学校の所在地による。

	中学生	高校生	中高生合計	教員	保護者
北海道・東北	北海道	—	—	—	—
	(札幌市)	(—)	(—)	(—)	(—)
	青森県	—	1	—	—
	岩手県	1	3	—	1
	宮城県	1	5	6	2
	(仙台市)	(—)	(1)	(1)	(—)
	秋田県	—	—	—	—
	山形県	—	6	6	—
	福島県	—	1	1	—
関東	茨城県	—	—	—	—
	栃木県	1	10	11	1
	群馬県	—	1	1	—
	埼玉県	1	9	10	2
	(さいたま市)	(—)	(1)	(1)	(—)
	千葉県	1	—	1	—
	(千葉市)	(—)	(—)	(—)	(—)
	東京都	7	7	14	2
	神奈川県	—	5	5	1
	(横浜市)	(—)	(1)	(1)	(—)
甲信越	(川崎市)	(—)	(1)	(1)	(—)
	(相模原市)	(—)	(—)	(—)	(—)
	山梨県	—	2	2	1
	新潟県	—	1	1	—
	(新潟市)	(—)	(1)	(1)	(—)
	長野県	2	—	2	—
	富山県	2	1	3	1
	石川県	—	1	1	—
	福井県	—	—	—	—
北陸・東海	岐阜県	1	2	3	—
	静岡県	1	2	3	—
	(静岡市)	(—)	(1)	(1)	(—)
	(浜松市)	(—)	—	(—)	(—)
	愛知県	—	3	3	—
	(名古屋市)	(—)	—	(—)	(—)
	三重県	—	—	—	1
	滋賀県	—	—	—	—
	京都府	2	—	2	—
近畿	(京都市)	(2)	(—)	(2)	(—)
	大阪府	4	4	8	—
	(大阪市)	(—)	(3)	(3)	(—)
	(堺市)	(—)	(—)	(—)	(—)
	兵庫県	—	3	3	—
	(神戸市)	(—)	(2)	(2)	(—)
	奈良県	—	—	—	—
	和歌山県	3	—	3	1
	鳥取県	—	—	—	—
中国・四国	島根県	1	—	1	—
	岡山県	—	—	—	—
	(岡山市)	(—)	(—)	(—)	(—)
	広島県	1	—	1	—
	(広島市)	(1)	(—)	(1)	(—)
	山口県	—	4	4	—
	徳島県	—	—	—	—
	香川県	1	—	1	—
	愛媛県	—	—	—	—
	高知県	—	1	1	—
九州・沖縄	福岡県	1	1	2	—
	(北九州市)	(—)	(—)	(—)	(—)
	(福岡市)	(—)	(—)	(—)	(—)
	佐賀県	—	3	3	—
	長崎県	5	2	7	1
	熊本県	—	1	1	—
	(熊本市)	(—)	(—)	(—)	(—)
	大分県	—	—	—	—
	宮崎県	—	—	—	—
	鹿児島県	—	—	—	—
	沖縄県	3	—	3	—
合計		39	79	118	14

	中学生	高校生	教員	保護者	合計	%
北海道・東北	2	16	3	1	22	14.9
関東	10	32	6	3	51	34.5
甲信越	2	3	1	2	8	5.4
北陸・東海	4	9	2	—	15	10.1
近畿	9	7	1	2	19	12.8
中国・四国	3	5	—	3	11	7.4
九州・沖縄	9	7	1	5	22	14.9
合計	39	79	14	16	148	100.0

※地域ブロック別内訳

	中学生	高校生	教員	保護者	合計
北海道・東北	2	16	3	1	22
関東	10	32	6	3	51
甲信越	2	3	1	2	8
北陸・東海	4	9	2	—	15
近畿	9	7	1	2	19
中国・四国	3	5	—	3	11
九州・沖縄	9	7	1	5	22
合計	39	79	14	16	148

「女子中高生夏の学校2012 ～科学・技術者のたまごたちへ～」 アンケート集計結果(女子中高生用)

参加者 118 名
アンケート回答数 115 件
アンケート回答率 97.5 %

1. あなた自身についてお聞かせください。

◆都道府県

	人数	%		人数	%		人数	%
北海道	-	-	石川県	1	0.9	岡山県	-	-
青森県	1	0.9	福井県	-	-	広島県	1	0.9
岩手県	4	3.5	山梨県	2	1.7	山口県	4	3.5
宮城県	7	6.1	長野県	2	1.7	徳島県	-	-
秋田県	-	-	岐阜県	4	3.5	香川県	1	0.9
山形県	6	5.2	静岡県	3	2.6	愛媛県	-	-
福島県	-	-	愛知県	1	0.9	高知県	1	0.9
茨城県	-	-	三重県	-	-	福岡県	2	1.7
栃木県	10	8.7	滋賀県	-	-	佐賀県	3	2.6
群馬県	3	2.6	京都府	2	1.7	長崎県	7	6.1
埼玉県	9	7.8	大阪府	7	6.1	熊本県	1	0.9
千葉県	4	3.5	兵庫県	3	2.6	大分県	-	-
東京都	8	7.0	奈良県	-	-	宮崎県	-	-
神奈川県	7	6.1	和歌山県	3	2.6	鹿児島県	-	-
新潟県	1	0.9	鳥取県	-	-	沖縄県	3	2.6
富山県	3	2.6	島根県	1	0.9	無回答	-	-
合計							115	100.0

◆今後の具体的な進路

(※は「無回答」を除いた割合)

	人数	%	※%
理系	81	70.4	70.4
文系	8	7.0	7.0
まだ決めていない	26	22.6	22.6
無回答	-	-	-
合計	115	100.0	100.0

2. 今回の企画を何で知りましたか?該当するものすべてに○をつけてください(複数回答)。

	人数	% (115名中)
①学校・先生から	88	76.5
②国立女性教育会館の広報(HP、メルマガ等)で見て	6	5.2
③新聞の記事	-	-
④親、家族、親戚から	22	19.1
⑤その他	7	6.1

3. あなたが「女子中高生夏の学校2012」に参加した理由を教えてください(複数回答)。

	人数	% (115名中)
①科学・技術分野に興味があるから	69	60.0
②将来の進路を考える参考にするから	61	53.0
③講師の先生に関心があるから	1	0.9
④おもしろそうなプログラムがあるから	62	53.9
⑤他校の生徒と話をしてみたかったから	24	20.9
⑥大学生と話をしてみたかったから	16	13.9
⑦先生に勧められたから	31	27.0
⑧親等に勧められたから	20	17.4
⑨その他	9	7.8

4. 各プログラムの内容はいかがでしたか？

【1日目】

サイエンスアンバサダーⅠ

(※は「参加していない」「無回答」を除いた割合)

	人数	%	※%
非常に有用だった	43	37.4	37.4
有用だった	62	53.9	53.9
あまり有用ではなかった	8	7.0	7.0
有用でなかった	2	1.7	1.7
参加していない	-	-	
無回答	-	-	
合計	115	100.0	100.0

<感想>

- ・この会の事がよくわかった(7件)
- ・夏学で学ぶべきこと、メモの取り方、文章の書き方など、とても参考になった
- ・サイエンスアンバサダーのことをよく知ることができた

キャリア講演①柳優さん

	人数	%	※%
非常に有用だった	50	43.5	43.5
有用だった	59	51.3	51.3
あまり有用ではなかった	4	3.5	3.5
有用でなかった	2	1.7	1.7
参加していない	-	-	
無回答	-	-	
合計	115	100.0	100.0

<感想>

- ・好きなことをやりながら好きな仕事と両立できてすごい(5件)
- ・いろんな将来があるのだと感じた。やはり1番は好きであること、興味があること
- ・仕事と興味・家庭を両立する事が自分磨きにつながることを知った

キャリア講演②永松愛子さん

	人数	%	※%
非常に有用だった	60	52.2	52.2
有用だった	53	46.1	46.1
あまり有用ではなかった	1	0.9	0.9
有用でなかった	1	0.9	0.9
参加していない	-	-	
無回答	-	-	
合計	115	100.0	100.0

<感想>

- ・子供がいる科学者が私の最終目標になった
- ・女磨きをしっかりしてるのがすごいと思った
- ・理系の女性の話をなかなか聞くことができないのでよかった

女性科学者・技術者の職場訪問

	人数	%	※%
非常に有用だった	81	70.4	70.4
有用だった	33	28.7	28.7
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用でなかった	1	0.9	0.9
参加していない	-	-	
無回答	-	-	
合計	115	100.0	100.0

<感想>

- ・楽しく仕事をやっているようで、私もそんな仕事に就きたいと思った。(2件)
- ・いろいろ宇宙について知ることができ面白かった。結構わかり易い内容で仕事をする上で、どの職業にも共通することがあってとても為になった
- ・JAXAの貴重な女性の方の話はすごく良い経験だった

学生企画 サイエンスバトル！？

	人数	%	※%
非常に有用だった	81	70.4	70.4
有用だった	33	28.7	28.7
あまり有用ではなかった	—	—	—
有用でなかった	1	0.9	0.9
参加していない	—	—	—
無回答	—	—	—
合計	115	100.0	100.0

<感想>

- ・ 班活動の一番初めで、みんなのいろいろな面が見れて楽しかった
- ・ 他校の人たちと関われグループの人とは仲良くなれて良かった
- ・ とても楽しかった(20件)

天体観測会

	人数	%	※%
非常に有用だった	5	4.3	15.6
有用だった	8	7.0	25.0
あまり有用ではなかった	17	14.8	53.1
有用でなかった	2	1.7	6.3
参加していない	81	70.4	—
無回答	2	1.7	—
合計	115	100.0	100.0

<感想>

- ・ 望遠鏡の仕組みが分かって楽しかったが星が見えなかったのが残念(2件)
- ・ 星が見えなかったので家でチャレンジしたい
- ・ 星が見れたら、絶対必要だったものと思う。星が見たかった

【2日目】

学生企画 才媛双六

	人数	%	※%
非常に有用だった	69	60.0	60.0
有用だった	42	36.5	36.5
あまり有用ではなかった	3	2.6	2.6
有用でなかった	1	0.9	0.9
参加していない	—	—	—
無回答	—	—	—
合計	115	100.0	100.0

<感想>

- ・ 自分の知らない知識を知ることができ、将来に関わる自分の人生も少し考えられた。また、班でも協力性が高まった
- ・ 問題に答えるとマスが進められるという、アイデアいっぱいの活動で楽しかった
- ・ 理系のクイズがとても面白かった。班との交流が深められた

サイエンスアドベンチャーⅠ 実験・実習

コース	人数	%	※%
A	5	4.3	5.8
B	9	7.8	10.5
C	8	7.0	9.3
D	12	10.4	14.0
E	7	6.1	8.1
F	4	3.5	4.7
G	9	7.8	10.5
H	7	6.1	8.1
I	9	7.8	10.5
J	9	7.8	10.5
K	7	6.1	8.1
無回答	29	25.2	
合計	115	100.0	100.0

コース区分	人数	%	※%
1	41	35.7	47.7
2	45	39.1	52.3
無回答	29	25.2	
合計	115	100.0	100.0

	全体			A			B		
	人数	%	※%	人数	%	※%	人数	%	※%
非常に有用だった	81	70.4	73.6	2	40.0	40.0	8	88.9	88.9
有用だった	27	23.5	24.5	3	60.0	60.0	1	11.1	11.1
あまり有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-
有用でなかった	2	1.7	1.8	-	-	-	-	-	-
参加していない	-	-		-	-		-	-	
無回答	5	4.3		-	-		-	-	
合計	115	100.0	100.0	5	100.0	100.0	9	100.0	100.0

	C			D			E		
	人数	%	※%	人数	%	※%	人数	%	※%
非常に有用だった	6	75.0	85.7	9	75.0	81.8	7	100.0	100.0
有用だった	1	12.5	14.3	2	16.7	18.2	-	-	-
あまり有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加していない	-	-		-	-		-	-	
無回答	1	12.5		1	8.3		-	-	
合計	8	100.0	100.0	12	100.0	100.0	7	100.0	100.0

	F			G			H		
	人数	%	※%	人数	%	※%	人数	%	※%
非常に有用だった	-	-	-	6	66.7	66.7	6	85.7	85.7
有用だった	4	100.0	100.0	3	33.3	33.3	1	14.3	14.3
あまり有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加していない	-	-		-	-		-	-	
無回答	-	-		-	-		-	-	
合計	4	100.0	100.0	9	100.0	100.0	7	100.0	100.0

	I			J			K		
	人数	%	※%	人数	%	※%	人数	%	※%
非常に有用だった	7	77.8	77.8	6	66.7	66.7	7	100.0	100.0
有用だった	2	22.2	22.2	3	33.3	33.3	-	-	-
あまり有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-
有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加していない	-	-		-	-		-	-	
無回答	-	-		-	-		-	-	
合計	9	100.0	100.0	9	100.0	100.0	7	100.0	100.0

〈コース別〉

	不思議			チャレンジ		
	人数	%	※%	人数	%	※%
非常に有用だった	32	78.0	82.1	32	71.1	71.1
有用だった	7	17.1	17.9	13	28.9	28.9
あまり有用ではなかった	—	—	—	—	—	—
有用でなかった	—	—	—	—	—	—
参加していない	—	—	—	—	—	—
無回答	2	4.9	—	—	—	—
合計	41	100.0	100.0	45	100.0	100.0

〈感想〉

- ・興味のあるものを体験することができるのはとても面白い。工作などもできて楽しかった。もっとDNAについて知りたかった
- ・ますます生物に興味を持てた貴重な時間だった
- ・普通ではできない実験ができて楽しかった(2件)

サイエンスアドベンチャーⅡ 国際交流

	人数	%	※%
非常に有用だった	20	17.4	27.4
有用だった	31	27.0	42.5
あまり有用ではなかった	15	13.0	20.5
有用でなかった	7	6.1	9.6
参加していない	40	34.8	—
無回答	2	1.7	—
合計	115	100.0	100.0

〈感想〉

- ・外人としゃべるのってすごい。韓国の人は英語ペラペラ(3件)
- ・国は違ってもお互いに交流できてうれしかった
- ・韓国人の人達と会話するという、貴重な体験ができてとてもよかった

**サイエンスアドベンチャーⅡ
ポスター・キャリア相談**

	人数	%	※%
非常に有用だった	77	67.0	68.8
有用だった	31	27.0	27.7
あまり有用ではなかった	2	1.7	1.8
有用でなかった	2	1.7	1.8
参加していない	—	—	—
無回答	3	2.6	—
合計	115	100.0	100.0

〈感想〉

- ・いろんな分野のことについて知れて良かった。分かり易いし直接質問できて楽しかった。将来には一番有用
- ・研究者の方と直接話ができるよい機会になった(3件)
- ・自分の将来の選択を行うに当たって役立つ話ばかりだった

交流パーティー

	人数	%	※%
非常に有用だった	63	54.8	55.3
有用だった	45	39.1	39.5
あまり有用ではなかった	5	4.3	4.4
有用でなかった	1	0.9	0.9
参加していない	—	—	—
無回答	1	0.9	—
合計	115	100.0	100.0

〈感想〉

- ・班の人や他の班の人たちとも沢山話せて良かった(8件)
- ・楽しく交流ができる。食事もおいしい。他のグループの人と話せるのもいい。もっと交流できたら良かった
- ・自分とは違った分野を研究している人と話せて良かった

学生企画 キャリア・プランニング

	人数	%	※%
非常に有用だった	67	58.3	59.8
有用だった	41	35.7	36.6
あまり有用ではなかった	3	2.6	2.7
有用でなかった	1	0.9	0.9
参加していない	—	—	
無回答	3	2.6	
合計	115	100.0	100.0

<感想>

- ・自分の将来をもう一度深く考えることができるし、グループでいろんな意見を出し合えて盛り上がったので楽しかった。先輩方の意見も聞けてより考えられた
- ・みんなと改めて将来について話すことによって良い刺激になった(2件)
- ・自分を見直すいい機会になった(3件)

研究者やTAへのキャリア・進学相談会

	人数	%	※%
非常に有用だった	62	53.9	72.9
有用だった	20	17.4	23.5
あまり有用ではなかった	2	1.7	2.4
有用でなかった	1	0.9	1.2
参加していない	29	25.2	
無回答	1	0.9	
合計	115	100.0	100.0

<感想>

- ・やはり、自分達の考えだけでは甘いところがあることが分かる。現実的にいろんな情報を教えてもらえて良かった
- ・学生のTAさんと仲良くなれて、大学について知ることができて良かった
- ・同じ価値観を持つTAがいたので悩みを話すことができた

【3日目】

学生企画 サイエンスアンバサダーⅡ

	人数	%	※%
非常に有用だった	60	52.2	62.5
有用だった	33	28.7	34.4
あまり有用ではなかった	2	1.7	2.1
有用でなかった	1	0.9	1.0
参加していない	—	—	
無回答	19	16.5	
合計	115	100.0	100.0

<感想>

- ・グループの子と協力して、双六を作ることができ楽しかった。自分達で自分達の人生を決めることはとてもすごいことだ
- ・皆で作れて、最後の共同作業楽しかった
- ・楽しかった。みんなで協力できて良かった(7件)

学生企画 夏学振り返りと表彰式

	人数	%	※%
非常に有用だった	56	48.7	58.3
有用だった	38	33.0	39.6
あまり有用ではなかった	1	0.9	1.0
有用でなかった	1	0.9	1.0
参加していない	—	—	
無回答	19	16.5	
合計	115	100.0	100.0

<感想>

- ・どの班もそれぞれ個性にあふれていてとても楽しい表彰式だった(2件)
- ・色んなことが思い出されて良かった
- ・振り返ってみると短かったけれど楽しかった

サイエンスアンバサダー任命式と閉校式

	人数	%	※%
非常に有用だった	51	44.3	54.3
有用だった	40	34.8	42.6
あまり有用ではなかった	1	0.9	1.1
有用でなかった	2	1.7	2.1
参加していない	-	-	-
無回答	21	18.3	-
合計	115	100.0	100.0

<感想>

- ・サイエンスアンバサダーとして学校の人に色々伝えたい
- ・今日来ていない人にも夏学について伝えたいと思った
- ・皆と離れるのはさびしいけれど頑張りたい

5. 「女子中高生夏の学校2012」全体についてお聞きします。

(※は「無回答」を除いた割合)

	人数	%	※%
非常に満足した	87	75.7	79.1
満足した	21	18.3	19.1
少し物足りなかった	-	-	-
物足りなかった	2	1.7	1.8
無回答	5	4.3	-
合計	115	100.0	100.0

6. 理系への進路や科学・技術分野の職業選択について、参加して感じたことを自由にご記入下さい。

- ・理系の女性研究者の立ち位置について、あまり深く考えたことがなかったので、今回、夏学に参加してみて自分の中の意識が大きく変わったのを実感した。生の声というのはなかなか聞くことができないしTAの方とは年も近かったので気軽に相談できた。深く印象に残ったことは、まず、結婚・出産といった女性特有のイベントを人生ステージのどこにおくのかしっかり前もって考えておくべきだということ、そして女性研究者の数を増やそうという風が吹いている今がチャンスだということ
- ・私は最初、文系より理系の方がまだ好きというだけで、そこまで強く理系に進みたい思いはなかった。でも、夏学の3日間を通して短い期間ではあったものの、本当に多くの事を学んだ。実際にその分野に進む大学院生のTAをはじめ、そういった分野に進み実際に働いている方の話など、自分の進路選択に大きく関わられた。そして結果的にやっぱり理系は面白い、まだ明確な夢はないが理系に進みたい。そう思うことができた。この夏学は本当に身になった。本当に良かった。また参加したい
- ・今まで理系というとにかく男というイメージが強く、理系を選択しながらも少し迷いがあった。しかし、夏学に参加して男女はあまり関係ないという印象を受けた。また、今まで興味のなかった分野の面白さに気づき自分の視野が広がった
- ・初めて参加したが、TAのお姉さんも先生もグループのみんなもよくしてくれて良かった。大学進学することを決めた。今度は「TA」になって来たい。来年も来たい。ありがとうございました
- ・夏学に初めて参加して、理系の仕事について改めて詳しく知ることができた。また、初めて知り合った仲間とも交流を深め、友だちになることができ、とても嬉しかった。貴重な体験ができてよかった。ありがとうございました

「女子中高生夏の学校2012 ～科学・技術者のたまごたちへ～」

アンケート集計結果（教員用）

1. あなた自身についてお聞かせください。

◆都道府県

	人数	%		人数	%		人数	%
北海道	-	-	石川県	-	-	岡山県	-	-
青森県	-	-	福井県	-	-	広島県	-	-
岩手県	-	-	山梨県	-	-	山口県	-	-
宮城県	2	16.7	長野県	-	-	徳島県	-	-
秋田県	-	-	岐阜県	-	-	香川県	-	-
山形県	-	-	静岡県	-	-	愛媛県	-	-
福島県	1	8.3	愛知県	-	-	高知県	-	-
茨城県	-	-	三重県	1	8.3	福岡県	-	-
栃木県	1	8.3	滋賀県	-	-	佐賀県	-	-
群馬県	-	-	京都府	-	-	長崎県	1	8.3
埼玉県	-	-	大阪府	-	-	熊本県	-	-
千葉県	-	-	兵庫県	-	-	大分県	-	-
東京都	2	16.7	奈良県	-	-	宮崎県	-	-
神奈川県	1	8.3	和歌山県	1	8.3	鹿児島県	-	-
新潟県	-	-	鳥取県	-	-	沖縄県	-	-
富山県	1	8.3	島根県	-	-	無回答	1	8.3
合計							12	100.0

参加者 14 名
アンケート対象者 12 名
アンケート回答数 12 件
アンケート回答率 85.7 %

2. 今回の企画を何で知りましたか?該当するものすべてに○をつけてください(複数回答)。

	人数	% (12名中)
①学校・先生から	7	58.3
②国立女性教育会館の広報(HP、メルマガ等)で見て	2	16.7
③新聞の記事	-	-
④生徒、子ども、家族、親戚から	-	-
⑤その他	3	25.0

3. あなたが「女子中高生夏の学校2012」に参加した理由を教えてください(複数回答)。

	人数	% (12名中)
①理系進路選択の知識を得るため	5	41.7
②生徒の進路について悩んでいるため	1	8.3
③理系進路選択事業に関心があるため	6	50.0
④実験やポスターセッションに関心があるため	7	58.3
⑤講師に関心があるため	1	8.3
⑥情報交換をしたいから	4	33.3
⑦その他	4	33.3

4. 各プログラムの内容はいかがでしたか?

【1日目】

サイエンスアンバサダー I

(※は「参加していない」「無回答」を除いた割合)

	人数	%	※%
非常に有用だった	2	16.7	16.7
有用だった	6	50.0	50.0
あまり有用ではなかった	4	33.3	33.3
有用でなかった	-	-	-
参加していない	-	-	-
無回答	-	-	-
合計	12	100.0	100.0

<感想>

- ・この3日間の過ごし方で特に大切な事が説明され、導入の話として非常に有用
- ・メモの取り方の指導をしてもらえてよかった
- ・心構えを確認することは重要

キャリア講演①柳 優さん

	人数	%	※%
非常に有用だった	3	25.0	25.0
有用だった	9	75.0	75.0
あまり有用ではなかった	—	—	—
有用でなかった	—	—	—
参加していない	—	—	—
無回答	—	—	—
合計	12	100.0	100.0

<感想>

- ・ロールモデルとしてレベルが高く良かった
- ・中・高・大・就職までの流れが具体的に説明されわかり易かった
- ・私自身の年齢についてこの先どう選択していくべきか考えさせられた

キャリア講演②永松愛子さん

	人数	%	※%
非常に有用だった	3	25.0	25.0
有用だった	9	75.0	75.0
あまり有用ではなかった	—	—	—
有用でなかった	—	—	—
参加していない	—	—	—
無回答	—	—	—
合計	12	100.0	100.0

<感想>

- ・ロールモデルとしてレベルが高く良かった
- ・生徒たちが今後どのような事を意識して過ごしていけばよいか、「キャリアプランニング」の方法を伝えてくれて良かった
- ・専門的であったが興味をもてた

女性科学者・技術者の職場訪問

	人数	%	※%
非常に有用だった	6	50.0	50.0
有用だった	5	41.7	41.7
あまり有用ではなかった	1	8.3	8.3
有用でなかった	—	—	—
参加していない	—	—	—
無回答	—	—	—
合計	12	100.0	100.0

<感想>

- ・技術者・科学者の実際の様子がわかり、分かり易い職場訪問だった。等身大の女性の技術者・科学者へのインビューが印象的
- ・私自身の年齢についてこの先どう選択していくべきか考えさせられた
- ・具体的で良かった

夏の学校を知る

	人数	%	※%
非常に有用だった	5	41.7	41.7
有用だった	5	41.7	41.7
あまり有用ではなかった	1	8.3	8.3
有用でなかった	1	8.3	8.3
参加していない	—	—	—
無回答	—	—	—
合計	12	100.0	100.0

<感想>

- ・知る対象が広く意見交換ができた
- ・貴重な体験だった

天体観測会

	人数	%	※%
非常に有用だった	1	8.3	12.5
有用だった	5	41.7	62.5
あまり有用ではなかった	2	16.7	25.0
有用でなかった	—	—	—
参加していない	4	33.3	
無回答	—	—	
合計	12	100.0	100.0

<感想>

- 曇りで残念(2件)

【2日目】

学生企画 才媛双六

	人数	%	※%
非常に有用だった	9	75.0	75.0
有用だった	3	25.0	25.0
あまり有用ではなかった	—	—	—
有用でなかった	—	—	—
参加していない	—	—	
無回答	—	—	
合計	12	100.0	100.0

<感想>

- 知的に楽しめた
- 生徒が楽しみながら、リケジョの人生を学べていた。クイズも凝っていて大人の私も楽しめた
- 非常に面白かった。授業でも取り入れたい

サイエンスカフェⅠ ポスター・キャリア相談

	人数	%	※%
非常に有用だった	4	33.3	33.3
有用だった	5	41.7	41.7
あまり有用ではなかった	2	16.7	16.7
有用でなかった	1	8.3	8.3
参加していない	—	—	
無回答	—	—	
合計	12	100.0	100.0

<感想>

- 活発に情報交換できた
- 自分があまり分かっていない分野について触れられるのが良かった
- 大学の先生方と直接話ができて大学の現状が分かった

サイエンスカフェⅡ 講演、学校ですぐ使える実験・実習

	人数	%	※%
非常に有用だった	2	16.7	18.2
有用だった	3	25.0	27.3
あまり有用ではなかった	5	41.7	45.5
有用でなかった	1	8.3	9.1
参加していない	1	8.3	
無回答	—	—	
合計	12	100.0	100.0

<感想>

- これまで夏の学校で提供されたプログラムと学校での学習をどのようにつなげるか、考える時間が持てた事は有意義
- 生物化学系が少ないことがわかった

交流パーティー

	人数	%	※%
非常に有用だった	2	16.7	20.0
有用だった	7	58.3	70.0
あまり有用ではなかった	1	8.3	10.0
有用でなかった	—	—	—
参加していない	1	8.3	
無回答	1	8.3	
合計	12	100.0	100.0

<感想>

- ・ 普段は関わりを持つことがあまりない方と面識になれたことが大変有意義だった
- ・ 生徒の交流の場があったのは良かったが保護者と教員だけのものあればと思った
- ・ TAと話ができた

サイエンスカフェⅢ 日本学術会議、学会、企業の研究者との座談会

	人数	%	※%
非常に有用だった	3	25.0	30.0
有用だった	6	50.0	60.0
あまり有用ではなかった	1	8.3	10.0
有用でなかった	—	—	—
参加していない	1	8.3	
無回答	1	8.3	
合計	12	100.0	100.0

<感想>

- ・ 保護者の理系に対する印象や子供の将来を思う気持ちが理解できた(2件)
- ・ 保護者の方の率直な意見・悩みが聞けたのは良かった。また、理科の授業がいかに社会と繋がっているかを子供たちに浸透させることが大きな課題であるか再認識した
- ・ 色々な方の意見が聞けて良かった

研究者やTAへのキャリア・進学懇談会学生との座談会

	人数	%	※%
非常に有用だった	1	8.3	33.3
有用だった	2	16.7	66.7
あまり有用ではなかった	—	—	—
有用でなかった	—	—	—
参加していない	7	58.3	
無回答	2	16.7	
合計	12	100.0	100.0

<感想>

- ・ ここで多くの方と話ができることがすごく大切

【3日目】

応援します！サイエンティストへの道

	人数	%	※%
非常に有用だった	—	—	—
有用だった	7	58.3	87.5
あまり有用ではなかった	1	8.3	12.5
有用でなかった	—	—	—
参加していない	4	33.3	
無回答	—	—	
合計	12	100.0	100.0

<感想>

- ・ 夏学のプランを授業に取り入れた場合の指導案作成し自分への刺激になった。

学生企画 夏学振り返りと表彰式

	人数	%	※%
非常に有用だった	1	8.3	11.1
有用だった	8	66.7	88.9
あまり有用ではなかった	—	—	—
有用でなかった	—	—	—
参加していない	3	25.0	
無回答	—	—	
合計	12	100.0	100.0

<感想>

- ・写真があり良かった

サイエンス・アンバサダー任命式と閉校式

	人数	%	※%
非常に有用だった	2	16.7	28.6
有用だった	5	41.7	71.4
あまり有用ではなかった	—	—	—
有用でなかった	—	—	—
参加していない	3	25.0	
無回答	2	16.7	
合計	12	100.0	100.0

<感想>

特になし

5. 「女子中高生夏の学校2012」全体についてお聞きします。

(※は「無回答」を除いた割合)

	人数	%	※%
非常に満足した	4	33.3	33.3
少し満足した	7	58.3	58.3
少し物足りなかった	1	8.3	8.3
物足りなかった	—	—	—
無回答	—	—	—
合計	12	100.0	100.0

6. 理系への進路や科学・技術分野の職業選択について、参加して感じたことを自由にご記入下さい。

- ・子供にとっては2泊3日のプログラムの中で、技術者・研究者の生の声を聞くチャンスが多くあり、また、同年代の全国の中高生と密に関わりあえ、非常に刺激を多く与えていただけた事で大変有難いと感じた。また、保護者・教員にも全国のような立場・職業の方々と腹を割って話す、相談する機会が持て有意義な時間が持てた。帰校したらこの夏の学校に次年度も多くの生徒が応募する気持ちになれるよう働きかけていきたい。
- ・生徒たちが活き活き活動しているところがよかった。また、この女子(理系)の集まりはここだけしかないもので、子供たちにはすごくよい刺激になった
- ・多くの場所から、一つの所に集まりそれが理系の事を考えて集まった人たちであることが教員として嬉しかった。私の学校は理系選択が少ないのでこんなに沢山の理系の人たちが理系を考えている事に自信と希望ができた
- ・大学生・大学院生のTAのアシストがてきぱき動いて指示している姿に感動した(保護者や教員を前に物怖じしない)。TAの真剣に中高生に対応しているのも良かった。来年はぜひ中学校を引率して参加させたいと感じた。最後になりましたが本当に色々お世話になりましたありがとうございました
- ・教師も知らないことが多く、科学技術分野の進路指導に役立てたい。また生徒に自分のキャリアについて強く意識させていきたい

「女子中高生夏の学校2012 ～科学・技術者のたまごたちへ～」

アンケート集計結果（保護者用）

参加者 16 名
アンケート対象者 15 名
アンケート回答数 15 件
アンケート回答率 93.8 %

1. あなた自身についてお聞かせください。

◆都道府県

	人数	%		人数	%		人数	%
北海道	-	-	石川県	-	-	岡山県	-	-
青森県	-	-	福井県	-	-	広島県	-	-
岩手県	1	6.7	山梨県	-	-	山口県	-	-
宮城県	-	-	長野県	2	13.3	徳島県	-	-
秋田県	-	-	岐阜県	-	-	香川県	1	6.7
山形県	-	-	静岡県	-	-	愛媛県	-	-
福島県	-	-	愛知県	-	-	高知県	-	-
茨城県	-	-	三重県	-	-	福岡県	1	6.7
栃木県	1	6.7	滋賀県	-	-	佐賀県	-	-
群馬県	-	-	京都府	1	6.7	長崎県	2	13.3
埼玉県	-	-	大阪府	1	6.7	熊本県	1	6.7
千葉県	-	-	兵庫県	-	-	大分県	-	-
東京都	1	6.7	奈良県	-	-	宮崎県	-	-
神奈川県	-	-	和歌山県	-	-	鹿児島県	-	-
新潟県	-	-	鳥取県	-	-	沖縄県	1	6.7
富山県	-	-	島根県	1	6.7	無回答	1	6.7
合計							15	100.0

2. 今回の企画を何で知りましたか?該当するものすべてに○をつけてください(複数回答)。

	人数	% (15名中)
①学校から	12	80.0
②国立女性教育会館の広報(HP、メルマガ等)で見つ	2	13.3
③新聞の記事	1	6.7
④生徒、子ども、家族、親戚から	2	13.3
⑤その他	-	-

3. あなたが「女子中高生夏の学校2012」に参加した理由を教えてください(複数回答)。

	人数	% (15名中)
①理系進路選択の知識を得るため	10	66.7
②生徒の進路について悩んでいるため	5	33.3
③理系進路選択事業に関心があるため	4	26.7
④実験やポスターセッションに関心があるため	2	13.3
⑤講師に関心があるため	-	-
⑥情報交換をしたいから	7	46.7
⑦その他	3	20.0

4. 各プログラムの内容はいかがでしたか?

【1日目】

サイエンスアンバサダー I

(※は「参加していない」「無回答」を除いた割合)

	人数	%	※%
非常に有用だった	5	33.3	38.5
概ね有用だった	7	46.7	53.8
あまり有用ではなかった	1	6.7	7.7
有用でなかった	-	-	-
参加していない	-	-	-
無回答	2	13.3	-
合計	15	100.0	100.0

<感想>

- ・ 今回の体験を通して改めて“科学技術の魅力”を知ることが出来て、ぜひ今後もその道を究めてほしいという思いがあふれた
- ・ 夏学の目的や意義を知ることができた
- ・ メモをいつもとると話子どもにとって有益だったと思う

キャリア講演①柳 優さん

	人数	%	※%
非常に有用だった	3	20.0	20.0
概ね有用だった	12	80.0	80.0
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用でなかった	-	-	-
参加していない	-	-	-
無回答	-	-	-
合計	15	100.0	100.0

<感想>

- ・自分の特性を上手く仕事へといかせる職につけて、すごいと思った。あらゆる可能性に挑戦する努力は大切。あきらめない子に育てようと思った
- ・身の回りで目標と喜びを見だし(ポジティブに)、一生懸命頑張った生き方は、一つの共感が得られる生き方と思う
- ・女性のがんばりや意欲が社会を支えていることがよくわかった

キャリア講演②永松愛子さん

	人数	%	※%
非常に有用だった	9	60.0	60.0
概ね有用だった	6	40.0	40.0
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用でなかった	-	-	-
参加していない	-	-	-
無回答	-	-	-
合計	15	100.0	100.0

<感想>

- ・バスの中で席を譲ってもらった。きれいな方だなと思っていたら、講演者だったのでびっくりした。研究者、主婦、母、大学院生と、4つのわらじをはいていたなんて、本当にすごいと感心した
- ・とても生き生きとした様子に好きな事をされていることは幸せなことなのだと改めて感じさせられた
- ・子育てや仕事をしながら生き生きと自分の研究をする夢と希望を示して貰った

女性科学者・技術者の職場訪問

	人数	%	※%
非常に有用だった	7	46.7	50.0
概ね有用だった	7	46.7	50.0
あまり有用ではなかった	-	-	-
有用でなかった	-	-	-
参加していない	-	-	-
無回答	1	6.7	-
合計	15	100.0	100.0

<感想>

- ・はやぶさの話など、ニュースの前に今回の話が聞けていたら一緒に涙したかもと。遠くの事への目的にこつこつと積み重ねる大切さを知った。帰ったら「はやぶさ」を見ようと思った
- ・最先端科学技術の現場にふれる良い機会。でも、参加した学生にとって手に届かない現場と感じさせる部分ありと思う
- ・宇宙への熱い思いが伝わった。無条件に好きなのだったと思った

夏の学校を知る

	人数	%	※%
非常に有用だった	6	40.0	42.9
概ね有用だった	7	46.7	50.0
あまり有用ではなかった	1	6.7	7.1
有用でなかった	-	-	-
参加していない	-	-	-
無回答	1	6.7	-
合計	15	100.0	100.0

<感想>

- ・アンケートデータに基づく話は面白い内容であった
- ・先生のパワーを感じた。子どもの進路決定に大人の役割の大きさを感じた
- ・小川先生のわかりやすい語りで日本の現状など知ることができてよかった

天体観測会

	人数	%	※%
非常に有用だった	—	—	—
概ね有用だった	5	33.3	62.5
あまり有用ではなかった	3	20.0	37.5
有用でなかった	—	—	—
参加していない	6	40.0	
無回答	1	6.7	
合計	15	100.0	100.0

<感想>

- ・見られなかったので残念。古澤先生のスカイアプリに感動（2件）
- ・天候不良が残念。だが、天体望遠鏡の講義はおもしろかった。本物も見なかった

【2日目】

学生企画 才媛双六

	人数	%	※%
非常に有用だった	9	60.0	60.0
概ね有用だった	5	33.3	33.3
あまり有用ではなかった	1	6.7	6.7
有用でなかった	—	—	—
参加していない	—	—	
無回答	—	—	
合計	15	100.0	100.0

<感想>

- ・ゲームを通じてTeam-upする手法を学んだと思う
- ・子ども達が楽しそうですごくよかった。全ての問と正解をプリントで頂きたいくらい、私の知らないことばかりだった
- ・楽しみながら、自分の進路を自然と考えるような工夫は大変参考になった

サイエンスカフェⅠ ポスター・キャリア相談

	人数	%	※%
非常に有用だった	5	33.3	33.3
概ね有用だった	10	66.7	66.7
あまり有用ではなかった	—	—	—
有用でなかった	—	—	—
参加していない	—	—	
無回答	—	—	
合計	15	100.0	100.0

<感想>

- ・第一線の方の話がとても重みある物と実感され、プレゼンもさすがと関心した
- ・理系の多様性と女性の活躍の場の知見を深めるのに良い
- ・ポスターは皆の前で聞きにくいとも言えてよかった

サイエンスカフェⅡ 研究者講演、学生との座談会

	人数	%	※%
非常に有用だった	11	73.3	78.6
概ね有用だった	3	20.0	21.4
あまり有用ではなかった	—	—	—
有用でなかった	—	—	—
参加していない	—	—	
無回答	1	6.7	
合計	15	100.0	100.0

<感想>

- ・誰もが言っていたことだが、学生TAさんがキラキラして、とても素敵だった。娘に未来の自分を重ねてほしい（2件）
- ・委員（研究者）、TAのどちらも素敵な方々で、娘も同じ世界に入る後押しをしたいと思う意義な会だった
- ・学生さんの生の声が聞けて、すごくよかった。みんなすごくしっかりしていて関心した。そしてよく勉強している

交流パーティー

	人数	%	※%
非常に有用だった	4	26.7	26.7
概ね有用だった	8	53.3	53.3
あまり有用ではなかった	3	20.0	20.0
有用でなかった	—	—	—
参加していない	—	—	—
無回答	—	—	—
合計	15	100.0	100.0

<感想>

- ・子ども達の迫力に圧倒された。とても楽しそうですごく安心した
- ・親も仲良くできてよかった
- ・子ども達の楽しそうな笑顔が印象的だった

サイエンスカフェⅢ 日本学術会議、学会、企業の研究者との座談会

	人数	%	※%
非常に有用だった	5	33.3	33.3
概ね有用だった	8	53.3	53.3
あまり有用ではなかった	2	13.3	13.3
有用でなかった	—	—	—
参加していない	—	—	—
無回答	—	—	—
合計	15	100.0	100.0

<感想>

- ・本音？が聞けて、親としては頭が痛かった。色んな意見を聞けて良かった
- ・座談会という形はお互いの考えがよくわかっていいと思う
- ・理科離れの理由と対策について保護者、先生と話げできた

研究者やTAへのキャリア・進学懇談会

	人数	%	※%
非常に有用だった	3	20.0	75.0
概ね有用だった	1	6.7	25.0
あまり有用ではなかった	—	—	—
有用でなかった	—	—	—
参加していない	11	73.3	—
無回答	—	—	—
合計	15	100.0	100.0

<感想>

- ・子どもたちが熱心に頑張っている姿がほほえましく、見学していた
- ・TAの話がよかった

【3日目】

応援します！サイエンティストへの道

	人数	%	※%
非常に有用だった	9	60.0	64.3
概ね有用だった	5	33.3	35.7
あまり有用ではなかった	—	—	—
有用でなかった	—	—	—
参加していない	—	—	—
無回答	1	6.7	—
合計	15	100.0	100.0

<感想>

- ・保護者のみんなの本音の感想を聞けてよかった（2件）
- ・2日目までの座談会などで話したことのない方達の感想や意見が聞けてよかった
- ・男女共同参画基本と女性科学者のつながりがわかった

学生企画 夏学振り返りと表彰式

	人数	%	※%
非常に有用だった	10	66.7	71.4
概ね有用だった	4	26.7	28.6
あまり有用ではなかった	—	—	—
有用でなかった	—	—	—
参加していない	—	—	—
無回答	1	6.7	—
合計	15	100.0	100.0

<感想>

- ・子どものいきいきとした表情がとても嬉しく思えた
- ・TAの創意工夫は、次のTAである学生に受け継がれると思う
- ・子ども達にとって今後につながるいい思い出作りになったと思う

サイエンス・アンバサダー任命式と閉校式

	人数	%	※%
非常に有用だった	7	46.7	53.8
概ね有用だった	6	40.0	46.2
あまり有用ではなかった	—	—	—
有用でなかった	—	—	—
参加していない	—	—	—
無回答	2	13.3	—
合計	15	100.0	100.0

<感想>

- ・楽しい時間だった
- ・子ども達が2泊3日で得た物の報告は笑顔で素晴らしかった
- ・彼女達の意識を最後に新たに決意させてくれるいい機会だった

5. 「女子中高生夏の学校2012」全体についてお聞きします。

(※は「無回答」を除いた割合)

	人数	%	※%
非常に満足した	12	80.0	80.0
少し満足した	3	20.0	20.0
少し物足りなかった	—	—	—
物足りなかった	—	—	—
無回答	—	—	—
合計	15	100.0	100.0

6. 理系への進路や科学・技術分野の職業選択について、参加して感じたことを自由にご記入下さい。

- ・今回、中3の娘と参加したが、娘が楽しそうに過ごしていたことで、まず来てよかったと思う。来年、どこの高校に進学しているか、まだわからないが、彼女の進路選択にこの3日間は影響を与えてくれると思う。そして、高校生になって、また「夏の学校」に参加したいと言うだろう。できれば何度でも参加させてやりたいと思う。また、3日間でお知り合いになれたお母さん達とも、離れているが、交流していきたいと思う。娘の将来については、まだ未知数だが、今回素敵な出会いの場を与えてくれて、ありがとうございました
- ・様々な環境、情報の遅延、地域の特性が、固執したら考え方が改善されず、今日に至り、今回の「夏の学校」へ参加できた事をきっかけの一つとして、変わっていきけるように、サイエンスアンバサダーになれたらと思えた。九州(地元では殆ど)では開催されず、「知らない」「分からない」「聞かない」とつい言われがちなので、もっと全国的に広がり、実現されることを願う。スタッフの方、関係者の方々、大変お世話になりました。ありがとうございました。私も娘の世代だったら、もう一回きちんと頑張りたいという思いで一杯になった
- ・とても充実した3日間だった。子どものために来たつもりが、自分が楽しんだ。もう一度、化学をやっていた頃の自分に戻りたくなった。私の場合、仕事が好きだったが、主人の仕事の都合で山間部に住まなければならなくなり、仕事を諦めた。田舎には研究職は無く、小さなメーカーは修士卒の女性はいないといわれ、転職も絶たれた。小さな翻訳をしたり我が子に理数科目を教えるにとどめ、かなわぬ夢と思い、研究への思いはこの20年ほどの間、自分の中で封印してある。やめたのは、何年も前なのに、今でも「6年大学行っても何にもなれないよね」と言われることも度々ある。「せめて薬学部に行って資格を取っておけば」とも。本当に女子の理系進学を阻んでいるのは、私のような存在があるからかもしれない。大学時代の同期の女子学生は5人の内、実は仕事を続けている人は一人もいない。そんなにレアケースではないはず。一時期は仕事から離れても一定のOJTを受ければ再就職できる仕組みがあれば、資格の有無にかかわらず理系に進学しようと思う女子、理系に進学させてもよいかもと思える親が増えるような気がする
- ・消去法で将来を選択するのではなく、色んな道を知った上で、積極的に将来を考える子になってほしいと思っていた。そのための手段として、この「女子中高生夏の学校」はすごく有意義だったと思う。今はまだ難しくて頭でよくわからなかったことでも、肌で感じていれば、2年後、3年後に何らかの形で必ずよみがえってくることだろう。ありがとうございました
- ・大変お世話になりました。多くの事を学べた充実した3日間だった。今回の夏の学校に参加したのは、研究職に進みたいと考えている娘の応援をしたいとは思っているが、親として就職氷河期と言われる今、子どもの未来がどのような物であるか知りたくて来た。やりたい事を楽しんでやっている皆のいきいきした様子を見て、娘の未来に明るい物を感じられた

「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」実施要項

1. 趣 旨

本セミナーは、企業において女性の活躍が一層推進されることを目的として、企業における人材活用の推進者、管理職、チームリーダーを対象に実施します。

講演によりダイバーシティの本質について理解を深め、パネルディスカッションで女性の活躍推進のため何をすべきか考えます。そして、ワークショップにより参加者一人一人が課題に向き合い解決の方向を探ります。

さらに、夜の情報交流会において参加者同士による情報交換やネットワーク作りの場を提供します。

2. 主 催

独立行政法人 国立女性教育会館（NWE C）

3. 後 援

財団法人 21世紀職業財団

4. 会 場

国立女性教育会館

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728

TEL:0493-62-6718・6724 E メールアドレス:progdiv@nwec.jp

FAX:0493-62-6720 ホームページ URL : <http://www.nwec.jp/>

5. 期 日

平成24年12月14日（金）～12月15日（土） 1泊2日（※）

（※）初日のみの参加も可能です。

6. 参 加 者

企業における人材活用の推進者、管理職及びチームリーダー

7. 定 員 80名

8. 日程

	12:30	13:00	13:20	14:30	16:40	18:15	19:00	20:30
12/14 （金）		受付	開 会	基調 講演	パ ネ ル デ ィ ス カ ッ シ ョ ン	ワ ー ク シ ョ ッ プ Ⅰ	※女性 教育情報 センター 見学	※情報 交流会

	9:00	11:10	12:20	12:30
12/15 （土）	ワ ー ク シ ョ ッ プ Ⅱ	ワ ー ク シ ョ ッ プ Ⅲ	閉 会	

※女性教育情報センター見学、情報交流会は希望者のみのプログラムです。

各プログラムの間に10分の休憩があります。

9. 内 容

第1日 12月14日(金)

(1) 開会(大会議室)

13:00～13:20

主催者あいさつ 内海 房子 国立女性教育会館理事長

(2) 基調講演「経済活性化とワーク・ライフ・バランスをともに 実現する鍵 ―ダイバーシティの本質を学ぶ」(大会議室)

13:20～14:20

講 師：山口 一男 氏 シカゴ大学 ハンナ・ホルボーン・グレイ記念特別
社会学教授

★国内外のデータや事例分析により「ダイバーシティ、特に女性の活躍推進は企業に多面的な経営効果をもたらす」ことが確認されています。ところがほとんどの企業で取り組みがなされていない状況で、山口氏はこれを野球にたとえて「“空振りの三振”ではなく“見送りの三振”」であると指摘されています。

日本社会にダイバーシティ推進が切実に求められる背景と意義、現状と課題から具体的方策をふまえて、ダイバーシティの本質と、なぜ今「女性の活躍推進」が求められるのか、いったい私たちは何をなすべきなのか、視野を広げて学びましょう。

【講師紹介】

山口 一男 氏

1971年東京大学理学部卒業後、1971年総理府に勤務。1981年シカゴ大学社会学博士取得、1983年コロンビア大学公共衛生大学院助教授、1985年カリフォルニア大学ロサンゼルス校社会学部助教授及び准教授を経て1991年よりシカゴ大学社会学部教授、現在に至る。

＜主な著書＞『ワーク・ライフ・バランス ―実証と政策提言』(日本経済新聞社)
『ダイバーシティ 生きる力を学ぶ物語』(東洋経済新報社)

(3) パネルディスカッション「企業の成長は女性が握る」(大会議室)

14:30～16:30

★企業における女性の活躍の取り組み事例などをもとに、女性の活躍を促進するための課題や、女性の活躍を創出していく上で、何が求められるかについて議論します。

パネリスト：古道 義成 氏 NEC ソフト株式会社

代表取締役執行役員社長

パネリスト：高松 和子 氏 財団法人21世紀職業財団理事
YAMAGATA INTECH 株式会社顧問

コメンター：山口 一男 氏 シカゴ大学 ハンナ・ホルボーン・グレイ記念特別
社会学教授

コーディネーター：内海 房子 国立女性教育会館理事長

【パネリスト紹介】

古道 義成 氏

1976 年静岡大学大学院工学研究科修了。1976 年日本電気ソフトウェア（現 NEC ソフト）入社。2001 年執行役員、2006 年執行役員常務兼第一ソリューション事業本部長、2008 年取締役執行役員常務を歴任し、2009 年 6 月代表取締役執行役員社長に就任、現在に至る。

女性活躍促進に熱心に取り組み、女性管理職の数を増やしている。

高松 和子 氏

1974 年東京大学卒業後ソニー株式会社入社。1987 年統括課長、1992 年統括部長、1996 年経営戦略部事業企画担当部長、2000 年ソニーデジタルネットワークアプリケーションズ株式会社を設立し、取締役として出向、2003 年同社代表取締役就任。2008 年よりソニー株式会社環境担当 V P となる。2005 年より DIVI (Diversity Initiative for Value Innovation) プロジェクトが発足し、2012 年 3 月まで代表幹事を務めた。

2012 年 3 月ソニー株式会社を定年退職。2012 年 4 月 YAMAGATA INTECH 株式会社顧問に就任、現在に至る。2010 年 7 月より 21 世紀職業財団理事を務めている。

(4) ワークショップ I (110 研修室)

16:40～18:10

★小グループに分かれて討議します。講演やパネルディスカッションを参考に、ダイバーシティ(女性活躍)推進やワーク・ライフ・バランス推進などに関する職場の課題を出し合い、その中から検討テーマを選定してじっくり向き合います。

日頃の経験や思い、アイディアをぶつけ合いながら、課題の根底に潜む真の原因が浮かぶまで深く掘り下げ検討します。

(5) 女性教育情報センターの活用 (希望者のみ参加)

18:15～18:45

★企業におけるダイバーシティの取り組みに関する新聞記事情報の入手方法、女性の活躍促進に関する資料の探し方など、女性教育情報センターの活用方法について見学とあわせてご紹介します。

(6) 情報交流会 (※希望者のみ参加) (本館食堂)

19:00～20:30

★全国からの参加者と交流し、参加者同士の情報ネットワークづくりを行います。夕食を兼ねた立食形式の情報交流会です。

第 2 日 12 月 15 日 (土)

(7) ワークショップ II (110 研修室)

9:00～11:00

★グループ単位にワークショップ I における検討結果を受けて解決策を探ります。短時間により大きな成果を生み出すことを目的として「アクションラーニング」手法

を適用します。参加者の多様な視点からの問いかけによって、考えを広げたり深めたりしながら検討成果をまとめ上げます。受容と共感、相互の変化、シナジー効果などワークショップならではの高揚感あるプロセスを体感します。

(8) ワークショップⅢ (110 研修室)

11:10～12:20

★グループ毎に検討結果を発表して全員でシェアします。

思いがけない発見や気づき等も得られることと思います。ワークショップ活動全体を通した「振り返り」も行いますので、明日の行動、意志決定へと繋がる気づき、成果などたくさんお持ち帰り下さい。

(9) 閉会・アンケート記入 (110 研修室)

12:20～12:30

10. 所要経費

(1) 受講料 3,000円

(2) 情報交流会費 3,000円 (希望者のみ)

※1日目に夕食を兼ねた情報交流会を立食形式で行います。

11. その他

期間中、職員が撮影した写真を、事業記録や広報のために使用することがあります。あらかじめご了承ください。

平成 24 年度「企業を成長に導く女性活躍推進セミナー」 参加者概況

平成24年12月15日現在

1. 性別

	合 計
女 性	46
男 性	16
合 計	62

定員 80 名
 申込者数 68 名
 キャンセル 6 名
 応募倍率 85.0 % (申込者数÷定員)
 参加者数 62 名
 参加倍率 79.0 % (参加者数÷定員)

2. 参加日別

	女 性	男 性	合 計
全日程	8	7	15
14日のみ	38	9	47
15日のみ	—	—	—
合 計	46	16	62

3. 年代

	女 性	男 性	合 計
20代	4	—	4
30代	8	2	10
40代	20	6	26
50代	9	5	14
60代以上	3	1	4
無回答	2	2	4
合 計	46	16	62

4. 会館利用歴(複数回答)

	女 性	男 性	合 計
会館主催次世代育成研修に参加	7	—	7
会館主催その他の事業に参加	10	1	11
会館を利用し、事業を実施	—	1	1
他の諸機関・団体実施の事業に参加	1	2	3
利用歴なし(全項目無回答)	32	14	46

8. 都道府県別

※政令指定都市(カッコ内)は都道府県の内数に含む

	女 性	男 性	合 計
北海道・東北	北海道	—	—
	(札幌市)	(—)	(—)
	青森県	—	—
	岩手県	—	—
	宮城県	—	—
	(仙台市)	(—)	(—)
	秋田県	—	—
	山形県	—	—
関東	福島県	—	—
	茨城県	—	1
	栃木県	2	—
	群馬県	—	—
	埼玉県	3	1
	(さいたま市)	(1)	(1)
	千葉県	—	—
	(千葉市)	(—)	(—)
	東京都	33	11
	神奈川県	2	1
甲信越	(横浜市)	(—)	(1)
	(川崎市)	(—)	(—)
	(相模原市)	(—)	(—)
	山梨県	—	—
	新潟県	—	—
	(新潟市)	(—)	(—)
	長野県	—	—
北陸・東海	富山県	—	—
	石川県	—	—
	福井県	—	—
	岐阜県	—	—
	静岡県	1	—
	(静岡市)	(1)	(1)
	(浜松市)	(—)	(—)
	愛知県	1	2
	(名古屋市)	(—)	(1)
	三重県	—	—
近畿	滋賀県	—	—
	京都府	—	—
	(京都市)	(—)	(—)
	大阪府	4	—
	(大阪市)	(3)	(3)
	(堺市)	(—)	(—)
	兵庫県	—	—
	(神戸市)	(—)	(—)
	奈良県	—	—
	和歌山県	—	—
中国・四国	鳥取県	—	—
	島根県	—	—
	岡山県	—	—
	(岡山市)	(—)	(—)
	広島県	—	—
	(広島市)	(—)	(—)
	山口県	—	—
	徳島県	—	—
	香川県	—	—
	愛媛県	—	—
九州・沖縄	高知県	—	—
	福岡県	—	—
	(北九州市)	(—)	(—)
	(福岡市)	(—)	(—)
	佐賀県	—	—
	長崎県	—	—
	熊本県	—	—
	(熊本市)	(—)	(—)
	大分県	—	—
	宮崎県	—	—
合計	鹿児島県	—	—
	沖縄県	—	—
合計	46	16	62

平成 24 年度「企業を成長に導く女性活躍推進セミナー」 アンケート集計結果

参加者 62 名
アンケート回答数 51 件 女性:32 男性:13 不明:6
アンケート回答率 82.3 %

1 本研修に関する意見・感想

1. この研修の内容は、あなたの考えを深めたり、今後の事業を行う際に役立てたりする上で、どの程度有用でしたか。

1.基調講演「経済活性化とワーク・ライフ・バランスをとともに実現する鍵ーダイバーシティの本質を学ぶ」

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	16	50.0	6	46.2	4	66.7	26	51.0	26	51.0
有用であった	15	46.9	7	53.8	2	33.3	24	47.1	24	47.1
あまり有用でなかった	1	3.1	-	-	-	-	1	2.0	1	2.0
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	32	100.0	13	100.0	6	100.0	51	100.0	51	100.0

<意見・感想等>

「非常に有用であった」理由

データの解釈について科学的分析されており納得感が増した

世界との比較、日本の歴史からの考え方、経済活性からいろいろな視点からの話が良かった

直接お話しを拝聴する機会がないので、分析された情報が大変、有意義でした。

日本的雇用慣行に大きな問題があることを改めて確信しました。小規模企業であるがために多様性に頼らざるを得ない状況をプラスに考えて企業成長につなげていきたいと思います。

拝聴してこれまで仕方がないと思っていたことがそうでないことに客観的事実をもって気付かされた

非常に大量のデータと根拠からダイバーシティの本質を説明していただき本当に勉強になりました

表や数字という形で客観的に見られたのが良かった。日本と他国の比較ではかなりショックな数字もありましたが。

「有用であった」理由

スピーチの速度と(速すぎる)難しい言葉が多く理解がしにくかった

会社を活性化していくためのポイントを教えていただき、これから実行していきたいと思っています

少し早口でわかりづらい点はありませんでしたが、論理的に明確で即使いそうです。

日本の国民性や雇用形態やしぐみがダイバーシティの推進を阻害する要因になっていることを知れたので

「あまり有用でなかった」理由

ダイバーシティの本質と日本が解決していくべき問題点を明確に分かりやすく説明して下さって参考になりましたが、実務者レベルではあまり役に立たずトップに聞かせるべき内容であった

2. パネルディスカッション「企業の成長は女性が握る」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	16	50.0	9	69.2	4	66.7	29	56.9	29	60.4
有用であった	14	43.8	4	30.8	1	16.7	19	37.3	19	39.6
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	2	6.3	-	-	1	16.7	3	5.9	-	-
合計	32	100.0	13	100.0	6	100.0	51	100.0	48	100.0

<意見・感想等>

「非常に有用であった」理由

長時間労働については、日本では技術者に対して自己管理をさせていないということは実際のところあると思います

すでに去年取り組まれてきた経験を聞かせていただき、今後推進する参考にさせてもらいたいと思います

みなさんの話は非常に実践的で参考になりました

企業の実例、課題が聞けて考えさせられた

講演を掘り下げる形で理解が深まった

身の回りを見てもやはり出産は女性にとって一番のターニングポイントだと思うので、具体的な話が聞けて良かったです。

日本の事例と米国の事例との比較などもあり、有用であった

「有用であった」理由

3つの「き」を決めつけない、期待する、鍛えるを会社で実行していきたいと思っています

Careerを築く“軸”が日本は環境に合わせがちな気がしました。それで”自分”にスライドできるための支援を国や企業が出来るようにする必要があると思いました。

NECソフト社長の話は、良く分かりました。ソニー高松さんの話はよかった

企業等のダイバーシティ(女性活用)推進の実態と米国の推進策(評価)の紹介など非常に示唆に富んだ内容だった

事例を見せていただけて大変参考になりました、と共に女性活用に関する問題点に関しては、どこも共通のものであるということが分かりました。

他社の取組例を知ることができ、参考になりました。

定量的な話だけでなく、気持ちや事例で聴きやすかった

3. ワークショップⅠ

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	8	25.0	3	23.1	3	50.0	14	27.5	14	50.0
有用であった	9	28.1	5	38.5	—	—	14	27.5	14	50.0
あまり有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	3	9.4	2	15.4	1	16.7	6	11.8		
無回答	12	37.5	3	23.1	2	33.3	17	33.3		
合計	32	100.0	13	100.0	6	100.0	51	100.0	28	100.0

<意見・感想等>

「非常に有用であった」理由

グループ内でとても話が盛り上がり、楽しい時間を過ごすことができました

全く違う職業の方々と問題・課題を共有することができ、大変勉強になりました

他社のお話をうかがう機会がないので、大変勉強になりました

普段では交流できない会社の人事の方と話げできた

「有用であった」理由

アイスブレイクとして有用な時間でした。女性の方たちの働き方なども理解ができました。

いろいろな人の話が聞けて参考になりました。また、会議開催の参考になります。

ほぼ自己紹介だけで時間切れは残念でした

もう少しアイスブレイクできる内容にしてほしかった

時間は短かったが、本音で話せて多くの気づきがあった(ワークショップ全体を通して)

多様な業種の方の違った取組みが新たな目線につながった

長い時間(10分)の自己紹介でその人の仕事観などもわかる事を発見しました

様々なバックグラウンドの方と知り合うことができてよかったです

自己紹介では自分と他者の共通したことで相手を理解しやすかった

4. ワークショップⅡ

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	3	9.4	5	38.5	—	—	8	15.7	8	57.1
有用であった	4	12.5	2	15.4	—	—	6	11.8	6	42.9
あまり有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	5	15.6	2	15.4	1	16.7	8	15.7		
無回答	20	62.5	4	30.8	5	83.3	29	56.9		
合計	32	100.0	13	100.0	6	100.0	51	100.0	14	100.0

<意見・感想等>

「非常に有用であった」理由

アクションラーニング手法を学び自分の課題の本質にも気付くことができてよかったと思います

「有用であった」理由

アクションラーニングの手法が気付きが多くよかった

グループの雰囲気もよくとても有意義な時間をすごすことができました。会社の会議でも行っていきたいと思います

ディスカッション手法を学べたことは良かった

他企業の課題が自社の課題である事を知って解決の難しさも実感した

有用ですが自分でやるのは難しいと感じました

5. ワークショップⅢ

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	3	9.4	2	15.4	—	—	5	9.8	5	38.5
有用であった	4	12.5	4	30.8	—	—	8	15.7	8	61.5
あまり有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	5	15.6	2	15.4	1	16.7	8	15.7		
無回答	20	62.5	5	38.5	5	83.3	30	58.8		
合計	32	100.0	13	100.0	6	100.0	51	100.0	13	100.0

<意見・感想等>

「非常に有用であった」理由

他チームのことをきけてよかた

「有用であった」理由

手法に慣れ本題に集中できた

6. 女性教育情報センター

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	2	6.3	1	7.7	—	—	3	5.9	3	33.3
有用であった	2	6.3	4	30.8	—	—	6	11.8	6	66.7
あまり有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	7	21.9	2	15.4	1	16.7	10	19.6		
無回答	21	65.6	6	46.2	5	83.3	32	62.7		
合計	32	100.0	13	100.0	6	100.0	51	100.0	9	100.0

<意見・感想等>

「非常に有用であった」理由

新聞の切り抜きがとってあるのにびっくりした

専門書、クリッピングサービスの充実について理解ができました

「有用であった」理由

こんな情報が眠っているなんて知りませんでした。

必要としている情報の検索として使えると思った

7. 情報交流会

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	4	12.5	3	23.1	—	—	7	13.7	7	70.0
有用であった	1	3.1	2	15.4	—	—	3	5.9	3	30.0
あまり有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	6	18.8	2	15.4	1	16.7	9	17.6		
無回答	21	65.6	6	46.2	5	83.3	32	62.7		
合計	32	100.0	13	100.0	6	100.0	51	100.0	10	100.0

<意見・感想等>

「非常に有用であった」理由

女性活躍推進担当者のネットワーキングはこころ強く励みになります

多くの企業の方と交流ができた

多くの方とフランクに話せ、新たな人脈、気づきが得られた(他のグループの人とも話せてよい)

「無回答」理由

限られた時間ではあるものの他社さんのお話をいろいろと聞かせていただくことができ、たいへん参考になった

2 この研修全体は、あなたにとって、有用でしたか。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	14	43.8	6	46.2	4	66.7	24	47.1	24	57.1
有用であった	11	34.4	5	38.5	1	16.7	17	33.3	17	40.5
あまり有用でなかった	—	—	1	7.7	—	—	1	2.0	1	2.4
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	7	21.9	1	7.7	1	16.7	9	17.6		
合計	32	100.0	13	100.0	6	100.0	51	100.0	42	100.0

<意見・感想等>

「非常に有用であった」理由

これから推進していく立場としてもややもやしていた気持ちが晴れ、前向きに取り組む気持ちになったことがとてもよかったです
分析されたデータや話が参考になった。目指す方向が理解できた。今後、社内共有する事が必要で具体化していきたい

「有用であった」理由

ダイバーシティ(多様性)を受け入れるには、制度的なものだけでなく意識の側面が非常に大きいと感じました。日本の古くからの企業体制を否定する必要はないですが、上手く変化させる必要がありますね。

まず、講演内容、パネルディスカッションともに勉強になりました。そして、参加者の方々からも刺激を受けました。何より多くの企業が興味を持っていることに勇気を頂きました

「あまり有用でなかった」理由

自社への有効な導入の参考にならなかった

3 研修に参加された目的と達成度について

目的(複数回答)

	女性	% (32名中)	男性	% (13名中)	不明	% (6名中)	合計	% (51名中)
1 ダイバーシティの本質について理解を深めること	14	43.8	7	53.8	4	66.7	25	49.0
2 女性の活躍促進のために何をすべきかを考えること	15	46.9	7	53.8	4	66.7	26	51.0
3 職場の課題と向き合い、課題解決の糸口を探ること	10	31.3	3	23.1	—	—	13	25.5
4 他の企業(参加者)との情報交換やネットワークづくり	9	28.1	4	30.8	1	16.7	14	27.5
5 その他	—	—	—	—	—	—	—	—

達成度

1. ダイバーシティの本質について理解を深めることができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	8	25.0	5	38.5	3	50.0	16	31.4	16	43.2
おおむね達成できた	14	43.8	4	30.8	2	33.3	20	39.2	20	54.1
あまり達成できなかった	1	3.1	—	—	—	—	1	2.0	1	2.7
達成できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	9	28.1	4	30.8	1	16.7	14	27.5		
合計	32	100.0	13	100.0	6	100.0	51	100.0	37	100.0

2. 女性の活躍促進のために何をすべきかを考えることができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	7	21.9	1	7.7	3	50.0	11	21.6	11	32.4
おおむね達成できた	13	40.6	8	61.5	2	33.3	23	45.1	23	67.6
あまり達成できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
達成できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	12	37.5	4	30.8	1	16.7	17	33.3		
合計	32	100.0	13	100.0	6	100.0	51	100.0	34	100.0

3. 職場の課題と向き合い、課題解決の糸口を探ることができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	3	9.4	1	7.7	1	16.7	5	9.8	5	21.7
おおむね達成できた	10	31.3	5	38.5	1	16.7	16	31.4	16	69.6
あまり達成できなかった	2	6.3	—	—	—	—	2	3.9	2	8.7
達成できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	17	53.1	7	53.8	4	66.7	28	54.9		
合計	32	100.0	13	100.0	6	100.0	51	100.0	23	100.0

4. 他の企業(参加者)との情報交換やネットワークづくりをすることができた

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	6	18.8	1	7.7	2	33.3	9	17.6	9	39.1
おおむね達成できた	7	21.9	5	38.5	1	16.7	13	25.5	13	56.5
あまり達成できなかった	1	3.1	—	—	—	—	1	2.0	1	4.3
達成できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	18	56.3	7	53.8	3	50.0	28	54.9		
合計	32	100.0	13	100.0	6	100.0	51	100.0	23	100.0

5. その他

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分達成できた	—	—	1	7.7	—	—	1	2.0	1	100.0
おおむね達成できた	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
あまり達成できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
達成できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	32	100.0	12	92.3	6	100.0	50	98.0		
合計	32	100.0	13	100.0	6	100.0	51	100.0	1	100.0

4. このセミナー全体の満足度は、いかがでしたか。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に満足した	13	40.6	2	15.4	4	66.7	19	37.3	19	46.3
満足した	12	37.5	8	61.5	1	16.7	21	41.2	21	51.2
少し物足りなかった	—	—	1	7.7	—	—	1	2.0	1	2.4
物足りなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	7	21.9	2	15.4	1	16.7	10	19.6		
合計	32	100.0	13	100.0	6	100.0	51	100.0	41	100.0

<意見・感想等>

「非常に満足した」理由

多くの人と知り合う、また意見をもらう機会になった

日頃お目にかかることのできない方々のお話をうかがえたこと、企業の取り組みを具体的にうかがうことができたのはとても貴重でした

「満足した」理由

基調講演が難しかった

全体研修からグループワークまで、つながりのあるプラン作りがすごく勉強になりました

「少し物足りなかった」理由

自社以外でも通用するキャリア形成方法、キャリア意識の持たせ方について議論が欲しかった

5. 今後このセミナーで取り上げて欲しいテーマ・内容・方法等について

・女性管理職を増やすためには ・女性技術者(エンジニア)を増やすためには

ダイバーシティを人口問題、地域コミュニティ介護もの問題も包括的に取り上げていただければと思います。

①先進的な他社事例(制度(その会社独自の特色あるもの)、制度の実際の運用状態) ②課題に対するグループ討議の技法 ③女性リーダーを育てるための講習会(会社に対するもの)→会社に必要性を理解させたり、育て方のヒントになる事例の紹介

企業における育児支援

今回は、会社の上司の方が中心だったと思います。会社に入った新入社員などの意見も聴けるとまた違った考え方が出来るのかな？と思いました

今後ではないのですが、同じテーマで共通課題を持っている人達が集まっている今回の会合なので、是非、今回の参加者を任意でメーリングリストなどでつなげていただくと、一過性で終わらず色々つながっていくのではないかと、思います。

女性に対するマネジメントガイドラインづくり

女性の意識の向上方法について

女性活躍促進事例、ワークライフバランス

女性活用と企業の利益

6. 本セミナーを通して、得るものがありましたか。

“中間管理職に対してのDIBIの評価を入れる”評価システムの参考になると思った

アクションラーニングのやり方は、職場でも研修のGWを行う際に使ってみようと思った

課題がはっきりした

会社に戻って自分自身にできること、たくさんの方とふれあうことにより、 仕事をやりやすいように変えることができると思うので、自分で出来る事からやっていこうと思います

今まで探していたどのセミナーよりも最も得るものが大きかった 今後も下記3点は継続してやっていただければ他社にとっては大変参考になると思われるし、実際得たい情報と思われる ①先進的な他社事例の発表 ②他社との交換会 ③課題解決手法の学びの場(グループ討議の手法、取りまとめの仕方等)

潜在能力(女性の)を開発することでまだまだ日本に伸びしろがあることが分かり安心した

他社、スタッフの皆様との交流 アクションラーニング

他社での取組事例を生言葉で聞くことができ、自社内での導入を検討するにあたり、非常に参考になりました。

他社の方との情報交換をすることで当社の女性活用が進んでいないことを改めて認識させられました

日本文化がネックだと感じるが、短期には解決は難しい

自社と他企業の取り組みや考え方の違いを知り、勉強になった

7. 研修の開催期間について

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
この期間(1泊2日)でよい	12	37.5	7	53.8	1	16.7	20	39.2	20	48.8
この期間では参加しにくい	5	15.6	2	15.4	1	16.7	8	15.7	8	19.5
無回答	15	46.9	4	30.8	4	66.7	23	45.1		
合計	32	100.0	13	100.0	6	100.0	51	100.0	28	100.0

＜どのような期間が適切か＞

8月

12月は企業は忙しい、また3連休の多い月はつらい

7月とか1月頃はどうか

育児が終われば一泊できると思います

四半期末以外(2月、5月、8月、11月等)で宿泊形式ではないほうが参加しやすいかと思います。

年末は会社で行事等があり避けていただけると幸いです

年末は苦しいです。9月ごろがいいです。

平日開催のほうが良い

8. その他、国立女性教育会館の事業や施設等について

これからもどんどん企業向けセミナーを行ってください。愛知県とかでもやってもらえるとうれしいです。

・もう少し都心に近いと利用しやすいと思いました(とはいえ場所を動かすのは無理とは思いますが) ・県や市、他の財団等とは違った国の視点だからこそこできることがあると思いますので、そのような観点での情報提供を求めていると思っています

会場設置について、机等はパネルディスカッションの形式で始めから開始しても良いのではないのでしょうか

到着するまでの時間はかかりましたが、施設の状態は素晴らしいと感じました。学生サークルなどの利用も推進すれば、知名度も高まるのではないのでしょうか。

立派な施設なのに有効活用できていないのがもったいないです。

II 参加者自身について

◆性別

	人数	%
女性	32	62.7
男性	13	25.5
不明	6	11.8
合計	51	100.0

◆年代

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%
20代	5	15.6	—	—	—	—	5	9.8
30代	6	18.8	2	15.4	—	—	8	15.7
40代	12	37.5	5	38.5	—	—	17	33.3
50代	7	21.9	4	30.8	—	—	11	21.6
60代	2	6.3	1	7.7	—	—	3	5.9
70代以上	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	—	—	1	7.7	6	100.0	7	13.7
合計	32	100.0	13	100.0	6	100.0	51	100.0

◆研修開催の情報を何で知りましたか。(複数回答)

	女性 (32名中)	男性 (13名中)	不明 (6名中)	合計 (51名中)
国立女性教育会館から				
ホームページ・メールマガジン	4	12.5	1	7.7
ダイレクトメール	7	21.9	1	7.7
チラシ・ポスター	2	6.3	1	7.7
又エックニュース	—	—	—	—
その他	15	46.9	6	46.2

＜その他内容＞

21世紀職業財団からのお知らせ

8月の男女共同参画ワークショップでのご案内

ネットで“女性活躍”と検索してヒットした

ワークライフバランス研究会

会社の上司より

会社内での紹介

市村様より

他の研修に参加時に案内

知人から

内海理事長から

◆今までの「会館」とのつながりであてはまるものをお教えてください。(複数回答)

	女性 (32名中)	男性 (13名中)	不明 (6名中)	合計 (51名中)
主催事業に参加した	3	9.4	2	15.4
施設を利用した	—	—	—	—
文献複写サービスを受けた	—	—	—	—
ない、今回が初めての利用	13	40.6	7	53.8
主催事業の講師・報告者等で参加した	4	12.5	—	—
会館で情報提供を受けた	2	6.3	1	7.7
館外で職員の話聞いた	1	3.1	—	—
その他	3	9.4	—	—

＜主催事業に参加した回数＞

1回:6人 2回:2人

第2回「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」実施要項

1. 趣 旨

本セミナーは、埼玉県経営者協会が実施するウーマノミクス推進委員会と連携し、企業における女性の活躍推進を図り、男女共同参画社会の形成に資するため、主として埼玉県経営者協会加盟企業の経営者、役員、管理職、現場で活躍する女性リーダーなどを対象に実施します。

2. 主 催 独立行政法人 国立女性教育会館（NWE C）

3. 共 催 社団法人 埼玉県経営者協会ウーマノミクス推進委員会

4. 会 場 大宮ソニックシティビル4階 市民ホール「403・404」 (さいたま市大宮区桜木町1-7-5) <http://www.sonic-city.or.jp/>

5. 期 日 平成25年3月8日（金） 13:30～16:30

6. 参 加 者 企業における人材活用の推進者、管理職及びチームリーダー

7. 定 員 100名

8. 参 加 費 無 料

9. プログラム

(1) 基調講演 『女性の活躍が期待される新たな企業の在り方

～国立女性教育会館の役割』

13:40～14:40

講 師 国立女性教育会館理事長 内海 房子

企業における女性の活躍促進はなぜ必要なのでしょうか。現在の日本は、少子高齢化や人口減少、経済の長期低迷と閉塞感の高まりなどの問題に直面しています。本講演では、これらを解決する「鍵」である『女性が活躍できる環境づくり』について、NWE C がこれまで積み重ねてきた調査研究等の成果を踏まえてお話しします。

(2) パネルディスカッション 『101位の衝撃～日本における女性の活躍推進の

現状と課題－国際比較を交えて』

14:50～16:30

パネリスト	三州製菓株式会社 取締役社長	斉之平伸一氏
パネリスト	株式会社NTTドコモ執行役員	井手 明子氏
パネリスト	国立女性教育会館研究国際室長	中野 洋恵
コーディネーター	アパショナータ代表	パク・スックチャ氏

世界経済フォーラムが発表するジェンダー・ギャップ指数において、日本は135カ国中101位であり、主要先進国中最下位となっています（平成24年10月）。

日本における女性の活躍促進が進まない原因について、統計データを用いた国際比較を用いて分析します。また、企業経営の立場からの課題提起と具体的な取り組みを紹介し、対応策について皆様とご一緒に考えていきます。

第2回「企業を成長に導く女性活躍推進セミナー」 アンケート集計結果

参加者	55 名			
アンケート回答数	48 件	女性: 27	男性: 13	不明: 8
アンケート回答率	87.3 %			

I-1. 本日のセミナーは、あなたにとって有用でしたか。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	20	74.1	5	38.5	2	25.0	27	56.2	27	56.2
有用であった	7	25.9	8	61.5	6	75.0	21	43.8	21	43.8
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	27	100.0	13	100.0	8	100.0	48	100.0	48	100.0

<意見・感想等>

「非常に有用であった」理由

- ・ データと実体験を示していただいた 自分の理解、他の説得に有効
- ・ データを見て驚きました。自分のまわりにはふつうに女性が活躍しています。女性はまだまだなのだと改めて分かった。今度の後輩のために何かしなくてはいいなと思いました
- ・ とても共感できる所が多々あり、具体的な事例を聞いた点
- ・ 会社内での意識改革に上手くデータを活用しながら展開していきたいと思います
- ・ 経営トップの宣言と女性の意識改革 なるほど！！
- ・ 国際比較のデータにより日本の置かれている現状を危機感をもって知ることができた。各パネリストの事例、考え方も大変参考になった。自分自身のキャリアについても考えられた
- ・ 国際比較を知ることができた
- ・ 三州製菓さんの取組み内容はとても参考になりました
- ・ 私自身もまだ保守的な考えがあり、家事・育児をしながら働くことに罪悪感のようなものが少しあったが、井手さんたちの話を聞き、もっと前に進もうという前向きな気持ちになりました
- ・ 自分の会社環境がまだまだ女性の活躍の場が少ないのだということを事例を通して痛感した
- ・ 初めてこのテーマのセミナーに参加しましたが情報、考え方ともにとても参考になりました
- ・ 女性の活躍が職場全体のプラスになることがよくわかった
- ・ 女性の管理職がすごく低いのがあらためてわかった
- ・ 世界の比較が大変勉強になりました
- ・ 当社の中だけで考えていると見方が狭まるので勇気づけられる
- ・ 当社は女性の幹部社員が少なく女性の活用が求められます。他社や世界を知ることが、まず初めの一歩だと思いました
- ・ 国際比較したデータをたくさんみせていただけたので、また、2つの企業の方のお話をうかがえたので。皆様のご経験からくる想いも興味深かったです
- ・ アジアの世界の中で今の現状を考えられたことは大きいです

「有用であった」理由

- ・ アジアの企業のダイバーシティの状況を初めて知りました
- ・ いろいろな企業の取組を知ることができたため
- ・ データ分析の国際比較を見て日本における女性活躍の現状と課題についてよく理解できました。後は具体的に何をしていくかなくてはならないかを検討、実行していきます
- ・ 仕事、人生への意識が上がりました
- ・ 実体験に基づく話は大変参考になりました
- ・ 女性と男性の状況や意識についてのデータは大変参考になり考える契機となった。外国に比べると日本の状況はまだまだだと感じた。パネルディスカッションはとても面白かった
- ・ 人材育成に必要な3つの「き」とリーダーに必要な3つの「C」が参考になった
- ・ 他社における取組を伺うことができ、参考とさせていただきたいと思います
- ・ 他社の取組について知ることができた数値での日本の現状を見ることができ非常に勉強になりました
- ・ 日本の企業の現状をみることによって女性の企業内での立場を知る機会ができてよかった
- ・ 民間企業の取組を聞くことができたこと
- ・ 女性の管理職を多くしようと考えていますが、会社にとってプラスになる昇格を考えてしまうのでつついきめつけてしまう点を反省しないとダメですね
- ・ グローバル的なところからみた日本の観点がわかった
- ・ 自社の状況や一般的な動向から見ると、認識していないことが多く、考え方を改めようと思った
- ・ 活躍されている女性も多くいい刺激になりました。国際比較はとても良かったです。ありがとうございました。
- ・ 比較データを頂け、考えるペースとできる

I-2. このセミナー全体の満足度は、いかがでしたか。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に満足した	17	63.0	5	38.5	3	37.5	25	52.1	25	52.1
満足した	9	33.3	7	53.8	5	62.5	21	43.7	21	43.7
少し物足りなかった	1	3.7	1	7.7	—	—	2	4.2	2	4.2
物足りなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	27	100.0	13	100.0	8	100.0	48	100.0	48	100.0

<意見・感想等>

「非常に満足した」理由

- ・ 講師の選定が素晴らしいと思います
- ・ データがおもしろかった
- ・ なぜ女性の労働力活用が求められているのか、数値に基づく説明が非常によかった
- ・ 事例を聞く機会は多いが、データをしっかり示す場は少ない。その意味で有意義でした
- ・ 社内で3/1から女性活躍プロジェクトの事務局長になり、どのように進んでいったらよいか迷っていたが基本姿勢のようなものが見えました
- ・ 女性の素直な意見を聞けた
- ・ 女性登用の道を切り開いてこられた先輩方のしなやかで柔軟な考え方が参考になりました
- ・ 日本国内の問題意識もあるが、世界的にアジア的に見てもダイバーシティが進まないと乗り遅れてしまう問題を感じた
- ・ 会社の取組みの参考になる(他社さんの活動等)
- ・ それぞれのご経験など説得力がありました
- ・ 日本の根底にある(男女両方に存在する)役割意識は未だに根強いなということが、実際の数字からもよくわかった。継続的に取り組まなくてはならないと再認識
- ・ 内海さんや井手さんなどパネリストの方々のお話が大変面白く、刺激になりました。言葉一つ一つが説得力があり、視野が広がった感じがしました。大変、勉強になりました

「満足した」理由

- ・ 会社の経営状態が厳しい時にモチベーションを維持できるような施策や取組みがあるのか聞ければありがたかった
- ・ 会社の役員(男性)にも聞いてほしかった
- ・ 国際と比べた%がどのくらいなのか等がわかった
- ・ できましたらバク氏、井手氏の事例をもっとお聞きしたかった
- ・ 三州製菓さんの取組は興味深かった。本日の講師の方、パネリストの方は皆素敵な方で、自分も近づけるよう努力したいと感じた
- ・ 仕事の進め方について参考となる情報があり社内でうまく活用していきたい
- ・ 今回のセミナーへは、もっと男性の参加が必要ですね
- ・ 各社(優秀な企業)の状況が良く解った
- ・ 最後の15分くらいのディスカッションは非常にワクワクするものでした。もっと伺いたかった
- ・ とても勉強になりました。事業仕訳で国立女性教育会館は話題になりましたが、少しその話にもふれていただきたかった。データ類は大変参考になりました。

「少し物足りなかった」理由

- ・ パネルディスカッションにもう少し時間をかけて欲しかった。

基調講演:対象者を考えるとNWECそのもののご紹介よりは内海理事長ご自身のご経験をもっと話していただいたほうが良かったと思います。NWECの中でどのような波をおこせたのか、何をもっとやったほうがよかったと考えておられるのかをもう少しお聞きしたかったと思います。 パネルディスカッション:テーマを絞ったほうがディスカッションが深まったのではないかと(例えばWLB)男性もパネラーに入れてなぜ女性が家事をすることになるのか、というような掘り下げをしてはどうか。

I-3. 今後このセミナーで取り上げて欲しいテーマ・内容・方法等について

- ・ どんどん女性が活躍できる職場づくり
- ・ 広い視野からの女性活躍推進の必要性を聞くことができ、すごく興味深く、面白かったです。個人としてもよい刺激となりました。
- ・ 参加者からパネラーへの質問の時間があると良いと思いました。又参加者との交流の時間があるとなお良いと感じました
- ・ 女性のキャリア開発についてのセミナー
- ・ 女性活躍から企業の活性化、成長へのテーマ 続けてほしい
- ・ 色々な企業におけるダイバーシティ(今は特に女性活用)の取組事例の紹介
- ・ 男性人事担当者、経営者に向けた「女性活躍促進セミナー」の開催
- ・ 男性側の視点からの女性活性化
- ・ 同じようなものを社内の女性にうけさせたい
- ・ 本日の講座、全体的にとってもおもしろかったです
- ・ 労働時間においても一度考え直す必要がある(女性が働きやすい条件とは)
- ・ 初めてダイバーシティを発足する会社に対するHOW TO
- ・ 図14 なぜ役割分担意識が反転したのでしょうか？男性(若手)は、妻には働いて欲しいと望んでいると聞きます。これは若手の女性の意識でしょうか？そうなら、そのお母さん世代が子供に苦労させたくないという思いがあるということでしょうか
- ・ ありがとうございました
- ・ 大変勉強になりました。誠にありがとうございます

Ⅱ あなた自身についてお聞かせ下さい

◆性別

	人数	%
女 性	27	56.2
男 性	13	27.1
不 明	8	16.7
合 計	48	100.0

◆年代

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%
20代	3	11.1	1	7.7	—	—	4	8.3
30代	4	14.8	1	7.7	—	—	5	10.5
40代	10	37.1	5	38.4	—	—	15	31.3
50代	6	22.2	4	30.8	—	—	10	20.8
60代	3	11.1	1	7.7	—	—	4	8.3
無回答	1	3.7	1	7.7	8	100.0	10	20.8
合計	27	100.0	13	100.0	8	100.0	48	100.0

◆今までの「会館」とのつながりであてはまるものをお教えてください。(複数回答)

	女性	% (27名中)	男性	% (13名中)	不明	% (8名中)	合計	% (48名中)
主催事業に参加した	5	18.5	1	7.7	—	—	6	12.5
主催事業の講師・報告者等で参加した	2	7.4	—	—	—	—	2	4.2
施設を利用した	2	7.4	2	15.4	1	12.5	5	10.4
会館で情報提供を受けた	1	3.7	—	—	—	—	1	2.1
文献複写サービスを受けた	1	3.7	—	—	—	—	1	2.1
館外で職員の話を聞いた	4	14.8	—	—	—	—	4	8.3
ない、今回が初めての利用	16	59.3	9	69.2	—	—	25	52.1
その他	2	7.4	1	7.7	—	—	3	6.3

<主催事業に参加した回数>

1回:4人 多数:1人

女性教育情報センターの運営

収集資料統計(平成25年3月末現在)

項目		和		洋		計	
		年度受入	累計	年度受入	累計	年度受入	累計
図書	図書	1,770	76,779	588	22,788	2,358	99,567
	地方行政資料	339	25,817	0	8	339	25,825
	計(冊数)	2,109	102,596	588	22,796	2,697	125,392
逐次 刊行物	雑誌	19 中止 3	3,225	9 中止 4	740 (62か国)	28	3,965
	新聞	0	74	0	1	0	75
その他	新聞切り抜き	19,478	342,589	-	-	19,478	342,589
	AV資料※	8種	195種	0	4種	8種	199種
	研修貸出用資料 ※	1	16	0	0	0	16

※毎年見直しを実施

利用状況統計：平成23年度・平成24年度（平成25年3月31日現在）

	平成23年度	平成24年度
資料等利用者数	8,185	7,379
貸出資料総数(冊)	11,886	9,550
図書資料	10,094	8,077
地方行政資料	53	21
雑誌類	997	661
新聞記事	246	84
研修貸出(冊数)	165	387
その他	331	320
レファレンスサービス件数	898	611
内 情報検索利用件数	181	200
文献複写サービス(件数)	928	850
情報研修プログラム(件数)	7	5
情報研修プログラム(人数)	71	80
相互貸借貸出件数	245	268
内 パッケージ貸出件数	55	65

展示実施状況一覧

	期間	テーマ・目的	冊数	会場
テーマ展示	4～6月	災害・原発事故・復興と女性	62	本館1階 ロビー
	7～9月	ダイバーシティ社会を目指して	72	
	10～12月	日本で暮らす外国人女性	80	
	H24年 1～3月	自殺、孤独死をなくそう	66	

女性情報ポータル整備充実

＜文献情報データベース データ件数＞ （平成 25 年 3 月末現在）

	24 年度増加件数	累計
図書	2,250	81,891
雑誌	28	3,965
地方行政資料	171	21,314
和雑誌記事	2,008	64,726
新聞記事インデックス	19,478	342,589
AV 資料	8	191
計	23,943	514,676

＜その他のデータベースのデータ件数＞ （平成 24 年 3 月末現在）

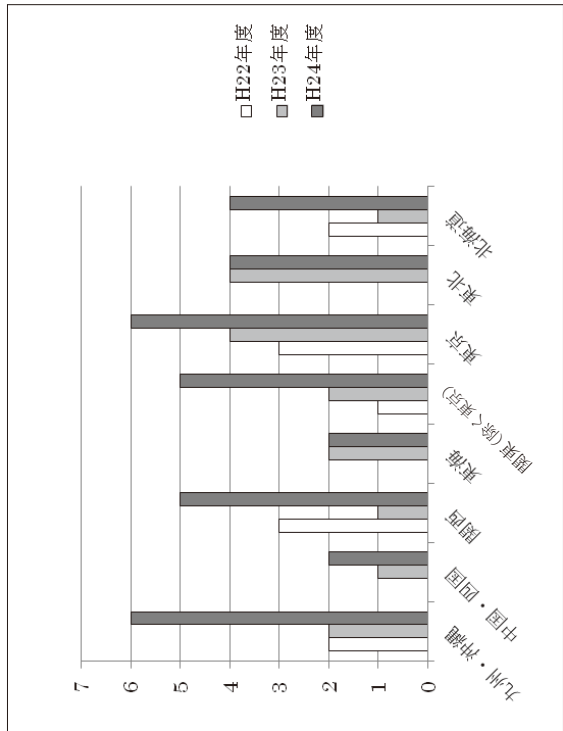
	24 年度増加件数	累計
女性関連施設 DB	3,730	29,078
男女共同参画人材 DB	34	778
女性情報レファレンス事例集	16	248
女性と男性に関する統計 DB	※	551
国立大学における男女共同参画状況 DB*1	-	86
女性学・ジェンダー論関連科目 DB*2	-	28,168
計	3,780	58,909

※「女性と男性に関する統計 DB」（551 件（表））は、既存の表にデータを追加しているため、件数は変化しない。

*1「国立大学における男女共同参画状況 DB」は 2010 年調査結果をデータベース化したもの。

*2「女性学・ジェンダー論関連科目 DB」は 2000～2008 年調査結果をデータベース化したもの。

地域別利用機関数推移（平成 25 年 3 月 31 日現在）



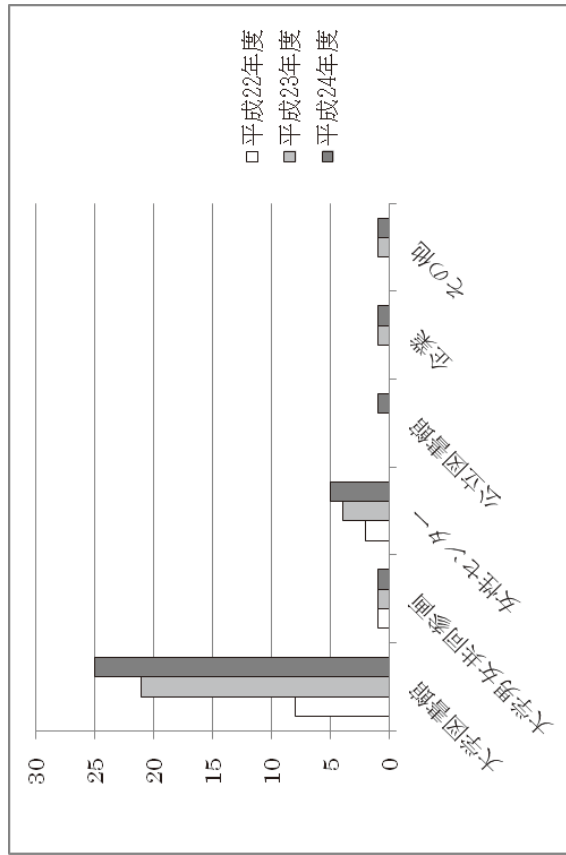
図書パッケージ貸出サービス

利用機関数・貸出件数・貸出冊数推移（平成 25 年 3 月 31 日現在）

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	合計
利用機関数（累計）	11	28	34	34
貸出件数	20	55	63	138
貸出冊数	3,850	8,438	6,506	18,794

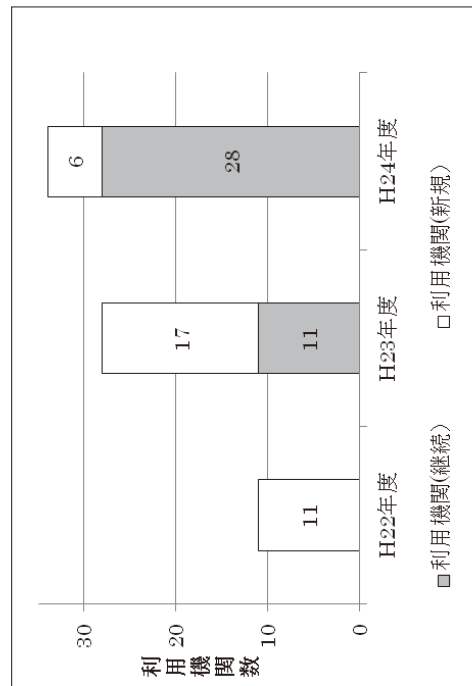
* 平成 23 年度から貸出冊数は原則 100 冊にした

館種別利用機関数推移（平成 25 年 3 月 31 日現在）



新規利用機関数及び、継続利用機関数推移（平成 25 年 3 月 31 日現在）

パッケージ貸出 利用機関



女性アーカイブ機能の充実

資料の収集・デジタル化

コレクション名	収集点数	目録データ入力件数
全国婦人新聞社取材写真コレクション	697	697
志熊敦子資料	193	611
磯部幸江資料	39	106
婦人学級関係資料	246	248
九重年支子資料	81	85
合 計	1,256 点	1,747 件

(平成24年度合計)

【1,068】

【1,899】

展示

- (1) 所蔵展示では、生誕120年を迎える市川房枝(1893-1981)に関する記事を「全国婦人新聞社取材写真コレクション」から展示し、同時に「稲取婦人学級資料」、「塩ハマ子・春秋会コレクション」等の所蔵資料を紹介した。
- (2) 企画展示は、さまざまな分野においてチャレンジした女性たちのあゆみから日本の男女共同参画社会を考えるシリーズ企画の第5回目として開催した。日本の女性建築家のパイオニア6氏（土浦信子・吉田文子・浜口ミホ・林雅子・中原暢子・飯島静江）、現代に活躍する3氏（長谷川逸子・後藤真理子・阪東美智子）を取りあげ、建築模型や雑誌記事、図面など、様々な資料の展示を通して紹介した。

【平成24年度 企画展示3,100件、所蔵展示8,176件：合計11,276件】 累計：10,617+11,276=21,893件

平成 24 年度「女性情報アーキビスト養成研修（入門）＋（実技コース）」実施要項

女性の歴史を今に生かし、未来につないでいくためには、女性に関わる原資料（女性アーカイブ）の適切な保存と活用が必要です。独立行政法人国立女性教育会館では、女性アーカイブの保存・提供に携わる実務者の方を対象に、平成 21・22 年度に「女性情報アーキビスト入門講座」、それを引き継いで平成 23 年度に「女性情報アーキビスト養成研修（入門）」を実施しました。今年度は、（入門）において女性アーカイブの基礎的な保存技術や整理方法をご紹介しますとともに、実習を通してより実践的に学んでいただく（実技コース）を新たに設けました。

アーカイブの保存や整理について新しい情報をお求めの方、これから業務にとりくむ方、関心をお持ちの方のご参加をお待ちしております。

1. 期 日 平成 24 年 12 月 5 日（水）～12 月 7 日（金）
 ①入 門：12 月 5 日（水）～12 月 6 日（木） 1泊2日
 ②実技コース：12 月 6 日（木）～12 月 7 日（金） 1泊2日
2. 主 催 独立行政法人 国立女性教育会館
3. 会 場 国立女性教育会館
 〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728 番地（東武東上線武蔵嵐山駅下車徒歩 12 分）
 URL: <http://www.nwec.jp/>
4. 募集人員 女性史関係者、女性関連施設職員、図書館の実務担当者など(機関・団体の図書室・図書館に所属している方を優先します)
 ①入門：30名
 ②実技コース：10名 なお、次のa)、b)いずれかにあてはまる方
 a)①（平成 24 年度（入門））との同時受講が可能であること。
 b)平成 21/22 年度「女性情報アーキビスト入門講座」または
 平成 23 年度「女性情報アーキビスト養成研修（入門）」を受講済であること。
 応募者多数の場合は、a)の方を優先します。

*実技コース参加の方には、事前課題（デジタル化する資料の目録データを別途送付するExcelファイルに入力）の提出と、その資料の当日持参をお願いします。受講決定後、詳細をお知らせします。

5. 日程・内容 12月5日（水） ＜入門 第1日＞

12:30～13:00	受付	
13:00～13:10	開会 挨拶	国立女性教育会館理事長 内海房子
13:10～13:15	オリエンテーション	
13:15～14:30	女性アーカイブ概論 女性に関わる原資料および組織の役割とその可能性について学びます。	東京大学史料編纂所教授 久留島典子

14:45～15:30	写真の保存の実際 写真資料の保存について、基礎知識と具体的な方法を学びます x	東京国立博物館保存修復課 主任研究員 荒木臣紀
15:45～17:00	アーカイブの活用 I 「3 がつ 11 にちをわすれないためにセンター」の事例をもとに、市民参加型のアーカイブの構築・運営について学びます。	せんだいメディアテーク企 画・活動支援室長 甲斐賢治
19:00～20:30	情報交換会 （希望者のみ） 参加者相互の情報交換やネットワークづくりの場を提供します。	

12月6日（木）

<入門 第2日>

9:00～10:15	アーカイブと著作権 アーカイブに関わりの深い情報公開に関連する部分を中心に学び、著作権に対する理解を深めます。	横浜国立大学教授 川瀬真
10:30～11:15	アーカイブの活用 II 国立女性教育会館女性アーカイブセンターの概要や活用事例（復興支援女性アーカイブ（仮））を紹介します。	国立女性教育会館情報課長 市村櫻子
11:15～11:20	閉会	
11:20～12:00	女性教育情報センター、女性アーカイブセンター見学 （希望者のみ）	

<実技コース 第1日>

女性デジタルアーカイブシステムの構築事例を学び、ブックスキャナーを使って持参した資料のデジタル化を実習します。ここで作成したデータはNVEC 女性デジタルアーカイブシステムに格納し、今回の研修成果をインターネット上で閲覧できます。

13:45～14:00	受付	
14:00～14:15	開会 オリエンテーション	
14:15～14:45	アーカイブの実践 デジタルアーカイブ構築の実践事例を紹介します。	エセナおおた 牟田静香
14:45～15:00	デジタルアーカイブシステムについて デジタルアーカイブシステムの事例を紹介し、質問・疑問にお答えします。	インフォコム（株） 栗原浩
15:15～16:30	資料のデジタル化実習 ブックスキャナの実演を経て、デジタルデータの作成方法を実習します。	（株）極東書店 雨谷好倫，石原政学

12月7日（金）

<実技コース 第2日>

紙資料の保存に必要な知識と技術を実習を通して学びます。

9:00～12:00	紙資料保存の実践 実技を通して本の構造を学び、簡単な製本や資料の保存方法を学びます。	（株）資料保存器材 木部徹，伊藤美樹
12:00～13:00	昼休み	

13:00～15:00	午前の実習の続きを行います。	(株) 資料保存器材 木部徹, 伊藤美樹
15:00～15:05	閉 会	

6. 所要経費

- (1) 参 加 費 ①入門：無料、②実技コース：実習用材料費等実費（5,000 円程度）
(2) 宿 泊 費 1 泊 1,000 円（前・後泊とも同額）
(3) 食 費 1 食あたり 800 円程度（カフェテリア方式）
(4) 情報交換会費 500 円

7. 申込み手続

- (1) 方 法 次の①～③いずれかにてお申込みください：

① ホームページから申込書をダウンロードしてご記入のうえ、FAX または電子メールのファイル添付にてお送りください。電子メールでお申込みの場合は、件名を「女性情報アーキビスト養成研修申込」としてください。

ホームページのアドレスは次のとおりです：

<http://www.nwec.jp/jp/archive/archivist2012.html>

② チラシ裏面の申込書を FAX でお送りください。

③ 次の必要事項を FAX または電子メールでお送りください。電子メールでお申込みの場合は、件名を「女性情報アーキビスト養成研修申込」としてください。

- 1) 氏名(フリガナ) 2) 住所(郵便番号含む) 3) TEL 4) FAX
5) 電子メールアドレス 6) 性別・年齢 7) 所属機関・団体名
8) 参加コースおよび参加日

入門のみ / 実技コースのみ / 両方とも

入門の参加日は 全日 / 5 日のみ / 6 日のみ

【実技コースは全日参加していただきます。一部のみの参加はできませんのでご了承ください】

9) 平成 21～23 年度に開催した講座・研修の受講歴

10) 宿泊および食事の要・不要

入門：宿泊、5 日昼食 / 5 日夕食 / 5 日情報交換会 / 6 日朝食

前泊(4 日)希望の場合は 4 日夕食 / 5 日朝食

後泊(6 日)希望の場合は 6 日夕食 / 7 日朝食

実技コース：宿泊、6 日昼食 / 6 日夕食 / 7 日朝食

後泊(7 日)希望の場合は 7 日夕食 / 8 日朝食

実技コースのみ参加で前泊(5 日)希望の場合は 4 日夕食 / 5 日朝食

11) ご自身またはご所属の機関・団体で保管している女性アーカイブ資料について内容や数量等、概要を簡単にご紹介ください。

12) この研修で特に学びたいこと

お申込みの FAX/電子メールに、受付完了の旨返信を差し上げます。3 日以上経っても返信がない場合は、届いていない可能性がありますので、お問い合わせください。

(2) 期 限 平成 24 年 11 月 12 日 (月)

定員を著しく超えた場合は、期限前に締め切ることもあります。

※記載された個人情報については、国立女性教育会館の事業の企画・実施・連絡のみに使用いたします。今後、国立女性教育会館女性アーカイブセンターの事業実施のご案内を差し上げる場合があります。ご不要な場合はその旨お書き添えください。

※氏名、住所の都道府県名、所属機関・団体名は参加者名簿に記載し、参加者に配布いたします。

8. 申込み・問い合わせ先

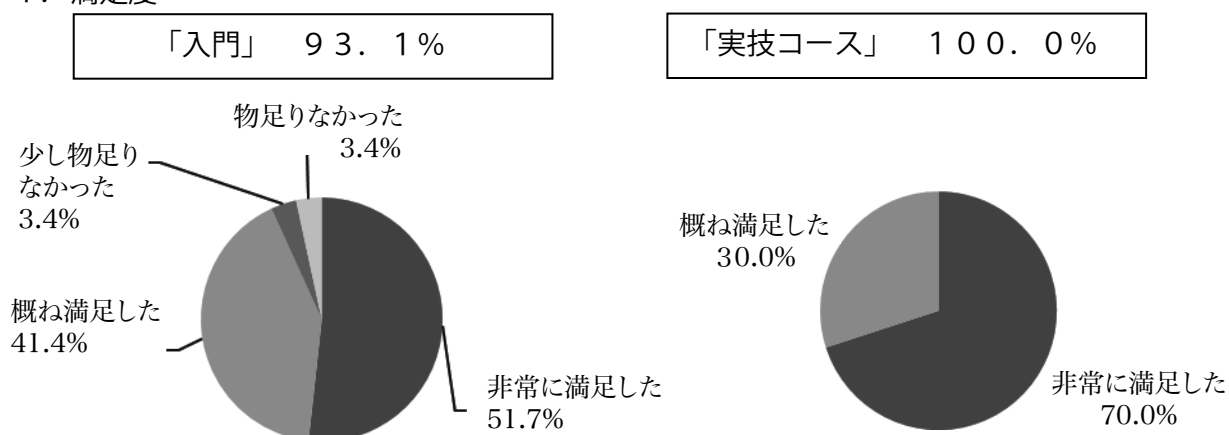
国立女性教育会館情報課 桂典子・赤嶺良子

TEL: 0493-62-6727 FAX: 0493-62-6721 電子メール: infodiv@nwec.jp

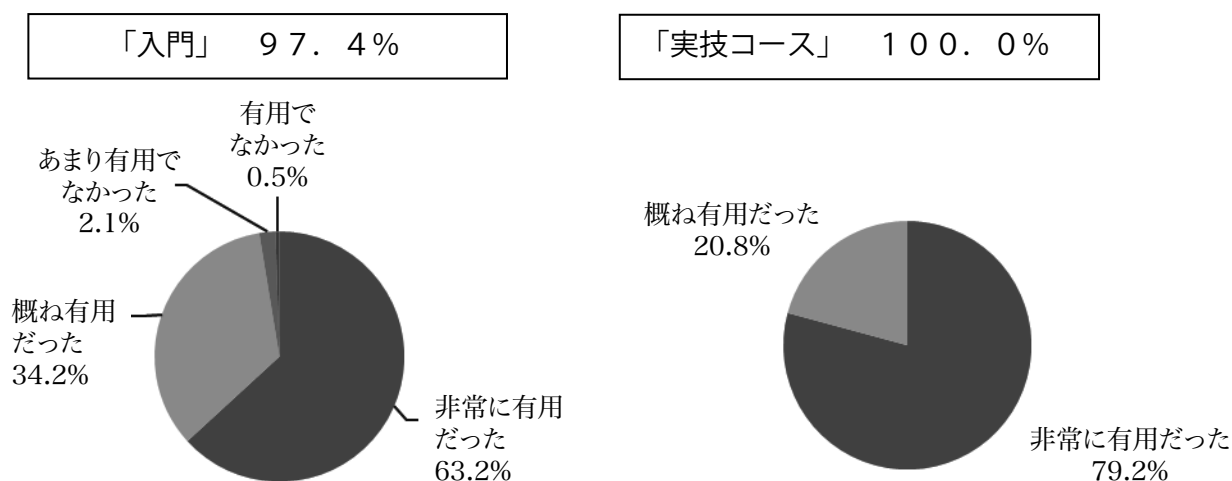
平成24年度女性情報アーキビスト養成研修（入門）＋（実技コース）アンケート集計結果

参加者・回答者数 1)「入門」 32名（女性30名、男性2名）
 アンケート回収率 100%
 2)「実技コース」 12名（女性12名）
 アンケート回収率 100%

1. 満足度



2. 有用度



3. 意見・感想等（自由記述欄より抜粋）

「入門」

女性アーカイブ概論	アーカイブスとは何かということ、又、女性センターとしてのアーカイブスについて学ぶことが出来た。今後の課題としてしっかり取り組みたいと思った。
写真の保存の実際	写真の保存は大変奥が深く、その技術も短時間で学べるものではないことを実感しました。
アーカイブに取り組む～市民参加型アーカイブの構築と運営	映像を地域の方々とつくり、集め、保存していく、その仕組みを教えていただき、参考になりました。

アーカイブと著作権	身近の例をあげての講演とても効果的でした。著作権については仕事に直接かわるので、何度も勉強していきたいと改めて感じました。
女性アーカイブの連携をめざして	意欲が感じられるプレゼンでした。全国からの参加により広がるのがアーカイブの強化につながると思います。
全体の感想	いま現在はどこにも所属しておりませんが、これから図書館で仕事をするにあたっての心の持ち方、資料へのあたり方、活用方法について考える良いきっかけとなり、学んだ事を積極的に活かしていきたいと強く感じました。
国立女性教育会館女性アーカイブセンターに期待すること	各地の女性センターのみならず、大学図書館、公共図書館としっかりリンクすることを望みます。
	活動が全国に広がるよう期待します。この様な研修で異なる地域、異なる分野（機関）の方と共に研修できることでアーカイブが広がることをも効果的であると思います。

「実技コース」

アーカイブの実践	情報をデジタル化することの必要性を理解してもらうことの難しさを痛感しています。また記録に残していくための作業に時間をとれない現状を打破していきたいと思います。
デジタルアーカイブシステムについて	デジタルアーカイブシステムによる女性関連施設の連携以外に、それ以外の施設、企業等横のつながりが広がることがわかった。
資料のデジタル化実習	実際にスキャナを使いデータを保存し、機器を使うことで作業量（時間）が大幅に減少できると思いました。
	現在講座資料をスキャンして作成・保存しており、形式的には同じ事であると思ったが、アーカイブのための保存方法として楽に作業が行えると思った。
紙資料保存の実践	紙媒体を保存していくための知識を学び実習することで、職場に戻り活かしていくことができる内容だった。とても楽しく実践的でした。
	書籍の修理等すぐに役立つ方法を教えていただき大変参考になった。寄贈本の清掃もすぐに行えると喜んでいます。ありがとうございました。

「女子学生のためのキャリア形成講座」日程表

2012年9月5日(水)～9月7日(金)

期日	時間	コマ数	実施場所	授 業 内 容	担 当 者
九月五日(水)	13:00		208研修室	開会挨拶	大野会長(埼短協) 内海理事長(NWEC)
	13:15 14:00	1	208研修室	プログラムオリエンテーション(事前アンケート)	引間専門職員 (NWEC事業課)
	14:10 15:10	2	208研修室	これからのキャリアを考えてみよう	大野会長(埼短協)
	15:20 16:20	3	208研修室	講義「男女共同参画社会の実現を目指して」	内海理事長(NWEC)
	16:35 17:15	4	本館	情報収集の手段を学ぶ (女性教育情報センター・女性アーカイブセンター)	森専門職員 (NWEC情報課)
	18:00		レストラン	夕 食	自由に館内散策
	19:00 20:30	5	談話室	自己紹介・レクリエーション 友達を作ろう	安倍講師(埼玉純真短大)
九月六日(木)	7:30 8:30		レストラン	朝 食	
	9:00 10:00	6	208研修室	講義・ディスカッション 「女性のキャリアパスを考えるー複合キャリアとは」	中野室長 (NWEC研究国際室)
	10:15 14:00	7	208研修室	グループワーク 「複合キャリアの視点からキャリアパスの事例分析」 グループ発表「複合キャリアの事例分析」 (グループごとに適宜昼食)	越智専門職員 (NWEC研究国際室) アシスト:埼短協教員 引間専門職員
	14:10 14:50	8	208研修室	講義・グループワーク 「複合キャリアのパイオニアから学ぶ女性の歴史」	森専門職員 (NWEC情報課)
	15:00 15:40	9	208研修室	講義・グループワーク 「男女共同参画統計から女性のキャリアを考える」	赤嶺専門職員 (NWEC情報課)
	15:50 17:00	10	208研修室	埼短協(保育・家政系卒業生のキャリア講義)	家政:野原講師 保育:掃部講師
	18:00 19:00		レストラン	夕 食	自由に館内散策
	19:00 20:30	11	談話室	「社会人(ビジネス)マナー」の基本	細田准教授 (埼玉女子短大)
	7:30 8:30		レストラン	朝 食	
	9:00 10:00	12	208研修室	講義「キャリアに学ぶ」	深澤先生(元秋草短大学長)
九月七日(金)	10:10 11:10	13	208研修室	討議・まとめ「自分自身のキャリアを考える」 まとめ、振り返り(事後アンケート)	引間専門職員(NWEC専門職員) コメント:埼短協教員
	11:20 12:00	14	208研修室	各先生からの言葉、学生の一言感想 修了証の授与 閉講の挨拶	NWEC 埼短協

平成 24 年度 埼玉大学連携授業 テーマ教育プログラム＜社会と出会う＞
「男女共同参画社会を考える」について

1. 趣 旨

社会の中でも家庭でも男女がともに主体であり、対等に協力できる男女共同参画社会をつくることが求められている。しかし、私たちはいつの間にか様々な場面で「男らしさ」「女らしさ」を内面化している。そのことがいかに男女の生き方を拘束しているのか、どうすればそれらを変えることが出来るのかについて、様々な方法や考え方を学ぶ。

埼玉大学と国立女性教育会館が連携したキャリア教育プログラムにより、会館が持つ最新の国際・国内情報を始め、「女性情報ポータル Winet」を使った検索実習、「女性と男性に関する統計データベース」を活用して統計グラフを作るなど実技実習を行うほか、女性アーカイブセンター資料等の情報資料、および調査研究の資料を活用する。グループワークを主体に授業を進める。

なお、学生等への学習支援のため NWEc 図書パッケージサービスを埼玉大学教養学部資料センターで活用する。

2. 開講学期（期別） 前期 水 3 限（13:00～14:30）

3. 単位数 2

4. 対象年次 1～4 年次（全学共通）

5. 授業スケジュール 15 コマのうち、3 コマの講義を国立女性教育会館が担当する。

第 1 回	4 月 11 日 (水)	ガイダンス（埼玉大学、国立女性教育会館）
第 2 回	4 月 18 日 (水)	ジェンダー論入門①
第 3 回	4 月 25 日 (水)	ジェンダー論入門②
第 4 回	5 月 2 日 (水)	「男女共同参画社会の実現にむけて」 国立女性教育会館 内海理事長
第 5 回	5 月 9 日 (水)	「専門情報を使う」 国立女性教育会館 市村情報課長 「男女共同参画統計を学ぶ・女性と男性に関する統計データベースを使う」 国立女性教育会館 森情報課専門職員
第 6 回	5 月 16 日 (水)	労働とジェンダー①
第 7 回	5 月 19 日 (土)	労働とジェンダー②
第 8 回	5 月 23 日 (水)	政治とジェンダー①
第 9 回	5 月 30 日 (水)	政治とジェンダー②
第 10 回	6 月 6 日 (水)	『男女共同参画統計データブック』を読む 国立女性教育会館 中野研究国際室長
第 11 回	6 月 13 日 (水)	学生アンケートの結果を読む
第 12 回	6 月 20 日 (水)	こどもとジェンダー①
第 13 回	6 月 23 日 (土)	ジェンダーとセクシュアリティ～男性の〈性〉を考える～
第 14 回	6 月 27 日 (水)	こどもとジェンダー②
第 15 回	7 月 4 日 (水)	まとめ

平成 24 年度埼玉県私立短期大学協会・国立女性教育会館連携
「キャリア教育」プログラム実施要項

1. 趣旨

埼玉県私立短期大学協会に加盟する短期大学と国立女性教育会館が連携し、学生と教職員の交流を図りながら進める「キャリア教育」の一環として、「男女共同参画の視点に基づくキャリア教育プログラム」を実施する。

2. 主題「キャリアを考える～これからの人生を意義あるものとするために～」

本講座は、男女共同参画型社会における女性としての生涯（ライフキャリア）形成の考え方を学び、人間と人間の関わり合いとその方法の基礎を学ぶ（関係力の育成）とともに、他大学の学生と交流することなどにより、多様性（ダイバーシティ）をお互いに認め、他の文化や人などを尊重する態度を養うことを目標とする。

2. 主催

埼玉県私立短期大学協会、NWE C（国立女性教育会館）

3. 会場

独立行政法人国立女性教育会館

〒355-0292

TEL 0493-62-6724・6725

FAX 0493-62-6720

URL <http://www.nwec.jp/>

4. 期日

平成23年9月5日（火）～9月7日（金）2泊3日

5. 参加者

埼玉県私立短期大学協会会員校学生10名

6. 科目名と単位数

各短期大学の該当科目（「キャリアデザイン」等）において単位認定を行う。

講義・演習科目として2単位

7. 日程

別添のとおり

平成24年度「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム (NVEC フォーラム)」実施要項

1. 趣旨

男女共同参画社会の形成に向け、私たちが自らの意思で社会に参画し、新たな社会を創出していく上での課題とその解決方法を見出す機会とするとともに、“研究”“学習”“実践”を結び、女性のエンパワーメントをめざす交流の場とします。

2. 主題

「男女共同参画社会への展望」

3. 主催

独立行政法人 国立女性教育会館

4. 会場

国立女性教育会館

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728 番地

5. 期日

平成24年8月24日（金）～8月26日（日） 2泊3日

6. 参加者

女性団体等のリーダー、研究者、男女共同参画・女性教育・家庭教育等の行政担当者、女性関連施設職員、企業、団体関係者、NPO、学生等 1,000名

7. 日程

8/24 (金)	12:30 13:00 15:00 15:30 17:30 18:30 20:00							
		開 会	シンポ ジウム		ワーク ショップ 1		交流会	
8/25 (土)	9:30 11:30	12:30	14:30	15:30	17:30	19:00	20:30	
	ワーク ショップ 2	昼 食	ワーク ショップ 3		ワーク ショップ 4		自由交流	
8/26 (日)	10:00 12:00							
		ワーク ショップ 5						

*当事業は、「第3次男女共同参画基本計画」における「第14分野 地域、防災・環境その他の分野における男女共同参画の推進」の「1地域における男女共同参画推進の基盤づくり」に位置づけられている事業です。

8. 内容

*各ワークショップのタイトル、運営団体・グループ名、日時等につきましては、「ワークショップ一覧」をご覧ください。

*展示ワークショップの会場は、110 研修室（研修棟1階）です。

第1日 8月24日(金)(受付: 11:30~17:00 本館ロビー)

(1) 開会 主催者あいさつ 12:30 ~ 12:50

(2) シンポジウム 13:00 ~ 15:00

「女性の活躍による新たな社会の創出に向けて」

少子・高齢化という人口構造の大きな変化が進む中で、私たちは、価値観の転換、既存の社会システムの見直しをせまられています。女性の活躍により、新たな社会を創出していく上で、何が求められているのか、男女共同参画社会を展望しながら、多角的な視点から議論します。

シンポジスト

宮田安彦 大妻女子大学家政学部ライフデザイン学科 教授
小林洋子 NTTコム チェオ株式会社 代表取締役社長
杉本彰子 特定非営利活動法人生き生きネットワーク 理事長

コーディネーター

宗像道子 一般社団法人共同通信社 編集委員・論説委員

(3) ワークショップ1 15:30 ~ 17:30
全国から募集したワークショップと会館提供ワークショップを行います。

(4) 交流会 18:30 ~ 20:00
夕食を兼ねた交流会(参加費 3,000 円、要事前申込、立食形式)です。

第2日 8月25日(土)(受付: 9:00~17:00 本館ロビー)

(5) ワークショップ2 9:30 ~ 11:30
全国から募集したワークショップと会館提供ワークショップを行います。

(6) ワークショップ3 12:30 ~ 14:30
全国から募集したワークショップと会館提供ワークショップを行います。

(7) ワークショップ4 15:30 ~ 17:30
全国から募集したワークショップと会館提供ワークショップを行います。

(8) 自由交流 19:00 ~ 20:30

第3日 8月26日(日)(受付: 9:30~11:00 本館ロビー)

(9) ワークショップ5 10:00 ~ 12:00
全国から募集したワークショップと会館提供ワークショップを行います。

9. ワークショップのテーマ

「第3次男女共同参画基本計画」に示されている施策を参考に、以下の5つのテーマを設定しました。

①【女性のキャリア形成】

政策・方針決定過程への女性の参画、雇用等における機会の均等と待遇の確保、継続就業、再就職、起業への支援、女性管理職への支援、社会活動キャリアに対する評価、女性の能力開発への支援、大学における男女共同参画の推進、科学技術・学術分野への女性の参画、ポジティブ・アクションの推進 等

②【男性にとっての男女共同参画】

男性の男女共同参画に対する理解の促進、企業における男性管理職等への意識啓発、仕事と生活の調和のとれた働き方の推進、男性の家庭・地域への参画、男性に対する相談体制の確立 等

③【安全・安心と男女共同参画】

女性に対する暴力の根絶、人身取引、災害・震災への取組、生活上の困難に直面する男女への支援、高齢者、障害者、外国人等が安心して暮らせる環境の整備、国際規範の尊重 等

④【男女共同参画の地域づくり】

地域における男女共同参画の推進、地域経済の活性化とコミュニティビジネスにおける女性の参画、地域や分野を横断するネットワークづくり、子ども・子育てにおける地域の役割、農山漁村女性のエンパワーメント、環境分野における女性の参画、災害からの復興と地域づくり 等

⑤【男女共同参画の拠点】

男女共同参画意識づくりに向けた取組、女性関連施設・社会教育施設の機能の充実、団体・グループ・NPO活動の支援、指定管理者制度のあり方、男女共同参画情報の発信・活用、女性関連施設における危機管理 等

10. 交流推進の支援

参加者同士の交流推進を支援するため、会館ボランティアの参画による交流推進プログラムを実施します。参加は自由です。

【さんかくカフェ】（試食室 実技研修棟）

参加者同士の出会いと交流の場です。

【情報のひろば】（110 研修室 研修棟 1 階）

参加者が無料の広報物、チラシ等の配布、有料の資料、書籍等の頒布を通して情報交換を行う場です。＊展示ワークショップと同じ会場です。

【交流推進プログラム】

朝や夜の時間帯に、会館ボランティアの企画によるモーニング・アクティビティやナイト・プログラムなどを行います。また、フォーラム期間中、地元の女性起業家や自立を目指す障害者を支援する事業体の手がける製品やフェア・トレード製品の販売を行い、参加者と地域の活動をつなぎます。

11. 企画委員 5名（五十音順・敬称略）

本フォーラムの企画を会館と協働で行います。

- ・内田 洋子 埼玉県男女共同参画推進センター所長
- ・田中 雅文 日本女子大学教授
- ・中畔 都舎子 全国地域婦人団体連絡協議会顧問
- ・根岸 茂文 社団法人埼玉県経営者協会専務理事・事務局長

12. 交流推進委員 9名（五十音順・敬称略）

テーマワークショップを企画・運営し、同テーマに関心のある参加者のネットワークづくりをすすめます。

- ・青木 玲子 国立女性教育会館客員研究員
- ・渥美 由喜 厚生労働省 政策評価に関する有識者会議委員・株式会社東レ経営研究所研究部長

- ・土橋 秀子 国立女性教育会館ボランティア
- ・中田 芳恵 国立女性教育会館ボランティア
- ・西山 恵美子 国立女性教育会館客員研究員
- ・松下 光恵 静岡市女性会館長
- ・宮本 紀子 国立女性教育会館ボランティア
- ・森 豊吉 国立女性教育会館ボランティア
- ・吉田 容子 弁護士・立命館大学教授

1 3. 女性教育情報センター（本館2階）

男女共同参画および女性・家庭・家族に関する専門図書館です。全国各地のミニコミ誌などNWE Cならではの資料もそろえております。ぜひご利用ください。開室時間は、以下のとおりです。

8月24日（金）9：00～18：30

8月25日（土）9：00～19：00

8月26日（日）9：00～17：00

1 4. 女性アーカイブセンター展示室（本館1階）

女性アーカイブセンターでは、男女共同参画社会の形成に顕著な業績を残した女性・全国的な女性団体や女性教育・男女共同参画施策等に関する史・資料を収集しています。

平成24年度企画展示「建築と歩む～チャレンジした女性たちからチャレンジする女性たちへ～」を開催中です。ぜひご覧ください。

開室時間：9：00～19：00（3日間共に）

1 5. アンケート

今後の事業を企画する上での参考といたしますので、アンケートのご協力をお願いいたします。お帰りの際、ご記入いただいたアンケート用紙は、所定の箱にご提出ください。

1 6. その他

（1）NWE Cフォーラム期間中、国立女性教育会館と東武東上線武蔵嵐山駅間で無料送迎バスをピストン運行いたしますのでご利用ください。

（2）以下の点につきまして、あらかじめご了承ください。

①期間中、職員が撮影した写真を事業記録や広報のために使用することがあります。

②電力需要等の影響により、一部のプログラムに変更が生じる場合があります。

（3）参加者相互の交流・情報交換の促進を目的としたフォーラムですので、行き過ぎた勧誘や署名運動、募金等のご遠慮願います。

平成 24 年度「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム」参加者概況

1. 参加区分別人数 (人)

一般参加者			WS運営者			講師・会館運営者			合計		
	計	%		計	%		計	%		計	%
女性	604	85.1	女性	208	85.2	女性	69	85.2	女性	881	85.1
男性	105	14.8	男性	36	14.8	男性	12	14.8	男性	153	14.8
無回答	1	0.1	無回答	0	0.0	無回答	-	-	無回答	1	0.1
計	710	100.0	計	244	100.0	計	81	100.0	計	1,035	100.0

定員 1,000 名
充足率 103.5 %

平成23年度参加者 905 名

【区分内訳】

一般参加者 事前申込者(宿泊・日帰り・通い、団体)、当日申込者
WS運営者 募集ワークショップ運営者
講師・会館運営者 企画委員、交流推進委員、会館プログラム講師・運営者、会館ボランティア等

【一般参加者・区分別人数】

	事前申込			当日	合計
	宿泊	日帰り	団体		
女性	159	107	212	126	604
男性	19	26	38	22	105
無回答	-	1	-	-	1
計	178	134	250	148	710

2. 参加日別(延べ人数)

	一般参加者					WS運営者					講師・会館運営者				合計				
	女性	男性	無回答	計	%	女性	男性	無回答	計	%	女性	男性	計	%	女性	男性	無回答	計	%
24日	367	65	-	432	45.1	24	2	-	26	14.1	32	24	56	78.9	423	91	-	514	42.4
25日	385	59	1	445	46.5	106	21	-	127	68.6	7	3	10	14.1	498	83	1	582	48.0
26日	65	14	1	80	8.4	21	11	-	32	17.3	2	3	5	7.0	88	28	1	117	9.6
計	817	138	2	957	100.0	151	34	-	185	100.0	41	30	71	100.0	1,009	202	2	1,213	100.0

3. 年代別

	一般参加者					WS運営者					講師・会館運営者				総数				
	女性	男性	無回答	計	%	女性	男性	無回答	計	%	女性	男性	計	%	女性	男性	無回答	計	%
10～19歳	2	-	-	2	0.3	4	2	-	6	0.2	-	-	-	-	6	2	-	8	0.8
20～29歳	30	7	-	37	5.2	7	1	-	8	3.3	-	-	-	-	37	8	-	45	4.3
30～39歳	42	15	-	57	8.0	12	4	-	16	6.6	2	-	2	2.5	56	19	-	75	7.2
40～49歳	56	18	1	75	10.6	25	6	-	31	12.7	6	2	8	2.4	87	26	1	114	11.0
50～59歳	121	24	-	145	20.4	43	7	-	50	20.5	19	3	22	27.2	183	34	-	217	21.0
60代以上	235	30	-	265	37.3	80	4	-	84	34.4	28	3	31	38.3	343	37	-	380	36.7
無回答	118	11	-	129	18.2	37	12	-	49	20.1	18	-	18	22.2	173	23	-	196	18.9
計	604	105	1	710	100.0	208	36	-	244	100.0	73	8	81	100.0	885	149	1	1,035	100.0

4. 職業形態別

	一般参加者					WS運営者					講師・会館運営者				総数				
	女性	男性	無回答	計	%	女性	男性	無回答	計	%	女性	男性	計	%	女性	男性	無回答	計	%
a-1 教育委員会	16	-	-	16	2.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16	-	-	16	1.5
a-2 男女共同参画行政	63	19	-	82	11.5	6	4	-	10	4.1	3	-	3	3.7	72	23	-	95	9.2
a-3 その他の行政	4	1	-	5	0.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	1	-	5	0.5
b 研究者・大学教員	13	3	-	16	2.3	23	1	-	24	9.8	7	3	10	12.3	43	7	-	50	4.8
c 小・中・高校教員	2	-	-	2	0.3	2	1	-	3	0.2	-	-	-	-	4	1	-	5	0.5
d 団体・グループ	330	45	1	376	47.0	99	12	-	111	45.5	9	1	10	12.3	438	58	1	497	48.0
e-1 社会教育施設	-	-	-	-	-	-	1	-	1	0.4	-	-	-	-	-	1	-	1	0.1
e-2 女性関連施設	38	3	-	41	5.8	15	2	-	17	7.0	4	-	4	4.9	57	5	-	62	6.0
e-3 その他の施設	4	1	-	5	0.7	2	1	-	3	1.2	-	-	-	-	6	2	-	8	0.8
f マスコミ	3	3	-	6	0.8	-	-	-	-	-	1	-	1	1.2	4	3	-	7	0.7
g 議員	8	1	-	9	1.3	3	-	-	3	1.2	-	-	-	-	11	1	-	12	1.2
h 会社員	19	11	-	30	4.2	15	5	-	20	8.2	3	1	4	4.9	37	17	-	54	5.2
i 学生	9	2	-	11	1.5	9	2	-	11	4.5	-	-	-	-	18	4	-	22	2.1
j 主婦・主夫	14	-	-	14	2.0	3	-	-	3	1.2	-	-	-	-	17	-	-	17	1.6
k 無職	4	7	-	11	1.5	4	-	-	4	1.6	22	2	24	29.6	30	9	-	39	3.8
l その他	27	3	-	30	4.2	21	4	-	25	10.2	15	5	20	24.7	63	12	-	75	7.2
無回答	50	6	-	56	7.9	6	3	-	9	3.7	5	-	5	6.2	61	9	-	70	6.8
計	604	105	1	710	100.0	208	36	-	244	100.0	69	12	81	100.0	881	153	1	1,035	100.0

5. 都道府県別（政令指定都市は都道府県の内数に含む）

(人)

	一般参加者					WS運営者					講師・会館運営者				合計					実計算	調整%
	女性	男性	無回答	計	%	女性	男性	無回答	計	%	女性	男性	計	%	女性	男性	無回答	計	%		
北海道	31	3	-	34	4.8	6	-	-	6	2.5	-	-	-	-	37	3	-	40	3.9	10.6	10.6
（札幌市）	(1)	(-)	(-)	(1)	(0.1)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(1)	(-)	(-)	(1)	(0.1)		
青森県	2	-	-	2	0.3	1	-	-	1	0.4	-	-	-	-	3	-	-	3	0.3		
岩手県	9	-	-	9	1.3	4	3	-	7	2.9	-	-	-	-	13	3	-	16	1.5		
宮城県	5	1	-	6	0.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	1	-	6	0.6		
（仙台市）	(3)	(1)	(-)	(4)	(0.6)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(3)	(1)	(-)	(4)	(0.4)		
秋田県	14	-	-	14	2.0	4	-	-	4	1.6	-	-	-	-	18	-	-	18	1.7		
山形県	4	-	-	4	0.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	4	0.4		
福島県	15	2	-	17	2.4	6	-	-	6	2.5	-	-	-	-	21	2	-	23	2.2		
茨城県	37	4	-	41	5.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	37	4	-	41	4.0		
栃木県	85	4	-	89	12.5	-	-	-	-	-	1	-	1	1.2	86	4	-	90	8.7	63.3	63.4
群馬県	34	4	-	38	5.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	34	4	-	38	3.7		
埼玉県	60	15	1	76	24.7	16	3	-	19	19.2	38	7	45	55.6	114	25	1	140	21.1		
（さいたま市）	(4)	(2)	(-)	(6)	(0.8)	(-)	(2)	(-)	(2)	(0.8)	(2)	(1)	(3)	(3.7)	(6)	(5)	(-)	(11)	(1.1)		
千葉県	25	11	-	36	5.1	14	-	-	14	5.7	1	-	1	1.2	40	11	-	51	4.9		
（千葉市）	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)		
東京都	99	17	-	116	16.3	109	11	-	120	49.2	16	2	18	22.2	224	30	-	254	17.1		
神奈川県	10	5	-	15	2.1	17	7	-	24	9.8	1	1	2	2.5	28	13	-	41	4.0		
（横浜市）	(4)	(2)	(-)	(6)	(0.8)	(5)	(3)	(-)	(8)	(3.3)	(1)	(-)	(1)	(1)	(10)	(5)	(-)	(15)	(1.4)		
（川崎市）	(3)	(2)	(-)	(5)	(0.7)	(6)	(-)	(-)	(6)	(2.5)	(-)	(-)	(-)	(-)	(9)	(2)	(-)	(11)	(1.1)		
（相模原市）	(3)	(-)	(-)	(3)	(0.4)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(3)	-	(-)	(3)	(0.3)		
山梨県	20	4	-	24	3.4	9	7	-	16	6.6	1	-	1	1.2	30	11	-	41	4.0	11.8	11.8
新潟県	19	8	-	27	3.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19	8	-	27	2.6		
（新潟市）	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)		
長野県	45	9	-	54	7.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	45	9	-	54	5.2		
富山県	1	1	-	2	0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	2	0.2		
石川県	5	-	-	5	0.7	-	-	-	-	-	1	-	1	1.2	6	-	-	6	0.6		
福井県	1	-	-	1	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	0.1		
岐阜県	1	1	(-)	2	0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	2	0.2		
静岡県	6	-	-	6	0.8	3	-	-	3	1.2	3	-	3	3.7	12	-	-	12	1.2		
（静岡市）	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(3)	(-)	(-)	(3)	(1.2)	(2)	(-)	(2)	(2)	(5)	(-)	(-)	(5)	(0.5)	4.7	4.7
（浜松市）	(4)	(-)	(-)	(4)	(0.6)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(4)	(-)	(-)	(4)	(0.4)		
愛知県	10	1	-	11	1.5	5	-	-	5	2.0	-	-	-	-	15	1	-	16	1.5		
（名古屋市）	(4)	(-)	(-)	(4)	(0.6)	(2)	(-)	(-)	(2)	(0.8)	(-)	(-)	(-)	(-)	(6)	(-)	(-)	(6)	(0.6)		
三重県	9	1	-	10	1.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	1	-	10	1.0		
滋賀県	4	1	-	5	0.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	1	-	5	0.5		
京都府	2	-	-	2	0.3	2	3	-	5	2.0	2	-	2	2.5	6	3	-	9	0.9		
（京都市）	(2)	(-)	(-)	(2)	(0.3)	(1)	(1)	(-)	(2)	(0.8)	(2)	(-)	(2)	(2)	(5)	(1)	(-)	(6)	(0.6)		
大阪府	9	4	-	13	1.8	4	-	-	4	1.6	3	1	4	4.9	16	5	-	21	2.0	4.4	4.4
（大阪市）	(1)	(-)	(-)	(1)	(0.1)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(1)	(-)	(1)	(1)	(2)	(-)	(-)	(2)	(0.2)		
（堺市）	(3)	(1)	(-)	(4)	(0.6)	(1)	(-)	(-)	(1)	(0.4)	(-)	(-)	(-)	(-)	(4)	(1)	(-)	(5)	(0.5)		
兵庫県	3	1	-	4	0.6	2	2	-	4	1.6	-	-	-	-	5	3	-	8	0.8		
（神戸市）	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)		
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
和歌山県	2	1	-	3	0.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	3	0.3		
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
島根県	1	-	-	1	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	0.1	1.6	1.6
岡山県	2	-	-	2	0.3	4	-	-	4	1.6	1	-	1	1.2	7	-	-	7	0.7		
（岡山市）	(1)	(-)	(-)	(1)	(0.1)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(1)	(-)	(1)	(1)	(2)	(-)	(-)	(2)	(0.2)		
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
（広島市）	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(1)	(-)	(1)	(1)	(1)	(-)	(-)	(1)	(0.1)		
山口県	1	-	-	1	0.1	1	-	-	1	0.4	-	-	-	-	2	-	-	2	0.2		
徳島県	1	-	-	1	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	0.1		
香川県	2	-	-	2	0.3	-	-	-	-	-	1	-	1	1.2	3	-	-	3	0.3		
愛媛県	2	-	-	2	0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	2	0.2		
高知県	1	-	-	1	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	0.1		
福岡県	3	1	-	4	0.6	1	-	-	1	0.4	1	-	1	1.2	5	1	-	6	0.6	2.1	2.1
（北九州市）	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(1)	(-)	(1)	(1)	(1)	(-)	(-)	(1)	(0.1)		
（福岡市）	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)		
佐賀県	-	-	1	1	0.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	0.1		
長崎県	1	-	-	1	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	0.1		
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
（熊本市）	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)		
大分県	4	-	-	4	0.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	4	0.4		
宮崎県	2	-	-	2	0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	2	0.2		
鹿児島県	2	1	-	3	0.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	3	0.3		
沖縄県	3	2	-	5	0.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	2	-	5	0.5		
不明・無回答	-	-	-	14	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	1.4	1.4	1.4
	592	102	2	710	100.0	208	36	-	244	100.0	70	11	81	100.0	870	149	2	1,035	100.0		

平成 24 年度「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム」

参加者数:954名(講師・会館関係者は除く) アンケート回答数:304件 アンケート回答率:31.9%

* 参加日 (複数回答)

	女性	%	男性	%	不明	%	総計	%
24日	145	58.7	28	59.6	3	30.0	176	57.9
25日	125	50.6	24	51.1	4	40.0	153	50.3
26日	83	33.6	11	23.4	4	40.0	98	32.2
無回答	49	19.8	8	17.0	2	20.0	59	19.4
合計	402	100.0	71	100.0	13	100.0	486	100.0

1-1. このフォーラムの内容は、役に立ちましたか。

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
はい	225	91.1	43	91.5	9	90.0	277	91.1	98.2
いいえ	2	0.8	3	6.4	-	-	5	1.6	1.8
無回答	20	8.1	1	2.1	1	10.0	22	7.2	
合計	247	100.0	47	100.0	10	100.0	304	100.0	100.0

- ・ 他市の職員と知り合えた

1-2. 役に立ったプログラム(複数選択可)

	24日のみ 参加	% (80名中)	25日のみ 参加	% (47名中)	26日のみ 参加	% (11名中)	24日・25 日参加	% (20名中)
1-2 シンポジウム(24日午後)	71	88.8	1	2.1	-	-	14	70.0
1-2 ワークショップ	34	42.5	46	97.9	8	72.7	19	95.0
1-2 展示ワークショップ	1	1.3	1	2.1	1	9.1	3	15.0
1-2 交流会(24日夜)	2	2.5	1	2.1	-	-	5	25.0
1-2 情報のひろば	1	1.3	-	-	1	9.1	3	15.0
1-2 さんかくカフェ	2	2.5	1	2.1	-	-	1	5.0
1-2 スエック・マルシェ	1	1.3	1	2.1	-	-	1	5.0
1-2 モーニング・アクティビティ	-	-	-	-	-	-	1	5.0
1-2 ナイト・プログラム	-	-	-	-	1	9.1	1	5.0
1-2 自由交流	-	-	1	-	1	-	2	10.0
1-2 その他	1	1.3	-	-	1	9.1	1	5.0
合計	80	100.0	47	100.0	11	100.0	20	100.0

	24日・26 日参加	% (1名中)	25日・26 日参加	% (11名中)	3日間参 加	% (75名中)	不明	% (59名中)
1-2 シンポジウム(24日午後)	-	-	-	-	37	49.3	29	49.2
1-2 ワークショップ	1	100.0	11	100.0	74	98.7	34	57.6
1-2 展示ワークショップ	-	-	4	36.4	20	26.7	10	16.9
1-2 交流会(24日夜)	-	-	-	-	36	48.0	8	13.6
1-2 情報のひろば	-	-	1	9.1	19	25.3	4	6.8
1-2 さんかくカフェ	-	-	-	-	14	18.7	2	3.4
1-2 スエック・マルシェ	-	-	1	9.1	11	14.7	5	8.5
1-2 モーニング・アクティビティ	-	-	-	-	6	8.0	-	-
1-2 ナイト・プログラム	-	-	2	18.2	14	18.7	7	11.9
1-2 自由交流	-	-	1	9.1	24	32.0	7	11.9
1-2 その他	-	-	1	9.1	1	1.3	-	-
合計	1	100.0	11	100.0	75	100.0	59	100.0

* その他の内容

- ・ 実はこのフォーラムが何をしているのか知りたかった
- ・ 定年退職後の社会貢献

1-3. 役に立ったプログラムについての意見・感想

- ・企業の実践報告が聞けて良かった。
- ・どのワークショップも熱心に活動されている様子がわかり、とても刺激になった。
- ・これからの自分の仕事に生かせるヒントや現状課題を見つけることができた。
- ・4月に担当部署に(男女共同参画)異動になり、知識、情報収集を目的に参加した。良かった。
- ・今年より男女共同参画の仕事に携わり、様々な活動をされている全国の方々にお会いでき、色々なワークショップでどれも新鮮に受講した。勉強になった。
- ・様々な団体さんの実践や、最前線の活動の話が聞けて、大変有意義だった。
- ・パワーのあるシンポジウムで元気をもらえた。
- ・交流会で他の地域の方と話ができて楽しかった。色々な方の意見を聞けて良かった。
- ・シンポジウム、ワークショップともとても興味深くためになる話を聞けて良かった。「気づき」のきっかけになった。
- ・市の政策にこれから反映できることが多かった。

2. フォーラムに参加した目的(複数回答可)と達成度

《目的》

	女性	% (247名中)	男性	% (47名中)	不明	% (10名中)	合計	% (304名中)
2-1 テーマについて情報・知識を得ること	177	71.7	34	72.3	8	80.0	219	72.0
2-2 自分の抱える問題を解決する手がかりを得ること	107	43.3	19	40.4	5	50.0	131	43.1
2-3 研究・実践活動に必要な知識や情報を得ること	139	56.3	24	51.1	6	60.0	169	55.6
2-4 日ごろの思いを共感してもらえる関係づくり、交流をすること	81	32.8	6	12.8	3	30.0	90	29.6
2-5 仲間づくりやネットワークづくりに役立てること	82	33.2	15	31.9	4	40.0	101	33.2
2-6 宿泊や交流を通じて、活動への意欲を高めること	63	25.5	5	10.6	3	30.0	71	23.4
2-7 ワークショップを実施し、今後の活動に役立てるため	76	30.8	12	25.5	4	40.0	92	30.3
2-8 その他	2	0.8	-	-	2	20.0	4	1.3
無回答	19	7.7	3	6.4	1	10.0	23	7.6

《目的の達成度》

①テーマについて情報・知識を得ること

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	% (177名中)	男性	% (34名中)	不明	% (8名中)	合計	% (219名中)	※%
十分できた	56	31.6	10	29.4	2	25.0	68	31.1	33.8
おおむねできた	100	56.5	21	61.8	6	75.0	127	58.0	63.2
あまりできなかった	3	1.7	-	-	-	-	3	1.4	1.5
できなかった	3	1.7	-	-	-	-	3	1.4	1.5
無回答	15	8.5	3	8.8	-	-	18	8.2	
合 計	177	100.0	34	100.0	8	100.0	219	100.0	100.0

②自分の抱える問題を解決する手がかりを得るため

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	% (107名中)	男性	% (19名中)	不明	% (5名中)	合計	% (131名中)	※%
十分できた	31	29.0	2	10.5	1	20.0	34	26.0	27.6
おおむねできた	57	53.3	12	63.2	2	40.0	71	54.2	57.7
あまりできなかった	10	9.3	4	21.1	2	40.0	16	12.2	13.0
できなかった	2	1.9	-	-	-	-	2	1.5	1.6
無回答	7	6.5	1	5.3	-	-	8	6.1	
合 計	107	100.0	19	100.0	5	100.0	131	100.0	100.0

③研究・実践活動に必要な知識や情報を得ること

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	% (139名中)	男性	% (24名中)	不明	% (6名中)	合計	% (169名中)	※%
十分できた	38	27.3	5	20.8	2	33.3	45	26.6	28.5
おおむねできた	82	59.0	15	62.5	4	66.7	101	59.8	63.9
あまりできなかった	7	5.0	4	16.7	-	-	11	6.5	7.0
できなかった	1	0.7	-	-	-	-	1	0.6	0.6
無回答	11	7.9	-	-	-	-	11	6.5	
合 計	139	100.0	24	100.0	6	100.0	169	100.0	100.0

④日ごろの思いを共感してもらえる関係づくり、交流をすること

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	% (81名中)	男性	% (6名中)	不明	% (3名中)	合計	% (90名中)	※%
十分できた	26	32.1	3	50.0	1	33.3	30	33.3	35.7
おおむねできた	36	44.4	2	33.3	1	33.3	39	43.3	46.4
あまりできなかった	12	14.8	-	-	1	33.3	13	14.4	15.5
できなかった	1	1.2	1	16.7	-	-	2	2.2	2.4
無回答	6	7.4	-	-	-	-	6	6.7	
合 計	81	100.0	6	100.0	3	100.0	90	100.0	100.0

⑤仲間づくりやネットワークづくりに役立てること

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	% (82名中)	男性	% (15名中)	不明	% (4名中)	合計	% (101名中)	※%
十分できた	28	34.1	2	13.3	1	25.0	31	30.7	34.1
おおむねできた	32	39.0	10	66.7	1	25.0	43	42.6	47.3
あまりできなかった	13	15.9	2	13.3	1	25.0	16	15.8	17.6
できなかった	1	1.2	-	-	-	-	1	1.0	1.1
無回答	8	9.8	1	6.7	1	25.0	10	9.9	
合 計	82	100.0	15	100.0	4	100.0	101	100.0	100.0

⑥宿泊や交流を通じて、活動への意欲を高めること

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	% (63名中)	男性	% (5名中)	不明	% (3名中)	合計	% (71名中)	※%
十分できた	28	44.4	1	20.0	1	33.3	30	42.3	42.9
おおむねできた	28	44.4	2	40.0	1	33.3	31	43.7	44.3
あまりできなかった	3	4.8	-	-	1	33.3	4	5.6	5.7
できなかった	3	4.8	2	40.0	-	-	5	7.0	7.1
無回答	1	1.6	-	-	-	-	1	1.4	
合 計	63	100.0	5	100.0	3	100.0	71	100.0	100.0

⑦ワークショップを実施し、今後の活動に役立てるため

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	% (76名中)	男性	% (12名中)	不明	% (4名中)	合計	% (92名中)	※%
十分できた	34	44.7	9	75.0	1	25.0	44	47.8	50.0
おおむねできた	30	39.5	2	16.7	2	50.0	34	37.0	38.6
あまりできなかった	4	5.3	1	8.3	-	-	5	5.4	5.7
できなかった	4	5.3	-	-	1	25.0	5	5.4	5.7
無回答	4	5.3	-	-	-	-	4	4.3	
合 計	76	100.0	12	100.0	4	100.0	92	100.0	100.0

⑧その他

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	% (2名中)	男性	% (12名中)	不明	% (4名中)	合計	% (92名中)	※%
十分できた	-	-	-	-	-	-	-	-	-
おおむねできた	-	-	-	-	1	50.0	1	25.0	50.0
あまりできなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-
できなかった	1	50.0	-	-	-	-	1	25.0	50.0
無回答	1	50.0	-	-	1	50.0	2	50.0	
合 計	2	100.0	-	-	2	100.0	4	100.0	100.0

* その他の内容

- ・ 実はこのフォーラムが何をしているのか知れたかった
- ・ 定年退職後の社会貢献

3. フォーラムの満足度

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	% (247名中)	男性	% (47名中)	不明	% (10名中)	合計	% (304名中)	※%
非常に満足した	66	26.7	12	25.5	2	20.0	80	26.3	29.0
満足した	131	53.0	29	61.7	5	50.0	165	54.3	59.8
少し物足りなかった	19	7.7	5	10.6	2	20.0	26	8.6	9.4
物足りなかった	4	1.6	1	2.1	-	-	5	1.6	1.8
無回答	27	10.9	-	-	1	10.0	28	9.2	
合 計	247	100.0	47	100.0	10	100.0	304	100.0	100.0

《ご意見》

- ・ 非常に活発な意見交換が聞けて良かった
- ・ 様々なワークショップに参加できて良かった
- ・ とても貴重な話が聞け、参考になった。
- ・ ためになった。ありがとうございました。
- ・ 今後の団体運営に役立つ情報をたくさん得ることができた。とても有意義な3日間だった。
- ・ 参加したいワークショップがたくさんあって困りながらも多くの情報、知識を得ることができた。皆さんの熱い思いがどんどん入ってきて、私の心もワクワクした。多くの方々を知り合えてとても良かった。
- ・ いつもながら交流推進フォーラムでは、全国の女性たちの熱い思いを感じ、そしてパワーをいただく場となっている。ありがとうございました。
- ・ 全国から活動している人達が交流し、情報交換し、パワー、知恵をもらえることが素晴らしい。
- ・ 自分の活動の方向性を見つけれれた。
- ・ 各地の活動団体の方々と出会い、情報交換することができ有意義だった。
- ・ 初めての参加。皆さんの活躍に圧倒された。色々なテーマのワークショップを受けたことで視野が広がった。

平成 24 年度「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム」

ワークショップ運営者アンケート集計

2012年12月28日現在

募集ワークショップ 53 団体
アンケート提出 47 団体
回答率 88.7 %

1. 目的

【目的】

	回答数	% (43団体中)
①研究・実践活動を多くの人に知ってもらうこと	37	78.7%
②報告や協議等を通じて更に有用な知識や情報を得ること	22	46.8%
③団体・グループが抱える問題を解決する手がかりを得ること	12	25.5%
④日ごろの思いを共感してもらえる関係づくり、交流をすること	22	46.8%
⑤仲間づくりやネットワークづくりに役立てること	20	42.6%
⑥実施によって、活動をさらに充実させること	24	51.1%
⑦その他	2	4.3%

*その他の内容

- ・ 企業からの初参加へのチャレンジ
- ・ 女性差別撤廃条約についてより理解をふかめる

【達成度】

(達成度＝十分達成＋達成)

①研究・実践活動を多くの人に知ってもらうこと(※%は「無回答」を除いた割合)

	回答数	%	※%	達成度(%)
十分達成できた	25	53.2%	62.5%	97.5%
おおむね達成できた	14	29.8%	35.0%	
あまり達成できなかった	1	2.1%	2.5%	
達成できなかった	—	—	—	
無回答	7	14.9%		
合計	47	100.0%	100.0%	

②報告や協議等を通じて更に有用な知識や情報を得ること(※%は「無回答」を除いた割合)

	回答数	%	※%	達成度(%)
十分達成できた	15	31.9%	42.8%	76.1%
おおむね達成できた	9	19.1%	33.3%	
あまり達成できなかった	3	6.4%	11.1%	
達成できなかった	—	—	—	
無回答	20	42.6%		
合計	47	100.0%	100.0%	

③団体・グループが抱える問題を解決する手がかりを得ること(※%は「無回答」を除いた割合)

	回答数	%	※%	達成度(%)
十分達成できた	7	14.9%	38.9%	88.9%
おおむね達成できた	9	19.1%	50.0%	
あまり達成できなかった	2	4.6%	11.1%	
達成できなかった	—	—	—	
無回答	29	61.7%		
合計	47	100.0%	100.0%	

④日ごろの思いを共感してもらえる関係づくり、交流をすること(※%は「無回答」を除いた割合)

	回答数	%	※%	達成度(%)
十分達成できた	17	36.2%	65.4%	96.2%
おおむね達成できた	8	17.0%	30.8%	
あまり達成できなかった	1	2.1%	3.8%	
達成できなかった	—	—	—	
無回答	21	44.7%		
合計	47	100.0%	100.0%	

⑤仲間づくりやネットワークづくりに役立てること(※%は「無回答」を除いた割合)

	回答数	%	※%	達成度(%)
十分達成できた	13	27.7%	54.2%	95.8%
おおむね達成できた	10	21.3%	41.7%	
あまり達成できなかった	1	2.1%	4.2%	
達成できなかった	—	—	—	
無回答	23	39.6%		
合計	47	100.0%	100.0%	

⑥実施によって、さらに活動を充実させること(※%は「無回答」を除いた割合)

	回答数	%	※%	達成度(%)
十分達成できた	18	38.3%	66.7%	92.6%
おおむね達成できた	7	14.9%	25.9%	
あまり達成できなかった	2	4.3%	7.4%	
達成できなかった	—	—	—	
無回答	20	42.6%		
合計	47	100.0%	100.0%	

⑦その他(※%は「無回答」を除いた割合)

	回答数	%	※%	達成度(%)
十分達成できた	2	4.3%	100.0%	100.0%
おおむね達成できた	—	—	—	
あまり達成できなかった	—	—	—	
達成できなかった	—	—	—	
無回答	45	95.4%		
合計	47	100.0%	100.0%	

2. 役立ち度(※%は「無回答」を除いた割合)

	回答数	%	※%
非常に役に立った	31	66.0%	66.0%
役に立った	16	34.0%	34.0%
あまり役に立たなかった	—	—	—
役に立たなかった	—	—	—
無回答	—	—	—
合計	47	100.0%	100.0%

- ・ 四つの大学で協力してワークショップを行ったことで、ワークショップに向かって多くの情報交換ができたことが非常に良かったと思う。
- ・ 私たちの団体の今後の取り組みについて、他の先進事例を教えていただきながら方向性を探ることを目標としていましたが、その目標はおおむね達成できたと思っています。
- ・ 有意義な質問や意見を頂き、名刺交換もできた。

3. 満足度(※%は「無回答」を除いた割合)

	回答数	%	※%
非常に満足した	31	66.0%	66.0%
満足した	12	25.5%	25.5%
少し物足りなかった	3	6.4%	4.7%
物足りなかった	1	2.1%	2.1%
無回答	—	—	
合計	47	100.0%	100.0%

- ・参加者の方々から共感を得られたので、地域に戻って活動をためのエンパワメントになりました。期待以上の満足感でした。
- ・たくさんのネットワークができてよかった
- ・ワークショップを実施したことで他団体とのつながりが出来良かった

4. 参加人数(※%は「無回答」を除いた割合)

	回答数	%	※%
1～20名	7	14.9%	17.9%
21～40名	18	38.3%	46.2%
41～60名	10	21.3%	25.6%
61～80名	1	2.1%	2.6%
81～100名	2	4.3%	5.1%
101名以上	1	2.1%	2.6%
無回答	8	17.0%	
合計	47	100.0%	100.0%

5. 参加者の様子(※%は「無回答」を除いた割合)

	回答数	%	※%
非常によかった	29	61.7%	65.9%
よかった	15	31.9%	34.1%
あまりよくなかった	—	—	—
よくなかった	—	—	—
無回答	3	6.4%	
合計	47	100.0%	100.0%

- ・問題意識をもった皆様とご一緒できましたこと、私自身も大変学びが多く勉強になりました。
- ・学生から社会人まで多くの方まで集まって頂きそれぞれの視点・立場での意見を討議くださり発表頂きました。
- ・皆さん積極的に参加されていたので良かったです。
- ・活発な意見交換会となり、ワークショップの時間いっぱいを使って行うことができました。

平成 24 年度「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム」 フォローアップアンケート集計

参加ワークショップ数： 53
アンケート回答数： 38
アンケート回収率： 71.7 %

(23年度回収率 62.0%)

1 フォーラムで得たことは、貴団体の業務・活動にどの程度役立ちましたか。

(※%は「無回答」を除く)

	件数	%	※%
a. 非常に役立った	21	55.3	56.8
b. 役立った	16	42.1	43.2
c. あまり役立たなかった	—	—	—
d. 役立たなかった	—	—	—
無回答	1	2.6	
合 計	38	100.0	100.0

2 ワークショップ運営で得られたことは、その後の活動にどのように役立っていますか。具体的にご記入下さい。

- ・ワークショップに参加することで、他の団体と情報の交換ができた。また、他の自治体の取組みが具体的に分かり、自分のところでも取り入れられるかどうか
- ・ワークショップ開催においていただいた意見を参考に、推進活動に生かすことができた。
ワークショップを開催することによって委員自身の自己啓発につながった。
- ・ダイバーシティの当社施策に関して对外発表は初めてだったため、とてもいい経験刺激となりました。聴講させていただいたワークショップの他社状況を当社ダイバーシティを推進する上での参考とさせていただいております。
- ・本学の取り組みを多くの教育研究機関に波及することができ、様々な意見を頂くことができた。頂いた意見を参考に、リーダーシップ教育や女性研究者支援活動を推進することができた。
- ・主催事業や依頼請負において、その時に得られた経験やネットワークを活用しています。

3-(1) 他の参加者や団体とは、現在仕事や活動の中で連絡や情報交換をしていますか。

(※%は「無回答」を除く)

	件数	%	※%
a. よくしている	7	18.4	18.9
b. している	19	50.0	51.4
c. あまりしていない	7	18.4	18.9
d. していない	4	10.5	10.8
無回答	1	2.7	
合 計	38	100.0	100.0

「a. よくしている」、「b. している」の人数・回数の詳細

	1～5回	6回～10回	11回以上	無回答	合計
1人～5人	6	3	2	1	12
6人～10人	3	1	1	—	5
11人～	1	1	3	—	5
無回答	2	—	—	2	4
合 計	12	5	6	3	26

3-(2) a. どのような方法で連絡や情報交換等を行っていますか。

	件数	%(26件中)
電話	11	32.4
FAX	3	8.8
E-MAIL	23	67.6
ソーシャル・ネットワーキング・サービス	5	14.7
定期的な会合	4	11.8
その他	8	23.5

* 定期的な会合：人数・回数

- ・ 50人 (1件)
- ・ 15人 (2件)
- ・ 7人 (1件)
- ・ 5回 (1件)
- ・ 10回 (2件)

＊その他内容

メーリングリスト	アンケート	交流会、郵送により情報提供
講演会や報告会の開催を通じて	ハガキ	不定期の情報交換会、勉強会など
WANのポータルサイトを活用した情報交換		

3-(2) b. . . どのような個人・団体とどのようなつながりができたのか

- ・名刺交換した個人やNPO団体、地方公共団体等へ、本センターで主催するシンポジウムの案内をした。
- ・防災や復興に女性・ジェンダーの視点から取り組もうとしている団体へのパンフレット作成協力や、イベント情報、資料などの共有など。
- ・地域と世代を超えた継続的なつながりが、インターネットを活用したサイト上に生まれました。フォーラムという機会をいただいたことに感謝しています。
- ・ワークショップに参加して下さった他県の人たちと必要に応じて連絡したり、情報を交換したりしている。
- ・フォーラムで会った人がSNSで見つけてくれて、つながりができた。情報をメール等で交換している。
- ・大学の先生。同じような問題意識での研究をなさっている方。

4. フォーラムで得た成果やネットワークを、どのように普及・活用されましたか。実施された項目について口々にチェックし、具体的な状況・成果・課題についてご記入下さい。

① 所属する組織内での普及・活用

内 容	件数	%(38件中)
フォーラムの内容の報告・説明会の実施	15	39.5
各種報告書や広報誌への執筆・公表	13	34.2
勉強会・研修会の実施	10	26.3
所属する組織や団体の体制づくり	5	13.2
具体的な事業の企画・運営	9	23.7
その他	8	21.1

② 他機関、団体・グループ等に対する普及・活用

内 容	件数	%(38件中)
勉強会・研修会への協力	13	34.2
他の組織・団体の組織や体制の改善に向けた指導・助言	5	13.2
事業などを協働して実施	9	23.7
情報交換等のネットワークの形成	14	36.8
その他	11	28.9

平成24年度 交流学習会議 実施要項

1 目 的

男女共同参画の視点に立って地域づくりを推進する人材の育成を目的として、これまで会館の研修・交流事業に参加した者が地域に戻って実践したことを報告し合い学習する機会を設定し、循環型の人材育成システムを構築するとともに、各地の先進事例や地域における課題等を共有して、課題解決へのステップを進める。また、女性関連施設等の関連機関や女性団体・グループ等の意見交換を行い、会館と地域とのネットワーク形成と連携・協働の促進をはかる。これらの企画・実施について「交流学習会議協働連絡会」と協働して行うことで、地域づくりを推進する核人材の育成を促進する。

2 テーマ 『地域で男女共同参画を推進するために —実践交流を通して社会参画力を高める—』

3 期 日 平成25年2月8日（金）～2月10日（日）2泊3日

4 主 催 独立行政法人国立女性教育会館

5 会 場 国立女性教育会館 〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728 TEL 0493-62-6724（事業課直通） FAX 0493-62-6720（事業課） E-mail progdiv@nwec.jp（事業課）

6 出席者 これまで、国立女性教育会館の研修事業・交流事業等に参加された のち、地域でネットワークを構築し、実践活動を行っている女性団 体・グループのリーダー、男女共同参画・女性教育行政担当者、女 性関連施設関係者 等 100名

7 日 程 （各プログラムの間に10～15分程度の休憩があります）

2/8 (金)	13:00 14:00 14:15 15:00 16:45 17:15 18:00 20:00							
		受 付	開 会	情 報 提 供	特別講演	情 報 提 供		交流会
2/9 (土)	8:50 9:30	12:00 13:15		16:00 17:00		19:00		
	* 情 報 事 業 紹 介	分科会1	昼 食	分科会2	全体会	夕 食	* 報 告	
2/10 (日)	9:30 10:40 11:45							
		実践事 例報告	全体 討議	閉 会				

*2/9のNWE C情報事業の紹介及び報告は希望者のみのプログラムです。

8 内 容

【第1日】 2月8日（金）

（1）開会 14:00～14:15

- ①主催者あいさつ 内海 房子 国立女性教育会館理事長
- ②「交流学习会議協働連絡会」メンバー紹介
- ③日程等説明 国立女性教育会館事業課

（2）情報提供「これからの国立女性教育会館の役割について」 14:15～14:45

報告者：山根 徹夫 国立女性教育会館理事

（3）特別講演「地域における男女共同参画の推進に向けて」 15:00～16:30

講 師：柿沼 トミ子 全国地域婦人団体連絡協議会会長

（4）情報提供「国立女性教育会館のアーカイブ関連事業」 16:45～17:15

報告者：市村 櫻子 国立女性教育会館情報課課長

（5）交流会 18:00～20:00

参加団体・グループの自己紹介を通して関係づくりをすすめるとともに、自由に自分たちの活動について情報交換・意見交換を行います。

【第2日】 2月9日（土）

（6）NWE C情報事業の紹介（＊希望者のみ。先着 30 名）

8:50～ 9:20

女性教育情報センター、女性アーカイブセンター、女性情報ポータル“W i n e t”（ウィネット）を実際に見学しながら、最先端の情報事業について紹介します。

案 内：国立女性教育会館事業課・情報課

（7）分科会1『社会参画力のある地域人材養成の実践事例』とグループワーク

9:30～12:00

地域における特徴的な実践事例報告を聞き、参加者同士の意見交換や討議等のグループワークにより、課題解決へのステップを進めます。

分科会A「学習を活かした、次代のまちづくりを担う地域人材の育成」

報告者：徳永 京子 東広島ボランティアガイドの会会長（広島県）

コーディネーター：荒谷 信子 交流学习会議協働連絡会

学習支援：高橋 由紀 国立女性教育会館客員研究員

分科会 B 「外国人女性とともに男女共同参画社会をつくる～「We Do！」の活動を中心に～」

報告者：大倉 美恵 「We Do！」代表（岡山県）

尹 甲辰 「We Do！」前代表（岡山県）

コーディネーター：真邊 和美 交流学習会議協働連絡会

学習支援：渡辺 美穂 国立女性教育会館研究国際室研究員

（８）分科会 2 『社会参画力のある組織・団体の実践事例』とグループワーク

13:15～15:45

地域における特徴的な実践事例報告を聞き、参加者同士の意見交換や討議等のグループワークにより、課題解決へのステップを進めます。

分科会 C 「学びから起業へ 地域課題の解決と経済的自立へ向けて」

報告者：辻 悦子 企業組合でる・そーれ理事（青森県）

コーディネーター：小山内 世喜子 交流学習会議協働連絡会

学習支援：千装 将志 国立女性教育会館事業課専門職員

分科会 D 「大学生ボランティアによる「宿題カフェ」の取組」

報告者：白谷 素子 静岡学習支援ネットワーク代表（静岡県）

天池 優斗 静岡学習支援ネットワーク（静岡県）

コーディネーター：久門 正子 交流学習会議協働連絡会

学習支援：森下 敏広 国立女性教育会館事業課専門職員

分科会 E 「行政との協働による千葉市女性フォーラム 10 年のあゆみ」

報告者：仙波 慶子 千葉市女性団体連絡会会長（千葉県）

コーディネーター：松田 敏子 交流学習会議協働連絡会

学習支援：石崎 裕子 国立女性教育会館事業課専門職員

（９）全体会

16:00～17:00

各分科会の報告を通して、地域で男女共同参画を推進していく上での課題とその解決に向けた方向性・方策を共有します。

進 行：竹中 佳子 交流学習会議協働連絡会

報告者：各分科会コーディネーター

（10）調査研究報告（＊希望者のみ）

19:00～20:00

国立女性教育会館が行った最新の調査研究に関する報告を行います。

報告者：渡辺 美穂 国立女性教育会館研究国際室研究員

【第3日】 2月10日（日）

(11) 実践事例報告

9:30～10:30

昨年度の交流学习会議報告後の成果や、地域での実践活動について共有します。

報告1「苫小牧市男女平等参画社会都市宣言に向けた行政との連携・協働」

報告者：高橋 雅子 苫小牧男女平等参画推進協議会会長（北海道）

報告2「草津市男女共同参画市民会議い〜ぶん学舎のあゆみ」

報告者：重原 文江 草津市男女共同参画市民会議い〜ぶん学舎会長（滋賀県）

(12) 全体討議「社会参画の具体化と交流学习会議」

10:40～11:40

今後、さらに地域における男女共同参画を推進するため、新たな課題である社会参画の具体化について考えます。

進行：大島 煦美子 交流学习会議協働連絡会

(13) 閉会

11:45～12:00

主催者挨拶

11 「交流学习会議協働連絡会」（敬称略）

本事業の企画・運営を会館と協働で行います。

北海道	高橋 雅子	苫小牧男女平等参画推進協議会会長
	伴辺 久子	苫小牧男女平等参画推進協議会事務局長
	西島 美智子	らんざんの会会長
青森県	前田 みき	あおもりヌエック友の会代表
	小山内 世喜子	青森県男女共同参画センター副館長
岩手県	平賀 圭子	NPO法人参画プランニング・いわて理事長
	田端 八重子	もりおか女性センターセンター長
福島県	山崎 捷子	国際女性教育振興会福島県支部長
	星 倭女子	国際女性教育振興会福島県支部相談役
茨城県	城倉 純子	茨城県女性団体連盟
埼玉県	青木 和子	ヌエック・ポターノットの会
	宮本 紀子	NWECボランティアの会と利用者の会代表
千葉県	松田 敏子	ちば菜の花会世話人代表
東京都	青木 千恵	NPO法人男女共同参画おおた副理事長
新潟県	小野 庸子	新潟けやきの会、新潟県社会教育協会理事
	大島 煦美子	財団法人新潟県女性財団理事長
静岡県	松下 光恵	NPO法人男女共同参画フォーラムしずおか副代表理事
愛知県	渋谷 典子	NPO法人参画プラネット代表理事
滋賀県	若杉 貞子	滋賀NWECの会
	竹中 佳子	滋賀NWECの会

岡山県	真邊	和美	岡山市男女共同参画社会推進センター企画調整監
広島県	荒谷	信子	広島県紅葉会
山口県	岡本	早智子	シンクロナイズネット副代表
香川県	小野	泰子	全国女性教育懇話会
福岡県	三隅	佳子	NPO法人北九州サスティナビリティ研究所理事長
	久門	正子	北九州婦人教育研究会
熊本県	緒方	洋子	NPO法人チェンジライフ熊本理事長
沖縄県	上原	美智子	六十美会代表、全国女性教育懇話会

12 その他

- (1) 2月8日(金)および10日(日)に、国立女性教育会館と東武東上線武蔵嵐山駅間で無料送迎バスを運行いたします。
- (2) 期間中、職員が撮影した写真を、事業記録や広報のために使用することがあります。あらかじめご了承ください。

平成 24 年度 交流学習会議 参加者概況

平成25年3月7日現在

1. 性別

	合 計
女 性	82
男 性	16
合 計	98

定員 100 名
 申込者 103 名
 参加者 98 名
 (キャンセル) (5 名)
 応募倍率 103.0 %

2. 参加日別

	女 性	男 性	合 計
全日程	32	4	36
8日のみ	20	6	26
9日のみ	9	1	10
10日のみ	5	4	9
8,9日のみ	11	1	12
9,10日のみ	5	—	5
合 計	82	16	98

3. 年代

	女 性	男 性	合 計
20代	1	1	2
30代	3	—	3
40代	4	—	4
50代	12	4	16
60代以上	37	7	44
無回答	25	4	29
合 計	82	16	98

4. 所属

	女 性	男 性	合 計
a-1.代表・リーダー	22	3	25
a-2.役員	22	3	25
a-3.メンバー	19	5	24
b-1.教育委員会	—	—	—
b-2.男女共同参画行政	6	3	9
b-3.その他の行政	—	—	—
c-1.社会教育施設	—	—	—
c-2.女性関連施設	7	—	7
c-3.その他の施設	—	—	—
d.その他	6	2	8
合 計	82	16	98

a-*: 団体・グループ・NPO等

b-*: 行政担当者

c-*: 施設関係者

5. 交流会参加

	合 計
女 性	48
男 性	5
合 計	53

6. 情報センター見学参加

	合 計
女 性	10
男 性	3
合 計	13

7. 分科会1

	女 性	男 性	合 計
A	30	3	33
B	9	2	11
合 計	39	5	44

8. 分科会2

	女 性	男 性	合 計
C	15	1	16
D	4	2	6
E	24	3	27
合 計	43	6	49

※地域ブロック別参加者内訳

	女 性	男 性	合 計	%
北海道・東北	15	—	15	15.3
関東	42	5	47	48.0
甲信越	9	4	13	13.3
北陸・東海	1	3	4	4.1
近畿	2	1	3	3.1
中国・四国	6	1	7	7.1
九州・沖縄	7	2	9	9.2
合 計	82	16	98	100.0

9. 都道府県別

※政令指定都市(カッコ内)は都道府県の内数に含む

		女 性	男 性	合 計
北海道・東北	北海道	2	—	2
	（札幌市）	（—）	（—）	（—）
	青森県	6	—	6
	岩手県	7	—	7
	宮城県	—	—	—
	（仙台市）	（—）	（—）	（—）
	秋田県	—	—	—
	山形県	—	—	—
福島県	—	—	—	
関東・甲信越	茨城県	—	—	—
	栃木県	—	—	—
	群馬県	—	—	—
	埼玉県	23	3	26
	（さいたま市）	（3）	（—）	（3）
	千葉県	9	—	9
	（千葉市）	（6）	（—）	（6）
	東京都	10	2	12
	神奈川県	—	—	—
	（横浜市）	（—）	（—）	（—）
（川崎市）	（—）	（—）	（—）	
（相模原市）	（—）	（—）	（—）	
甲信越	山梨県	—	—	—
	新潟県	5	—	5
	（新潟市）	（3）	（—）	（3）
	長野県	4	4	8
北陸・東海	富山県	—	—	—
	石川県	—	—	—
	福井県	—	—	—
	岐阜県	—	—	—
	静岡県	1	2	3
	（静岡市）	（1）	（2）	（3）
	（浜松市）	（—）	（—）	（—）
	愛知県	—	1	1
	（名古屋市）	（—）	（—）	（—）
三重県	—	—	—	
近畿	滋賀県	2	1	3
	京都府	—	—	—
	（京都市）	（—）	（—）	（—）
	大阪府	—	—	—
	（大阪市）	（—）	（—）	（—）
	（堺市）	（—）	（—）	（—）
	兵庫県	—	—	—
	（神戸市）	（—）	（—）	（—）
	奈良県	—	—	—
和歌山県	—	—	—	
中国・四国	鳥取県	—	—	—
	島根県	—	—	—
	岡山県	3	1	4
	（岡山市）	（3）	（1）	（4）
	広島県	2	—	2
	（広島市）	（—）	（—）	（—）
	山口県	—	—	—
	徳島県	—	—	—
	香川県	1	—	1
	愛媛県	—	—	—
高知県	—	—	—	
九州・沖縄	福岡県	1	—	1
	（北九州市）	（1）	（—）	（1）
	（福岡市）	（—）	（—）	（—）
	佐賀県	—	—	—
	長崎県	6	2	8
	熊本県	—	—	—
	（熊本市）	（—）	（—）	（—）
	大分県	—	—	—
	宮崎県	—	—	—
	鹿児島県	—	—	—
沖縄県	—	—	—	
合 計		82	16	98

平成24年度「交流学習会議」アンケート集計結果

定員	100 名
応募者	103 名
応募倍率	103 %
実参加者	98 名(女性82名、男性16名)
アンケート回答数	43 件
アンケート回答率	43.878 %

I 1 本事業に関するご意見・ご感想をお聞かせください。

(1)各プログラムの内容について

情報提供「これからの国立女性教育会館の役割について」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	3	8.8	—	—	2	100.0	5	11.7	5	14.3
有用であった	22	64.7	4	57.1	—	—	26	60.3	26	74.3
あまり有用でなかった	3	8.8	1	14.3	—	—	4	9.3	4	11.4
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	4	11.8	1	14.3	—	—	5	11.7		
無回答	2	5.9	1	14.3	—	—	3	7.0		
合計	34	100.0	7	100.0	2	100.0	43	100.0	35	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

<非常に有用であった理由>

- ・ NWE Cを尊重していく思いが深まった。人材は人の力（気付き）人の存在意義を支え合うよう生まれ、育みあい、成長する。
- ・ 国立女性教育会館 女性の教育の場所として大切だ。

<有用であった理由>

- ・ NWE Cの現状、これからの機能や役割など、具体的で分かりやすかった。
- ・ 開館からの世界、日本の変化の中で、これからこそその役割は重要になると思う。
- ・ 気になっていたNWE Cの来年度事業についてご説明いただき参考になった。

特別講演「地域における男女共同参画の推進に向けて」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	15	44.1	4	57.1	1	50.0	20	46.6	20	52.6
有用であった	15	44.1	2	28.6	1	50.0	18	41.7	18	47.4
あまり有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	2	5.9	—	—	—	—	2	4.7		
無回答	2	5.9	1	14.3	—	—	3	7.0		
合計	34	100.0	7	100.0	2	100.0	43	100.0	38	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

<非常に有用であった理由>

- ・ 地域に根ざすことの大切さが解った。
- ・ ユーモアもあり、解りやすい講演であった。これまでのチャレンジし続ける姿勢・視点は素晴らしいと思った。
- ・ まさにワークライフバランスの実践。すごい方だと思った。
- ・ 地域における男女共同参画組織を私物化しない。女性が女性の足を引っ張らない等、思い当たる事沢山だ。

<有用であった理由>

- ・ 100人の1字より一人の深い学び。今悩ましいところに来ていると思う。
- ・ 男性の質問は私どもも（多くは男性から）提示されるものだ。参加者の様子を見てチョイスすることが必要なのだろう。でも、「男女平等」の根本はいつも根っこに据わっている。
- ・ どういう分野でも男性も女性も参画しないと成り立たないこと。くらしに女性の視点をとということが歴史的背景もふまえて理解できた。

情報提供「国立女性教育会館のアーカイブ関連事業」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	14	41.3	1	14.3	—	—	15	34.9	15	42.9
有用であった	13	38.2	4	57.1	—	—	17	39.5	17	48.5
あまり有用でなかった	1	2.9	1	14.3	1	50.0	3	7.0	3	8.6
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	3	8.8	—	—	—	—	3	7.0		
無回答	3	8.8	1	14.3	1	50.0	5	11.6		
合計	34	100.0	7	100.0	2	100.0	43	100.0	35	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

情報提供「国立女性教育会館のアーカイブ関連事業」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	14	41.3	1	14.3	—	—	15	34.9	15	42.9
有用であった	13	38.2	4	57.1	—	—	17	39.5	17	48.5
あまり有用でなかった	1	2.9	1	14.3	1	50.0	3	7.0	3	8.6
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	3	8.8	—	—	—	—	3	7.0		
無回答	3	8.8	1	14.3	1	50.0	5	11.6		
合計	34	100.0	7	100.0	2	100.0	43	100.0	35	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

＜非常に有用であった理由＞

- ・着々と成果を挙げ、今後残された余白もまだまだ希望のもてる情報だった。
- ・地方に生活する人々への情報発信、資料活用はとても重要である。
- ・最新情報の提供と保管、これぞNWECだ。
- ・アーキビスト研修にも参加させていただいたが、そのときから、またさらに進展されていて驚いた。見習う。

＜有用であった理由＞

- ・女性の活躍の記録を残すこと、大切だ。
- ・変革。女性関連施設のそれぞれが求められつつあると思っている。アーカイブの大事さを痛感しながら、予算ない人手不足等で先送りになっている現状をどうにかせねばと気が焦った。
- ・今までの事業に加え、地域の大学、短期大学等との連携について興味深かった。
- ・事業内容ならびに女性アーカイブセンター、情報ポータル、そして男女共同参画情報センターの「情報事業」の活用が伝わる。
- ・本県でどんな連携ができるか考えてみる。

交流会

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	14	41.3	1	14.3	—	—	15	34.9	15	42.9
有用であった	13	38.2	4	57.1	—	—	17	39.5	17	48.5
あまり有用でなかった	1	2.9	1	14.3	1	50.0	3	7.0	3	8.6
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	3	8.8	—	—	—	—	3	7.0		
無回答	3	8.8	1	14.3	1	50.0	5	11.6		
合計	34	100.0	7	100.0	2	100.0	43	100.0	35	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

＜非常に有用であった理由＞

- ・全国の課題が地方と変わらず共感できてよかった。
- ・全国からいらっしゃった参加者の皆さんと交流でき、大変有意義だった。
- ・皆さん積極的な交流。急に近くなり日本は狭いなと思うほどだった。

＜有用であった理由＞

- ・いろいろな地方の方が参加されており、特色ある地域紹介で楽しい交流ができた。
- ・全国から集まった個性と実践力、経験を積まれた方々との出会いに力をもらった。

NWEC情報事業の紹介(希望者のみ)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	4	11.8	1	14.3	—	—	5	11.6	5	27.8
有用であった	9	26.5	1	14.3	2	100.0	12	27.9	12	66.7
あまり有用でなかった	1	2.9	—	—	—	—	1	2.3	1	5.5
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	4	11.8	—	—	—	—	4	9.3		
無回答	16	47.0	5	71.4	—	—	21	48.9		
合計	34	100.0	7	100.0	2	100.0	43	100.0	18	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

＜非常に有用であった理由＞

- ・保存箱のお得情報は大変ありがたい。デジタルアーカイブについても参考になった。
- ・新たな「ことば」が次々と生み出されていることも含め参考になった。

＜有用であった理由＞

- ・ネットワークは素晴らしい。
- ・興味深く資料を拝見した。NWECならばこそと・・・大切な資料ばかり。

分科会1「社会参画力のある地域人材養成の実践事例」とグループワーク

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%
分科会A	22	64.7	3	42.8	1	50.0	26	60.5
分科会B	9	26.5	2	28.6	1	50.0	12	27.9
不明	3	8.8	2	28.6	-	-	5	11.6
合計	34	100.0	7	100.0	2	100.0	43	100.0

<事例報告について> *男女別

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	21	61.7	3	42.8	1	50.0	25	58.1	25	67.6
有用であった	9	26.5	1	14.3	1	50	11	25.6	11	29.7
あまり有用でなかった	-	-	1	14.3	-	-	1	2.3	1	2.7
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	2	5.9	-	-	-	-	2	4.7		
無回答	2	5.9	2	28.6	-	-	4	9.3		
合計	34	100.0	7	100.0	2	100.0	43	100.0	37	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

<事例報告について> *分科会コース別

	A	%	B	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	16	61.5	9	75.0	-	-	25	58.1	25	67.6
有用であった	8	30.9	3	25.0	-	-	11	25.6	11	29.7
あまり有用でなかった	1	3.8	-	-	-	-	1	2.3	1	2.7
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	1	3.8	-	-	1	20.0	2	4.7		
無回答	-	-	-	-	4	80.0	4	9.3		
合計	26	100.0	12	100.0	5	100.0	43	100.0	37	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

<話し合いについて> *男女別

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	20	58.8	2	28.6	1	50.0	23	53.5	23	63.9
有用であった	11	32.4	2	28.6	-	-	13	30.2	13	36.1
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	1	2.9	-	-	-	-	1	2.3		
無回答	2	5.9	3	42.9	1	50.0	6	14.0		
合計	34	100.0	7	100.0	2	100.0	43	100.0	36	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

<話し合いについて> *分科会コース別

	A	%	B	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	16	61.5	6	50.0	-	-	22	51.2	22	61.1
有用であった	10	38.5	4	33.3	-	-	14	32.5	14	38.9
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	-	-	-	-	1	20.0	1	2.3		
無回答	-	-	2	16.7	4	80.0	6	14.0		
合計	26	100.0	12	100.0	5	100.0	43	100.0	36	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

<全般・その他> *男女別

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	15	44.1	-	-	1	50.0	16	37.2	16	45.7
有用であった	14	41.2	5	71.4	-	-	19	44.2	19	54.3
あまり有用でなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
有用ではなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加しなかった	1	2.9	-	-	-	-	1	2.3		
無回答	4	11.8	2	28.6	1	50.0	7	16.3		
合計	34	100.0	7	100.0	2	100.0	43	100.0	35	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

＜分科会A 理由＞

- やり続けることが、活動の活性化として実を結んでいる事例をお聞きし大変嬉しかった。若い世代との連携、仕掛けについてももう少し議論できれば良かった。
- 学校を活かした次代のまちづくりを担う地域人材の育成「ボランティアガイドの会」の方の地域にかける思い、とても感動的だった。必ずや地域の人材育成につながっていくと思った。活動の過程そのものが男女共同参画の推進も継承していくものと思う。
- 観光という切り口から、子どもから大人まで参加できる活動は事例として参考になる点がたくさんあった。また、話し合いによって参加者の皆さんの活動、その地域の実情や課題についても知ることが出来た。
- 男女共同参画の活動に限らず、様々な活動（ボランティア等）の中に、男女共同参画の視点をもった人が活動の中で伝えていければもっと拡がると実感した。
- 行政・施設のすること、市民の底上げを、もみほぐす、ときほぐすで取り組もうと盛り上がったグループワーク。出会えたことに感謝だ。「女性の人権」の今ある驚き部分を知ったことも貴重だった。出会わなければ「今あること」を見落としていたかも知れない。
- 他団体の活動が話し合いの時伺えてとても参考になった。
- 私の市にもボランティアガイドを立ち上げ、現在は市の歴史検定事業まで発展させたグループがある。彼、彼女等に今回の事例を報告してみようと思う。また新しい方向性が見えるかもしれない。
- 事例報告もさることながら、グループワークで情報交換をしながら、課題解決に向け、また自分の活動にどう活かせるかの糸口がつかめた。

＜分科会B 理由＞

- 興味のある話が聞けてよかった。
- 外国の人が持っている不便さ、思いが伝わった。
- 報告者の課題に対する意識がしっかりしていた。
- 「社会参画力」とは何かと思っていたが、岡山の事例は男女共同参画センターの役割、そこでの職員の役割、行政と市民をつなぐ意味など、素晴らしい事例だった。参加者全員で話し合いができ、よかった。

分科会2「社会参画力のある地域・団体の実践事例」とグループワーク

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%
分科会C	10	29.4	1	14.3	1	50.0	12	27.9
分科会D	5	14.7	1	14.3	1	50.0	7	16.3
分科会E	12	35.3	3	42.8	—	—	15	34.9
不明	7	20.6	2	28.6	—	—	9	20.9
合計	34	100.0	7	100.0	2	100.0	43	100.0

＜事例報告について＞ *男女別

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	19	63.5	3	42.8	—	—	22	55.7	22	70.6
有用であった	9	15.5	1	14.3	1	50.0	11	16.3	11	20.6
あまり有用でなかった	1	6.0	1	14.3	—	—	2	7.0	2	8.8
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	1	12.0	2	28.6	—	—	3	14.0		
無回答	4	3.0	—	—	1	50.0	5	7.0		
合計	34	100.0	7	100.0	2	100.0	43	100.0	35	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

＜事例報告について＞ *分科会コース別

	C	%	D	%	E	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	11	91.7	4	57.1	7	46.6	2	22.2	24	55.7	24	70.6
有用であった	1	8.3	2	28.6	4	26.7	—	—	7	16.3	7	20.6
あまり有用でなかった	—	—	—	—	3	20.0	—	—	3	7.0	3	8.8
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	—	—	—	—	—	—	6	66.7	6	14.0		
無回答	—	—	1	14.3	1	6.7	1	11.1	3	7.0		
合計	12	100.0	7	100.0	15	100.0	9	100.0	43	100.0	34	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

＜話し合いについて＞ *男女別

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	18	52.9	1	14.3	—	—	19	44.2	19	54.3
有用であった	9	26.5	3	42.8	1	50.0	13	30.2	13	37.1
あまり有用でなかった	2	5.9	1	14.3	—	—	3	7.0	3	8.6
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	1	2.9	—	—	—	—	1	2.3		
無回答	4	11.8	2	28.6	1	50.0	7	16.3		
合計	34	100.0	7	100.0	2	100.0	43	100.0	35	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

＜話し合いについて＞ *分科会コース別

	C	%	D	%	E	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	8	66.7	2	28.6	8	53.3	1	11.1	19	44.2	19	54.3
有用であった	4	33.3	4	57.1	4	26.7	1	11.1	13	30.2	13	37.1
あまり有用でなかった	—	—	—	—	3	20.0	—	—	3	7.0	3	8.6
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	—	—	—	—	—	—	1	11.1	1	2.3		
無回答	—	—	1	14.3	—	—	6	66.7	7	16.3		
合計	12	100.0	7	100.0	15	100.0	9	100.0	43	100.0	35	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

＜全般・その他＞ *男女別

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	18	52.9	1	14.3	—	—	19	44.1	19	55.9
有用であった	9	26.5	3	42.8	—	—	12	28.0	12	35.3
あまり有用でなかった	2	5.9	1	14.3	—	—	3	7.0	3	8.8
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	—	—	—	—	1	50.0	1	2.3		
無回答	5	14.7	2	28.6	1	50.0	8	18.6		
合計	34	100.0	7	100.0	2	100.0	43	100.0	34	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

＜全般・その他＞ *分科会コース別

	C	%	D	%	E	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	8	66.7	2	28.6	7	46.7	2	22.2	19	44.2	19	54.3
有用であった	3	25.0	4	57.1	5	33.3	1	11.1	13	30.2	13	37.1
あまり有用でなかった	—	—	—	—	3	20.0	—	—	3	7.0	3	8.6
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
無回答	1	8.3	1	14.3	—	—	6	66.7	8	18.6		
合計	12	100.0	7	100.0	15	100.0	9	100.0	43	100.0	35	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

＜分科会C 理由＞

- ・ NPOの活動から起業、そして現在に至るまでの状況、課題、それに対する解決法などをお話いただき大変参考になった。また、活動をしている中で感じてきた気持ちを率直に話してくださったことがとても印象深かった。そのお蔭で話し合いも初対面とは思えない深い話が出来た。とても楽しかった。
- ・ 起業を考えているので、とても役だった。起業している方と考えている方が多く、刺激を受けた。
- ・ 私の背中を押してくれたのは夫だったの言葉が心に残った。とても良い話し合いの場だった。
- ・ 北海道から九州までそれぞれの地域の問題違いを実感。小さな町だからこそできること。都会だから賛同されることなど、学びを深め、自立をし、更に地域へと情報発信をしていくことが女性の感性、発想、行動力、学習によって生まれている。動いていることに少しずつ社会が変化していると感じた。

＜分科会D 理由＞

- ・ 静岡大学のお二人の活動をお聞きし、様々な示唆をその瞬間いただくことが出来た。私は働きながら学ぶ今の我が身と学業と就労前の彼らのような学生とどこかにているエネルギーと、この場を創出する今後の尽力を両手とゆるがない体軸、痛感する。
- ・ Dの事例は1／4位しか聞けず残念だったが、全国に参考となる事例と思った。

＜分科会E 理由＞

- ・ 新たな課題を共有し、学習会で会った方々がつながって支援するという事例があり、とても良かった。
- ・ 協働について話し合ったのがとても良かった。特にグループには行政の方が多かったので勉強になった。指定管理や行政内部の動き、もちろん団体のエンパワーメント、話し合うことの重要性を確認した。「これから」だ。
- ・ 交流学习会議の意義について考えさせられた。本当にこの学習は意味あり、学ぶ事になった。今後も続けていきたいと思った。

＜分科会不明 理由＞

- ・ 男女共同参画を進める上で関連施設の支援役割についてのヒントをいただいた。

全体会

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	9	26.5	1	14.3	—	—	10	23.3	10	29.4
有用であった	17	50.0	4	57.1	1	50.0	22	51.1	22	64.7
あまり有用でなかった	2	5.9	—	—	—	—	2	4.7	2	5.9
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	6	17.6	2	28.6	1	50.0	9	20.9	—	—
合計	34	100.0	7	100.0	2	100.0	43	100.0	34	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

＜非常に有用であった理由＞

- ・ コンパクトに聞けるのがよい。他の分科会のことが気になったから。
- ・ 参加しなかったB、C、D分科会のことをお聞きできて大変良かった。

＜有用であった理由＞

- ・ 参加できなかった分科会の内容を知ることが出来、この事業の素晴らしさを実感できた。
- ・ コーディネーターの方々の分科会のまとめ方や話し方等素晴らしく大変勉強になった。
- ・ コーディネーターによって進め方、得られるものが違うと感じた。

調査研究報告(希望者のみ)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	3	8.8	—	—	—	—	3	7.0	3	23.1
有用であった	6	17.6	3	42.9	1	50.0	10	23.3	10	76.9
あまり有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	4	11.8	—	—	—	—	4	9.3	—	—
無回答	21	61.8	4	57.1	1	50.0	26	60.4	—	—
合計	34	100.0	7	100.0	2	100.0	43	100.0	13	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

＜非常に有用であった理由＞

- ・ 調査結果を今後の講座企画に役立てたい。

＜有用であった理由＞

- ・ 男性にとっての男女共同参画課題は大だが、取り組んでいきたい。
- ・ 地方では男性が地域に参画することは当然のことだ。その中へ女性が参画することが難しく、男女双方の意識を変える必要があると思う。

実践事例報告

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	12	35.3	3	42.9	—	—	15	34.9	15	53.6
有用であった	9	26.5	3	42.9	1	50.0	13	30.2	13	46.4
あまり有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
参加しなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	13	38.2	1	14.2	1	50.0	15	34.9	—	—
合計	34	100.0	7	100.0	2	100.0	43	100.0	28	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

＜非常に有用であった理由＞

- ・ 発表内容も整理され、活動による成果の見える化、実践することの大事さがよく分かる内容であった。
- ・ 苦小牧の取組は長い実績の積み重ねで都市宣言へと素晴らしいと思った。
- ・ 30年のあゆみの成功の手法が聞けて本当に良かった。10年のあゆみは私にも身近で大変参考になった。
- ・ 既成の団体外での活動の力強さ、行政との信頼関係の構築は大きな推進力となっていることに感動した。
- ・ 創立30年、10年それぞれの活動事例の報告、大変素晴らしいと思う。
- ・ 実践している方の話は大変重みがあると思う。

＜有用であった理由＞

- ・ あと5～10分の質問時間があるとよかった。
- ・ 報告者の思いが伝わりよかった。事業規模などの基礎データがあるとよいのでは。

(2) 全体討議「社会参画の具体化と交流学習会議」

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
非常に有用であった	8	23.5	2	28.6	1	50.0	11	25.6	11	45.8
有用であった	10	29.4	3	42.8	—	—	13	30.2	13	54.2
あまり有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
有用ではなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	16	47.1	2	28.6	1	50.0	19	44.2		
合計	34	100.0	7	100.0	2	100.0	43	100.0	24	100.0

(※は「参加しなかった」「無回答」を除いた割合)

<非常に有用であった理由>

- ・最後に全体で共有できてよかった。
- ・
- ・ピンチをチャンスに変えていく、女性自ら実践・行動を起こす事が大事と勇気もらった。全国の情報を聞き参考になった。
- ・みなさま方の実践されている熱意が伝わり、私も頑張らなければと思った。

<有用であった理由>

- ・ヌエックへの期待、提案共感した。常に課題をもって学習プログラムの開発、今回は橋渡しできる人材の育成。
- ・進捗が良かった。学習を通じた男女共同参画の推進を考える機会となった。
- ・具体的にいろいろ発表され、参考になった。時間が少ない。

(2) 事業全体について

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%	※%
非常に有用であった	13	38.2	2	28.6	1	50.0	16	37.2	47.1	100.0
有用であった	15	44.2	3	42.8	—	—	18	41.9	52.9	
あまり有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
有用でなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
無回答	6	17.6	2	28.6	1	50.0	9	20.9		
合計	34	100.0	7	100.0	2	100.0	43	100.0	100.0	100.0

(※は「無回答」を除いた割合)

<非常に有用であった理由>

- ・日本全国の素晴らしい女性といろいろな情報を共有し、意見の交換が出来たことが、とても有意義だった。毎晩11時過ぎまでのミーティングがとても楽しくあつという間の2泊3日だった。
- ・全国で活動されている女性団体が集まって交流・学習する場として、とても有意義だと感じた。
- ・全国の参加者と交流できることが力となることを実感できた。
- ・今年は分科会に十分時間をとっていただき、報告者も参加者もしっかり自分の意見を述べる事ができたと思う。
- ・今回で2回目。前回と違った学び、新たな発見があった。いかに実践につなげることができるか、プレッシャーと課題だ。
- ・今年で5回目の参加だが、今年が一番良かったと思う。日程全部参加できた。特に9日の分科会の進め方が良かった。

<有用であった理由>

- ・平成25年度の事業計画(予定)をありがとうございます。(新規)に期待して、(仮称)の男女共同参画推進フォーラムまで見直すときと研鑽する力を十分に戻せることは成果だった。
- ・たくさんのアドバイスをいただいた。ぜひ、地域の活動に活かしていきたいと思った。
- ・女性センターの在り方や行政との協働について、うまくいっていない課題や愚痴が多く聞かれたが、行政に提案しながら自立して活動しているセンター、団体もあると思う。そうした事例を紹介して学んでいけたらよいと思う。

2 交流学習会議に参加された目的と達成度について 目的(複数回答)

	女性	% (34名中)	男性	% (7名中)	不明	% (2名中)	合計	% (43名中)
1 テーマについて情報・知識を得ること	17	50.0	1	14.3	—	—	18	41.9
2 自分の抱える問題を解決する手がかりを得ること	12	35.3	2	28.8	1	50.0	15	34.9
3 研究・実践活動に必要な知識や情報を得ること	17	50.0	2	28.8	—	—	19	44.2
4 日ごろの思いを共感してもらえ関係づくり、交流をすること	11	32.4	1	14.3	—	—	12	27.9
5 仲間づくりやネットワークづくりに役立てること	14	41.2	2	28.8	—	—	16	37.2
6 宿泊や交流を通じて、活動への意欲を高めること	14	41.2	1	14.3	—	—	15	34.9
7 その他	2	5.9	—	—	—	—	2	4.7

①テーマについて情報・知識を得ること

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分できた	8	23.5	1	14.2	—	—	9	21.0	9	34.6
おおむねできた	14	41.2	3	42.9	—	—	17	39.5	17	65.4
あまりできなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	12	35.3	3	42.9	2	100.0	17	39.5	—	—
合計	34	100.0	7	100.0	2	100.0	43	100.0	26	100.0

(※は「無回答」を除いた割合)

②自分の抱える問題を解決する手がかりを得ること

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分できた	3	8.8	—	—	—	—	3	7.0	3	12.0
おおむねできた	14	41.2	5	71.4	—	—	19	44.2	19	76.0
あまりできなかった	3	8.8	—	—	—	—	3	7.0	3	12.0
できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	14	41.2	2	28.6	2	100.0	18	41.8	—	—
合計	34	100.0	7	100.0	2	100.0	43	100.0	25	100.0

(※は「無回答」を除いた割合)

③研究・実践活動に必要な知識や情報を得ること

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分できた	8	23.5	—	—	—	—	8	18.6	8	29.6
おおむねできた	14	41.0	4	57.1	—	—	18	41.9	18	66.7
あまりできなかった	1	2.9	—	—	—	—	1	2.3	1	3.7
できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	11	32.6	3	42.9	2	100.0	16	37.2	—	—
合計	34	100.0	7	100.0	2	100.0	43	100.0	27	100.0

(※は「無回答」を除いた割合)

④日ごろの思いを共感してもらえる関係づくり、交流をすること

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分できた	8	23.5	2	28.6	—	—	10	23.3	10	41.6
おおむねできた	11	32.4	2	28.6	—	—	13	30.2	13	54.2
あまりできなかった	—	—	1	14.2	—	—	1	2.3	1	4.2
できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	15	44.1	2	28.6	2	100.0	19	44.2	—	—
合計	34	100.0	7	100.0	2	100.0	43	100.0	24	100.0

(※は「無回答」を除いた割合)

⑤仲間づくりやネットワークづくりに役立てること

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分できた	6	17.6	2	28.6	—	—	8	18.6	8	33.3
おおむねできた	11	32.4	2	28.6	—	—	13	30.2	13	54.2
あまりできなかった	2	5.9	1	14.2	—	—	3	7.0	3	12.5
できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	15	44.1	2	28.6	2	100.0	19	44.2	—	—
合計	34	100.0	7	100.0	2	100.0	43	100.0	24	100.0

(※は「無回答」を除いた割合)

⑥宿泊や交流を通じて、活動への意欲を高めること

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分できた	9	26.5	—	—	—	—	9	20.9	9	36.0
おおむねできた	11	32.4	3	42.9	—	—	14	32.6	14	56.0
あまりできなかった	1	2.9	1	14.2	—	—	2	4.7	2	8.0
できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	13	38.2	3	42.9	2	100.0	18	41.8	—	—
合計	34	100.0	7	100.0	2	100.0	43	100.0	25	100.0

(※は「無回答」を除いた割合)

⑦その他

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※	※%
十分できた	—	—	1	14.2	—	—	1	2.3	1	33.3
おおむねできた	2	5.9	—	—	—	—	2	4.7	2	66.7
あまりできなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
できなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無回答	32	94.1	6	85.8	2	100.0	40	93.0	—	—
合計	34	100.0	7	100.0	2	100.0	43	100.0	3	100.0

(※は「無回答」を除いた割合)

3 本研修への満足度は、いかがでしたか。

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%	※%
非常に満足した	9	26.5	1	14.2	—	—	10	23.3	27.0	89.2
満足した	19	55.9	3	43.0	1	50.0	23	53.4	62.2	
少し物足りなかった	3	8.8	1	14.2	—	—	4	9.3	10.8	10.8
物足りなかった	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
無回答	3	8.8	2	28.6	1	50.0	6	14.0	—	—
合計	34	100.0	7	100.0	2	100.0	43	100.0	100.0	100.0

(※%は「無回答」を除いた割合)

<非常に満足であった理由>

- ・この事業の存在意義をつくづく感じた。参加者が少なかった感じはあるが、十分交流がなされたのではないだろうか。
- ・ヌエックでの研修は、いつ来ても自分の活動を振り返り、また今後に向けて頑張ろうという気持ちになる。お世話様になりました。

<満足であった理由>

- ・事例発表が少ないと関係者の方々の参加も少なくなるのかと思う。しかし、分科会の話し合いの時間がたっぷりなのはよかったので、両方よくはないかと思う。
- ・行政の協働に関する分科会、報告会においての話が参考になった。循環型、学習と交流の大切さを実感している。今回も大変刺激を受けた。継続の学習会をせつに希望する。学習を活かし、地域で意識して実践していきたい。
- ・十分にどの場、どの時間、どの関係性でも、どこからでも始められると確信した。交流する基盤にここNWE Cで学び始めたばかりの私でも受容されることは感謝でいっぱいだ。
- ・若い人につないでいくことばかりを考えていた事に目から鱗のようなヒントをもらえたことは最大の成果だった。(私達世代は少しのサポートでいいのでは) その世代その世代に解決すべきことは自ら考え実践する事の大切さがあること。

<少し物足りなかった理由>

- ・各地域でよく取りざたされる課題をヌエックでも見た気がした。すなわち、恒例の決まった女性が参加者の大半。
- ・男性や若い方の出席が少なく残念だった。異世代、異性の話も聞きたかった。私と同世代の方達が多かったので、どうしても考え方が似通ってしまう。違う意見、違う考えが交じってこそ新しい事業、新しい解決策も生まれるのではないだろうか。

4 《会館に宿泊された方のみ》会館に宿泊されたことで得ることができたことは何ですか。

	女性	% (34名中)	男性	% (7名中)	不明	% (2名中)	合計	% (43名中)
①新しい出会いがあり、仲間づくりができた	22	64.7	4	57.1	—	—	26	60.5
②日ごろの思いを共感してもらえる交流ができた	15	44.1	1	14.3	—	—	16	37.2
③ネットワークづくりのきっかけをつかむことができた	5	14.7	2	28.6	—	—	7	16.3
④ネットワークを深めることができた	5	14.7	—	—	—	—	5	11.6
⑤新しくネットワークができた	5	14.7	—	—	—	—	5	11.6
⑥その他	2	5.9	—	—	—	—	2	4.7

5 その他 国立女性教育会館の事業や施設等についてご自由にご意見をお書きください。

- ・事業として男女共同参画教育・学習支援事業・研修事業・調査研究事業・情報事業・国際関係事業が、男女共同参画社会ならびに世界恒久平和の実現に届くまでこの武蔵嵐山の地の独立行政法人国立女性教育会館しか造れない人材、財力を「公」の市場原理に左右されてはならないもの「公共投資力」を学びたい。
- ・交流学习会議のような場を是非今後も続けていただきたい。今までのネットワーク的なものを参加当事者の胸の中、経験の中に留めておくだけではあまりにももったいない資源であり、何らかの形でこの全国交流（主題毎に参加地域が変わってもかまわないので）という仕組みを維持する企画を残していただきたい。
- ・国立としての存在は大切なことだと思う。もっと若い世代が学びやすい情報などを県レベルだけでなく市町にも宣伝する。（それは県の役割かもしれないが）
- ・各分野のリーダーをそれぞれの組織において具体的な内容を決めて実行していく研修の充実を期待している。ヌエックの情報収集機能及び調査研究の充実がますます楽しみだ。スタッフの皆様の男女共同参画社会の実現にける熱意にお応えできるよう頑張る。
- ・地域の方々に会館を紹介・案内するが、なかなか利用まで結びつかないのが現状だが、少しずつ関心をもたれていることを実感している。素晴らしい環境。施設が継続できることを切望し、事業を含めアピールしていきたいと思っている。
- ・初めて訪れ、大変素晴らしい施設であることを知った。今後、何かのきっかけの時に利用したいと思った。学習要素を更に広げて多くの女性に利用されることを願う。
- ・私は30代から60代、そして70代になってもヌエックで学習させていただいた。今後もこのような会館であって欲しいと願う。夏のフォーラム、また2月から3月の交流学习会議は実施して欲しいと思う。

平成24年度 男女共同参画交流特別週間（らんざん交流ウィーク）

実施要項

1 趣旨

国立女性教育会館では、男女共同参画交流特別週間（らんざん交流ウィーク）を設け、この期間に全国の地方自治体・女性関連施設・団体・グループ等が企画する研修・学習による利用を積極的に受入れ、男女共同参画に関する講演、講義、国立女性教育会館の施設や事業等に関する情報提供、施設見学等を行うとともに、各団体が相互に参加者同士の交流や情報交換を行える機会を提供します。

2 主催 独立行政法人国立女性教育会館

協力 女子栄養大学、日本女子体育大学、ヌエック・ボランティア、ヌエック・ノットの会

3 会 場

国立女性教育会館

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町大字菅谷728番地

4 期 間 平成24年11月6日（火）～9日（金） 4日間

5 対 象 期間中、国立女性教育会館を利用する団体及び個人

6 プログラムについて

- ・国立女性教育会館からは、以下のような様々なプログラムを提供いたしますので、研修や交流の促進のためにぜひご活用ください。詳細を「別添1 男女共同参画交流特別週間（らんざん交流ウィーク）申込書」でご覧の上、お申し込みください（会場の都合等がありますので、原則として事前申し込み制となります）。
- ・会館提供プログラムにご参加の方は、この期間中に会館施設を利用して、各団体のプログラムを行っていただくこともできます。
- ・本研修プログラムは、国立女性教育会館と連携協定を締結しております女子栄養大学ならびに日本女子体育大学の協力を得て実施しております。

〔国立女性教育会館提供プログラム〕

A 男女共同参画について学ぶための講座

- ①「人と人をつなぐ・まちをつくる～男女共同参画の視点から～」
講師：セーラ・マリ・カミングス 株式会社榊一市村酒造場代表取締役
- ②「男女共同参画の推進とこれからの国立女性教育会館の役割」
講師：山根 徹夫 国立女性教育会館理事
- ③「ピアトリクス・ポターの社会活動キャリア」
講師：神田 道子 国立女性教育会館前理事長 企画：ヌエック・ノットの会
- ④「国立女性教育会館情報機能の活用」
講師：国立女性教育会館情報課職員
- ⑤「男女共同参画に関する 最新の調査・研究から」
講師：国立女性教育会館研究国際室研究員

B 時事プログラム

- ①「あの時避難所は・・・“おだがいさま”が支えた169日間～ビックパレットふくしま避難所が教えてくれたこと～」
講師：天野 和彦 福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任准教授
- ②「今、放射線と食について学ぶ～放射線防護食について～」
講師：香川 靖雄 女子栄養大学副学長

C 文化プログラム

- ①「アクティビティーダンスで無理なく楽しく健康づくり」
講師：坂本 秀子 日本女子体育大学准教授
- ②「響茶会（震災復興支援チャリティー茶会）～茶室で交流を～」
企画・運営：ヌエック・ボランティア※1名500円のチャリティー参加費あり
- ③「能の世界の女性達」
講師：小島 英明 観世流能楽師、皐風会主宰

D NVEC・比企紹介プログラム

- ①「万葉集に詠まれた植物の観察」
 - ②「万葉集に詠まれた植物及び落葉広葉樹の押し葉を使った作品づくり」
※1作品につき100円のマテリアル費あり
 - ③「自分でつくるオリジナル名刺 ～パソコンを使って～」
※1名につき100円のマテリアル費あり
- ①②③企画・運営：ヌエック・ボランティア

7 参加申し込み

交流ウィークにご参加を希望される団体・個人は、必ず事前に申し込みを行ってください。

(1) 申込方法

①「国立女性教育会館提供プログラム」への申込み

- ・「申込書」に必要事項をご記入のうえ、郵便、FAXにてお申し込みください。
- ・各提供プログラムは、先着順とします。申込み多数の場合は調整させていただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。

②研修施設及び宿泊室のお申込み

- ・利用を希望する研修施設および宿泊を、下記のいずれかの方法によりお申し込みください。
また、各団体等の研修等で施設利用をご希望の場合、研修室等の空き状況については、予約係までお問い合わせください。

a.利用申込書によるお申込み

添付の利用申込書に必要事項をご記入のうえ、郵便またはFAXにてお申し込みください。
研修室をご利用の場合は、研修内容を「利用目的」の欄に記載願います。

b.インターネットによるお申込み

当会館ホームページよりお申し込みください。

<http://www.nwec.jp/jp/topics/vacancy.html>

c.電話による申込み（仮予約）

電話による仮予約が可能です。下記予約係までご連絡ください。

＊利用予約係専用電話：０４９３－６２－６７２３

【申込み用紙送付先】

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728

国立女性教育会館事業課「らんざん交流ウィーク」担当：森下、小嶋、高橋

FAX： ０４９３－６２－６７２０

(2) 申込期限：

平成24年11月 1日 (木)

定員がありますので、お早めにお申込みください。

(3) 決定通知：随時、先着順（宿泊者優先）でご参加いただけるプログラムについてお知らせします。

8 所要経費

(1) 参加費：「響茶会（震災復興支援チャリティー茶会）～茶室で交流を～」は500円のチャリティー参加費をいただきます。「万葉の植物及び落葉広葉樹の押し葉を使った作品づくり」は1作品につき100円のマテリアルがかかります。「自分でつくるオリジナル名刺 ～パソコンを使って～」は1名につき100円のマテリアルがかかります。その他、会館提供プログラムについては無料です。

(2) 宿泊費：会館提供プログラムにご参加の団体・個人は、お一人当たり1泊1,000円でご宿泊いただけます。※1、2ページ〔国立女性教育会館提供プログラム〕A～D参照

(3) 研修施設使用料：会館提供プログラムにご参加の団体・個人は、研修施設使用料が無料になります。※1、2ページ〔国立女性教育会館提供プログラム〕A～D参照

(4) 食費・交通費：参加者のご負担となります。

9 問合せ先

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728 国立女性教育会館事業課

「らんざん交流ウィーク」担当：森下、小嶋、高橋

TEL：０４９３－６２－６７２４ FAX： ０４９３－６２－６７２０

H24年度 男女共同参画交流特別週間(らんどん交流ウィーク)日程表

・期間中、参加団体・グループの自由交流、NWEC提供の講義や見学など、お好きなプログラムへご参加ください。(一つのプログラムのみ参加も歓迎いたします)
 ・A～Dの会館提供プログラムに申込され参加いただいた団体・個人につきましては、研修室が無料、宿泊は1泊お一人様1,000円でご利用いただけます。
 ぜひ、事前にお申し込みください。

11月6日(火)		11月7日(水)		11月8日(木)		11月9日(金)	
時間・会場	内 容	時間・会場	内 容	時間・会場	内 容	時間・会場	内 容
午 前		11:00 ～ 12:00 (101)	A. 男女共同参画について学ぶための講座 「男女共同参画の推進とこれからの国立女性教育会館の役割」 国立女性教育会館理事 山根徹夫	10:00 ～ 11:45 (大会議室)	B. 時事プログラム 「あの時避難所は・・・“おだがいさま”が支えた169日間～ピックパレットふくしま避難所が教えてくれたこと～」 福島大学つくしまふくしま未来支援センター 特任准教授 天野和彦 氏	9:00 ～ 9:50 (101)	A. 男女共同参画について学ぶための講座 「男女共同参画に関する最新の調査・研究から」 国立女性教育会館研究国際室研究員
		12:00 ～ 17:00 ・作品づくり (試食室) ★①と★②は同じ内容です。 ・植物観察 (館内庭園等)	エエック・ボランティアによる企画・運営 D.NWEC・出紹介プログラム ・12:00～14:00 「万葉集に詠まれた植物及び落葉広葉樹の押し葉を使った作品づくり」★① ・14:00～15:00 「万葉集に詠まれた植物の観察」 ・15:00～17:00 「万葉集に詠まれた植物及び落葉広葉樹の押し葉を使った作品づくり」★② ◎1作品につき100円の材料費をいただきます。	12:45 ～ 14:15 (大会議室)	B. 時事プログラム 「今、放射線と食について学ぶ～放射線防護食について～」 女子栄養大学副学長 香川靖雄 氏	10:00 ～ 12:00 (大会議室)	C. 文化プログラム 「能の世界の女性達」 卓風会主宰 観世流能楽師 小島英明 氏
午 後	A. 男女共同参画について学ぶための講座 「人と人をつなぐ・まちをつくる～男女共同参画の視点から～」 株式会社外一市村酒造場 代表取締役 セーラ・マリ・カミングス 氏	13:00 ～ 16:00 (書院茶室)	エエック・ボランティアによる企画・運営 C. 文化プログラム 「喫茶会 (歴代復興支援チャリティ会) ～茶室で交流を～」※ ◎1名500円のチャリティー参加費をいただきます。	14:30 ～ 17:30 (101)	A. 男女共同参画について学ぶための講座 「ピアトリックス・ボタンの社会活動キャリア」 国立女性教育会館前理事長 神田道子 氏 「朗読 ベンジャミン・パニーのおぼなし」 ヌエック・ノットの会	12:00 ～ 12:10 (大会議室)	閉会行事
		13:00 ～ 17:00 (研修棟 マルチメディア室) ★①と★②は同じ内容です。	エエック・ボランティアによる企画・運営 D.NWEC・出紹介プログラム ・13:00～15:00★① ・15:00～17:00★② 「自分のできるオリジナル名刺・カード～パソコンを使って～」 ◎1名につき100円の材料費をいただきます。	15:00 ～ 17:30 (情報センター・マルチメディア室)	A. 男女共同参画について学ぶための講座 「国立女性教育会館情報機能の活用」 情報センター・アーカイブスセンターの見学・活用説明と情報授業実習 国立女性教育会館情報課職員		
夜 間	自由時間・夕食 自由交流	自由時間・夕食 自由交流	自由時間・夕食 自由交流	～19:00 19:00 ～ 21:00 (ラウンジ)	自由時間・夕食 20:00まで 情報交換会・ミーティングルーム 会館職員・ボランティアと男女共同参画等についての情報交換を行います。 21:00まで 自由交流・ラウンジ		

平成24年度「らんざん交流ウィーク」参加者数一覧

2012/11/13 現在

日	プ ロ グ ラ ム	参加人数	日ごと実参加人数
11/6(火)	理事長挨拶と講義	23	40
	A.男女共同参画について学ぶための講座	36	
	「人と人をつなぐ・まちをつくる～男女共同参画の視点から～」		
	C.文化プログラム	19	
	「アクティビティダンスで無理なく楽しく健康づくり」		
11/7(水)	A.男女共同参画について学ぶための講座	18	71
	「男女共同参画の推進とこれからの国立女性教育会館の役割」	20	
	NWEC・比企紹介プログラム		
	「万葉に詠まれた植物の観察と押し葉を使った作品づくり」	50	
	C.文化プログラム		
	「響茶会(震災復興支援チャリティー茶会)～茶室で交流を～」		
	NWEC・比企紹介プログラム	6	
「自分でつくるオリジナル名刺・カード～パソコンを使って～」			
11/8(木)	B.時事プログラム	99	162
	「あの時避難所は・・・“おだがいさまが支えた”169日間～ビッグパレットふくしま避難所が教えてくれたこと～」		
	B.時事プログラム	45	
	「今、放射線と食について学ぶ～放射線防護食について～」		
	A.男女共同参画について学ぶための講座	54	
	「ビアトリクス・ポターの社会活動キャリア」 「朗読 ベンジャミン・バニーのおはなし」		
	A.男女共同参画について学ぶための講座	28	
	「国立女性教育会館情報機能の活用」		
情報提供と自由交流	44		
11/9(金)	A.男女共同参画について学ぶための講座	48	91
	「男女共同参画に関する最新の調査・研究から」	62	
	C.文化プログラム		
	「能の世界の女性達」		
	閉会	30	
合 計		582	364

※ 27団体＋個人

平成24年度「らんざん交流ウィーク」アンケート集計

平成25年3月5日

●回答者の参加日(複数回答)

	6日	7日	8日	9日	無回答
女性	19	31	64	28	2
男性	12	10	39	3	-
無回答	-	-	6	1	-
合 計	31	41	109	32	2

●回答者の性別

	人数	%
女性	87	60.3
男性	53	35.6
無回答	6	4.1
合 計	146	100.0

●回答者の参加日数

	女性	%	男性	%	無回答	%	合計	%
4日間	10	11.6	-	-	-	-	10	6.8
3日間	4	4.6	2	3.8	-	-	6	4.1
2日間(7日・8日)	7	8.0	3	5.7	-	-	10	6.8
2日間(8日・9日)	8	9.2	1	1.9	1	16.7	10	6.8
2日間(その他)	4	4.6	3	5.7	-	-	7	4.8
6日のみ	3	3.4	8	15.1	-	-	11	7.5
7日のみ	9	10.3	5	9.4	-	-	14	9.6
8日のみ	33	38.0	30	56.5	5	83.3	68	46.7
9日のみ	7	8.0	1	1.9	-	-	8	5.5
無回答	2	2.3	-	-	-	-	2	1.4
合計	87	100.0	53	100.0	6	100.0	146	100.0

1. 参加された全体の感想について

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	無回答	%	合計	%	※%
1 非常に満足した	43	49.5	24	45.3	1	16.7	68	46.6	47.2
2 満足した	41	47.1	27	50.9	4	66.6	72	49.3	50.0
3 あまり満足しなかった	2	2.3	1	1.9	1	16.7	4	2.7	2.8
4 満足しなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	1	1.1	1	1.9	-	-	2	1.4	-
合計	87	100.0	53	100.0	6	100.0	146	100.0	100.0

<理由>

- ・ はつらつとした女性たちと出会えてとても元気をいただけた。
- ・ こんなに小布施について話を聞いたのは初めてで、小布施に行っておいしいお酒を是非飲んでみたい。
- ・ 万葉集に詠まれた木の名の平素知っている名と違ったところ、昔の歌人を偲ぶことが出来た。
- ・ セーラ・マリ・カミングスさんの考え方・取組。壁は必ずあるし、破ることにより新たな展開ができる、男女共同参画も同じ事。壁の厚さに負けない強い意志と実行力！感心するだけでなく実践。
- ・ 当事者から実際に話を聞ける事、天野先生の話でビッグパレットの実態と人間の生き甲斐の実際を知った思いだ。
- ・ 震災のテレビなどの情報とはまた違った本当の現状を知れた気がした。ふるさとがなくなった17歳の女の子の夢、足湯のつぶやきなど、心に残った言葉がたくさんあった。

- ・8月に県男女共同参画コーディネーターの講習で、一度天野先生の聴講していたが、今、まちの男女共同参画推進委員として出来る事の見直しで、また聴講した。本日は大学生を同伴したが、中高生、行政にも聴講させたかった。先生の適切な体験アドバイス、そして愛が再確認できた。
- ・震災等による災害は地域が抱えた問題が浮かび上がってくるだけ、普段やっていないことは絶対に出来ない。心に深く留めた。
- ・放射線は食事によって排出することが出来る事が理解できた。益々食事に気を付けたいと思った。葉酸ももっと取り入れる。
- ・社会参加と社会参画の違いなど、多くを勉強した。本当にありがとうございました。
- ・神田先生のご講演を楽しみにしていた。そして、うさぎのキャラクターということしか知らなかったピーターラビットのお話、作者のビアトリクス・ポターさんの生涯を初めて聞き、大変興味深く思った。短時間だったが、ワークで話し合えたことでより強い関心をもった。朗読はあまり練習しなかったことだが、とても聞きやすく聞き入ってしまった。解説画像もよかった。
- ・内容、講師の方々、とてもバラエティに富み学習できた。神田先生の講座は興味深かった。ただ、その後のワークショップが時間が短くて残念だった。ワークショップがあると、もっと深く男女共同参画について学べるのではないかと思った。今後のプログラムに入れていくことを希望する。
- ・男女共同参画のことをこれからいろいろ勉強していきたいと思っていたが、本やインターネットでは分からないことも多く、やはりお話を聞かせていただくことが一番分かりやすくてとても勉強になった。
- ・多様なプログラムに参加して、これからの自分が地域でこの経験をどのように生かしていくかという、これからの活動の意欲を得られたこと。プライドをもって活動されているボランティアさん達と交流できたことも良かった。
- ・プログラムが多彩だった。地元ではなかなか聞くこと(参加)ができない内容があった。今までとは違った視点で見ることが出来た。多くの方と話す機会があった。
- ・他の団体の皆様との交流で得るところがたくさんあった。地元を持ち帰って活かせたらと思う。
- ・主催者と参加者の間に暖かさを感じられ、ゆっくりと学習することができた。

◎ 特に印象に残ったプログラム(複数回答、無回答あり)

人と人をつなぐ、まちをつくる～男女共同参画の視点から～	13
万葉集に詠まれた植物の観察及び落葉広葉樹の押し葉を使った作品づくり	4
響茶会(震災復興支援チャリティー茶会)～茶室で交流を～	7
自分でつくるオリジナル名刺～パソコンを使って～	1
あの時避難所は・・・“おだがいさま”が支えた169日間～ビッグパレットふくしま避難所が教えてくれたこと～	57
今、放射線と食について学ぶ～放射能防護食について～	7
ビアトリクス・ポターの社会活動キャリア	7
男女共同参画に関する最新の調査・研究から	1
能の世界の女性達	7
参加した全てのプログラム	3

2. 参加された目的と参加後の感想について

(1)参加された目的(複数回答)

	女性	% (87名中)	男性	% (53名中)	無回答	% (6名中)	合計	% (146名中)
1 男女共同参画について知識や情報を得ること	40	46.0	16	30.2	5	83.3	61	41.8
2 関心のある分野に対する知識や情報を得ること	57	65.5	28	52.8	4	66.7	89	61.0
3 宿泊や交流を通じて、活動への意欲を高めること	45	51.7	19	35.8	5	83.3	69	47.3
4 その他	13	14.9	6	11.3	—	—	19	13.0

(2)-1 男女共同参画について知識や情報を得ること

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	無回答	%	合計	%	※%
1 十分達成できた	16	18.4	6	11.3	2	33.3	24	16.4	43.6
2 達成できた	19	21.8	10	18.9	—	—	29	19.9	52.8
3 あまり達成できなかった	1	1.1	—	—	—	—	1	0.7	1.8
4 達成できなかった	1	1.1	—	—	—	—	1	0.7	1.8
無回答	50	57.6	37	69.8	4	66.7	91	62.3	
合計	87	100.0	53	100.0	6	100.0	146	100.0	100.0

(2)-2 関心のある分野に対する知識や情報を得ること

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	無回答	%	合計	%	※%
1 十分達成できた	21	24.1	14	26.4	1	16.7	36	24.7	44.4
2 達成できた	29	33.3	11	20.8	1	16.7	41	28.1	50.7
3 あまり達成できなかった	1	1.1	2	3.8	—	—	3	2.1	3.7
4 達成できなかった	1	1.1	—	—	—	—	1	0.7	1.2
無回答	35	40.2	26	49.0	4	66.6	65	44.4	
合計	87	100.0	53	100.0	6	100.0	146	100.0	100.0

(2)-3 宿泊や交流を通じて、活動への意欲を高めること

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	無回答	%	合計	%	※%
1 十分達成できた	20	23.0	10	18.9	—	—	30	20.5	49.9
2 達成できた	19	21.8	8	15.1	1	16.7	28	19.2	46.7
3 あまり達成できなかった	1	1.1	—	—	—	—	1	0.7	1.7
4 達成できなかった	1	1.1	—	—	—	—	1	0.7	1.7
無回答	46	53.0	35	66.0	5	83.3	86	58.9	
合計	87	100.0	53	100.0	6	100.0	146	100.0	100.0

(2)-4 その他

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	無回答	%	合計	%	※%
1 十分達成できた	6	6.9	6	11.3	1	16.7	13	8.9	72.1
2 達成できた	3	3.4	—	—	—	—	3	2.1	16.7
3 あまり達成できなかった	—	—	—	—	1	16.7	1	0.7	5.6
4 達成できなかった	1	1.1	—	—	—	—	1	0.7	5.6
無回答	77	88.6	47	88.7	4	66.6	128	87.6	
合計	87	100.0	53	100.0	6	100.0	146	100.0	100.0

3. 会館を利用した感想

- ・埼玉県内にこんなに立派な施設があることを知らなかった。今後も利用したい。
- ・館内は清潔、庭の植物も豊富、広い敷地を利用した施設の配置など外部からは見ていたが、敷地、館内に入って改めて感じた。
- ・初めての宿泊だったが、とても良かった。テレビもなく友人と楽しく話もゆっくりできた。
- ・緑の多い環境が素晴らしい。お茶室が良い体験だった。
- ・広大な敷地に充実したプログラム。非常に貴重なご提案ありがとう。

- ・ 自然がいっぱい。ゆったりとした館内、素晴らしい。
- ・ 自然豊かでとても良い環境。初めて利用させていただいた。
- ・ 毎月図書館を利用している。こういう研修室があるのを初めて知った。
- ・ お風呂、お手洗いなど、すみずみまで掃除が行き届いていた。
- ・ 女性のことを十分に考えた設備になっていて、とても利用しやすかった。
- ・ 2日間利用したが、30年に比較し自由に利用できることを知った。もっと利用したいと思った。
- ・ 椅子から机まで品のあるものが多く、全体的に景観もよく利用していて気持ちよかった。
- ・ 整備がとてもきれいだった。
- ・ 一般の宿泊と変わらず清潔に保たれていて利用できた。
- ・ トイレの多くが和式だった。
- ・ 足が不自由なので研修棟のそばに駐車させていただけることは非常にありがたい。
- ・ 今回は十分な利用をすることが出来なかったのも、次回機会があれば個人的に利用してみたいと思う。
- ・ 都会の喧噪を離れ、静かな環境の中で十分な話し合いを行うことが出来た。職員の方達も親切で大変感じが良かった。
- ・ 素晴らしい環境と施設で、タイムリーなテーマで研修を受けて満足だ。ありがとうございました。

5. 回答者自身について

●性別(再掲)

	人数	%
女性	87	59.6
男性	53	36.3
無回答	6	4.1
合 計	146	100.0

●年代

	女 性	%	男 性	%	無回答	%	合計	%
1 20代以下	7	8.0	19	35.8	－	－	26	17.8
2 30代	2	2.3	4	7.5	－	－	6	4.1
3 40代	9	10.3	2	3.8	－	－	11	7.5
4 50代	15	17.2	6	11.3	－	－	21	14.4
5 60代	35	40.2	8	15.1	1	16.7	44	30.1
6 70代以上	19	21.8	14	26.4	－	－	33	22.6
無回答	－	－	－	－	5	83.3	5	3.4
合 計	87	100.0	53	100.0	6	100.0	146	100.0

●所属

	女 性	%	男 性	%	無回答	%	合計	%
団体・グループ	39	45.0	17	32.1	－	－	56	38.4
NPO団体	－	－	－	－	－	－	－	－
施設関係者	1	1.1	－	－	－	－	1	0.7
公務員	1	1.1	3	5.7	－	－	4	2.7
会社員	6	6.9	24	45.2	－	－	30	20.5
学生	1	1.1	1	1.9	－	－	2	1.4
主婦・主夫	19	21.8	－	－	－	－	19	13.0
無職	4	4.6	6	11.3	－	－	10	6.8
その他	12	13.8	2	3.8	1	16.7	15	10.3
無回答	4	4.6	－	－	5	83.3	9	6.2
合 計	87	100.0	53	100.0	6	100.0	146	100.0

1. 趣 旨

「アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」は会館の第三期中期目標・中期計画において、開発途上国において男女共同参画の政策策定・政策提言を行う立場にある女性行政・教育担当者、NGO のリーダーを対象に、女性の能力開発を目的としている集団研修である。平成 24 年度のリーダーセミナーでは、女性に対する暴力の根絶をテーマとして設定し研修を行う。

2. 主 題 女性に対する暴力の根絶に向けて

3. 主 催 独立行政法人国立女性教育会館

4. 期 間 平成 24 年 10 月 18 日(木)～10 月 27 日(土) (受入れ期間 10 月 17 日(水)～10 月 28 日(日))

5. 募集人員 10 名程度

6. 募集対象国

アジア・太平洋諸国の ESCAP 加盟国・準加盟国のうちの ODA 対象国等

7. 応募資格

以下の 12 項目を満たす者

- (1) 女性
- (2) 下記のいずれかに該当する者
 - ① 女性に関する行政機関に所属する者
 - ② 女性の地位向上に関する NGO に所属する者
 - ③ 女性学関連研究に携わる者
- (3) 所属機関の長から推薦が得られる者
- (4) 大学卒またはそれと同等の学力及び経験を有する者
- (5) 原則として、平成 24 年 4 月 1 日現在で満 45 歳未満の者
- (6) 講義を理解するのに十分な英語の能力を有する者
- (7) 原則として、研修の全日程に参加できる者
- (8) 男女共同参画及び女性に対する暴力に関わる課題について十分な関心を持ち、課題解決に熱意のある者
- (9) 本国の担当部署で女性の能力向上に関わる事業を立ち上げる裁量・権限を持つ者
- (10) 研修終了後も、会館及び参加者との持続的情報交換や連携事業について積極的に関わることができる者
- (11) 平成 24 年度の研修テーマに沿った事前課題を提出することが可能な者
- (12) 心身ともに健康である者(なお、妊娠中の女性の参加は、渡航・移動及び研修参加への医者の許可がある場合に限る)

8. 応募方法

申込みは国立女性教育会館研究国際室宛に必要な書類(応募書類・所属長の推薦状)を提出する。

(1) 締切日 平成 24 年 6 月 25 日(月) 日本時間 24 時必着

(2) 提出書類

- a. 様式1PART A:応募用紙(貼付する写真は、半年以内に撮影したものであること)
- b. 様式1PART B:所属長からの推薦状
- c. 様式1PART C:カントリーレポート
- d. 様式1PART D:健康に関する質問票
- e. 所属団体の活動内容の記載されたパンフレット
- f. 提出書類チェックリスト
- g. 有効なパスポートの顔写真貼付ページのコピー(所持者のみ)
* 行政機関以外の所属の場合は以下の書類及び資料を併せて提出のこと。
- h. 様式2:NGO 団体概要

提出書類は返却しない。応募書類に記載された個人情報には本研修の実施の目的のみに使用する。可否に関する問い合わせには応じない。

9. 選考方法及び決定通知

対象国はアジア・太平洋諸国の ESCAP 加盟国・準加盟国のうち ODA 対象国 35 カ国等から 5 カ国程度を選定し、国立女性教育会館の調査研究事業等で関係を深めている国の機関を中心に、女性問題・女性教育に関するナショナルマーシナリー及びフォーカルポイント、女性団体等に研修生の推薦を依頼する。

10. 研修日程

別紙参照

11. 研修内容・方法

- (1) カントリーレポートの発表・討議
- (2) 講義・グループワーク
- (3) 省庁・女性関連施設等の視察

研修成果の発表:研修最終日に会館が主催する「平成 24 年度 NWEC 国際シンポジウム」(10 月 27 日)に研修生代表がパネリストとし、成果発表を行う。

12. 事前提出課題

研修参加者は、研修開始以前に、出身国における男女平等政策及び女性に対する暴力根絶の取組みに関するカントリーレポートとポスターを提出する。研修中に提出したカントリーレポートとポスターをもとに討議を行う。

1 3. 使用言語

講義、演習はすべて英語で行う。日本語による講義・演習・施設訪問の場合には英語の通訳を配置する。

1 4. 研修費用

研修のための下記費用は、国立女性教育会館が負担する。それ以外のすべての費用は研修生の負担とする。

- (1) 最寄りの国際空港から成田空港までの往復航空運賃、日本国内のホテル及び国立女性教育会館の宿泊費
- (2) 研修実施にかかる費用
- (3) 自国出国日から入国日までの滞在経費

1 5. 研修成果の普及

国立女性教育会館は、本研修の成果物(紙及び電子媒体の資料、論文、パワーポイントスライド、カントリーレポート等)を研修終了後、会館のホームページ及び大学・行政機関が運営するレポジトリ等に掲載し報告書を出版する。また国立女性教育会館が運営するメールリスト等で、研修テーマ及び各国の男女共同参画政策や最新の取組みに関する情報交換や議論を継続して行う。

1 6. 連絡先、応募書類の提出先

独立行政法人国立女性教育会館研究国際室

「平成 24 年度アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー担当」宛
〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728

Tel: +81-493-62-6437

Fax: +81-493-62-9034

E-mail: rese2@nwec.jp

(電子メールでの問い合わせは、件名の頭に「平成 24 年度リーダーセミナー」と入れる)。

1 7. その他

- (1) 海外から日本への渡航に必要なすべての手続きは、研修生自身の責任において行う。
パスポート及びビザの入手に必要な招へい状等の書類は、国立女性教育会館が送付する。日本までの航空便、到着日時、交通手段等に関する詳細は、決定通知時に併せて知らせる。研修生の意向による航空便の変更は認めない。
- (2) 家族等の同伴は不可。
- (3) 研修期間中は日本国内に留まる。
- (4) 研修終了後は直ちに帰国する。
- (5) 応募用紙の記入方法等、不明の点は、独立行政法人国立女性教育会館研究国際室に照会のこと。

2012 The Seminar for Gender Equality Officers and Women Leaders in the Asia and Pacific Region

1. Why did you apply for this seminar? (Please circle as many as you like.)

1	8	89%	Enhance your knowledge and practical skills for promoting gender equality
2	8	89%	Capacity development as a women's leader for promoting gender equality
3	9	100%	Enhance your ability to implement what you have learned from this seminar in your country
4	9	100%	Build a collaborative network with NWEC and the seminar participants
5	3	33%	Others(pleasespecify:)

2. To what extent did the content of this program in general deepen your views on gender equality and help you execute your work duties?

←Very useful		Not useful→	
4	3	2	1
5	4	0	0
56%	44%	0%	0%

3. How satisfied were you with the program in general? Please provide details.

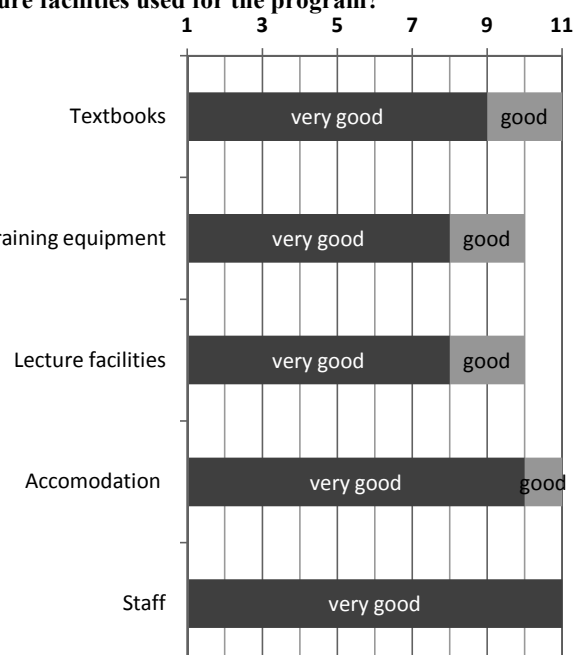
←Satisfied		Unsatisfied→	
4	3	2	1
6	3	0	0
67%	33%	0%	0%

4. Will you be able to apply information and knowledge gained through this program at work upon returning to your country?

←Very useful		Not useful→	
4	3	2	1
6	3	0	0
67%	33%	0%	0%

7. What did you think of the textbooks, training equipment and lecture facilities used for the program?

	←Good				Poor →			
	very good	good	poor	very poor	very good	good	poor	very poor
Textbooks	8	1	0	0	89%	11%	0%	0%
	4	3	2	1				
	6	3	0	0	67%	33%	0%	0%
Training equipment	6	3	0	0	67%	33%	0%	0%
	4	3	2	1				
	6	3	0	0	67%	33%	0%	0%
Lecture facilities	6	3	0	0	67%	33%	0%	0%
	4	3	2	1				
	6	3	0	0	67%	33%	0%	0%
Accommodation	8	1	0	0	89%	11%	0%	0%
	4	3	2	1				
	6	3	0	0	67%	33%	0%	0%
Staff	8	1	0	0	89%	11%	0%	0%
	4	3	2	1				
	6	3	0	0	67%	33%	0%	0%



8. What did you think of the general administration and management of the training program?

←Very good		Very poor→	
4	3	2	1
7	2	0	0
78%	22%	0%	0%

平成24年度 地域別研修「アジア諸国における人身取引対策協力促進セミナー」実施要項

1. 趣 旨

国際協力機構（JICA）がアジア太平洋地域において実施する「人身取引被害者保護・自立支援促進プロジェクト」の一環として、プロジェクトのカウンターパートおよび近隣地域の人身取引対策に携わる関係者を対象としたワークショップ型研修を実施する。3年計画の第1年次。

人身取引撲滅と被害者保護は一国のみで対応できる課題ではなく、国境を越えた広域的課題として対応するためにも、アジア地域におけるネットワーク形成が重要である。参加者が日本を含め、互いの国の人身取引対策に関する取り組みについて相互理解を深め、特に予防、被害者の保護と自立支援に携わる関係機関の役割や協力体制等について把握し、参加者間で人身取引対策に取り組む機関の機能強化や連携、国を越えたネットワークの強化に資する方策を検討することを目的として行われる。

2. 主 催 独立行政法人国際協力機構（JICA）

3. 実施機関 独立行政法人国立女性教育会館

4. 協力 内閣官房、内閣府男女共同参画局、外務省、厚生労働省、警察庁、法務省、東京都、埼玉県、長野県、福岡県、国際移住機関（IOM）、人身売買禁止ネットワーク（JNATIP）ほか

5. 期 日 全体受入期間：平成24年10月28日～平成24年11月11日 全体研修（Part 1）：10月28日～11月7日研修員全員が同一プログラムに参加。 国別研修（Part 2）：11月8日～11日 タイ、ミャンマー、ベトナムの研修員に対し、国別に別プログラムの研修をそれぞれ実施する。 ＊ラオス、カンボジア、フィリピンの研修員は、全体研修終了後（11月8日）に帰国する。

6. 対象 24名（男女） タイ、ミャンマー、ベトナム、ラオス、カンボジア、フィリピンの人身取引対策の予防と保護の分野に携わっている者（中央・地方政府機関行政関係者）。

7. 研修項目 （1）日本政府の人身取引対策および日本の人身取引被害者保護支援策について理解する。 （2）日本・参加国における人身取引予防・被害者保護・帰還・社会復帰の一連のプロセスおよび関連機関の関係を把握し、グッドプラクティスや課題について検討する。 （3）アジア地域における人身取引対策のネットワーク強化に向けて各国の状況やアプローチが理解され、改善策やネットワーク連携・強化に資する方策を検討する。

8. 使用言語 英語（11月8～10日の国別研修および全体研修の11月6日は、ミャンマー語、ベトナム語、タイ語の各言語を使用。）

9. 研修日程 別添参照

平成24年度 地域別研修「アジア諸国における人身取引対策協力促進セミナー」日程

【10月28日(日)～11月10日(土)】

	月日	曜日	時間	研修項目	研修内容	講師・参加者	研修場所	宿泊先
P A R T 1	10月28日	日			来日 移動 成田／羽田国際空港→幡ヶ谷(TIC)			TIC
	29日	月	9:30-12:00	オリエンテーション	JICAオリエンテーション	ブリーフィング担当(JICE)／日程説明(JICA)		
			13:00-14:30	オリエンテーション	プログラムオリエンテーション	山田 真理、吉田進一郎(JICA)、研修員自己紹介、 (日程説明:渡辺 美穂(NWEC研究員))		
			14:30-15:00	講義・意見交換E	日本の人身取引問題とアジア	渡辺 美穂(NWEC研究員)	TIC	TIC
			15:00-16:30	講義・意見交換E	アジア太平洋地域の人身取引問題	山田美和(アジア経済研究所 新領域研究センター・グループ長)		
			16:30-18:00	準備	カントリーレポート準備+カントリーレポート	JICA、渡辺 美穂(NWEC研究員)		
	30日	火	9:30-11:00	講義・意見交換	日本政府の人身取引対策:内閣官房	淡路 恵介(内閣参事官補佐)、 八幡浩紀(内閣官房副長官補室)	内閣府	
				発表・意見交換	カントリーレポート	研修生		
			13:30-17:30	講義・意見交換	カントリーレポートファシリテート	山田 美和(アジア経済研究所 新領域研究センター・グループ長)、渡辺 美穂(NWEC研究員)	TIC	TIC
				講義・意見交換	カントリーレポートファシリテート			
	31日	水	10:00-11:30	講義・意見交換	日本政府の人身取引対策:被害者保護	斉藤 克也(厚生労働省雇用均等・児童家庭局家庭福祉課母子家庭等自立支援室女性保護専門官)	JICA研究所	
			13:00-14:30	講義	日本の人身取引対策:女性相談所の外国人保護	竹内 景子(東京都女性相談センター所長)	JICA研究所	TIC
			14:30-15:30	見学・意見交換	日本の人身取引対策:女性相談所の外国人保護	小林 弘和(東京都女性相談センター係長)	東京都女性相談センター	
	11月1日	木	9:30-9:50	職員紹介・あいさつ	理事長挨拶、理事、課長紹介	会館職員		
			9:50-10:40	講義	国立女性教育会館の役割と機能	山根 徹夫(NWEC理事)		
			10:45-11:35	講義・意見交換	女性に対する暴力への国立女性教育会館の取組(1)	森下 敏広(NWEC専門職員)	NWEC	NWEC
			11:40-12:30	講義・意見交換	女性に対する暴力への国立女性教育会館の取組(2)	越智 方美(NWEC専門職員)		
			14:00-15:00	講義・意見交換	日本の人身取引対策:外務省の取組	宮田 高(外務省総合外交政策局 国際安全・治安対策協力室)		
			15:00-17:30	講義・意見交換	国際機関の取組:被害者保護のソーシャルワーク	ウィリアム・パリガ(国際移住機関(IOM)駐日代表)		
	2日	金	10:00-12:00	講義・意見交換	日本の人身取引対策:警察庁	早川 昌宏(警察庁生活安全局保安課 警察庁監視)		
			13:00-14:00	見学・講義	女性の就労支援とフェアトレード	長谷川輝美(パッチワーク代表)	NWEC	NWEC
			14:30-17:00	講義・意見交換	民間の取組 労働現場における課題	鳥井 一平(移住労働者と連帯する全国ネット ワーク事務局、全統一労働組合・書記長)		
					ミャンマー2名、ベトナム2名 来日(計 24名)			
	3日	土			民間シェルター	複数グループにわかれて訪問		NWEC発
					Aグループ(英語)			
			11:00-12:30	講義・意見交換	民間シェルターの取組(社会福祉法人 一粒会)	花崎みさを(社会福祉法人 一粒会理事長、児童養護施設「野の花の家」施設長)		
			13:30-16:15	講義・意見交換	民間の取組(A)シェルター チーム1	古賀 幸子(社会福祉法人 一粒会「FAH(フレンドシップアジアハウス) こすもす」施設長)	千葉	TIC
			16:15-16:30	講義・意見交換	民間の取組(A)シェルター チーム2	フランク・オカンボス(社会福祉法人 一粒会「ファミリーセンター・ピオラ」外国人ソーシャルワーカー)		
					Bグループ(英語)			
			10:00-12:00	講義・意見交換	民間の取組(B)ホットライン	和久井みちる(一般社団法人社会的包摂センター全国コーディネーター)	社会的包摂センター	
			13:00-14:00	講義・意見交換	民間の取組(B)当事者支援団体の取組	ウェアワリー代表	ウェアワリー	TIC
			14:00-14:30	講義・意見交換	民間の取組(B)ホットライン	一般社団法人社会的包摂センター外国人相談スーパーバイザー	ウェアワリー	
					Cグループ(タイ語)			
			10:30-12:30	講義・意見交換	民間の取組(C)シェルター	女性の家サーラー事務局長	女性の家サーラー	TIC
	4日	日			自由研究・成果発表会準備			TIC
	5日	月	9:40-10:40	講義・意見交換	日本政府の人身取引対策:法務省(刑事局)	法務省刑事局担当官	法務省	
			10:50-11:50	講義・意見交換	日本政府の人身取引対策:法務省(入管局)	法務省入管局担当官	法務省	TIC
			14:00-15:30	見学・意見交換	日本政府の人身取引対策:東京入国管理局	入国管理局担当官	東京入国管理局	

平成24年度 地域別研修「アジア諸国における人身取引対策協力促進セミナー」日程

【10月28日(日)～11月10日(土)】

	月日	曜日	時間	研修項目	研修内容	講師・参加者	研修場所	宿泊先
P A R T 1	6日	火	9:30-10:00	ワークショップ	概要・参加者説明	ファシリテーター：渡辺美穂（NWEC研究員）、齋藤百合子（明治学院大学）、山田美和（アジア経済研究所新領域研究センター・グループ長）、吉田容子（日本弁護士連合会）、大津恵子（JNATIP共同代表）	TIC	TIC
			10:00-10:45	ワークショップ	国別ディスカッションと発表			
			13:00-15:00	質疑応答・討議	日本の人身取引対策に関する質疑応答・討議			
			15:00-16:00	ワークショップ	テーマ別グループ討議-①各国の起訴や被害者認定、②保護の課題と現在の人身取引の状況、③タイと日本の人身取引対策の比較			
			16:00-18:00	発表・意見交換	グループ発表と意見交換			
	7日	水	9:30-12:30	発表・意見交換	意見交換会＋成果発表会	人身取引関係省庁連絡会議関係者、民間団体、JICA、NWEC	JICA研究所	TIC
			14:00-15:30	評価	評価会	ジェンダー平等・貧困削減推進室長、JICA、NWEC		
			15:45-16:15	閉校式	JICA挨拶、NWEC挨拶、研修生挨拶、修了証書授与			
8日	木			帰国（ラオス、カンボジア、フィリピン）				
P A R T 2 タイ：研修員10人	8日	木	10:00-11:30	講義・意見交換T	タイ人ネットワークの活動と大使館との連携	タイ人ネットワークTNJ会長、茨城県国際交流協会相談員	TIC	長野市
			15:00-16:00	表敬・意見交換	タイ大使館表敬			
	9日	金	9:15-9:45	表敬訪問	長野県国際交流推進協会	常務理事・事務局長	長野県国際交流協会	長野県庁
			10:00-12:00	講義	長野県警、長野県女性相談センター	長野県警人身取引担当、婦人相談員		
			13:30-14:30	見学説明	110番指令室	長野県警	長野県警	
			14:30-16:30	意見交換	長野県警、長野県女性相談センター	長野県警人身取引担当、長野県婦人相談員 タイ発表	長野県庁	
			18:00-19:30	見学	松本市街		松本市	
	10日	土	9:30-10:00	施設説明見学	松本市多文化共生プラザ	松本市多文化共生プラザ担当者	松本市多文化共生プラザ	TIC
			10:00-11:00	講義・意見交換	松本市におけるタイ人ネットワークの活動	タイ人ネットワークin松本		
			11:00-12:30	講義・意見交換	長野県におけるタイ人ネットワークの活動	長野県国際交流推進協会 多文化共生くらしのサポーター		
11日	日		帰国					
P A R T 2 ミャンマー：研修員5人	7日	水			移動（飛行機）東京 → 福岡			福岡市
	8日	木	10:00-11:45	表敬・見学説明・意見交換	副知事表敬、福岡県庁の取組について	交流第一課政策班主任他	福岡県庁	福岡市
			13:00-14:30	見学説明・意見交換	福岡県警の取組について	生活安全部生活保安課長他	県警本部	
	9日	金	10:20-10:50	表敬	久留米市長		久留米市役所	福岡市
			10:50-12:10	施設見学・施策説明・意見交換	男女平等政策課、家庭子ども推進課、国際交流推進課	久留米市協働推進部男女平等政策課長	久留米市男女平等推進センター	
			13:30-17:30	見学説明・意見交換	久留米市男女平等推進センター	久留米市男女平等推進コーディネーター		
			16:30-17:30	講義・意見交換	民間シェルターについて講義と説明	S・ぱーぷるリボン		
10日	土	10:30-14:30	講義・意見交換・施設見学	民間団体による外国人女性支援活動（シェルターと電話相談）	アジア女性センター	カフェ・アニバニ（春日市）	福岡市	
11日	日		帰国	移動（飛行機）福岡 → 帰国				
P A R T 2 ベトナム：研修員3人	8日	木	9:30-12:00	講義・意見交換	日本のホットライン事業	一般社団法人社会的包摂センター事務局長	社会的包摂センター	TIC
			14:00-14:30	見学	埼玉県男女共同参画推進センター 表敬	所長表敬	埼玉県男女共同参画推進センター	
			14:30-16:00	講義・意見交換	埼玉県男女共同参画推進センター センターの取組および相談事業について	With You さいたま事業コーディネーター、相談担当者		
			16:00-17:00	講義・意見交換	埼玉の外国人相談：埼玉県国際交流協会	財団法人埼玉県国際交流協会主幹		
	9日	金	10:00-12:00	講義・意見交換	日本政府の取組：匿名通報ダイヤルについて	警察庁生活安全局保安課 警察庁警視	JICA麹町	TIC
			13:30-15:00	講義・意見交換	日本のホットライン事業（外国人と支援）	一般社団法人社会的包摂センター 外国人相談スーパーバイザー	日本キリスト教婦人矯風会	
			15:30-17:30	見学・説明	民間団体の取組：日本キリスト教婦人矯風会	女性の家HELPディレクター		
	10日	土	10:00-12:00	講義・意見交換	民間団体による日本人女性・児童の性的搾取に対するホットラインおよび支援活動	ボラリスプロジェクト（人身取引対策ホットライン）駐日事務所代表	TICセミナールーム	TIC
11日	日		帰国					

平成24年度 NVEC 国際シンポジウム開催要項

1. 趣 旨

本事業の目的は女性の人権、女性の能力開発、人材育成等地球規模の課題をテーマに海外専門家を招へいし、アジア太平洋地域の課題分析を行い、海外の研究者や行政関係者、女性団体等指導者との交流を深めるとともにネットワークづくりを進めることです。

平成24年度の「国際シンポジウム」では、「女性に対する暴力の根絶」をテーマとして設定します。海外の研究機関ならびにナショナルマシーナリー、NGO でリーダーとして活躍している専門家/実践家を招聘し、基調講演とパネルディスカッションを通じて、アジア・太平洋諸国における女性に対する暴力根絶のための好事例について議論をおこないます。

2. 主 題

女性に対する暴力のない社会の構築に向けて

3. 主 催

独立行政法人 国立女性教育会館

4. 後 援

独立行政法人 国際協力機構

5. 会 場

独立行政法人 国際協力機構 JICA 研究所
東京都新宿区市谷本村町 10-5

6. 期 日

平成24年10月27日（土）13：00－17：30

7. 使用言語

日本語、英語 （同時通訳付き）

8. 募集人員

男女共同参画、女性教育、家庭教育等の行政担当者、女性関連施設職員、駐日大使館職員、女性団体等のリーダー、研究者、国際交流・開発援助に関わる者、企業関係者等 100 名程度

9. プログラム

開会 13:00－13:20 主催者挨拶・イントロダクション

第一部 基調講演 13:30－14:30

- ・ナンシー キャラウェイ（ハワイ大学グローバリゼーション研究センター 人権特別研究員、教授）

“乖離した他者とつながるということ”

グローバル化した世界におけるジェンダーと人身取引に係る課題の再考と新たなコミットメント

休憩 14:30－14:45

第二部 パネルディスカッション 14:45－17:20

「アジア諸国における女性に対する暴力根絶のための取り組み」

- ・「平成24年度 アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」研修生による報告（カンボジア、韓国、フィリピン、タイ、ベトナム）
- ・竹信三恵子（ジャーナリスト、和光大学教授、内閣府 女性に対する暴力に関する専門調査会 委員）
- ・大津 恵子（JNATIP 人身売買禁止ネットワーク 共同代表）
- ・カムルン ナハール（弁護士、ナリポッコ メンバー）

閉会 17:20－17:30

10. 申込方法・申込期限

①申込方法

ア. 電子メール

下記の必要事項を入力の上、rese2@nwec.jp までお申し込みください。

（メールのタイトルを「平成24年度国際シンポジウム参加希望」としてください。）

イ. ファックス ホームページから申込用紙をダウンロードの上、

- 1) お名前・フリガナ、2) 郵便番号・住所、3) 電話番号、4) ファックス番号、
- 5) メールアドレス、6) 所属先を記入し、下記までお送りください。

独立行政法人国立女性教育会館研究国際室 国際シンポジウム担当

FAX 番号 0493-62-9034

②申込期限 平成24年10月23日（火）必着

③決定通知 参加される方が決定次第、メールもしくはファックスにて参加証をお送りします。
当日ご持参ください。

11. 所要経費 参加費： 無料

平成24年度「NWEC国際シンポジウム」アンケート Questionnaire on "FY2012 NWEC International Symposium"

参加者 80名
アンケート提出者 46通
アンケート回収率 58%

本シンポジウムにご参加いただき、誠にありがとうございました。
今後の事業の充実を図るため、アンケートへのご協力をお願い申し上げます。
Thank you for your participation to the International Symposium. Please feedback your comments and suggestions.

1. このシンポジウムに参加された動機は何ですか。最もあてはまるもの2つに○をつけてください。

What do you expect from the symposium? Please choose up to 2 reasons from below which best matches your interest.

- | | |
|---|----|
| ①女性に対する暴力の根絶のための取組や課題について知るため
To learn the initiatives and issues to eradicate violence against women. | 38 |
| ②このテーマに関連する研究・仕事・活動に関わっているため
Am involved in research and/or activities related to the symposium topic, or work in the related field. | 22 |
| ③各国の男女平等政策に関する取組について知るため
To acquire information and knowledge about gender equality policies in the Asia Pacific region. | 11 |
| ④その他 Other
Others (Please specify.) | 4 |

2. このシンポジウムの内容はご自身の研究や活動に有用でしょうか。

次の各項目について最も近いものに○をつけ、その理由もお書き下さい。

How do you evaluate the symposium in relation to your research, work or activities? Please check the below .

	とても有用 Very useful	少し有用 Useful to some extent	あまり有用でない Not so useful	全く有用でない Useless	
①第Ⅰ部 基調講演 PartⅠ Keynote Speech	35	8	1	0	44
	79.5%	18.2%	2.3%	—	
②ポスター展示 Poster Exhibition	22	17	1	0	40
	55.0%	42.5%	2.5%	—	
③第Ⅱ部 パネルディスカッション PartⅡ Panel Discussion	42	3	0	0	45
	93.3%	6.7%	—	—	

2-a 今後の研究・仕事・活動に活用できそうな点を具体的にお書きください。

Please specify how you could reflect the outcomes of the symposium to your research, work or activities in future.

- ・市民活動創造プラザや県のコンベンションビューローイベントで今日のシンポジウムの報告を伝えたい。
- ・日本での「女性に対する暴力」問題は海外でも同様だと具体的に理解できた。
- ・あまりにも沢山あって書ききれません。
- ・グローバル化の弊害についての自覚や弱者への配慮は外部にいる人の方が適切にできることへの理解。

- ・ 具体的な活動団体名、活動されている方のお名前を知ることができた。
- ・ 送り出し国や母国の女性に対する支援の現状を知ることによって本人たちが帰国を考える際の何らかの情報提供等が出来ればと考えます。
- ・ 最近ロシア圏の方も多いです。人身売買というターゲットなら南米やロシア圏のジェンダー事情も盛り込んで欲しいと思います。
- ・ 被害者=victimとすること自体がDVという考え方(→彼女らは“survivor”)
- ・ ジェンダー問題に関心があるのはより女性だという事実(研究生は全員女性でした。)
- ・ 日本の人身取引を研究していて日本の外国人のDV被害について興味があったため大変参考になりました。
- ・ (パネリスト・研修生の)プロフィールの紹介資料。
- ・ 「ワン・ストップ・サービス」の構築や震災避難所の女性問題。
- ・ それぞれの国での活動の報告は大変参考になりました。
- ・ バングラディッシュの取り組みがとても参考になりました。
- ・ グローバリゼーションと人身取引の相関関係。
- ・ 自然災害と家父長の性台頭。
- ・ 「女子差別撤廃条約」や国連の取り組みの実態。
- ・ 暴力被害者保護の各制度が通常時を前提とし、また対象も日本人を前提としていたが、そういう前提が機能しない場合にどうするか検討する上で有用であった。
- ・ 加害男性についてのキャンペーン活動など。
- ・ 女性に対する暴力(人身取引を含む)は、日本でももっととりくみが必要だと分かりました。
- ・ キャラウェイ先生のご講演は人身取引をあらたな視点から捉え直すことができた。
- ・ DVサバイバーの支援者です。アジア各国(特にカムルンさん)のお話がとても参考になりました。
- ・ ポスターのコピーが配られたのがよかった。
- ・ May apply some initiatives on VAW in my countries.
- ・ Create the Program training for women
- ・ Data for work, Plan for women development.
- ・ The outcomes of the Symposium, it has to be reflected in policies, strategies, as well as the program formulation, is that necessary to make effort to eradicate VAW in further work.
- ・ The Symposium gives me an opportunity to learn from & Her researchers/practitioners. The result of the research presented many key issues that I could apply in trafficking project that my organization currently implemented. The Exp- of support women in the disaster area give a good analysis of women's need that a good lessons learnt for my prog. in the future.

2-b このプログラムをよりよくするには、どのような点を改善すればよいでしょうか。

Please give us your suggestions to improve the program.

- ・ こんなよい企画をもっと広報して教育委員会や警察関係者に聞いてもらった方が良いと思います。
- ・ すばらしかったです。
- ・ 休憩の入れるタイミングはとても良かったと思います。
- ・ パワーポイントのコピーも配布されており資料も充実していて満足です。
- ・ より詳しく知りたかったのは国際研修生がどのように選抜されたのかという点です。あの人たちは年齢様々でしたが、どの基準で集まったのですか。
- ・ 英語、日本語の資料が準備されて、どなたでも参加出来ると思いました。ありがとうございました。
- ・ NWECの人身取引の取り組みも紹介しても良かったのではないのでしょうか。

- ・日本人の参加者に対する現状を示す資料(最新のもの)
- ・参加して本当に良かったです。
- ・資料は重いので両面にコピーしてほしい。
- ・ジェンダー関係の学者、教育者の参加が少ないように思います。
- ・VAWや人身売買、性暴力は敬遠されているように感じます。何とか参加を増やしていただきたいです。「もったいない！」
- ・特に改善の必要はないと思います。
- ・研修生による各国の報告が有用でしたので、もう少し長くてもよいと思います。
- ・ perfect
- ・ Well organized. Appreciated for well manage the time when covers many areas of interests. No comment for improvement.

3. 次の各項目について、シンポジウム後の感想に最も近いものに○をおつけください。

Did the symposium meet your expectations? Please check below.

	そう思う Satisfactorily meet the expectation.	少しそう思う Meet the expectation to some extent.	あまりそう 思わない Fail to meet the expectation.	全くそう 思わない Not at all meet the expectation.
①女性に対する暴力の根絶に関する課題について知ることができた Was able to learn status quo and issues on disaster restoration and gender.	30	12	0	0
	71.4%	28.6%	—	—
②研究・仕事・活動に役立つ情報や知識を得ることができた Was able to obtain information/knowledge useful to my research, work or activities.	30	12	0	0
	71.4%	28.6%	—	—
③各国の男女平等政策に関する取組について知ることができた Was able to learn gender equality policies in the Asia Pacific countries.	22	19	0	0
	53.7%	46.3%	—	—
④その他 Others (Please specify.)	1	2	1	0

4. 参加した全体の感想について、最も近いものに○をつけ、その理由もお書きください。

What is your overall impression about the symposium? Please tell us the reason.

① 非常に満足した Very satisfied 26 60.5%	② 満足した Satisfied 17 39.5%	③ 満足しなかった Unsatisfied 0 —
---	---------------------------------	---------------------------------

5. 差支えない範囲で、教えてください。

Please tell us about yourself.

I 年 齢 Age	①19歳以下 Under 19 year-old	②20歳代 20's	③30歳代 30's	④40歳代 40's	⑤50歳代 50's	⑥60歳以上 over 60 year-old	⑦無回答 7
II 性 別 Gender	① 女性 Female 38	② 男性 Male 5	10.9%	3	6.5%		
III お住まいの都道府県 Place of your residence (prefecture)	東京都 20 埼玉県 2 神奈川県 2 佐賀県 1 青森県 1 フィリピン 2 千葉県 3						
IV 職 業 Occupation	① 女性関連施設関係者 Staff of Women's Center 6 ⑥ 学校教職員 School Teacher/Staff 1 ② 行政関係者 Civil Servant 11 ⑦ 会社員 Company Employee 1 ③ 国際協力関係者 Staff of International 6 ⑧ 学 生 Student 4 ④ 団体・NPO関係者 Staff of Women's 8 ⑨ その他 4 ⑤ 研究者・大学教員 Researcher/Academe 8 Other (Please specify.) 医師 1 無回答 2						

♪♪ ご協力ありがとうございました♪♪

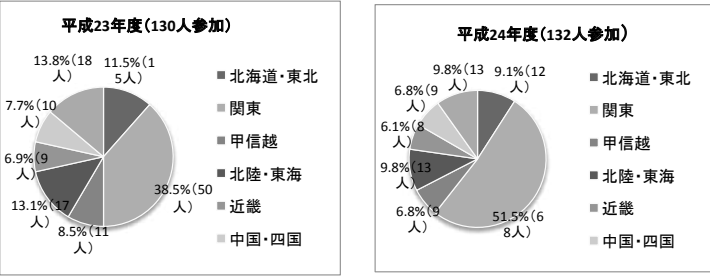
Thank you for your cooperation.

*お書きいただいたご意見は、本事業の改善のためのみに使わせていただきます

* NVEC will refer to your comments and suggestions solely for the purpose of improving the symposium program.

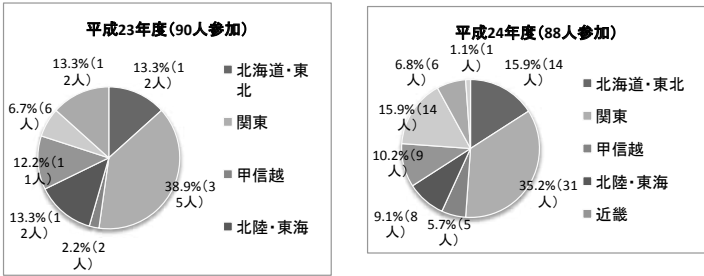
研修・交流事業における参加者の地域バランス

1. 女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修



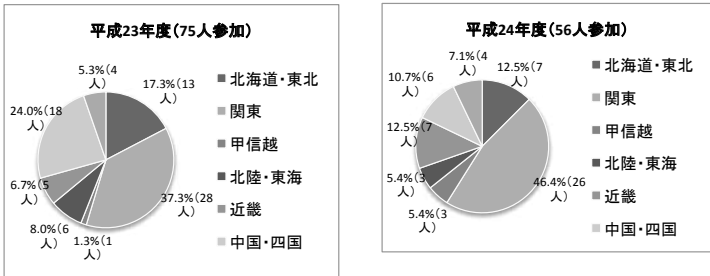
	平成23年度		平成24年度	
北海道・東北	15	11.5	12	9.1
関東	50	38.5	68	51.5
甲信越	11	8.5	9	6.8
北陸・東海	17	13.1	13	9.8
近畿	9	6.9	8	6.1
中国・四国	10	7.7	9	6.8
九州・沖縄	18	13.8	13	9.8
合計	130	100.0	132	100.0

2. 大学等における男女共同参画推進セミナー



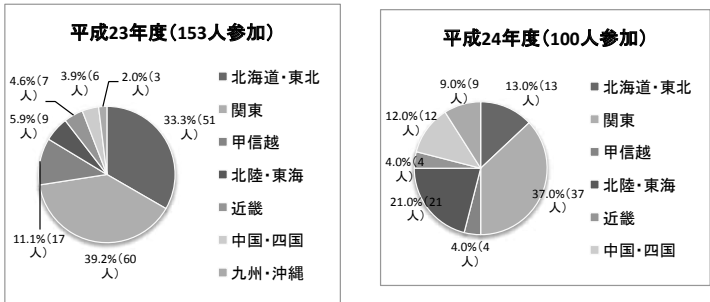
	平成23年度		平成24年度	
北海道・東北	12	13.3	14	15.9
関東	35	38.9	31	35.2
甲信越	2	2.2	5	5.7
北陸・東海	12	13.3	8	9.1
近畿	11	12.2	9	10.2
中国・四国	6	6.7	14	15.9
九州・沖縄	12	13.3	6	6.8
海外	0	0.0	1	1.1
合計	90	100.0	88	100.0

3. 男女共同参画の視点に立った多様なキャリア形成支援研修



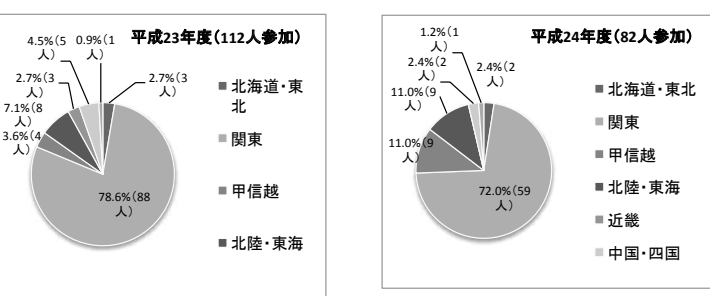
	平成23年度		平成24年度	
北海道・東北	13	17.3	7	12.5
関東	28	37.3	26	46.4
甲信越	1	1.3	3	5.4
北陸・東海	6	8.0	3	5.4
近畿	5	6.7	7	12.5
中国・四国	18	24.0	6	10.7
九州・沖縄	4	5.3	4	7.1
合計	75	100.0	56	100.0

4. 女性関連施設相談員研修



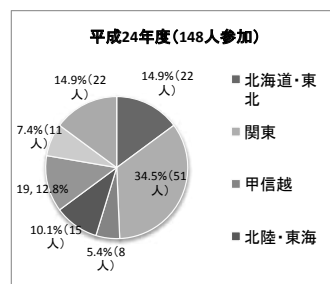
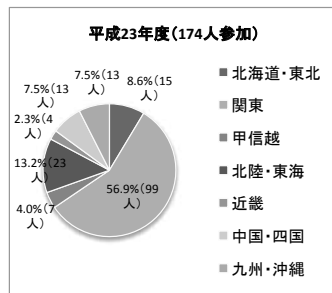
	平成23年度		平成24年度	
北海道・東北	51	33.3	13	13.0
関東	60	39.2	37	37.0
甲信越	17	11.1	4	4.0
北陸・東海	9	5.9	21	21.0
近畿	7	4.6	4	4.0
中国・四国	6	3.9	12	12.0
九州・沖縄	3	2.0	9	9.0
合計	153	100.0	100	100.0

5. 家庭教育・次世代育成指導者研修



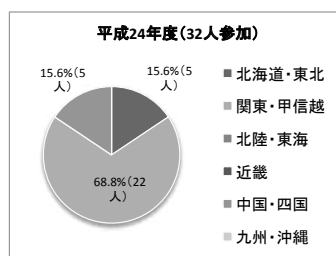
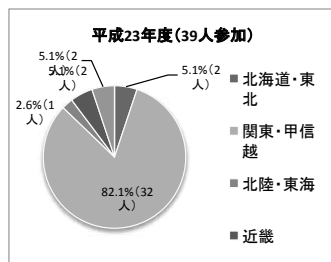
	平成23年度		平成24年度	
北海道・東北	3	2.7	2	2.4
関東	88	78.6	59	72.0
甲信越	4	3.6	9	11.0
北陸・東海	8	7.1	9	11.0
近畿	3	2.7	0	0.0
中国・四国	5	4.5	2	2.4
九州・沖縄	1	0.9	1	1.2
合計	112	100.0	82	100.0

6. 女子中高生夏の学校2012～科学・技術者のたまごたちへ～



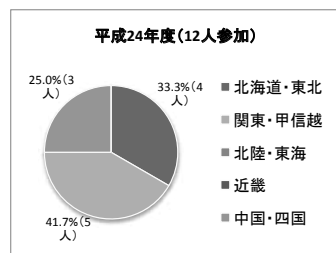
	平成23年度		平成24年度	
北海道・東北	15	8.6	22	14.9
関東	99	56.9	51	34.5
甲信越	7	4.0	8	5.4
北陸・東海	23	13.2	15	10.1
近畿	4	2.3	19	12.8
中国・四国	13	7.5	11	7.4
九州・沖縄	13	7.5	22	14.9
合計	174	100.0	148	100.0

7. 女性情報アーキスト養成研修(入門)



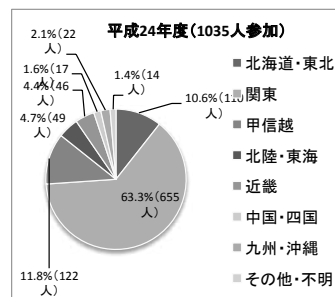
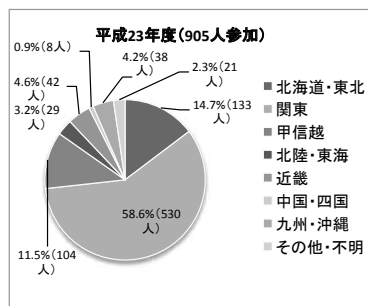
	平成23年度		平成24年度	
北海道・東北	2	5.1	5	15.6
関東・甲信越	32	82.1	22	68.8
北陸・東海	1	2.6	0	0.0
近畿	2	5.1	0	0.0
中国・四国	2	5.1	5	15.6
九州・沖縄	0	0.0	0	0.0
合計	39	100.0	32	100.0

7. 女性情報アーキスト養成研修(実技コース)



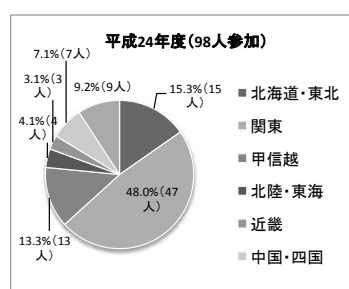
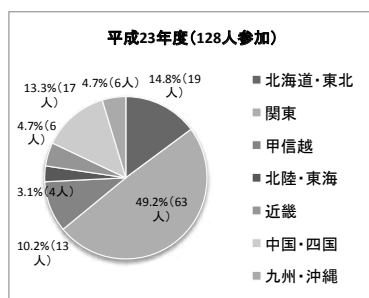
	平成23年度		平成24年度	
北海道・東北	2	5.1	5	15.6
関東・甲信越	32	82.1	22	68.8
北陸・東海	1	2.6	0	0.0
近畿	2	5.1	0	0.0
中国・四国	2	5.1	5	15.6
九州・沖縄	0	0.0	0	0.0
合計	39	100.0	32	100.0

8. 男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム(NWECフォーラム)



	平成23年度		平成24年度	
北海道・東北	133	14.7	110	10.6
関東	530	58.6	655	63.3
甲信越	104	11.5	122	11.8
北陸・東海	29	3.2	49	4.7
近畿	42	4.6	46	4.4
中国・四国	8	0.9	17	1.6
九州・沖縄	38	4.2	22	2.1
その他・不明	21	2.3	14	1.4
合計	905	100.0	1035	100.0

9. 交流学習会議



	平成23年度		平成24年度	
北海道・東北	19	14.8	15	15.3
関東	63	49.2	47	48.0
甲信越	13	10.2	13	13.3
北陸・東海	4	3.1	4	4.1
近畿	6	4.7	3	3.1
中国・四国	17	13.3	7	7.1
九州・沖縄	6	4.7	9	9.2
合計	128	100.0	98	100.0

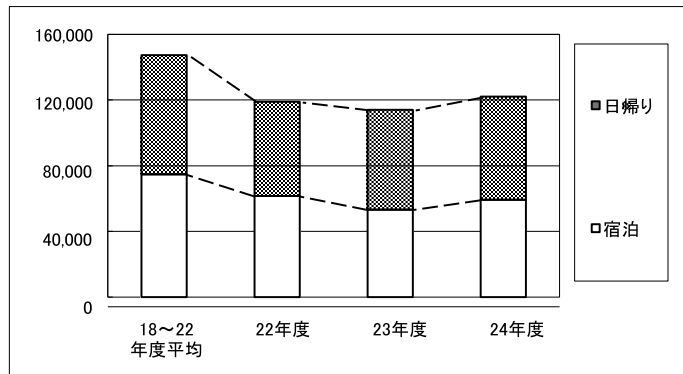
平成24年度 国立女性教育会館利用状況 (平成25年4月12日現在)

利用団体数		4月～3月												24年度実績 合計		対前年度 増減		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	24年度実績 合計	対前年度 増減			
実利用者数 〔A〕は個人 利用者数で 内数	宿泊 日帰り 計	80 180 280	71 152 223	62 176 238	61 175 236	98 118 216	107 193 300	107 193 256	95 161 256	107 182 289	38 126 170	36 134 188	41 147 255	83 172 255	879 1,916 2,795	914 2,126 3,040		
	女性 (個人)	3,502 (6)	1,064 (9)	1,233 (9)	1,603 (17)	2,840 (11)	1,497 (7)	1,443 (7)	1,357 (7)	1,357 (6)	501 (3)	501 (6)	1,152 (11)	2,011 (6)	19,117 (98)	18,067 (139)		
	男性 (個人)	1,175 (4)	457 (1)	578 (4)	1,008 (4)	1,104 (5)	776 (4)	762 (7)	1,094 (7)	1,094 (10)	619 (0)	216 (6)	546 (12)	1,131 (6)	9,466 (63)	8,337 (79)		
	計	4,677 (10)	1,521 (10)	1,811 (13)	2,611 (21)	3,944 (16)	2,273 (11)	2,205 (14)	2,461 (14)	2,451 (16)	1,533 (3)	717 (12)	1,698 (23)	3,142 (12)	28,583 (161)	26,404 (226)		
	目的利用 (個人)	4,510 (24)	1,370 (18)	1,517 (22)	2,373 (27)	3,598 (118)	2,137 (37)	1,990 (27)	2,061 (27)	2,061 (34)	704 (23)	627 (20)	1,272 (38)	2,737 (37)	24,896 (426)	23,944 (943)		
	女性 (個人)	1,942 (30)	2,168 (27)	2,032 (31)	1,863 (44)	1,457 (129)	1,821 (44)	1,821 (44)	1,821 (44)	1,821 (40)	2,299 (26)	1,647 (26)	1,897 (49)	1,782 (43)	35,574 (523)	34,742 (990)		
	男性 (個人)	1,409 (49)	1,762 (50)	1,428 (50)	1,401 (62)	1,081 (126)	1,503 (97)	2,077 (40)	1,081 (40)	1,081 (60)	1,376 (37)	1,127 (61)	1,663 (29)	1,312 (45)	27,109 (696)	26,028 (958)		
	計	3,351 (73)	3,930 (68)	3,460 (72)	3,264 (69)	2,538 (244)	3,324 (134)	4,970 (67)	2,474 (84)	2,474 (84)	3,675 (60)	2,774 (81)	3,560 (67)	3,094 (82)	62,683 (1,121)	60,780 (1,801)		
	目的利用 (個人)	358 (30)	1,146 (27)	845 (31)	632 (44)	826 (129)	638 (44)	638 (44)	638 (44)	638 (40)	369 (26)	561 (26)	307 (49)	695 (43)	8,892 (523)	8,623 (990)		
	女性 (個人)	5,444 (30)	3,232 (27)	3,265 (31)	3,466 (44)	4,297 (129)	3,318 (44)	3,318 (44)	3,318 (44)	3,318 (40)	3,213 (26)	2,148 (26)	3,049 (49)	3,793 (43)	54,691 (523)	52,809 (990)		
男性 (個人)	2,584 (53)	2,219 (51)	2,006 (54)	2,409 (66)	2,185 (131)	2,279 (101)	2,839 (47)	12,064 (60)	12,064 (60)	1,995 (37)	1,343 (67)	2,209 (41)	2,443 (51)	36,576 (759)	34,365 (1,037)			
計	8,028 (83)	5,451 (78)	5,271 (86)	5,875 (110)	6,482 (260)	5,597 (145)	7,175 (81)	27,194 (100)	27,194 (100)	5,208 (63)	3,491 (93)	5,258 (90)	6,236 (94)	91,266 (2,027)	87,174 (745)	4,092 -745		
目的利用 (個人)	4,868 (83)	2,516 (78)	2,362 (86)	3,005 (110)	4,424 (260)	2,775 (145)	3,121 (81)	3,445 (260)	3,445 (260)	1,073 (63)	1,188 (93)	1,579 (90)	3,432 (94)	33,788 (2,027)	32,567 (745)	1,221 -745		
過去3年平均*	8,432	6,001	6,868	6,968	7,902	7,153	9,170	27,590	4,971	4,971	5,223	6,645	5,996	97,294	115,323			
宿泊者数 〔B〕 (延べ)	女性 男性 計	3,658 1,218 4,876	1,220 493 1,713	1,144 553 1,697	2,337 1,218 3,555	3,145 1,462 4,607	1,804 773 2,577	1,804 773 2,577	1,550 687 2,237	1,022 860 1,872	823 341 1,164	467 301 768	643 301 944	3,048 1,977 5,025	20,861 9,477 30,338	18,354 8,573 26,927	2,507 -467 3,881	
延利用者数 〔A+B〕	宿泊 日帰り 計	4,718 7,160 2,393	1,622 2,284 960	1,398 2,377 1,131	3,540 3,940 2,460	4,198 5,985 2,566	2,470 3,301 1,549	2,470 3,301 1,549	2,139 2,993 1,449	1,311 1,872 1,944	1,048 1,164 960	626 687 436	782 944 847	4,119 5,059 2,728	28,071 39,978 19,413	25,046 36,421 16,910	3,025 3,557 2,503	
	女性 (個人)	9,228 1,942 3,802	2,992 1,268 1,762	2,915 1,842 1,428	6,013 2,032 1,401	7,796 2,457 1,081	4,607 1,821 1,503	4,607 1,821 1,503	4,129 2,893 2,077	3,372 13,773 10,970	1,752 2,299 1,376	1,253 1,647 1,127	2,054 2,299 1,663	6,856 7,821 3,132	52,967 35,574 27,109	48,990 36,421 26,028	3,977 832 1,081	
	男性 (個人)	9,553 2,393 3,351	3,234 960 3,930	3,508 1,131 3,460	6,400 2,460 3,264	8,551 2,566 3,264	4,850 1,549 3,324	4,850 1,549 3,324	4,442 1,449 4,970	4,323 1,944 24,743	2,697 960 3,675	2,642 436 2,774	2,642 436 3,560	2,642 436 3,560	7,787 2,728 3,094	59,331 19,413 62,683	53,331 16,910 60,770	6,060 2,503 1,913
	計	18,781 4,334 23,115	6,226 2,230 8,456	6,423 2,508 8,931	12,413 6,400 18,813	16,347 8,551 25,898	9,457 3,301 12,758	9,457 3,301 12,758	8,571 4,448 13,019	7,771 5,442 13,213	4,449 2,400 6,849	3,800 1,601 5,401	5,284 1,977 7,261	7,923 4,225 12,148	61,710 44,999 106,709	56,662 35,331 92,000	5,049 1,887 6,936	
	目的利用 (個人)	9,228 1,942 3,802	2,992 1,268 1,762	2,915 1,842 1,428	6,013 2,032 1,401	7,796 2,457 1,081	4,607 1,821 1,503	4,607 1,821 1,503	4,129 2,893 2,077	3,372 13,773 10,970	1,752 2,299 1,376	1,253 1,647 1,127	2,054 2,299 1,663	2,054 2,299 1,663	6,856 7,821 3,132	52,967 35,574 27,109	48,990 36,421 26,028	3,977 832 1,081
	女性 (個人)	9,553 2,393 3,351	3,234 960 3,930	3,508 1,131 3,460	6,400 2,460 3,264	8,551 2,566 3,264	4,850 1,549 3,324	4,850 1,549 3,324	4,442 1,449 4,970	4,323 1,944 24,743	2,697 960 3,675	2,642 436 2,774	2,642 436 3,560	2,642 436 3,560	7,787 2,728 3,094	59,331 19,413 62,683	53,331 16,910 60,770	6,060 2,503 1,913
	計	18,781 4,334 23,115	6,226 2,230 8,456	6,423 2,508 8,931	12,413 6,400 18,813	16,347 8,551 25,898	9,457 3,301 12,758	9,457 3,301 12,758	8,571 4,448 13,019	7,771 5,442 13,213	4,449 2,400 6,849	3,800 1,601 5,401	5,284 1,977 7,261	7,923 4,225 12,148	61,710 44,999 106,709	56,662 35,331 92,000	5,049 1,887 6,936	
	目的利用 (個人)	9,586 12,904 23,490	4,138 7,164 11,302	3,760 6,968 10,728	6,645 9,664 16,313	8,622 11,089 19,711	5,245 8,174 13,419	5,245 8,174 13,419	5,260 9,412 14,672	17,456 29,066 46,522	2,121 6,372 8,493	1,814 4,178 6,000	2,361 6,202 8,563	2,361 6,202 8,563	7,551 10,881 18,432	61,859 122,074 183,933	57,613 114,101 171,714	4,246 7,973 12,219
	過去3年平均*	12,800	8,187	9,090	11,469	13,354	10,845	12,128	29,690	6,309	6,368	7,971	9,213	9,213	137,424	154,692	8	
	開始日数	30	29	29	30	31	29	29	28	24	20	21	30	30	322	322	8	
1日当たりの利用者数 宿泊施設 利用率 (%)	宿泊者 利用率	430	247	240	322	357	281	324	1038	265	208	295	362	369	354	15		
	宿泊者 利用率	50.4	19.6	18.8	40.5	46.0	28.5	25.7	22.3	17.2	11.8	15.4	49.8	30.5	27.4	3.1		
	宿泊者 利用率	43.3	26.9	26.8	48.8	56.9	40.3	37.5	32.8	22.6	22.6	20.6	34.5	36.9	37.8	2.0		
	宿泊者 利用率	44.2	26.7	24.0	39.0	50.3	27.3	35.9	30.9	19.9	17.6	19.0	53.4	33.8	31.8	2.0		
収入額(円)	宿泊施設	13,267,200	4,697,200	4,463,600	10,451,400	10,678,800	6,785,200	5,701,600	52,192,000	3,133,200	1,716,800	2,454,600	13,046,800	81,615,600	66,838,200	14,977,400		
	研修施設	1,264,525	966,125	760,750	1,397,325	987,025	955,200	1,074,125	1,174,250	943,625	489,875	755,125	1,403,025	12,160,775	12,073,150	87,625		
	月計	14,531,725	5,663,325	5,214,350	11,848,725	11,665,825	7,740,400	6,775,725	6,393,450	4,076,825	2,206,475	3,209,725	14,449,825	93,776,375	78,711,350	15,065,025		

施設別利用状況(平成18～24年度)※1

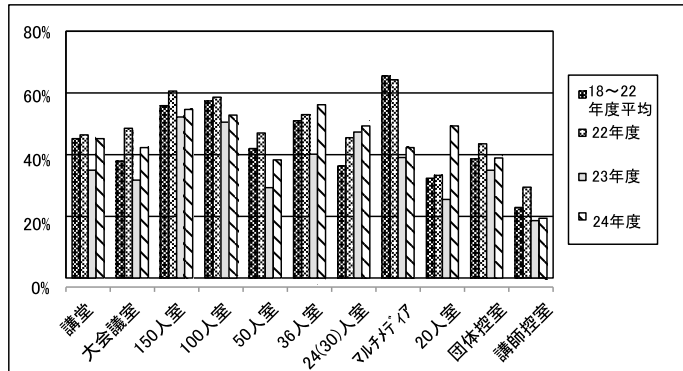
延べ利用者数(人)

	18～22 年度平均	22年度	23年度	24年度
宿泊	74,853	61,477	53,331	59,391
日帰り	72,486	57,497	60,770	62,683
計	147,339	118,974	114,101	122,074
会館日数	320	249	322	330



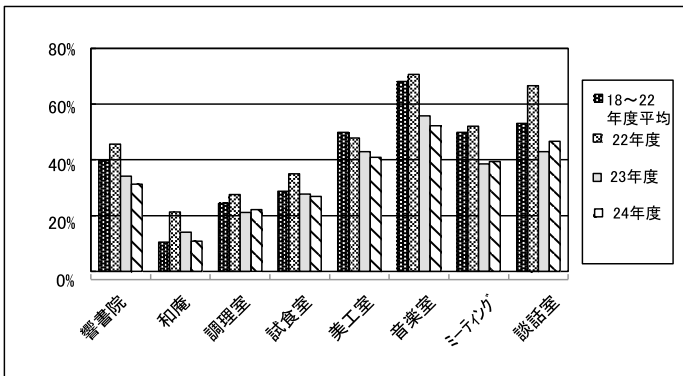
研修棟

	18～22 年度平均	22年度	23年度	24年度
講堂	45.2%	46.4%	34.9%	45.2%
大会議室	37.8%	48.6%	31.7%	42.3%
150人室	55.8%	60.6%	52.2%	54.7%
100人室	57.4%	58.6%	50.5%	52.9%
50人室	42.0%	47.1%	29.3%	38.3%
36人室	50.9%	53.0%	40.2%	56.2%
24(30)人室	36.3%	45.5%	47.3%	49.2%
マルチメディア	65.5%	64.3%	39.1%	42.3%
20人室	32.3%	33.2%	25.4%	49.2%
団体控室	38.6%	43.5%	34.9%	38.9%
講師控室	22.9%	29.5%	18.6%	19.3%



実技研修施設関係

	18～22 年度平均	22年度	23年度	24年度
響書院	39.7%	45.6%	34.2%	31.2%
和庵	10.6%	21.3%	14.1%	10.9%
調理室	24.4%	27.6%	21.2%	22.1%
試食室	28.8%	35.1%	27.7%	27.0%
美工室	49.8%	47.9%	43.0%	40.9%
音楽室	68.2%	70.7%	55.8%	52.3%
ミーティング	49.8%	52.1%	38.6%	39.4%
談話室	53.1%	66.6%	42.9%	46.7%

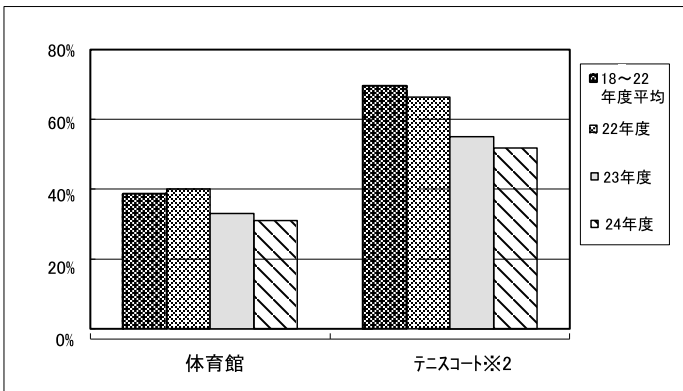


体育施設

	18～22 年度平均	22年度	23年度	24年度
体育館	38.7%	40.0%	33.0%	31.0%
テニスコート※2	69.7%	66.4%	55.1%	51.8%

※1:平成23年度より利用率算出方法を一部変更しており、掲載数値を再計算しているため、平成22年度以前の数値については、平成22年度版自己点検評価報告書と一致しない。

※2:テニスコートについては平成23年10月より5面→2面になっている。



平成24年度目的別利用状況

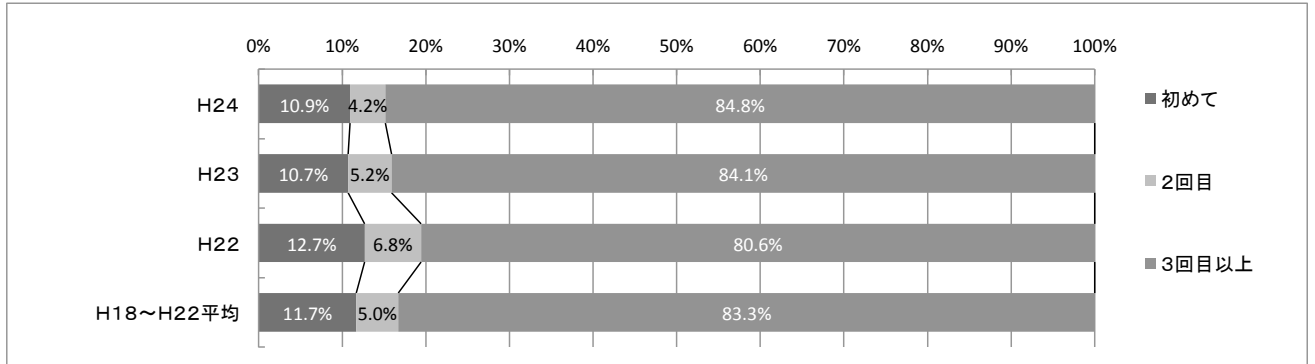
		目的利用		一般利用		合計
		利用者数	割合	利用者数	割合	
宿泊	実利用者	24,896	87%	3,687	13%	28,583
	延利用者	28,071	91%	2,737	9%	30,808
日帰り	実利用者	8,892	14%	53,791	86%	62,683
合計	実利用者	33,788	37%	57,478	63%	91,266
	延利用者	61,859	51%	60,215	49%	122,074

利用回数別利用状況

利用回数別利用状況(利用団体数、利用者数)

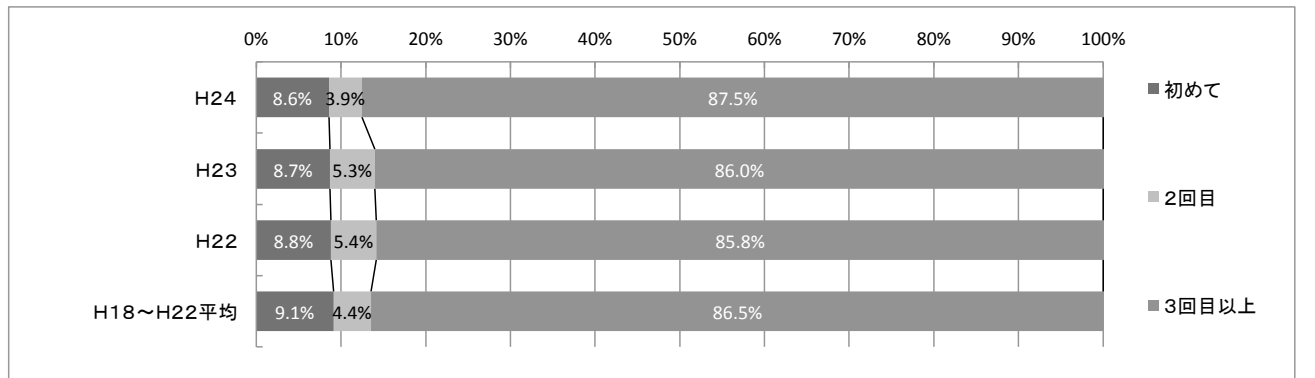
1 団体数にみる利用回数別利用状況

年度	初めて		2回目		3回目以上		団体数	
H24	306	10.9%	118	4.2%	2,371	84.8%	2,795	100.0%
H23	325	10.7%	159	5.2%	2,556	84.1%	3,040	100.0%
H22	368	12.7%	196	6.8%	2,338	80.6%	2,902	100.0%
H18～H22平均	416	11.7%	178	5.0%	2,956	83.3%	3,550	100.0%



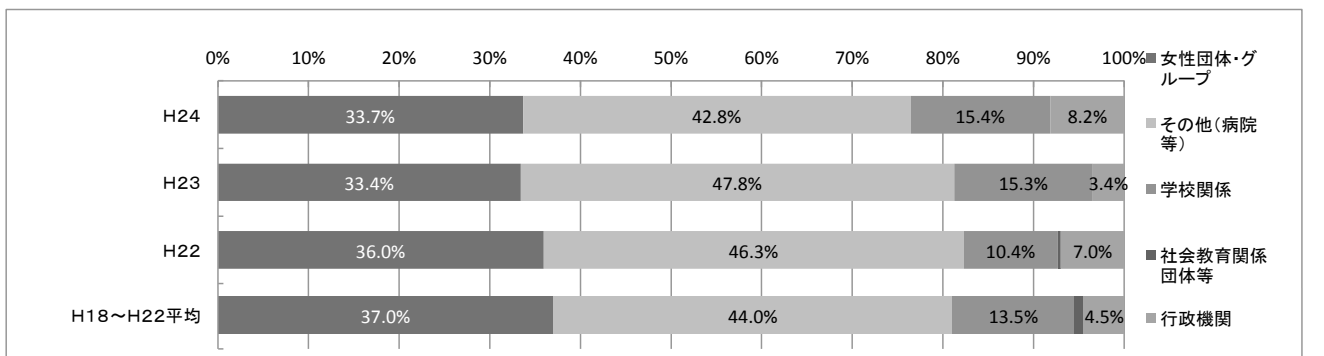
2 利用者数にみる利用回数別利用状況

年度	初めて		2回目		3回目以上		利用者数	
H24	7,824	8.6%	3,545	3.9%	79,897	87.5%	91,266	100.0%
H23	7,599	8.7%	4,596	5.3%	74,979	86.0%	87,174	100.0%
H22	7,754	8.8%	4,705	5.4%	75,395	85.8%	87,854	100.0%
H18～H22平均	9,897	9.1%	4,790	4.4%	93,744	86.5%	108,431	100.0%



3 初めての利用団体にみる主催区分別利用状況

	女性団体・グループ		その他(病院等)		学校関係		社会教育関係団体等		行政機関		団体数	
H24	103	33.7%	131	42.8%	47	15.4%	-	-	25	8.2%	306	100.0%
H23	107	33.4%	153	47.8%	49	15.3%	-	-	11	3.4%	320	100.0%
H22	128	36.0%	165	46.3%	37	10.4%	1	0.3%	25	7.0%	356	100.0%
H18～H22平均	153	37.0%	182	44.0%	56	13.5%	4	1.0%	18	4.5%	413	100.0%



平成24年度外国人来館状況

国際会議、国際交流、見学等を目的とする外国人の利用状況は、開館以来平成25年3月末までの累計で、173カ国から、実数24,532人、平成24年度の来館者実数は64カ国から827人となっています。

* 地域別来館状況

地 域	来館者累計	本年度実数	国数累計	本年度実数
アジア州	11,367	552	27	20
中近東	221	7	13	4
大洋州	1,466	17	17	4
アフリカ州	537	16	46	11
ヨーロッパ州	4,071	112	37	15
北アメリカ州	6,192	81	2	2
中・南アメリカ州	678	42	31	8
合 計	24,532	827	173	64

* 来館者実数国別ランキング

No.	国名	累計	平成24年度
1	アメリカ	5,390	71
2	韓国	3,839	104
3	中国	2,512	146
4	イギリス	935	40
5	オーストラリア	892	10
6	カナダ	802	10
7	フィリピン	777	27
8	インドネシア	753	109
9	タイ	647	25
10	オランダ	637	37
11	ドイツ	580	7
12	インド	342	9
13	マレーシア	339	9
14	ロシア	324	2
15	スリランカ	322	6
16	ニュージーランド	275	5
17	フランス	256	5
18	台湾	254	20
19	ベトナム	200	30
20	シンガポール	198	5
21	北朝鮮	193	0
22	ネパール	186	6
23	バングラデシュ	179	1
24	ノルウェー	175	1
25	パキスタン	170	2

平成24年度利用拡大戦略

I 基本方針

1. 独立行政法人国立女性教育会館中期計画（平成23～27年度）に添い、平成27年度までに宿泊室利用率について55%以上を達成することを目指す。
2. 大学・企業を含め、会館で開催される研修等を積極的に勧奨し、確実な利用につなげる。同時に、女性関連団体・グループ等の利用についても継続して勧奨を行う。
3. 全役職員が利用促進に取り組む。

II 重点的取組

1. プログラム開発

- (1) 会館の多様な人材を活用し、利用者のニーズに合わせた情報提供や講義を提供する。
- (2) 「男女共同参画、女性教育関係者でないと利用できない」等の誤解を払拭するため、交流事業等において一般利用者にも参加しやすく、親しみやすいプログラムを実施する等、会館への関心を高めるように努める。
- (3) 留学生の事前研修、事後報告の場としての施設利用に加え、会館が提案する研修プランとして、国際シンポジウム等主催事業への参加や日本家屋を利用した文化体験等を含めたプログラムを検討する。

2. プログラムの充実

「統計から見る男女共同参画」など、会館が開発したプログラムについてその他の主催事業等で活用を図る。

3. ホームページの見直し

- (1) 事業概要等各コンテンツへの遷移を整理し、見やすく使いやすいサイトとする。各主催事業ページ等においては検索にヒットしやすいキーワードを設定するなどし、アクセス件数の増加に努める。
- (2) 研修生の便宜を図るため会館周辺情報などを掲載する。

4. 利用可能施設の拡大と広報

- (1) 本館1階ロビー部分を新たに展示会場として利用施設に加え、利用団体に周知する。展示概要についてはホームページ等で紹介するなどの特典を加え、利用

を促進する。

- (2) 利用閑散期（12月～2月）の対策として映画、ドラマ等の撮影のほか、結婚写真、雑誌、カタログ等のスチール撮影等についても過去の実績等をホームページで紹介し、積極的な勧奨を行う。

5. 重点訪問先

(1) 新規訪問先

○大学、短期大学、専門学校、高校、企業、組合等に対して積極的に訪問活動を行う。

特に、平成22年度主催事業「大学・研究機関のための男女共同参画研修」、平成23年度主催事業「大学職員のための男女共同参画研修」に職員を参加させている21の機関について、東京・埼玉を中心に積極的な広報等を行う（別紙1）。

○人的ネットワークを活用しつつ、新規顧客開拓を進める。

○J-Winや連合など加盟団体と連携し利用拡大を図る。

(2) 既存利用団体

○以前利用があったが、現在利用のない団体に対して再度の利用を働きかける。

○概ね100名以上の大規模利用団体（約150団体）に対し、訪問を行い、改善要望等の把握に努める。

6. 利用案内送付先

- (1) 本格的な日本家屋を有していることから、茶道、華道、書道、和楽器などの文化団体（文化庁登録の財団法人、社団法人 154団体）や大学のクラブ活動に対し周知する。

- (2) 会館役職員が講師となる他機関が実施する講演会やセミナーにおいて積極的な利用についての説明や利用案内の配布を実施する。

III 利用拡大計画の着実な実施

1. これまでに実施した利用拡大方策を検証し、効果が高いものを利用拡大計画に反映させる。
2. 利用拡大計画の着実な実施を確保するため、定期的に計画の実施状況を報告する。

○平成 22 年度主催事業「大学・研究機関のための男女共同参画研修」

参加大学 47 機関

○平成 23 年度主催事業「大学職員のための男女共同参画研修」

参加大学 35 機関

うち、埼玉・東京の機関

機関名	H22	H23	備考（最新会館利用歴等）
①獨協医科大学		○	無
②東京家政大学	○	○	H24.4 100人以上規模予約有
③お茶の水女子大学	○	○	ほぼ毎年利用有
④慶応義塾大学		○	H24.4 100人規模予約有
⑤国士舘大学		○	H22.4 60人規模利用有
⑥首都大学東京		○	H23.8 10人程度利用有（ゼミ）
⑦上智大学	○	○	無
⑧津田塾大学	○	○	H24.4 20人程度利用有（同窓会）
⑨日本大学	○	○	H21.4 10人程度利用有（ゼミ）
⑩武蔵野大学		○	無
⑪明治大学		○	H23.9 10人程度利用有（ゼミ）
⑫法政大学	○		H23.8 10人程度利用有（ゼミ等）
⑬電気通信大学	○		無
⑭創価大学	○		無
⑮早稲田大学	○		H23.12 60人程度利用有（学生委員会）
⑯中央大学	○		無
⑰東京海洋大学	○		無
⑱東京外国語大学	○		H21.9 30人程度利用有（茶道部）
⑲東京都市大学	○		無
⑳東京芸術大学	○		無
㉑埼玉大学	○		ほぼ毎年利用有

（順不同）

平成24年度広報実施計画

国立女性教育会館

I 基本方針

- 独立行政法人国立女性教育会館（以下「会館」という。）の意義、事業の成果等並びに男女共同参画及び女性教育についての理解促進が図られるよう、関係者の協力を得つつ、国内外へ積極的に情報を発信する。
- 会館の第三期中期目標・中期計画（平成23年～27年度）の達成に向け、広報実施計画に即して、PDCA（計画、実行、評価、改善）サイクルにより、効果的、効率的な広報の展開に努める。
- 会館内の緊密な連携を図り、迅速な広報の展開に努め、特に会館ホームページの充実を図る。
- 広報活動の充実を図るため、プレスリリースを積極的に行うなど、幅広いメディアを活用した広報に努める。
- 大学等の男女共同参画部局等への積極的な広報に努める。
- 職員の研修機会の充実を図り、全職員の広報力の向上に努める。
- 男女共同参画の視点を尊重した広報を展開するよう努める。

II 具体的取組

1 重点推進内容

- 1) 会館の認知度や利用者拡大を図るため、掲載方法や写真等を工夫することでホームページの内容をより充実し、アクセス件数の増加に努める。
- 2) 研修・交流事業の周知等
研修・交流事業については、要項及び研修プログラムの早期作成に努め、募集及び実施速報を各種広報ツールを活用し、記者会等へのプレスリリースに積極的に取り組むことにより、参加者の獲得・成果の普及に努める。
- 3) 大学等の男女共同参画部局等への積極的な広報
大学職員等を対象とした研修や女性教育情報センター所蔵図書のパッケージ貸出サービスについて、男女共同参画部局や図書館等へ積極的な広報を行う。
- 4) 調査研究成果の積極的な広報
「男女共同参画データブック2012」作成をはじめ、調査研究の成果について、積極的に広報を行う。
- 5) 女性情報ポータル及びデータベース
女性情報ポータルについて、会館が構築・提供してきた各種データベース類を更新、情報提供の充実を図る。
- 6) 女性アーカイブシステムの周知等
女性アーカイブセンター及び女性デジタルアーカイブシステムや展示について、ホームページやメールマガジン等を通じて積極的に広報に努め、広く活用を促す。

中期計画における宿泊利用率を踏まえ、館内に設置した利用拡大推進本部を中心に、会館の利用促進を図るための広報について検討を行い、新たな展開を図る。

2 広報活動環境の整備

1) 広報ツールの改善等

広報活動の効果を高めるため、会館のホームページやパンフレット、広報紙等について、改善を図る。

①ホームページ

- ホームページ見直しプロジェクトチームで、ホームページのアクセス状況等を分析し、SEO効果を高める工夫をする。予算状況に応じて引き続きホームページの見直し・改訂を図る。
- タイムリーな情報発信ができるよう掲載の迅速化に努める。
- 海外向けの情報発信を強化するため、英語のホームページの充実に努める。

②パンフレット・リーフレット

- 既存のパンフレットについて、引き続き、より見やすいパンフレットを作成する。
- 海外向けの情報発信を強化するため、英語のパンフレットの充実にについて検討する。

③広報紙・メールマガジン等

- NWECC Newsletter の発行案内メール送信先の新たな開拓に努める。
- メールマガジンは、内容及び頻度について検討し、より多くの購読者の獲得に努める。
- 事業実施に関する報告書等を作成する。

④その他

- 広報グッズ及び記念品を配布する。
- 女性関連施設等の広報誌への会館関連記事掲載について働きかける。
- 近隣文化施設等で構成されている彩の国・文化の森連絡協議会や、埼玉県ものづくりスタンプラリーへ参加し、広報に努める。

2) デジタル情報の整備保存

広報活動をより効果的なものとするため、デジタル写真等を継続的に蓄積し、いつでも利用が可能となるように共有化を進める。

3) 広報課題への対応

会館広報についての意見・提案を取りまとめ今後の広報活動の改善に活かす。

3 職員の広報力の向上

1) 研修の実施

職員の広報活動の向上を図るための研修を、全職員を対象に実施に努める。

4 評価の実施

1) 自己点検・評価委員会における評価

自己点検・評価委員会において効果的、効率的な広報活動が実施されているか

独立行政法人国立女性教育会館運営会議規程

平成13年 7 月30日理事長裁定
平成14年 4 月 1 日一部改正
平成14年11月 1 日一部改正
平成17年 4 月 1 日一部改正
平成20年10月 1 日一部改正

1 趣旨

独立行政法人国立女性教育会館（以下「会館」という。）の業務の遂行に関する重要事項について、連絡及び協議するため、会館に独立行政法人国立女性教育会館運営会議を（以下「運営会議」という。）を置く

2 組織等

- （１）運営会議は、理事長、理事、事務局長、各課長及び研究国際室長をもって組織する
- （２）理事長は、必要に応じ構成員以外の者を説明のために運営会議に出席させることができる。

3 開催日時

運営会議は、原則として毎週火曜日の午前10時00分から開催する。

4 運営会議の司会は、総務課長が行う。

5 庶務

運営会議の庶務は、総務課総務係において処理し、毎回議事録（要旨）を作成するものとする。

独立行政法人国立女性教育会館役員会の開催について

平成14年4月1日一部改正

平成13年4月1日理事長裁定

1 趣旨

独立行政法人国立女性教育会館（以下「会館」という。）の業務運営及び評価に関する重要事項を審議するため、会館に独立行政法人国立女性教育会館役員会（以下「役員会」という。）を開催する。

2 組織等

（1）役員会は、理事長、理事及び監事をもって組織する。

（2）理事長は、必要に応じ構成員以外の者を出席させることができる。

（3）理事長（理事長に事故のあるときは理事）は、役員会を召集し、その議長となる。

3 会議の開催

役員会は、原則として毎年度偶数月に開催する。

4 庶務

役員会の庶務は、総務課において処理する。

5 この裁定は、平成13年4月1日から実施する。

独立行政法人国立女性教育会館運営委員会規程

（設置）

第1条 独立行政法人国立女性教育会館（以下「会館」という。）に，独立行政法人国立女性教育会館運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（協議事項）

第2条 委員会は，次の各号に掲げる事項について協議し，理事長に助言を行う。

- 一 会館の事業運営に関する基本的な事項
- 二 その他会館の事業運営に関し必要な事項

（委員）

第3条 委員会は，会館の運営に関し広くかつ高い見識を有するもののうちから，理事長が委嘱をする20名以内の委員で構成する。

（委嘱期間）

第4条 前条に規定する委員の委嘱期間は，2年とし，再任を妨げない。

2 委員に欠員を生じた場合の補欠委員の委嘱期間は，前任者の残任期間とする。

（委員長）

第5条 委員会に会長を置く。

2 会長は，第3条の委員のうちから，委員の互選により選出する。

3 会長は，委員会を招集し，その議長となる。

4 会長に事故があるときは，会長があらかじめ指名した委員が，その職務を代理する。

(関係者の出席)

第6条 委員会は、必要があるときは関係者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 委員会に関する事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成13年7月1日から施行する。
- 2 この規程施行後最初及び会長が置かれていないときに招集される委員会の会議は、第5条第3項の規定にかかわらず、理事長が召集する。

附 則

この規程は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年8月1日から施行する。

独立行政法人国立女性教育会館運営委員会委員名簿(第6期)

〔五十音順(敬称略)〕

平成24年4月1日現在

	氏 名	現 職
1	ありかわ よしこ 蟻 川 芳 子	日本女子大学 学長・理事長
2	うちだ ようこ 内 田 洋 子	埼玉県男女共同参画推進センター 所長
3	おさない せきこ 小 山 内 世 喜 子	アピオあおもり 青森県男女共同参画センター 副館長／特定非営利活動法人全国女性会館協議会 常任理事
4	おはら ゆみこ 小 原 由 美 子	独立行政法人国立公文書館 公文書専門官
5	くろだ かずお 黒 田 一 雄	早稲田大学大学院 アジア太平洋研究科 教授
6	さとう かずこ 佐 藤 和 子	特定非営利活動法人静岡県男女共同参画センター交流会議 代表理事
7	さとう みちあき 佐 藤 道 明	日本労働組合総連合会埼玉県連合会 事務局長
8	しらい あや文 白 井 文	ゲンゼ株式会社 取締役, 前尼崎市市長
9	たけのぶ みえこ 竹 信 三 恵 子	和光大学 現代人間学部現代社会学科 教授
10	たなか まさふみ 田 中 雅 文	日本女子大学 人間社会学部教育学科 教授
11	たなか やすよ 田 中 恭 代	株式会社旭化成アビリティ 代表取締役社長
12	ちづか あきら 千 塚 明	独立行政法人国民生活センター 研修部長
13	なかあぜ つやこ 中 畔 都 舍 子	全国地域婦人団体連絡協議会 会長
14	なかはし えみこ 中 橋 恵 美 子	特定非営利活動法人わははネット 理事長
15	ねぎし しげふみ 根 岸 茂 文	社団法人埼玉県経営者協会 専務理事・事務局長
16	はにゅう さわこ 羽 入 佐 和 子	お茶の水女子大学 学長
17	まえじま とみお 前 島 富 雄	埼玉県教育委員会 教育長
※ 18	やざわ すみこ 矢 澤 澄 子	元 東京女子大学教授
19	やまぐち みつこ 山 口 み つ 子	国際婦人年連絡会 世話人
20	わたなべ みえこ 渡 辺 三 枝 子	立教大学大学院 ビジネスデザイン研究科 特任教授

※印…会長

独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて

〔平成 21 年 11 月 17 日〕
閣 議 決 定

独立行政法人（独立行政法人通則法（平成 11 年法律第 103 号）第 2 条第 1 項に規定する独立行政法人をいう。以下同じ。）の契約については、原則として一般競争入札等（競争入札及び企画競争・公募をいい、競争性のない随意契約は含まない。以下同じ。）とすることとしているが、競争性のない随意契約に対する厳しい批判に加え、一般競争入札等に移行しても一者応札・応募となっており、実質的な競争性が確保されていないのではないかといった指摘も引き続き存在する。このため、競争性のない随意契約の見直しを更に徹底して行うとともに、一般競争入札等についても真に競争性が確保されているか、以下の取組を行うことにより、点検、見直しを行うこととする。

1. 点検・見直しを行うに当たっての主な観点

独立行政法人の契約について厳格に見直しが行われるよう、各独立行政法人及び各府省は、以下の観点等により点検し、見直しを行う。

- (1) 競争性のない随意契約を継続しているものについて、随意契約事由が妥当であるか、契約価格が他の取引実例等に照らして妥当となっているか。
- (2) 競争性のない随意契約から一般競争入札等への移行を予定しているものの前倒しが検討できないか。
- (3) 契約が一般競争入札等による場合であっても、真に競争性が確保されているといえるか（一者応札・応募となっている案件については、一者応札・応募の改善方策が適当か、国や他の法人の取組も参考に更に検証する。特に、仕様書の内容など具体的な条件の設定については、真に競争性を確保する観点から具体的かつゼロベースで検証を行う。）。

（注） 一者応札・応募の改善に向け、例えば、以下のような観点から十分な改善が行われているかを検証する。

- 仕様書内容の見直し
- 入札参加要件の緩和
- 公告期間の十分な確保
- 業務等準備期間の確保
- 契約情報提供の充実
- 電子入札システムの導入
- 一者応札・一者応募案件の事後点検体制の整備

2. 点検・監視体制と作業の手順

(1) 各独立行政法人における監視体制の整備と点検及び見直し

主務大臣は、各独立行政法人に対し、監事及び外部有識者によって構成する「契約監視委員会」を設置し、上記1.の観点に沿って契約の点検及び見直しを行い、その結果を主務省に提出するよう要請する。その際、「契約監視委員会」を構成する外部有識者を各独立行政法人が指名するにあたっては主務大臣の了解を得ることとし、また、「契約監視委員会」の審議概要を公表するよう要請する。

(2) 主務大臣による点検

主務大臣は、各独立行政法人の「契約監視委員会」で行われた点検及び見直しの結果について点検を行う。また、主務大臣はその点検結果を反映した見直しを行うよう各独立行政法人に要請する。

(3) 主務大臣から総務大臣への報告

主務大臣は、主務大臣による点検結果を反映した各独立行政法人における点検及び見直しの結果を総務大臣に報告する。各府省及び各法人は、総務大臣に報告した結果をウェブサイト公表することとし、総務省はそれらを取りまとめ、公表する。

3. 点検対象とスケジュール

(1) 計画的に独立行政法人の随意契約の見直しを行っていくため、主務大臣及び各法人は、20年度に締結した競争性のない随意契約及び一者応札・応募となった契約について、上記1.の観点に沿って点検、見直しを行い、各法人は新たな随意契約等見直し計画を策定する。また、20年度末時点で継続している19年度以前に締結された複数年契約についても同様の点検、見直しを行う。各府省及び各法人はこれらの結果を22年4月末を目途に公表する。

(2) 3.(1)の作業と同時に、今回の点検、見直しの趣旨を速やかに反映するため、主務大臣及び各法人は、21年度末までに契約締結が予定されている調達案件についても、真に競争性を確保できるよう、新規案件を含めて1.の観点に沿って事前に点検し、各法人は点検結果を受けて見直しを行う。各府省及び各法人はその結果を22年4月末を目途に公表する。

4. フォローアップ

主務大臣及び各法人（契約監視委員会）は、上記点検、見直し後においても、各法人において締結された契約についての改善状況をフォローアップし、毎年公表する。総務省は、その結果を取りまとめ、公表する。

国立女性教育会館契約監視委員会規則

理 事 長 裁 定

平成 21 年 11 月 30 日

1 規則の目的

本規則は、「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」（平成 21 年 11 月 17 日閣議決定）に基づき、契約監視委員会（以下「委員会」という。）の設置等に関して必要な事項を定めることを目的とする。

2 委員会の所掌事務

国立女性教育会館において発注した物品、役務、建設工事及び設計・コンサルティング業務等に係る契約について、報告を受け、審査を行い、契約の適正化に関し、理事長に対して意見の具申を行う。

3 委員会の構成

- (1) 委員会は、監事 1 名以上及び外部有識者 2 名以上をもって組織する。
- (2) 委員は、監事及び物品・役務等に係る契約の過程及び内容等について学歴経験の有る者のうちから、文部科学大臣の了解を得た上で、理事長が委嘱する。委員の氏名及び職業は、公表するものとする。
- (3) 委員の任期は、1 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。委員は再任されることができる。
- (4) 委員会に、委員長及び委員長代理を置き、委員の互選により選任する。委員長は、委員会の議事を整理する。

4 会議の開催等

- (1) 委員会は、原則として、年 2 回会議を開催する。
- (2) 会議は、非公開とする。
- (3) 委員会の議事の概要及び意見具申の内容は、公表するものとする。

5 委員会の庶務

委員会の庶務は、総務課会計係において処理する。

6 その他

- (1) 委員は、自己又は 3 親等以内の親族の利害に関係のある事項については、その議事に加わることができない。
- (2) 委員は、委員会において知り得た秘密を他に漏らしてはならない。委員でなくなった後においても、同様とする。
- (3) 委員会に対して行う物品・役務等に係る契約の報告の様式は、別に定めるところによる。

平成24年度監事監査計画

第1 監査の基本方針

独立行政法人国立女性教育会館監事監査規程（以下「監査規程」という。）第6条の規定に基づき定期監査（業務の監査及び会計の監査）を実施する。

なお、定期監査の実施に当たっては、監査規程及び独立行政法人国立女性教育会館監事監査実施基準の定めるところにより実施する。

また、監査に当たっては、ガバナンスの保持及び内部統制の充実など法人運営体制の充実について留意するものとする。

第2 定期監査の項目

（1）業務の監査

- ① 関係諸法令及び規則等の実施状況並びに内規等の整備状況
- ② 組織運営状況（内部統制の状況）
- ③ 人事管理状況（給与水準の状況）
- ④ 事業についての企画、実施及び自己評価の実施状況
- ⑤ 情報開示状況

（2）会計の監査

- ① 決算（年次及び月次）の状況
- ② 予算の執行及び資金運用の状況
- ③ 収入、支出の状況
- ④ 固定資産の管理状況
- ⑤ 入札・契約の状況（随意契約の適正化等）

第3 定期監査の対象部門等

- （1）業務の監査……………総務課、事業課、情報課及び研究国際室
- （2）会計の監査……………総務課

第4 定期監査の方法及び時期

- （1）業務の監査……………年度終了後、書面監査、実地監査及びその他適当な方法により、決算監査に併せて行う。

（2）会計の監査

- ◆四半期監査……………第1四半期分を9月、第2四半期分を12月、第3四半期分を3月に書面監査により実施し、第4四半期分については、決算監査と併せて年度終了後に実施する。
- ◆決算監査……………年度決算終了後速やかに、書面監査、実地監査及びその他適当な方法により実施する。

第5 総務課総務係の職員に監査に関する事務を補助させるものとする。